

兵庫県立 こども病院 年報 2017 VOL.48



HYOGO PREFECTURAL
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 17 VOL.48

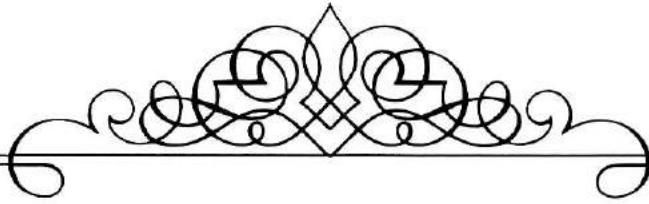


基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

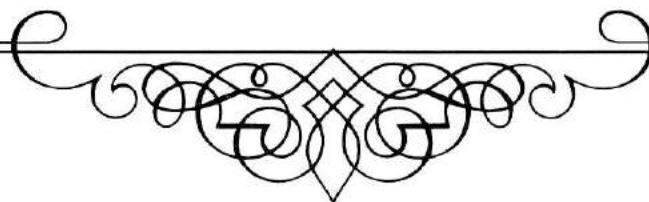


患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。



ご挨拶

院長 中尾 秀人

2017年度の年報をお届け致します。本年報により、当院の各科・各部門の活動状況を皆様にご理解いただき、いろいろな観点から、ご意見をいただければ幸いです。

さて、当院は平成28年度に神戸医療産業都市の中核医療施設として、現在地ポートアイランドに移転し、2年目を終えました。いろいろな新たな問題点に対処しつつ、日々の診療を軌道に乗せて行く時期を迎えております。移転を機に整備・改革を進めてきた点について、共通の認識を持てるようになってきたと実感しています。救命救急センターは診療各科・看護部門皆で協力し、支えて、患者さんが戸惑わずに受診でき、患者数の増加に反映しています。小児がんセンターは隣接する神戸陽子線センターの開設もあり、小児がん拠点病院に相応しい包括的がん医療の提供を目指して進化してまいりました。各部門が兵庫県民の負託に応えるべく、さらなる飛躍を期して毎日の医療を展開しております。

小児・周産期医療に特化した紹介型の専門病院ではありますが、医療環境の変遷と共に、他の医療機関との連携は変わらず重要な課題の一つとなっております。周産期医療においては、兵庫県の周産期医療システム参加病院、県内の分娩取扱機関との密な連携が必要不可欠であります。また、障害児医療の遂行においては、患児と家族を中心に地域全体で支援していく体制の確保を目指すためには、各地域の中核医療機関との情報交換・役割分担が欠かせません。さらに、近年、先天性心疾患罹患児の成長後の管理を何処で行うのかが議論されている如く、重篤な疾患罹患後の患児の成人期への移行期医療の問題の解決も大きな課題です。

私達の第一の使命は、いうまでもなく基本理念に基づく良質な医療の提供、他院では困難な高度急性期医療の提供が最大の構成要素であることは揺らぎませんが、医療環境の変化にも柔軟に対応して、患児と家族の安全と信頼を確立していかなくてはなりません。かつて治療の対象とするのがためらわれた重症急性期疾患の救命率の向上により、重度の多

臓器障害・高い医療依存度をもつ、重症児が増加しており、長期の療育支援と急性増悪時の医療体制の整備も喫緊の課題であり、当院の求められる役割も変容しています。

病院の基本理念を肝に銘じ、職員一同、心を一つにして歩みを進めて参りたいと存じます。今後とも兵庫県立こども病院への、ご協力とご支援をどうぞ宜しくお願い致します。

最後に、本年報の企画・作成に、尽力いただいた広報委員会の皆様に深謝致します。

目 次

I 病 院 概 要

| | |
|--------------------|----|
| 1 兵庫県立こども病院の設立目的 | 1 |
| 2 沿 革 | 1 |
| 3 業 務 図 | 4 |
| (1) 機構一覧表 | 4 |
| (2) 担当医師表 | 5 |
| (3) 外来診療スケジュール | 6 |
| 4 職 員 | 7 |
| (1) 職種別人員表 | 7 |
| 5 近畿厚生局長への届出に関する事項 | 8 |
| 6 研修・教育認定施設内容 | 9 |
| 7 委員会一覧 | 10 |

II 医 事 経 理 関 係

15

III 診 療 統 計

| | |
|---------------|----|
| 1 救急総合診療科（総診） | 31 |
| 2 救急総合診療科（救急） | 32 |
| 3 代謝・内分泌内科 | 36 |
| 4 リウマチ科 | 37 |
| 5 アレルギー科 | 38 |
| 6 脳神経内科 | 39 |
| 7 血液・腫瘍内科 | 41 |
| 8 循環器内科 | 45 |
| 9 腎臓内科 | 47 |
| 10 感染症科 | 49 |
| 11 臨床遺伝科 | 51 |
| 12 精神科 | 54 |
| 13 小児外科 | 58 |
| 14 心臓血管外科 | 62 |
| 15 脳神経外科 | 65 |
| 16 形成外科 | 68 |

| | | |
|----|-------------------|-----|
| 17 | 整形外科 | 69 |
| 18 | リハビリテーション科 | 71 |
| 19 | 眼科 | 74 |
| 20 | 耳鼻咽喉科 | 76 |
| 21 | 泌尿器科 | 79 |
| 22 | 小児歯科 | 80 |
| 23 | 麻酔科 | 81 |
| 24 | 新生児内科 | 83 |
| 25 | 産科 | 86 |
| 26 | 放射線診断科／放射線治療科 | 92 |
| 27 | 小児集中治療科 | 93 |
| 28 | 病理診断科 | 95 |
| 29 | 看護部 | 96 |
| 30 | 薬剤部 | 107 |
| 31 | 検査・放射線部（検査部門） | 112 |
| 32 | 検査・放射線部（放射線部門） | 116 |
| 33 | 栄養管理部 | 120 |
| 34 | 家族支援・地域医療連携部 | 125 |
| 35 | ME室 | 131 |
| 36 | 医療安全管理室 | 132 |
| 37 | 感染対策室 | 134 |
| 38 | 褥瘡管理室 | 137 |
| 39 | がん相談支援室 | 138 |
| 40 | 院内学級 | 139 |
| 41 | 医師事務作業補助者（医師クラーク） | 140 |
| | | |
| IV | 学術・研究・教育活動 | |
| 1 | 書籍 | 141 |
| 2 | 雑誌発表 | 144 |
| 3 | 学会発表 | 168 |
| 4 | 報道 | 203 |
| 5 | 実習生・研修生受け入れ状況 | 204 |
| 6 | 院内・院外研修 | 208 |
| | | |
| V | ボランティア | 243 |

I 病 院 概 要

1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応じて、県政 100 年の記念事業の一環として、昭和 45 年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
- (2) 小児に関する医療相談機関であること。
- (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
- (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。

などであります。

平成 6 年 10 月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の 24 時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成 14 年 10 月より県下の第 3 次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成 19 年 10 月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

さらに、平成 25 年 2 月には小児がん拠点病院に指定され、平成 26 年 4 月に小児がん医療センターを設置しました。

平成 28 年 5 月には、須磨からポートアイランドに移転開院し、その後、平成 29 年 4 月には小児救命救急センターに指定されました。

2. 沿革

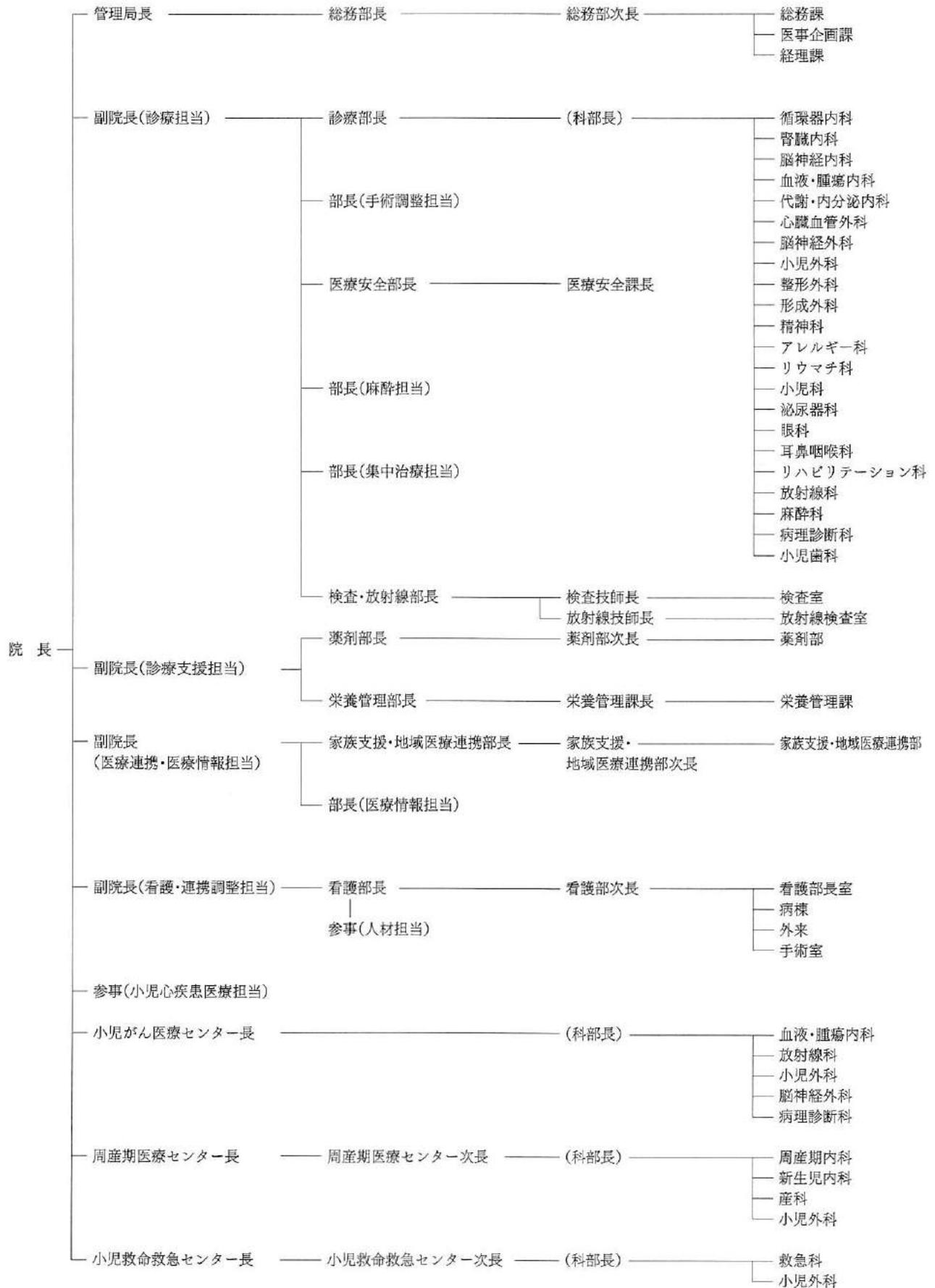
- | | |
|-------------|--|
| (1) 名 称 | 兵庫県立こども病院 |
| (2) 開 設 | 昭和 45 年 4 月 1 日（現管理者 中尾 秀人） |
| (3) 所 在 地 | 神戸市中央区港島南町 1 丁目 6 番 7 TEL 078-945-7300（代表） |
| (4) 診 療 科 目 | 循環器内科 腎臓内科 脳神経内科 血液・腫瘍内科 代謝・内分泌内科 周産期内科 新生児内科 心臓血管外科 脳神経外科 小児外科 整形外科 形成外科 精神科 アレルギー科 リウマチ科 小児科 泌尿器科 産科 眼科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 放射線科 麻酔科 病理診断科 救急科 小児歯科 |
| (5) 病 床 数 | 一般 290 床（稼働 269 床） |
| (6) 沿 革 | |
| | 昭和 45 年 4 月 1 日 病院開設（管理者 平田 美穂） |
| | 昭和 45 年 4 月 30 日 日病院本館完成 |
| | 昭和 45 年 5 月 8 日 診療開始 |
| | 昭和 45 年 7 月 23 日 基準寝具実施（寝第 295 号） |

| | |
|-------------------|--|
| 昭和 45 年 9 月 17 日 | 基準給食実施（食第 307 号）基準看護実施（看第 130 号） |
| 昭和 46 年 12 月 28 日 | 母と子の指導教室完成 現在は母と子の教室と呼称 |
| 昭和 47 年 2 月 1 日 | 基準看護一般特類変更承認（険第 98 号） |
| 昭和 47 年 12 月 1 日 | 基準看護精神特類変更承認（険第 219 号） |
| 昭和 49 年 10 月 1 日 | 基準看護一般特二類変更承認（険第 108 号）基準看護精神特一類変更承認（険第 108 号） |
| 昭和 50 年 4 月 1 日 | 管理者変更受理（管理者 児嶋 喜八郎） |
| 昭和 54 年 3 月 31 日 | 全館防災設備工事完成 |
| 昭和 54 年 8 月 2 日 | 日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される |
| 昭和 55 年 4 月 1 日 | 昭和 55 年 3 月 26 日 兵庫県条例第 11 号 兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加 |
| 昭和 56 年 5 月 5 日 | シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携 |
| 昭和 56 年 10 月 7 日 | 日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される |
| 昭和 56 年 10 月 12 日 | 日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される |
| 昭和 56 年 12 月 6 日 | 日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される |
| 昭和 57 年 4 月 1 日 | 日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される |
| 昭和 58 年 4 月 1 日 | 日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される |
| 昭和 58 年 4 月 11 日 | 日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される |
| 昭和 58 年 10 月 1 日 | 日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される |
| 昭和 60 年 3 月 18 日 | プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携 |
| 昭和 60 年 3 月 28 日 | 日帰り手術棟完成 |
| 昭和 60 年 4 月 3 日 | 日本形成外科学会認定医研修施設として認定される |
| 昭和 60 年 4 月 15 日 | 日帰り手術棟手術開始 |
| 昭和 61 年 3 月 31 日 | 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される |
| 昭和 61 年 4 月 1 日 | 管理者変更受理（管理者 玉木 健雄） |
| 昭和 61 年 4 月 1 日 | 日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される |
| 昭和 61 年 10 月 1 日 | 日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される |
| 昭和 62 年 1 月 22 日 | 自家発電設備改良工事完成 |
| 平成元年 2 月 1 日 | 外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される |
| 平成 3 年 5 月 1 日 | 基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第 220 号） |
| 平成 4 年 4 月 1 日 | 基準看護一般特三類（260 床に）変更承認（険第 363 号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始 |
| 平成 4 年 5 月 9 日 | 週 40 時間制試行 |
| 平成 4 年 5 月 18 日 | 病床数 260 床に変更承認（精神病棟廃止） |
| 平成 4 年 7 月 6 日 | 病床数 290 床に変更承認（兵庫県指令医第 1 - 67 号） |
| 平成 4 年 7 月 29 日 | 周産期医療センター安全祈願祭 |
| 平成 4 年 11 月 7 日 | 週 40 時間制本格実施 |
| 平成 5 年 4 月 1 日 | 管理者変更受理（管理者 竹峰 久雄） |
| 平成 6 年 7 月 20 日 | 周産期医療センター定礎式 |
| 平成 6 年 9 月 1 日 | 管理者変更受理（管理者 小川 恭一） |
| 平成 6 年 9 月 30 日 | ドクターズカー購入 |

| | |
|-------------|---|
| 平成6年 9月30日 | 周産期医療センター完成 |
| 平成6年 10月 1日 | 行政組織規則の改正（兵庫県規則第66号）により、周産期医療センターを設置 |
| 平成6年 10月 3日 | 周産期医療センター開設記念式典 |
| 平成6年 10月 4日 | 周産期医療センター診療開始 |
| 平成7年 1月17日 | 阪神・淡路大震災 |
| 平成7年 9月 1日 | 本館改修工事に着手 |
| 平成8年 4月 1日 | 日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される |
| 平成10年 6月30日 | 本館改修工事完了 |
| 平成11年 4月 2日 | 管理者変更受理（管理者 山本 節） |
| 平成12年 3月 1日 | 総合周産期母子総合医療センターとして指定される |
| 平成12年 4月24日 | 慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設 |
| 平成13年10月10日 | 駐車場立体化工事に着手 |
| 平成14年 2月28日 | 立体駐車場完成 |
| 平成14年 4月 1日 | 臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第0401006） |
| 平成14年 4月 1日 | 地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行 |
| 平成14年10月15日 | 第3次小児救急開設（稼働病床260床） |
| 平成15年 4月 2日 | 管理者変更（管理者 中村 肇） |
| 平成15年10月30日 | 臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1030005号-511,519,526,533） |
| 平成15年11月28日 | 臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1128007号-330） |
| 平成16年 3月22日 | （財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1） |
| 平成16年 4月 1日 | アレルギー科追加 |
| 平成18年 4月 1日 | 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される |
| 平成18年 4月 1日 | 日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される |
| 平成19年10月 1日 | 小児救急医療センターを開設（稼働病床266床） |
| 平成20年 4月 1日 | 管理者変更（管理者 丸尾 猛） |
| 平成21年 4月 1日 | 医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更 |
| 平成21年 7月 3日 | （財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0） |
| 平成21年12月16日 | 地域医療支援病院の名称使用承認 |
| 平成21年 1月 4日 | 「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始 |
| 平成22年 4月 1日 | 駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化 |
| 平成23年 1月 4日 | 本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始 |
| 平成23年 4月 1日 | 日本精神神経学会精神科専門医研修施設として認定される |
| 平成24年 4月 9日 | 中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結 |
| 平成25年 2月 8日 | 小児がん拠点病院として指定される |
| 平成25年 4月 1日 | 管理者変更（管理者 長嶋 達也） |
| 平成26年 4月 1日 | 小児がん医療センター設置 |
| 平成26年12月 8日 | 新生児専用ドクターズカー運行開始 |
| 平成28年 5月 1日 | ポートアイランドに移転開院 |
| | リハビリテーション科追加 |
| 平成29年 4月 1日 | 小児救命救急センターとして指定される |

3. 業務図

(1) 機構一覧表 (2017.12.31 現在)



(2) 担当医師表 (2017.12.31 現在)

- (1) 救急総合診療科 上谷良行、宅見晃子、上村克徳、山口善道、神田杏子、林卓郎
梶原伸介、楠元真由美、津田雅世、藤田杏子、松井鋭
- (2) 感染症科 笠井正志
- (3) 臨床遺伝科 森貞直哉
- (4) 新生児内科 中尾秀人、芳本誠司、坂井仁美、横田知之、玉置祥子
松井紗智子、武岡恵美子、浅野貴大 (非常勤)
- (5) 脳神経内科 丸山あずさ、豊嶋大作
- (6) 循環器内科 城戸佐知子、田中敏克、富永健太、小川禎治、亀井直哉、
松岡道生、三木康暢
- (7) 腎臓内科 田中亮二郎、中川拓
- (8) 代謝・内分泌内科 郷司克己、尾崎佳代
- (9) 血液・腫瘍内科 小阪嘉之、長谷川大一郎、石田敏章、田村彰広、山本暢之、岸本健治、
齋藤敦郎、神前愛子
- (10) 集中治療科 長谷川智巳、黒澤寛史、椎間優子、青木一憲、制野勇介
- (11) アレルギー・リウマチ科 中岸保夫、笠井和子、三好麻里 (非常勤)
- (12) 小児外科 前田貢作、横井暁子、中尾真、福澤宏明、森田圭一
- (13) 心臓血管外科 大嶋義博、松久弘典、日隈智憲
- (14) 脳神経外科 河村淳史、小山淳二、阿久津宣行
- (15) 形成外科 小野田素大、山内菜都美
- (16) 整形外科 薩摩眞一、坂田亮介、衣笠真紀
- (17) リハビリテーション科 小林大介
- (18) 泌尿器科 杉多良文、春名晶子、大饗政嗣
- (19) 耳鼻咽喉科 大津雅秀、勝沼紗矢香
- (20) 眼科 野村耕治、柳沢翠芳
- (21) 精神科 関口典子、玉岡文子
- (22) 小児歯科 小本由美子
- (23) 産科 船越徹、佐本崇、高松祐幸、牧志綾、森下紀、河崎あさひ
- (24) 放射線科 赤坂好宣、杉岡勇典
- (25) 麻酔科 香川哲郎、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、鹿原史寿子
末田グリンドロド彩、藤原孝志、廣瀬徹也、秋泉春樹、金子隆彦
- (26) 病理診断科 吉田牧子
- (27) フェロー・専攻医 谷澤直子、倉橋幸成、張慶哲、伊藤雄介、山内貴未、李進剛
片岡大、大平安希子、石田悠介、山口宏、谷口由記、瓦野昌大
上村和也、稲熊洋祐、奥野美砂子、太原鉄平、藤原隆弘
中村さやか、平田旭、楠本耕平、増井美苗、高寺侑、染谷真紀
神納幸治、鴻池喜彦、宮下徳久、潮見祐樹、山下由理子
永尾宏之、大野茜子、飯塚理、村田剛土、花房広昭、三星アカリ
田中俊光、幸伏寛和、大西理史、山田優里子、菊池菜摘、近藤亜耶
穴戸亜由美 (救急総合診療科)
三浦紫津、鮫島由友、磯野香織、河原仁守、梶原啓資
植村光太郎 (小児外科)
岩城隆馬、村上優 (心臓血管外科)
安積麻衣、岡田真幸 (脳神経外科)
若杖侑加 (形成外科)
向原伸太郎 (整形外科)
武中良大 (泌尿器科)
安武博樹、中村賢和 (眼科)
鷲尾佳一 (産科)
松永卓明 (放射線科)
飯塚勇介、北埜学、桑田繁宗、山村愛、長谷川達也、神頭彩
松本祥、山脇緑、黒田ジュリオ健司、辰己仁美 (麻酔科)

(3) 外来診療スケジュール (2017.12.1)

| 科目 | 曜日 | | 月 | | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | | |
|---------|-----------------------|----------------------|------------------------|------------------------|--|-----------------------|-------------|--------------------------------------|---------------|------------------------|----------------|--------------------------------------|--|
| | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | |
| 内科 | 救急総合診療 | ◎藤田 | 担当医 | ◎上谷 | 担当医 | ◎津田 | 担当医 | 2,4週◎倉橋 1,3週◎長 義彦行動外来 関口・藤田 | 担当医 | ◎上村 | | | |
| | アレルギー | | 笠井(和) | ◎笠井(和) | 笠井(和) | | | | ◎笠井(和) | | | | |
| | リウマチ | | | 中岸 | ◎中岸 | 中岸 | 中岸 | ◎中岸 | 中岸 | | | | |
| | 感染症内科 | | | | | | ◎笠井(正) | | | | | | |
| | 臨床遺伝科 | | | ◎森貞 | ◎森貞 | | | ◎森貞 | ◎森貞 | | | | |
| | 神 経 | ◎豊嶋 山口 | 丸山 山口 | | 豊嶋 石田(悠) | | | ◎石田(悠) 担当医 | | | ◎丸山 山口 | | |
| | 循 環 器 | 田中(敏) | | ◎田中(敏) | 田中(敏) | 城戸 | 城戸 | ◎城戸 | 城戸 | ◎富永 富永 | ◎富永 富永 | ◎富永 富永 | |
| | 循環器特殊 | 城戸 (思春期) | 城戸 (成人先天性) | | 小川 (OD,不整脈) | | | 田中 (カチ) | 担当医 (シナジス) | | | | |
| | 腎 臓 | ◎神田 | 担当医 | ◎田中(亮) (中川・稲熊) | 担当医 | ◎田中(亮) (神田) | 神田 | | | | 担当医 | ◎田中(亮) | |
| | | ◎中川 | | ◎神田 ◎稲熊 | | ◎中川 | 担当医 | | | | | ◎稲熊 ◎中川 | |
| | 代謝内分泌 | | 検査 | ◎奥野 | 奥野 | ◎郷司 | 郷司 | ◎郷司 | 郷司 | ◎尾崎 | 尾崎 | | |
| | 新 生 児 | | | | 3週 ◎芳本 三村 1,3,5週 横田 2,4週 玉置 | | | ◎三村 武岡 | | ◎芳本 横田 | | ◎三村 1,3,5週 芳本 2,4週 山内(貴) | |
| 血液・腫瘍 | ◎小阪 長谷川 | 田村 神前 | | ◎小阪 化学療法のみ | | | | ◎石田(敏) | 齋藤 | ◎長谷川 山本 化学療法のみ | | | |
| | 齋藤/神前(長期フォロー) | | | | | | | | | | | | |
| 外科 | 小児外科 | ◎森田 | 横井 森田 | ◎福澤 | 福澤 | ◎中尾 | 中尾 | ◎前田 | 前田 | ◎横井 | 横井 | | |
| | ヘルニア外来 | 1,3,5週◎前田 2,4週◎横井 | | | | | | 1,3,5週◎中尾 2,4週◎福澤 | | | | | |
| | 特殊外来 | | ストマ 尾藤 | | 在宅 中尾 | | | | | | | | |
| | 心 臓 | | ◎大嶋 松久 日隈 | | | | ◎大嶋 日隈 | | | | | ◎大嶋 松久 | |
| | 脳 神 経 | ◎小山 | 小山 | | | ◎阿久津 担当医 | ◎阿久津 担当医 | | | | ◎河村 | ◎河村 二分脊椎 | |
| | 形 成 | | | ◎小野田 ◎山内(棠) 言語療法 | | | | ◎小野田 ◎山内(棠) 言語療法 | | | | | |
| | 整 形 | | ◎小林 ◎坂田 | ◎藤摩 ◎坂田 | ◎小林 ◎文笠 2週開外 | ◎藤摩 ◎小林 | | | | | ◎担当医 | 二分脊椎 | |
| 放射線治療科 | | 出水 | | | | | | 副島 | | | | | |
| 眼 科 | ◎野村 柳沢 安武 中村 | | | コンタクト 外来 | | ◎野村 柳沢 安武 中村 | 検査 | ◎野村 柳沢 安武 中村 | 検査 | | | | |
| 泌尿器科 | ◎担当医 | | ◎杉多 ◎大夔 春名 武中 | 検査 | ◎担当医 | | | | 検査 | ◎春名 杉多 ◎大夔 武中 | 二分脊椎 | | |
| 耳鼻咽喉科 | ◎大津 | 大津 1週・2週 補聴器 | ◎勝沼 | ◎勝沼 3週・4週 補聴器 | | | | ◎大津 | 大津 | ◎勝沼 | ◎勝沼 | | |
| | 言語聴覚 | | 言語聴覚 | | 言語聴覚 | | 言語聴覚 | | 言語聴覚 | | | | |
| 歯 科 | ◎曾根 | 曾根 | ◎曾根 | 曾根 | | | | ◎石原 | 石原 | ◎本郷 (1週のみ診) | ◎本郷 (1週のみ診) | | |
| 精 神 科 | ◎関口 | 関口 | 関口 | ◎松川 | ◎関口 | | | ◎長谷川 | | 関口 | 関口 | | |
| 卒 煙 外 来 | ◎玉岡 | ◎玉岡 | 玉岡 | 玉岡 | ◎玉岡 | ◎玉岡 | | ◎長谷川 | | | ◎玉岡 | | |
| 産 科 | ◎船越 佐本 | 超音波 検査 | ◎高松 森下 | 超音波 外来 | ◎佐本 牧志 | 超音波 検査 | | ◎森下 高松 | 超音波 外来 | ◎牧志 河崎 船越 | 超音波 検査 | | |

*急な学会・出張等で休診・代診になる場合がありますのでご了承下さい。◎印は新患受付曜日となります。

兵庫県立こども病院

〒650-0047 神戸市中央区港島南町 1-6-7

代 表 TEL 078-945-7300

予約センター直通 TEL 078-945-7329 (平日 9:00 ~ 17:00)

予約センター直通 FAX 078-945-7330 (24時間対応)

5. 近畿厚生局長への届出に関する事項（平成 29 年 10 月 2 日現在）

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項について届出を行っています。

【入院基本料等の施設基準】

一般病棟(7対1)入院基本料 (一般入院)第1099号

【入院基本料等加算の施設基準】

診療録管理体制加算2 (診療録2)第255号
 医師事務作業補助体制加算2(20対1) (事補2)第166号
 急性期看護補助体制加算(25対1,5割以上) (急性看護)第194号
 療養環境加算 (療)第183号
 重症者等療養環境特別加算 (重)第221号
 無菌治療室管理加算1 (無菌1)第26号
 医療安全対策加算1 (医療安全)第515号
 感染防止対策加算1 (感染防止1)第78号
 患者サポート体制充実加算 (患サポ)第238号
 褥そうハイリスク患者ケア加算 (褥瘡ケア)第54号
 ハイリスク妊娠管理加算 (ハイ妊娠)第116号
 ハイリスク分娩管理加算 (ハイ分娩)第68号
 退院支援加算3 (退支)第259号
 精神疾患診療体制加算 (精疾診)第34号
 呼吸ケアチーム加算 (呼吸チ)第39号
 病棟薬剤業務実施加算1 (病棟薬1)第137号
 データ提出加算2 (データ提)第180号

【特定入院料の施設基準】

特定集中治療室管理料1
 (※経皮的動脈遮断術、ダメージコントロール手術)
 (集1)第11号
 特定集中治療室管理料2
 (※経皮的動脈遮断術、ダメージコントロール手術)
 (集2)第2号
 総合周産期特定集中治療室管理料 (※一酸化窒素吸入療法)
 (周)第7号
 小児入院医療管理料1 (プレイルーム加算を含む)
 (小入1)第8号
 食事療養費1 (食堂加算を含む) (食)第119147号

【医学管理等】

高度難聴指導管理料 (高)第329号
 がん性疼痛緩和指導料 (がん疼)第429号
 がん患者指導管理料1 (がん指1)第69号
 がん患者指導管理料2 (がん指2)第55号
 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後) (移植管造)第10号
 院内トリアージ実施料 (トリ)第75号
 開放型病院共同指導料 (開)第72号
 薬剤管理指導料 (薬)第485号
 医療機器安全管理料1 (機安1)第170号
 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
 (持血測)第51号

【検査】

遺伝学的検査 (遺伝検)第9号
 検体検査管理加算(IV) (※造血器腫瘍遺伝子検査)
 (検IV)第51号

遺伝カウンセリング加算 (遺伝カ)第6号
 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
 (血内)第32号
 胎児心エコー法 (胎心エコー)第28号
 ヘッドアップティルト試験 (ヘッド)第54号
 神経学的検査 (神経)第146号
 補聴器適合検査 (補聴)第42号
 脳液検査判断料1 (脳判)第3号
 小児食物アレルギー負荷検査 (小検)第94号

【画像診断】

画像診断管理加算2 (画2)第120号
 CT撮影(64列以上)及びMRI撮影(1.5以上3テスラ未満)
 (※大腸CT撮影加算) (C・M)第898号
 冠動脈CT撮影加算 (冠動C)第80号
 心臓MRI撮影加算 (心臓M)第64号

【投薬】

抗悪性腫瘍剤処方管理加算 (抗悪処方)第64号

【注射】

外来化学療法加算1 (外化1)第145号
 無菌製剤処理料 (菌)第520186号

【リハビリテーション】

脳血管疾患等リハビリテーション料(II)
 [※廃用症候群リハビリテーション料(II)](脳II)第475号
 運動器リハビリテーション料(II) (運II)第520212号
 呼吸器リハビリテーション料(I) (呼I)第231号
 集団コミュニケーション療法料 (集コ)第77号
 障害児(者)リハビリテーション料 (障)第33号
 がん患者リハビリテーション料 (がんリハ)第82号

【手術】

頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。) (頭移)第5号
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 (※植込型心電図検査) (ペ)第211号
 (※植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術)
 大動脈バルーンパンピング法 (大)第101号
 胎児胸腔・羊水腔シャント術 (胎羊)第2号
 胃瘻造設術 (胃瘻造)第217号
 輸血管理料I (輸血I)第276号
 人工肛門・人口膀胱造設術前処置加算 (造設前)第77号

【麻酔】

麻酔管理料(I) (麻管I)第261号
 麻酔管理料(II) (麻管II)第24号

【放射線治療】

高エネルギー放射線治療 (高放)第90号

【歯科関係】

歯科外来診療環境体制加算 (外来環)第673号
 歯科矯正診断料 (矯診)第164号

【※】:前記届出で、届出不要

6. 研修・教育認定施設内容

| | |
|-------------|--|
| 厚生労働省認定病院等 | <p>◆ [厚生労働省認定]</p> <p>厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定]</p> <p>日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医特殊修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会認定日本気管食道科専門医研修施設 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本小児血液・がん専門医研修施設 日本小児神経学会専門医研修施設 日本集中治療医学会 集中治療専門医研修施設 日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設</p> |
| 姉妹提携・交流協定病院 | <p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国） プリンセスマーガレット小児病院（オーストラリア） 国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）</p> |

7. 委員会一覧（平成29年4月～平成30年3月）

| 委員会名 | 開催回数 | 活動内容と結果 |
|-------------------|------------------|--|
| 幹部会 | 毎月第2月曜日 | 病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議 |
| 運営協議会・経営実施計画推進委員会 | 毎月第4月曜日 | 幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知 |
| 保険診療対策委員会 | 毎月最終水曜日 | 減点内容の検討、返戻に対する対応の検討 |
| DPC コーディング部会 | 4回 | ①部位不明・詳細不明コードの減少へ向けた取組検討 ②適切な傷病名コーディングの検証 ③DPC傷病名登録の検討 ④診療報酬改定(DPC制度)の動向の情報共有等 |
| 医療事故防止対策委員会 | 毎月第4月曜日 | リスクマネジメント部会からの報告、事故等案件の状況報告 |
| リスクマネジメント部会 | 毎月第2火曜日 | ①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④重点取り組み課題の決定と実施、評価 |
| 医療事故対策部会 | 7回 | ①事故原因の追及 ②再発防止策の策定 |
| 院内感染対策委員会 | 毎月第2金曜日 | ①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止 |
| ICT | 毎週木曜日 | ①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド |
| 衛生委員会 | 月1回 | 職員の健康障害の防止対策等について審議 |
| 情報システム管理委員会 | 月1回 | 情報システムの安定的かつ効果的な運用を推進する ①システムに関する要望について審議と対応 ②システムの運用状況、障害状況の確認 ③システム障害時の対応、マニュアル作成 |
| 診療材料委員会 | 6回 | ①新規診療材料採用申請の審議 ②JITSシステムデータに基づく診療材料変更提案の審議 |
| 薬事委員会 | 3回 | 採用・中止薬品の検討、後発医薬品への切替え薬品の検討 新規採用医薬品(21品目)、中止医薬品(39品目)、後発への切替え薬品(35品目) |
| 化学療法レジメン部会 | 2回 | ①新規化学療法レジメンの承認等について ②がん化学療法レジメン管理要項変更について |
| 手術室運営委員会 | 第4火曜日 | ①手術件数報告 ②効率的な手術室運営について ③機種保守点検、更新について ④安全、感染について |
| 医療用ガス安全管理委員会 | 3回 | ①医療用ガス設備に係る定期点検の報告 ②非常時対応マニュアル策定 特殊ガス管理方法策定 |
| 放射線安全委員会 | 1回 | ①放射線業務従事者管理状況について ②放射線安全研修会開催について |
| 倫理委員会 | 6回 | 詳細は別紙のとおり |
| 虐待防止委員会 | 定例3回 事例発生時25回 | 年間事例の報告 処遇検討 |
| 治験審査委員会 | 6回 | 詳細は別紙のとおり |
| 褥瘡対策委員会 | 12回 | ①院内の褥瘡に関する状況の報告 ②褥瘡に関する研修 ③褥瘡対策患者対象の回診 ④褥瘡に関するデータの共有とケアの評価や対策の検討。 |
| 輸血療法委員会 | 隔月第1水曜日 | ①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③安全な輸血に関する取り決め ④輸血に関する諸問題の対応 |
| 検査委員会 | 2回不定期 | ①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望 |
| 栄養給食委員会 NST部会 | 1回 | ①平成28年度給食及び栄養指導実施状況報告 ②平成28年度栄養サポート件数及び特殊食品提供数 ③院内約束食事基準の改定について |
| 防災対策委員会 | 1回 | 防災対策の推進について審議 |
| 省エネルギー推進委員会 | | 日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証 |
| 医師の負担等軽減推進委員会 | 1回 | 負担軽減計画の策定 |
| 職務発明審査会 | 1回 | 職員が行った発明について |

| | | |
|--------------------|--------|---|
| 広報委員会 | 9回 | ①ニュースレター「げんきカエル」の発行(年4回) ②2016年報の発行 ③新病院ホームページのアップ ④診療のご案内2017の発行 ⑤ホームページ更新規約の制定 |
| 研修教育委員会 | 4回 | ①症例検討会について ②各部署の活動整理について ③文献検索について |
| 診療記録等管理委員会 | 随時(3回) | 診療録等記載マニュアル及び診療録監査要領の策定 新規帳票の承認(神戸市中央市民病院との診療録連携に向けた同意書の様式変更) |
| 外来運営委員会 | 6回 | ①外来運営指標分析 ②診察待ち時間対策の検討 ③シナジス外来増強の検討 ④総合案内運用の検討 ⑤整形外科診察枠の増設(金曜日午前) |
| 病棟運営委員会 | 1回 | ①経営指標分析 ②計画的なベッドコントロールの検討 ③GCU病床受け入れ拡大の検討 |
| 小児救命救急センター運営委員会 | 7回 | ①救急患者受付状況について ②大型連体における救命救急センターの勤務体制 ③医療スタッフの安全性の確保について ④災害・多数受入れマニュアルの作成について ⑤入院診療計画書の記載について |
| クリニカルパス委員会 | 11回 | ①クリニカルパスの広報・作成・運用・管理 ②院内クリニカルパス大会2回開催 ③新規クリニカルパス作成 ④電子パス適応に関する運用決定 |
| 国際交流推進委員会 | 10回 | ①シアトル小児病院研修派遣について ・第10回シアトル小児病院派遣研修について ・シアトル小児病院派遣研修申請・報告について |
| 小児がん医療センター運営委員会 | 3回 | ①近畿ブロック小児がん診療病院連絡会/近畿ブロック小児がん拠点病院協議会の案内・報告 ②神戸陽子線センターの開院について ③入院中患者(高校生)への教育・学習支援について ④小児がんに関する研究及び研修会などの案内・報告 |
| 緩和ケア部会 | 11回 | ①緩和ケア事例検討会開催(13回) ②多職種参加振り返り開催(3回) ③院内講演会開催(1回) ④緩和ケアリンクナース勉強会開催(10回) ⑤小児がん看護研修開催(4回) ⑥院外小児緩和ケア集会参加(1回) ⑦家族支援・地域連携部との連携強化 ⑧緩和ケア事例データベースの構築開始 |
| 臨床研究支援室運営委員会 | 2回 | こども病院・理研ジョイントシンポジウムについて |
| 在宅推進委員会 | 11回 | ①在宅外来グループ 在宅外来の調整と評価入院システムの見直しと周知 ②地域連携グループ 地域医療機関との連携 訪問看護ステーションへの訪問講義・研修開催 |
| 小児心臓センター運営委員会 | 2回 | ドクターカー運用マニュアル作成 |
| 予防接種センター運営委員会 | 8回 | 予防接種センターの事業運営にかかる実績確認と課題等の検討 ①予防接種等(「接種件数」等) ②市町等に対する接種に関する情報等の提供(「ホームページ」) ③医療相談(「電話相談」) ④医療従事者向け研修(「予防接種基礎講座」) |
| 総合周産期母子医療センター運営委員会 | 12回 | 2017.4設置、産科、新生児科の病床利用率・入院患者数、周産期医療研修会について検討する |
| 呼吸療法委員会 | 12回 | 呼吸器ケアチームの回診、救急医療チームの立ち上げ |
| 呼吸器ケアサポートチーム | | 人工呼吸器装着患者に対する①診療支援、②医療安全の向上および環境整備、③勉強会などを通じた教育 |
| 救急医療チーム | 11回 | MET導入に向けてのワーキンググループ ①マニュアル作成 コール基準策定 電子カルテ経過表や指示簿修正 METメンバー策定 METの権限・役割を明文化 METの記録、カルテ記載について ②MET導入前の教育 全体講義 |

各種委員会（別紙）

| 名 称 | 委員長 | 開催日時 | 場 所 | 出席者数 | 議 題 |
|-------|-------|--------------|-----|------|--|
| 倫理委員会 | 上谷 良行 | 4月20日 9:00～ | 会議室 | 8 | 1 乳児股関節健診の再構築に向けた予備的研究<薩摩整形外科部長> 2 海綿状血管腫に対するプロプラノロール療法<阿久津脳神経外科医長> |
| 倫理委員会 | 上谷 良行 | 6月14日 9:30～ | 会議室 | 11 | 1 海綿状血管腫に対するプロプラノロール療法<阿久津脳神経外科医長> 2 高IgE血症（総IgE 1500IU/ml以上）を伴う重症気管支喘息（重症喘息）に対するオマリズマブ投与<笠井アレルギー科医長> |
| 倫理委員会 | 上谷 良行 | 9月13日 9:00～ | 会議室 | 9 | 1 国内の小児血友病A患者を対象とした遺伝子組換え血液凝固第Ⅷ因子タンパク質（rFⅧIFc）製剤の有用性を検討する多施設観察研究<小阪血液・腫瘍内科部長> |
| 倫理委員会 | 上谷 良行 | 11月8日 9:30～ | 会議室 | 10 | 1 鎮静のためのミダゾラム点鼻<梶原救急総合診療科医長> 2 頭のかたち外来の開設 頭位性斜頭に対する頭蓋形状誘導療法の導入<阿久津脳神経外科医長> |
| 倫理委員会 | 上谷 良行 | 12月20日 9:30～ | 応接室 | 10 | 1 臨床研究「造血細胞移植におけるブスルファンの治療薬物モニタリングに向けた薬物動態モデルの構築」<岸本血液・腫瘍内科医長> |
| 倫理委員会 | 上谷 良行 | 1月24日 9:30～ | 会議室 | 11 | 1 皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫患者へのシクロスポリン投与<岸本血液・腫瘍内科医長> 2 JCCG血液腫瘍分科会（JPLSG）多施設共同臨床研究試験の倫理審査における中央倫理審査委員会による中央一括審査について<長谷川血液・腫瘍内科部長> |
| 倫理委員会 | 上谷 良行 | 2月14日 9:30～ | 会議室 | 10 | 1 JCCG血液腫瘍分科会（JPLSG）多施設共同臨床研究試験の倫理審査における中央倫理審査委員会による中央一括審査について<長谷川血液・腫瘍内科部長> 2 先天性葉酸吸収不全症に対するフォリン酸（ロイコボリン®）補充療法<長谷川血液・腫瘍内科部長> |

| | | | | | |
|---------|-------|---------------|-----|----|---|
| 治験審査委員会 | 郷司 克己 | 4月28日 16:30～ | 会議室 | 8 | 現在進行中の治験4課題の継続について審議した。 |
| 治験審査委員会 | 郷司 克己 | 6月16日 16:30～ | 会議室 | 7 | ODK-1601試験の実施の適否について審議、現在進行中の治験3課題の継続について審議した。また、2課題の中止を報告した。 |
| 治験審査委員会 | 郷司 克己 | 8月18日 16:30～ | 会議室 | 10 | 現在進行中の治験2課題の継続について審議した。また1課題の終了と1課題の中止を報告した。 |
| 治験審査委員会 | 郷司 克己 | 10月20日 16:30～ | 会議室 | 8 | 現在進行中の治験2課題の継続について審議した。また、1課題の終了を報告した。 |
| 治験審査委員会 | 郷司 克己 | 12月15日 16:30～ | 会議室 | 7 | 現在進行中の治験1課題の継続について審議した。 |
| 治験審査委員会 | 郷司 克己 | 2月16日 16:30～ | 会議室 | 7 | 現在進行中の治験4課題の継続について審議した。また、2課題の終了を報告した。 |

II 医事経理関係

第1節 患者数統計

1. 総括

(1) 年度別

| 区 分 | | | | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|-------------|---|------------------------------|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 外 来 | a | 診 療 日 数 | 日 | 244 | 244 | 243 | 243 | 244 |
| | b | 新 患 者 数 | 人 | 8,032 | 7,744 | 7,687 | 7,347 | 10,498 |
| | c | 一日平均新患者数 | 人 | 32.9 | 31.7 | 31.6 | 30.2 | 43.0 |
| | d | 延 患 者 数 | 人 | 87,254 | 85,527 | 86,135 | 84,099 | 93,614 |
| | e | 一日平均延患者数 | 人 | 357.6 | 350.5 | 354.5 | 346.1 | 383.7 |
| | f | 平均通院日数 | 日 | 10.9 | 11.0 | 11.2 | 11.4 | 8.9 |
| 入 院 | g | 稼 働 日 数 | 日 | 365 | 365 | 366 | 365 | 365 |
| | h | 稼 働 病 床 数 | 床 | 266 | 266 | 266 | 267 | 269 |
| | I | 入 院 患 者 数 | 人 | 5,271 | 5,406 | 5,546 | 5,681 | 6,478 |
| | j | 一日平均入院患者数 | 人 | 14.4 | 14.8 | 15.2 | 15.6 | 17.7 |
| | k | 退 院 患 者 数 | 人 | 5,279 | 5,392 | 5,580 | 5,651 | 6,505 |
| | l | 一日平均退院患者数 | 人 | 14.5 | 14.8 | 15.2 | 15.5 | 17.8 |
| | m | 延入院患者数 | 人 | 86,385 | 83,843 | 83,583 | 76,733 | 85,354 |
| | n | 一日平均延患者数 | 人 | 236.7 | 229.7 | 228.4 | 210.2 | 233.8 |
| | o | 病 床 利 用 率 | % | 89.0 | 86.4 | 85.9 | 78.8 | 86.9 |
| | p | 病 床 回 転 数 | 回 | 19.8 | 20.3 | 20.9 | 21.2 | 24.1 |
| | r | 日帰入院患者数 | 人 | 120 | 237 | 371 | 369 | 415 |
| | s | N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数 | 人 | 1,009 | 961 | 933 | 720 | 824 |
| | t | 平均在院日数 | 日 | 15.4 | 14.5 | 14.0 | 12.5 | 12.1 |
| | u | 外 来 入 院 比 率 | % | 101.0 | 102.0 | 103.1 | 109.6 | 109.7 |
| v | 入 院 率 | % | 65.6 | 69.8 | 72.1 | 77.3 | 61.7 | |
| 計 算 式 | f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/(h × g)) × 100 p 病床回転数 = ((I+k)/2)/h t 平均在院日数 = (m-k)/((I+k)/2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100 | | | | | | | |

(2) 月別患者統計

H29 年度

| 区 分 | | | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年度計 |
|-------------|---|------------------------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 外 来 | a | 診 療 日 数 | 日 | 20 | 20 | 22 | 20 | 22 | 20 | 21 | 20 | 20 | 19 | 19 | 21 | 244 |
| | b | 新 患 者 数 | 人 | 674 | 713 | 764 | 828 | 932 | 709 | 763 | 948 | 1,140 | 1,045 | 867 | 1,115 | 10,498 |
| | c | 一日平均新患者数 | 人 | 33.7 | 35.7 | 34.7 | 41.4 | 42.4 | 35.5 | 36.3 | 47.4 | 57.0 | 55.0 | 45.6 | 53.1 | 43.0 |
| | d | 延 患 者 数 | 人 | 7,120 | 6,748 | 7,114 | 7,803 | 9,622 | 7,501 | 7,397 | 7,474 | 8,569 | 7,692 | 7,133 | 9,441 | 93,614 |
| | e | 一日平均延患者数 | 人 | 356.0 | 337.4 | 323.4 | 390.2 | 437.4 | 375.1 | 352.2 | 373.7 | 428.5 | 404.8 | 375.4 | 449.6 | 383.7 |
| | f | 平均通院日数 | 日 | 10.6 | 9.5 | 9.3 | 9.4 | 10.3 | 10.6 | 9.7 | 7.9 | 7.5 | 7.4 | 8.2 | 8.5 | 8.9 |
| 入 院 | g | 稼 働 日 数 | 日 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 28 | 31 | 365 |
| | h | 稼 働 病 床 数 | 床 | 269 | 269 | 269 | 269 | 269 | 269 | 269 | 269 | 269 | 269 | 269 | 269 | 269 |
| | I | 入 院 患 者 数 | 人 | 503 | 506 | 484 | 559 | 616 | 563 | 558 | 527 | 519 | 555 | 501 | 587 | 6,478 |
| | j | 一日平均入院患者数 | 人 | 16.8 | 16.3 | 16.1 | 18.0 | 19.9 | 18.8 | 18.0 | 17.6 | 16.7 | 17.9 | 17.9 | 18.9 | 17.7 |
| | k | 退 院 患 者 数 | 人 | 504 | 489 | 499 | 555 | 642 | 550 | 532 | 530 | 594 | 491 | 515 | 604 | 6,505 |
| | l | 一日平均退院患者数 | 人 | 16.8 | 15.8 | 16.6 | 17.9 | 20.7 | 18.3 | 17.2 | 17.7 | 19.2 | 15.8 | 18.4 | 19.5 | 17.8 |
| | m | 延入院患者数 | 人 | 7,079 | 7,166 | 7,461 | 7,476 | 7,253 | 6,848 | 7,250 | 7,344 | 7,323 | 6,935 | 6,340 | 6,879 | 85,354 |
| | n | 一日平均延患者数 | 人 | 236.0 | 231.2 | 248.7 | 241.2 | 234.0 | 228.3 | 233.9 | 244.8 | 236.2 | 223.7 | 226.4 | 221.9 | 233.8 |
| | o | 病 床 利 用 率 | % | 87.7 | 85.9 | 92.5 | 89.7 | 87.0 | 84.9 | 86.9 | 91.0 | 87.8 | 83.2 | 84.2 | 82.5 | 86.9 |
| | p | 病 床 回 転 数 | 回 | 1.9 | 1.8 | 1.8 | 2.1 | 2.3 | 2.1 | 2.0 | 2.0 | 2.1 | 1.9 | 1.9 | 2.2 | 24.1 |
| | r | 日 帰 入 院 患 者 数 | 人 | 30 | 32 | 35 | 34 | 50 | 39 | 29 | 33 | 38 | 28 | 28 | 39 | 415 |
| | s | N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数 | 人 | 51 | 71 | 74 | 77 | 69 | 74 | 79 | 90 | 79 | 49 | 54 | 57 | 824 |
| | t | 平 均 在 院 日 数 | 日 | 13.1 | 13.4 | 14.2 | 12.4 | 10.5 | 11.3 | 12.3 | 12.9 | 12.1 | 12.3 | 11.5 | 10.5 | 12.1 |
| | u | 外 来 入 院 比 率 | % | 100.6 | 94.2 | 95.3 | 104.4 | 132.7 | 109.5 | 102.0 | 101.8 | 117.0 | 110.9 | 112.5 | 137.2 | 109.7 |
| v | 入 院 率 | % | 74.6 | 71.0 | 63.4 | 67.5 | 66.1 | 79.4 | 73.1 | 55.6 | 45.5 | 53.1 | 57.8 | 52.6 | 61.7 | |
| 計 算 式 | f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m / (h × g)) × 100 p 病床回転数 = ((I+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100 | | | | | | | | | | | | | | | |

2. 月別科別外来患者数

H29 年度

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|----------|-------|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 循環器内科 | 新患者数 | 40 | 52 | 70 | 59 | 90 | 55 | 56 | 40 | 47 | 44 | 32 | 36 | 621 |
| | 再来患者数 | 729 | 632 | 696 | 732 | 1,070 | 742 | 677 | 632 | 775 | 672 | 631 | 936 | 8,924 |
| | 延患者数 | 769 | 684 | 766 | 791 | 1,160 | 797 | 733 | 672 | 822 | 716 | 663 | 972 | 9,545 |
| 腎臓内科 | 新患者数 | 6 | 4 | 7 | 33 | 29 | 17 | 10 | 13 | 9 | 5 | 12 | 14 | 159 |
| | 再来患者数 | 216 | 206 | 218 | 300 | 370 | 257 | 243 | 234 | 293 | 260 | 203 | 341 | 3,141 |
| | 延患者数 | 222 | 210 | 225 | 333 | 399 | 274 | 253 | 247 | 302 | 265 | 215 | 355 | 3,300 |
| 神経内科 | 新患者数 | 11 | 14 | 13 | 11 | 13 | 8 | 8 | 10 | 10 | 12 | 12 | 17 | 139 |
| | 再来患者数 | 266 | 260 | 276 | 273 | 326 | 244 | 257 | 259 | 272 | 265 | 252 | 339 | 3,289 |
| | 延患者数 | 277 | 274 | 289 | 284 | 339 | 252 | 265 | 269 | 282 | 277 | 264 | 356 | 3,428 |
| 血液内科 | 新患者数 | 10 | 4 | 4 | 7 | 11 | 4 | 8 | 5 | 6 | 6 | 1 | 5 | 71 |
| | 再来患者数 | 328 | 273 | 335 | 352 | 465 | 357 | 300 | 299 | 364 | 362 | 304 | 417 | 4,156 |
| | 延患者数 | 338 | 277 | 339 | 359 | 476 | 361 | 308 | 304 | 370 | 368 | 305 | 422 | 4,227 |
| 代謝・内分泌内科 | 新患者数 | 16 | 12 | 30 | 10 | 23 | 18 | 17 | 17 | 16 | 18 | 22 | 20 | 219 |
| | 再来患者数 | 437 | 439 | 464 | 481 | 609 | 477 | 505 | 507 | 496 | 511 | 491 | 596 | 6,013 |
| | 延患者数 | 453 | 451 | 494 | 491 | 632 | 495 | 522 | 524 | 512 | 529 | 513 | 616 | 6,232 |
| 新生児内科 | 新患者数 | 5 | 4 | 3 | 1 | 3 | 2 | 1 | 2 | 4 | 0 | 2 | 2 | 29 |
| | 再来患者数 | 201 | 132 | 165 | 180 | 181 | 197 | 208 | 202 | 212 | 179 | 193 | 221 | 2,271 |
| | 延患者数 | 206 | 136 | 168 | 181 | 184 | 199 | 209 | 204 | 216 | 179 | 195 | 223 | 2,300 |
| 心臓血管外科 | 新患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 再来患者数 | 102 | 88 | 69 | 107 | 102 | 92 | 95 | 102 | 96 | 80 | 77 | 87 | 1,097 |
| | 延患者数 | 102 | 88 | 69 | 107 | 103 | 92 | 95 | 102 | 96 | 80 | 77 | 87 | 1,098 |
| 脳神経外科 | 新患者数 | 18 | 20 | 29 | 39 | 23 | 24 | 23 | 23 | 27 | 26 | 29 | 27 | 308 |
| | 再来患者数 | 319 | 279 | 291 | 333 | 404 | 363 | 272 | 238 | 352 | 294 | 279 | 379 | 3,803 |
| | 延患者数 | 337 | 299 | 320 | 372 | 427 | 387 | 295 | 261 | 379 | 320 | 308 | 406 | 4,111 |
| 小児外科 | 新患者数 | 49 | 57 | 48 | 54 | 49 | 36 | 44 | 45 | 40 | 38 | 35 | 48 | 543 |
| | 再来患者数 | 458 | 362 | 415 | 464 | 546 | 375 | 405 | 362 | 452 | 376 | 379 | 550 | 5,144 |
| | 延患者数 | 507 | 419 | 463 | 518 | 595 | 411 | 449 | 407 | 492 | 414 | 414 | 598 | 5,687 |
| 整形外科 | 新患者数 | 73 | 72 | 73 | 64 | 77 | 62 | 74 | 95 | 167 | 98 | 65 | 103 | 1,023 |
| | 再来患者数 | 569 | 480 | 440 | 573 | 797 | 533 | 499 | 469 | 616 | 526 | 459 | 656 | 6,617 |
| | 延患者数 | 642 | 552 | 513 | 637 | 874 | 595 | 573 | 564 | 783 | 624 | 524 | 759 | 7,640 |
| 形成外科 | 新患者数 | 32 | 34 | 43 | 23 | 35 | 29 | 25 | 37 | 25 | 26 | 28 | 37 | 374 |
| | 再来患者数 | 218 | 202 | 204 | 222 | 338 | 271 | 253 | 239 | 256 | 246 | 246 | 311 | 3,006 |
| | 延患者数 | 250 | 236 | 247 | 245 | 373 | 300 | 278 | 276 | 281 | 272 | 274 | 348 | 3,380 |
| 精神科 | 新患者数 | 12 | 7 | 8 | 15 | 16 | 11 | 13 | 15 | 6 | 8 | 9 | 13 | 133 |
| | 再来患者数 | 294 | 296 | 317 | 328 | 396 | 342 | 315 | 312 | 342 | 286 | 285 | 366 | 3,879 |
| | 延患者数 | 306 | 303 | 325 | 343 | 412 | 353 | 328 | 327 | 348 | 294 | 294 | 379 | 4,012 |
| アレルギー内科 | 新患者数 | 6 | 7 | 1 | 6 | 10 | 3 | 4 | 3 | 3 | 6 | 5 | 10 | 64 |
| | 再来患者数 | 88 | 86 | 69 | 103 | 126 | 84 | 102 | 108 | 117 | 85 | 102 | 133 | 1,203 |
| | 延患者数 | 94 | 93 | 70 | 109 | 136 | 87 | 106 | 111 | 120 | 91 | 107 | 143 | 1,267 |
| リウマチ科 | 新患者数 | 3 | 3 | 6 | 1 | 3 | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 | 0 | 4 | 28 |
| | 再来患者数 | 92 | 91 | 86 | 100 | 116 | 79 | 93 | 98 | 105 | 102 | 91 | 118 | 1,171 |
| | 延患者数 | 95 | 94 | 92 | 101 | 119 | 80 | 94 | 102 | 106 | 103 | 91 | 122 | 1,199 |

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 感染症内科 | 新患者数 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 9 |
| | 再来患者数 | 8 | 8 | 2 | 7 | 10 | 7 | 5 | 18 | 18 | 13 | 13 | 12 | 121 |
| | 延患者数 | 8 | 9 | 2 | 8 | 11 | 8 | 7 | 18 | 18 | 15 | 13 | 13 | 130 |
| 臨床遺伝科 | 新患者数 | 4 | 3 | 1 | 4 | 5 | 4 | 8 | 5 | 6 | 3 | 4 | 5 | 52 |
| | 再来患者数 | 24 | 33 | 36 | 34 | 39 | 38 | 27 | 37 | 49 | 41 | 26 | 53 | 437 |
| | 延患者数 | 28 | 36 | 37 | 38 | 44 | 42 | 35 | 42 | 55 | 44 | 30 | 58 | 489 |
| 泌尿器科 | 新患者数 | 62 | 70 | 59 | 56 | 83 | 72 | 63 | 63 | 64 | 57 | 41 | 67 | 757 |
| | 再来患者数 | 382 | 374 | 366 | 416 | 560 | 463 | 448 | 331 | 430 | 380 | 352 | 480 | 4,982 |
| | 延患者数 | 444 | 444 | 425 | 472 | 643 | 535 | 511 | 394 | 494 | 437 | 393 | 547 | 5,739 |
| 産科 | 新患者数 | 24 | 17 | 16 | 22 | 14 | 16 | 21 | 15 | 19 | 13 | 11 | 8 | 196 |
| | 再来患者数 | 126 | 192 | 172 | 196 | 167 | 172 | 146 | 179 | 192 | 138 | 119 | 151 | 1,950 |
| | 延患者数 | 150 | 209 | 188 | 218 | 181 | 188 | 167 | 194 | 211 | 151 | 130 | 159 | 2,146 |
| 眼科 | 新患者数 | 33 | 28 | 57 | 41 | 41 | 44 | 45 | 43 | 45 | 38 | 44 | 40 | 499 |
| | 再来患者数 | 657 | 594 | 682 | 732 | 910 | 694 | 741 | 818 | 802 | 707 | 678 | 828 | 8,843 |
| | 延患者数 | 690 | 622 | 739 | 773 | 951 | 738 | 786 | 861 | 847 | 745 | 722 | 868 | 9,342 |
| 耳鼻咽喉科 | 新患者数 | 40 | 33 | 41 | 29 | 47 | 38 | 39 | 36 | 43 | 37 | 33 | 41 | 457 |
| | 再来患者数 | 363 | 386 | 424 | 409 | 446 | 403 | 398 | 368 | 433 | 398 | 365 | 539 | 4,932 |
| | 延患者数 | 403 | 419 | 465 | 438 | 493 | 441 | 437 | 404 | 476 | 435 | 398 | 580 | 5,389 |
| リハビリテーション科 | 新患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 再来患者数 | 41 | 39 | 43 | 42 | 58 | 42 | 46 | 59 | 58 | 46 | 42 | 34 | 550 |
| | 延患者数 | 41 | 39 | 43 | 42 | 58 | 42 | 46 | 59 | 58 | 46 | 42 | 34 | 550 |
| 放射線科 | 新患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 再来患者数 | 4 | 0 | 1 | 0 | 4 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | 延患者数 | 4 | 0 | 1 | 0 | 4 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| 麻酔科 | 新患者数 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| | 再来患者数 | 70 | 66 | 67 | 68 | 96 | 70 | 64 | 62 | 67 | 64 | 66 | 76 | 836 |
| | 延患者数 | 70 | 66 | 67 | 69 | 96 | 71 | 65 | 62 | 67 | 65 | 66 | 76 | 840 |
| 総合診療科 | 新患者数 | 11 | 16 | 24 | 12 | 17 | 8 | 16 | 24 | 27 | 20 | 13 | 27 | 215 |
| | 再来患者数 | 106 | 119 | 133 | 151 | 198 | 161 | 171 | 194 | 191 | 190 | 198 | 270 | 2,082 |
| | 延患者数 | 117 | 135 | 157 | 163 | 215 | 169 | 187 | 218 | 218 | 210 | 211 | 297 | 2,297 |
| 救急科 | 新患者数 | 155 | 194 | 178 | 259 | 258 | 205 | 222 | 388 | 497 | 526 | 421 | 486 | 3,789 |
| | 再来患者数 | 209 | 288 | 247 | 253 | 239 | 198 | 220 | 260 | 314 | 308 | 286 | 320 | 3,142 |
| | 延患者数 | 364 | 482 | 425 | 512 | 497 | 403 | 442 | 648 | 811 | 834 | 707 | 806 | 6,931 |
| 小児集中科 | 新患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 再来患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 歯科 | 新患者数 | 64 | 61 | 53 | 80 | 83 | 50 | 62 | 65 | 78 | 60 | 48 | 104 | 808 |
| | 再来患者数 | 139 | 110 | 132 | 119 | 117 | 131 | 143 | 139 | 127 | 118 | 129 | 113 | 1,517 |
| | 延患者数 | 203 | 171 | 185 | 199 | 200 | 181 | 205 | 204 | 205 | 178 | 177 | 217 | 2,325 |
| 合計 | 新患者数 | 674 | 713 | 764 | 828 | 932 | 709 | 763 | 948 | 1,140 | 1,045 | 867 | 1,115 | 10,498 |
| | 再来患者数 | 6,446 | 6,035 | 6,350 | 6,975 | 8,690 | 6,792 | 6,634 | 6,526 | 7,429 | 6,647 | 6,266 | 8,326 | 83,116 |
| | 延患者数 | 7,120 | 6,748 | 7,114 | 7,803 | 9,622 | 7,501 | 7,397 | 7,474 | 8,569 | 7,692 | 7,133 | 9,441 | 93,614 |

3. 月別科別入院患者数

H29 年度

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|----------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 循環器内科 | 新規入院患者数 | 38 | 28 | 34 | 35 | 41 | 33 | 33 | 30 | 25 | 35 | 33 | 32 | 397 |
| | 退院患者数 | 42 | 29 | 45 | 31 | 52 | 35 | 34 | 34 | 33 | 39 | 34 | 48 | 456 |
| | 延患者数 | 493 | 440 | 484 | 508 | 533 | 427 | 451 | 542 | 485 | 581 | 469 | 528 | 5,941 |
| 腎臓内科 | 新規入院患者数 | 7 | 3 | 5 | 10 | 16 | 4 | 7 | 7 | 8 | 9 | 5 | 11 | 92 |
| | 退院患者数 | 5 | 7 | 6 | 14 | 18 | 5 | 8 | 10 | 9 | 8 | 11 | 8 | 109 |
| | 延患者数 | 119 | 124 | 144 | 178 | 204 | 125 | 88 | 77 | 83 | 109 | 124 | 106 | 1,481 |
| 神経内科 | 新規入院患者数 | 7 | 7 | 10 | 8 | 6 | 11 | 5 | 7 | 6 | 13 | 6 | 15 | 101 |
| | 退院患者数 | 12 | 15 | 14 | 19 | 14 | 13 | 10 | 12 | 10 | 18 | 15 | 21 | 173 |
| | 延患者数 | 150 | 232 | 252 | 256 | 209 | 193 | 214 | 238 | 188 | 249 | 213 | 183 | 2,577 |
| 血液内科 | 新規入院患者数 | 72 | 73 | 58 | 75 | 68 | 78 | 91 | 82 | 75 | 102 | 85 | 95 | 954 |
| | 退院患者数 | 68 | 73 | 64 | 78 | 71 | 79 | 84 | 81 | 97 | 88 | 81 | 101 | 965 |
| | 延患者数 | 1,233 | 1,293 | 1,192 | 1,215 | 1,209 | 1,105 | 1,222 | 1,285 | 1,290 | 1,112 | 1,107 | 1,379 | 14,642 |
| 代謝・内分泌内科 | 新規入院患者数 | 4 | 1 | 6 | 3 | 5 | 4 | 4 | 6 | 4 | 2 | 7 | 4 | 50 |
| | 退院患者数 | 2 | 5 | 7 | 2 | 7 | 4 | 5 | 6 | 6 | 3 | 7 | 6 | 60 |
| | 延患者数 | 90 | 43 | 57 | 17 | 48 | 42 | 30 | 41 | 45 | 36 | 52 | 45 | 546 |
| 新生児内科 | 新規入院患者数 | 27 | 38 | 38 | 46 | 35 | 40 | 41 | 46 | 44 | 24 | 28 | 32 | 439 |
| | 退院患者数 | 23 | 30 | 36 | 39 | 38 | 33 | 42 | 40 | 39 | 26 | 30 | 28 | 404 |
| | 延患者数 | 1,229 | 1,344 | 1,425 | 1,347 | 1,141 | 1,258 | 1,145 | 1,190 | 1,102 | 1,156 | 919 | 929 | 14,185 |
| 心臓血管外科 | 新規入院患者数 | 12 | 12 | 7 | 13 | 15 | 11 | 11 | 12 | 11 | 6 | 9 | 14 | 133 |
| | 退院患者数 | 12 | 11 | 9 | 13 | 18 | 10 | 16 | 11 | 18 | 7 | 11 | 13 | 149 |
| | 延患者数 | 159 | 176 | 211 | 254 | 239 | 167 | 264 | 227 | 303 | 219 | 129 | 206 | 2,554 |
| 脳神経外科 | 新規入院患者数 | 15 | 15 | 14 | 18 | 23 | 16 | 11 | 17 | 20 | 14 | 20 | 19 | 202 |
| | 退院患者数 | 20 | 15 | 17 | 20 | 23 | 25 | 16 | 19 | 23 | 14 | 23 | 19 | 234 |
| | 延患者数 | 150 | 137 | 124 | 152 | 211 | 203 | 160 | 202 | 179 | 166 | 180 | 121 | 1,985 |
| 小児外科 | 新規入院患者数 | 79 | 55 | 59 | 75 | 86 | 69 | 56 | 55 | 61 | 46 | 52 | 71 | 764 |
| | 退院患者数 | 85 | 61 | 62 | 69 | 99 | 65 | 49 | 57 | 76 | 42 | 57 | 71 | 793 |
| | 延患者数 | 670 | 580 | 537 | 598 | 575 | 437 | 450 | 510 | 538 | 408 | 397 | 443 | 6,143 |
| 整形外科 | 新規入院患者数 | 21 | 21 | 24 | 17 | 34 | 27 | 21 | 23 | 23 | 33 | 21 | 31 | 296 |
| | 退院患者数 | 30 | 24 | 24 | 25 | 31 | 27 | 26 | 22 | 30 | 34 | 23 | 35 | 331 |
| | 延患者数 | 335 | 322 | 369 | 400 | 379 | 355 | 441 | 383 | 408 | 465 | 434 | 348 | 4,639 |
| 形成外科 | 新規入院患者数 | 17 | 18 | 16 | 17 | 26 | 21 | 18 | 16 | 19 | 16 | 15 | 22 | 221 |
| | 退院患者数 | 22 | 19 | 15 | 14 | 30 | 20 | 20 | 15 | 23 | 14 | 15 | 22 | 229 |
| | 延患者数 | 154 | 119 | 137 | 163 | 152 | 121 | 88 | 92 | 126 | 90 | 75 | 131 | 1,448 |
| 精神科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| アレルギー内科 | 新規入院患者数 | 7 | 8 | 15 | 11 | 13 | 9 | 9 | 15 | 3 | 10 | 9 | 10 | 119 |
| | 退院患者数 | 9 | 8 | 14 | 12 | 13 | 8 | 10 | 15 | 3 | 10 | 8 | 12 | 122 |
| | 延患者数 | 17 | 9 | 30 | 39 | 13 | 11 | 36 | 15 | 3 | 10 | 9 | 13 | 205 |
| リウマチ科 | 新規入院患者数 | 1 | 3 | 0 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 0 | 3 | 1 | 1 | 16 |
| | 退院患者数 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 17 |
| | 延患者数 | 15 | 34 | 23 | 1 | 3 | 10 | 19 | 31 | 20 | 20 | 13 | 6 | 195 |

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 感染症内科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 臨床遺伝科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 泌尿器科 | 新規入院患者数 | 23 | 25 | 29 | 20 | 34 | 32 | 29 | 27 | 29 | 31 | 26 | 32 | 337 |
| | 退院患者数 | 22 | 25 | 31 | 20 | 38 | 33 | 24 | 34 | 28 | 26 | 28 | 33 | 342 |
| | 延患者数 | 120 | 145 | 160 | 116 | 162 | 134 | 144 | 130 | 131 | 155 | 145 | 153 | 1,695 |
| 産科 | 新規入院患者数 | 20 | 45 | 23 | 40 | 32 | 33 | 29 | 27 | 33 | 24 | 21 | 18 | 345 |
| | 退院患者数 | 23 | 41 | 28 | 48 | 23 | 36 | 26 | 29 | 39 | 19 | 23 | 24 | 359 |
| | 延患者数 | 773 | 755 | 802 | 611 | 524 | 612 | 724 | 721 | 682 | 543 | 576 | 547 | 7,870 |
| 眼科 | 新規入院患者数 | 40 | 33 | 24 | 37 | 40 | 36 | 31 | 40 | 36 | 35 | 32 | 42 | 426 |
| | 退院患者数 | 41 | 37 | 22 | 36 | 40 | 39 | 29 | 39 | 39 | 33 | 29 | 42 | 426 |
| | 延患者数 | 188 | 138 | 98 | 159 | 177 | 160 | 117 | 172 | 165 | 131 | 119 | 181 | 1,805 |
| 耳鼻咽喉科 | 新規入院患者数 | 11 | 6 | 11 | 15 | 12 | 13 | 15 | 10 | 9 | 11 | 11 | 12 | 136 |
| | 退院患者数 | 11 | 8 | 10 | 14 | 13 | 12 | 14 | 12 | 10 | 7 | 11 | 14 | 136 |
| | 延患者数 | 92 | 31 | 80 | 102 | 65 | 82 | 95 | 80 | 64 | 68 | 73 | 92 | 924 |
| リハビリテーション科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 放射線科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 麻酔科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総合診療科 | 新規入院患者数 | 16 | 29 | 42 | 64 | 95 | 101 | 106 | 81 | 89 | 107 | 97 | 99 | 926 |
| | 退院患者数 | 47 | 70 | 82 | 78 | 95 | 93 | 107 | 84 | 104 | 90 | 97 | 96 | 1,043 |
| | 延患者数 | 337 | 584 | 705 | 690 | 785 | 820 | 894 | 774 | 820 | 802 | 743 | 819 | 8,773 |
| 救急科 | 新規入院患者数 | 49 | 52 | 46 | 21 | 6 | 6 | 8 | 4 | 6 | 5 | 1 | 2 | 206 |
| | 退院患者数 | 20 | 2 | 4 | 4 | 1 | 1 | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 39 |
| | 延患者数 | 151 | 55 | 50 | 25 | 8 | 6 | 9 | 4 | 6 | 5 | 2 | 2 | 323 |
| 小児集中治療科 | 新規入院患者数 | 37 | 34 | 22 | 32 | 27 | 18 | 31 | 21 | 18 | 29 | 22 | 25 | 316 |
| | 退院患者数 | 9 | 6 | 7 | 17 | 17 | 11 | 7 | 8 | 4 | 10 | 11 | 9 | 116 |
| | 延患者数 | 604 | 605 | 579 | 643 | 616 | 580 | 659 | 630 | 685 | 610 | 561 | 647 | 7,419 |
| 菌科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 新規入院患者数 | 503 | 506 | 484 | 559 | 616 | 563 | 558 | 527 | 519 | 555 | 501 | 587 | 6,478 |
| | 退院患者数 | 504 | 489 | 499 | 555 | 642 | 550 | 532 | 530 | 594 | 491 | 515 | 604 | 6,505 |
| | 延患者数 | 7,079 | 7,166 | 7,461 | 7,476 | 7,253 | 6,848 | 7,250 | 7,344 | 7,323 | 6,935 | 6,340 | 6,879 | 85,354 |

4. 年度別科別外来患者数

| | | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 循環器内科 | 新患者数 | 454 | 512 | 519 | 536 | 621 |
| | 再来患者数 | 7,749 | 8,451 | 8,638 | 8,525 | 8,924 |
| | 延患者数 | 8,203 | 8,963 | 9,157 | 9,061 | 9,545 |
| 腎臓内科 | 新患者数 | 157 | 138 | 135 | 135 | 159 |
| | 再来患者数 | 3,124 | 3,168 | 3,197 | 3,103 | 3,141 |
| | 延患者数 | 3,281 | 3,306 | 3,332 | 3,238 | 3,300 |
| 神経内科 | 新患者数 | 174 | 138 | 149 | 110 | 139 |
| | 再来患者数 | 3,515 | 3,573 | 3,134 | 2,916 | 3,289 |
| | 延患者数 | 3,689 | 3,711 | 3,283 | 3,026 | 3,428 |
| 血液内科 | 新患者数 | 64 | 80 | 89 | 66 | 71 |
| | 再来患者数 | 3,763 | 3,567 | 3,716 | 4,122 | 4,156 |
| | 延患者数 | 3,827 | 3,647 | 3,805 | 4,188 | 4,227 |
| 代謝・内分泌内科 | 新患者数 | 156 | 167 | 141 | 168 | 219 |
| | 再来患者数 | 5,091 | 4,933 | 5,148 | 5,373 | 6,013 |
| | 延患者数 | 5,247 | 5,100 | 5,289 | 5,541 | 6,232 |
| 新生児内科 | 新患者数 | 617 | 541 | 531 | 35 | 29 |
| | 再来患者数 | 3,160 | 2,653 | 2,709 | 2,200 | 2,271 |
| | 延患者数 | 3,777 | 3,194 | 3,240 | 2,235 | 2,300 |
| 心臓血管外科 | 新患者数 | 5 | 5 | 7 | 1 | 1 |
| | 再来患者数 | 1,509 | 1,509 | 1,610 | 1,330 | 1,097 |
| | 延患者数 | 1,514 | 1,514 | 1,617 | 1,331 | 1,098 |
| 脳神経外科 | 新患者数 | 301 | 328 | 394 | 338 | 308 |
| | 再来患者数 | 3,573 | 3,812 | 3,829 | 4,048 | 3,803 |
| | 延患者数 | 3,874 | 4,140 | 4,223 | 4,386 | 4,111 |
| 小児外科 | 新患者数 | 634 | 634 | 637 | 539 | 543 |
| | 再来患者数 | 5,239 | 5,223 | 5,463 | 5,360 | 5,144 |
| | 延患者数 | 5,873 | 5,857 | 6,100 | 5,899 | 5,687 |
| 整形外科 | 新患者数 | 868 | 871 | 807 | 910 | 1,023 |
| | 再来患者数 | 5,313 | 5,167 | 5,028 | 5,649 | 6,617 |
| | 延患者数 | 6,181 | 6,038 | 5,835 | 6,559 | 7,640 |
| 形成外科 | 新患者数 | 449 | 437 | 433 | 387 | 374 |
| | 再来患者数 | 3,272 | 2,976 | 3,467 | 2,858 | 3,006 |
| | 延患者数 | 3,721 | 3,413 | 3,900 | 3,245 | 3,380 |
| 精神科 | 新患者数 | 79 | 87 | 119 | 108 | 133 |
| | 再来患者数 | 3,273 | 3,598 | 3,686 | 3,782 | 3,879 |
| | 延患者数 | 3,352 | 3,685 | 3,805 | 3,890 | 4,012 |
| アレルギー内科 | 新患者数 | 62 | 72 | 54 | 54 | 64 |
| | 再来患者数 | 1,383 | 1,424 | 1,505 | 1,328 | 1,203 |
| | 延患者数 | 1,445 | 1,496 | 1,559 | 1,382 | 1,267 |
| リウマチ科 | 新患者数 | | | | 14 | 28 |
| | 再来患者数 | | | | 524 | 1,171 |
| | 延患者数 | | | | 538 | 1,199 |

| | | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 感染症内科 | 新患者数 | | | | 6 | 9 |
| | 再来患者数 | | | | 19 | 121 |
| | 延患者数 | | | | 25 | 130 |
| 臨床遺伝科 | 新患者数 | | | | 21 | 52 |
| | 再来患者数 | | | | 195 | 437 |
| | 延患者数 | | | | 216 | 489 |
| 泌尿器科 | 新患者数 | 710 | 714 | 684 | 729 | 757 |
| | 再来患者数 | 4,844 | 4,694 | 4,463 | 4,407 | 4,982 |
| | 延患者数 | 5,554 | 5,408 | 5,147 | 5,136 | 5,739 |
| 産科 | 新患者数 | 536 | 539 | 434 | 183 | 196 |
| | 再来患者数 | 2,987 | 2,526 | 2,148 | 1,779 | 1,950 |
| | 延患者数 | 3,523 | 3,065 | 2,582 | 1,962 | 2,146 |
| 眼科 | 新患者数 | 587 | 517 | 502 | 451 | 499 |
| | 再来患者数 | 10,049 | 9,888 | 10,036 | 8,456 | 8,843 |
| | 延患者数 | 10,636 | 10,405 | 10,538 | 8,907 | 9,342 |
| 耳鼻咽喉科 | 新患者数 | 437 | 436 | 441 | 436 | 457 |
| | 再来患者数 | 5,602 | 5,720 | 6,017 | 5,021 | 4,932 |
| | 延患者数 | 6,039 | 6,156 | 6,458 | 5,457 | 5,389 |
| リハビリテーション科 | 新患者数 | | | | 0 | 0 |
| | 再来患者数 | | | | 448 | 550 |
| | 延患者数 | | | | 448 | 550 |
| 放射線科 | 新患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 再来患者数 | 0 | 0 | 0 | 15 | 10 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 15 | 10 |
| 麻酔科 | 新患者数 | 3 | 10 | 16 | 3 | 4 |
| | 再来患者数 | 952 | 976 | 1,026 | 842 | 836 |
| | 延患者数 | 955 | 986 | 1,042 | 845 | 840 |
| 総合診療科 | 新患者数 | 228 | 164 | 198 | 218 | 215 |
| | 再来患者数 | 1,614 | 1,280 | 1,271 | 1,303 | 2,082 |
| | 延患者数 | 1,842 | 1,444 | 1,469 | 1,521 | 2,297 |
| 救急科 | 新患者数 | 591 | 586 | 616 | 1,154 | 3,789 |
| | 再来患者数 | 795 | 825 | 852 | 1,846 | 3,142 |
| | 延患者数 | 1,386 | 1,411 | 1,468 | 3,000 | 6,931 |
| 小児集中治療科 | 新患者数 | | | | 1 | 0 |
| | 再来患者数 | | | | 0 | 0 |
| | 延患者数 | | | | 1 | 0 |
| 歯科 | 新患者数 | 920 | 768 | 781 | 744 | 808 |
| | 再来患者数 | 2,415 | 1,820 | 1,505 | 1,303 | 1,517 |
| | 延患者数 | 3,335 | 2,588 | 2,286 | 2,047 | 2,325 |
| 合計 | 新患者数 | 8,032 | 7,744 | 7,687 | 7,347 | 10,498 |
| | 再来患者数 | 79,222 | 77,783 | 78,448 | 76,752 | 83,116 |
| | 延患者数 | 87,254 | 85,527 | 86,135 | 84,099 | 93,614 |

5. 年度別科別入院患者数

| | | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|----------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 循環器内科 | 新規入院患者数 | 327 | 367 | 440 | 383 | 397 |
| | 退院患者数 | 391 | 443 | 495 | 420 | 456 |
| | 延患者数 | 8,880 | 8,993 | 8,519 | 5,456 | 5,941 |
| 腎臓内科 | 新規入院患者数 | 81 | 63 | 76 | 102 | 92 |
| | 退院患者数 | 87 | 80 | 88 | 136 | 109 |
| | 延患者数 | 1,591 | 1,238 | 1,394 | 1,746 | 1,481 |
| 神経内科 | 新規入院患者数 | 56 | 45 | 24 | 78 | 101 |
| | 退院患者数 | 138 | 135 | 90 | 163 | 173 |
| | 延患者数 | 1,833 | 1,961 | 1,722 | 1,847 | 2,577 |
| 血液内科 | 新規入院患者数 | 606 | 569 | 672 | 697 | 954 |
| | 退院患者数 | 650 | 591 | 717 | 697 | 965 |
| | 延患者数 | 10,736 | 10,559 | 12,166 | 11,520 | 14,642 |
| 代謝・内分泌内科 | 新規入院患者数 | 45 | 41 | 35 | 66 | 50 |
| | 退院患者数 | 51 | 48 | 51 | 69 | 60 |
| | 延患者数 | 357 | 337 | 447 | 420 | 546 |
| 新生児内科 | 新規入院患者数 | 650 | 542 | 517 | 423 | 439 |
| | 退院患者数 | 595 | 539 | 526 | 387 | 404 |
| | 延患者数 | 22,769 | 19,549 | 17,900 | 15,021 | 14,185 |
| 心臓血管外科 | 新規入院患者数 | 138 | 136 | 133 | 144 | 133 |
| | 退院患者数 | 155 | 150 | 143 | 174 | 149 |
| | 延患者数 | 3,850 | 3,654 | 4,436 | 2,894 | 2,554 |
| 脳神経外科 | 新規入院患者数 | 150 | 180 | 171 | 226 | 202 |
| | 退院患者数 | 213 | 247 | 216 | 253 | 234 |
| | 延患者数 | 3,382 | 3,399 | 2,868 | 2,277 | 1,985 |
| 小児外科 | 新規入院患者数 | 541 | 741 | 856 | 766 | 764 |
| | 退院患者数 | 669 | 833 | 954 | 809 | 793 |
| | 延患者数 | 8,273 | 8,035 | 8,214 | 6,379 | 6,143 |
| 整形外科 | 新規入院患者数 | 228 | 249 | 239 | 244 | 296 |
| | 退院患者数 | 236 | 256 | 240 | 266 | 331 |
| | 延患者数 | 2,950 | 3,500 | 3,582 | 3,497 | 4,639 |
| 形成外科 | 新規入院患者数 | 242 | 257 | 269 | 217 | 221 |
| | 退院患者数 | 248 | 265 | 278 | 223 | 229 |
| | 延患者数 | 1,607 | 1,747 | 1,722 | 1,400 | 1,448 |
| 精神科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| アレルギー内科 | 新規入院患者数 | 16 | 22 | 40 | 64 | 119 |
| | 退院患者数 | 24 | 48 | 56 | 81 | 122 |
| | 延患者数 | 152 | 374 | 343 | 228 | 205 |
| リウマチ科 | 新規入院患者数 | | | | 22 | 16 |
| | 退院患者数 | | | | 37 | 17 |
| | 延患者数 | | | | 323 | 195 |

| | | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 感染症内科 | 新規入院患者数 | | | | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | | | | 0 | 0 |
| | 延患者数 | | | | 0 | 0 |
| 臨床遺伝科 | 新規入院患者数 | | | | 0 | 2 |
| | 退院患者数 | | | | 0 | 2 |
| | 延患者数 | | | | 0 | 4 |
| 泌尿器科 | 新規入院患者数 | 272 | 266 | 264 | 264 | 337 |
| | 退院患者数 | 279 | 276 | 270 | 277 | 342 |
| | 延患者数 | 1,508 | 1,408 | 1,394 | 1,412 | 1,695 |
| 産科 | 新規入院患者数 | 523 | 508 | 415 | 331 | 345 |
| | 退院患者数 | 534 | 509 | 422 | 319 | 359 |
| | 延患者数 | 10,848 | 9,916 | 9,900 | 7,626 | 7,870 |
| 眼科 | 新規入院患者数 | 436 | 436 | 407 | 425 | 426 |
| | 退院患者数 | 433 | 438 | 407 | 423 | 426 |
| | 延患者数 | 2,002 | 1,954 | 1,790 | 1,828 | 1,805 |
| 耳鼻咽喉科 | 新規入院患者数 | 138 | 128 | 128 | 104 | 136 |
| | 退院患者数 | 137 | 131 | 130 | 102 | 136 |
| | 延患者数 | 960 | 948 | 893 | 725 | 924 |
| リハビリテーション科 | 新規入院患者数 | | | | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | | | | 0 | 0 |
| | 延患者数 | | | | 0 | 0 |
| 放射線科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 麻酔科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総合診療科 | 新規入院患者数 | 5 | 7 | 5 | 142 | 926 |
| | 退院患者数 | 5 | 6 | 8 | 153 | 1,043 |
| | 延患者数 | 53 | 1,839 | 1,469 | 2,487 | 8,773 |
| 救急科 | 新規入院患者数 | 817 | 849 | 855 | 776 | 206 |
| | 退院患者数 | 434 | 397 | 489 | 570 | 39 |
| | 延患者数 | 4,714 | 4,432 | 4,824 | 3,447 | 323 |
| 小児集中治療科 | 新規入院患者数 | | | | 207 | 316 |
| | 退院患者数 | | | | 92 | 116 |
| | 延患者数 | | | | 6,200 | 7,419 |
| 歯科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 新規入院患者数 | 5,271 | 5,406 | 5,546 | 5,681 | 6,478 |
| | 退院患者数 | 5,279 | 5,392 | 5,580 | 5,651 | 6,505 |
| | 延患者数 | 86,465 | 83,843 | 83,583 | 76,733 | 85,354 |

6. 年齢別患者状況

H29 年度

| 年 齢 区 分 | 外 来 | | 入 院 | |
|---------------|---------|---------|---------|---------|
| | 患者数 (人) | 構成比 (%) | 患者数 (人) | 構成比 (%) |
| 0 歳～1 歳未満 | 2,844 | 10.4% | 1,006 | 21.8% |
| 1 歳以上～3 歳未満 | 4,149 | 15.1% | 789 | 17.1% |
| 3 歳～6 歳未満 | 5,040 | 18.4% | 817 | 17.7% |
| 6 歳～13 歳未満 | 9,700 | 35.4% | 1,187 | 25.7% |
| 13 歳以上～16 歳未満 | 2,960 | 10.8% | 311 | 6.7% |
| 16 歳以上 | 2,720 | 9.9% | 507 | 11.0% |
| 合 計 | 27,413 | 100.0% | 4,617 | 100.0% |

7. 地域別患者状況

(1) 外来

| 区 分 | 28 年度 | | 29 年度 | | |
|-------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 患者数 | 構成比 | 患者数 | 構成比 | |
| 兵 庫 県 | 神戸市 | 11,753 | 48.4% | 14,569 | 53.1% |
| | 姫路市 | 1,053 | 4.3% | 1,110 | 4.0% |
| | 尼崎市 | 656 | 2.7% | 353 | 1.3% |
| | 明石市 | 2,038 | 8.4% | 2,172 | 7.9% |
| | 西宮市 | 808 | 3.3% | 986 | 3.6% |
| | 洲本市 | 548 | 2.3% | 180 | 0.7% |
| | 芦屋市 | 375 | 1.5% | 360 | 1.3% |
| | 伊丹市 | 210 | 0.9% | 219 | 0.8% |
| | 相生市 | 75 | 0.3% | 49 | 0.2% |
| | 豊岡市 | 259 | 1.1% | 270 | 1.0% |
| | 加古川市 | 605 | 2.5% | 720 | 2.6% |
| | 赤穂市 | 146 | 0.6% | 119 | 0.4% |
| | 西脇市 | 271 | 1.1% | 169 | 0.6% |
| | 宝塚市 | 299 | 1.2% | 366 | 1.3% |
| | 三木市 | 321 | 1.3% | 345 | 1.3% |
| | 高砂市 | 218 | 0.9% | 223 | 0.8% |
| | 川西市 | 152 | 0.6% | 126 | 0.5% |
| | 小野市 | 265 | 1.1% | 235 | 0.9% |
| | 三田市 | 483 | 2.0% | 542 | 2.0% |
| 加西市 | 114 | 0.5% | 157 | 0.6% | |
| 篠山市 | 175 | 0.7% | 148 | 0.5% | |
| 養父市 | 156 | 0.6% | 75 | 0.3% | |
| 丹波市 | 306 | 1.3% | 287 | 1.0% | |

(1) 入院

| 区 分 | 28 年度 | | 29 年度 | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 患者数 | 構成比 | 患者数 | 構成比 | |
| 兵 庫 県 | 神戸市 | 2,111 | 50.4% | 2,384 | 51.6% |
| | 姫路市 | 164 | 3.9% | 155 | 3.4% |
| | 尼崎市 | 81 | 1.9% | 55 | 1.2% |
| | 明石市 | 311 | 7.4% | 311 | 6.7% |
| | 西宮市 | 150 | 3.6% | 158 | 3.4% |
| | 洲本市 | 68 | 1.6% | 30 | 0.6% |
| | 芦屋市 | 51 | 1.2% | 69 | 1.5% |
| | 伊丹市 | 31 | 0.7% | 35 | 0.8% |
| | 相生市 | 9 | 0.2% | 6 | 0.1% |
| | 豊岡市 | 41 | 1.0% | 59 | 1.3% |
| | 加古川市 | 92 | 2.2% | 107 | 2.3% |
| | 赤穂市 | 11 | 0.3% | 17 | 0.4% |
| | 西脇市 | 39 | 0.9% | 32 | 0.7% |
| | 宝塚市 | 40 | 1.0% | 67 | 1.5% |
| | 三木市 | 58 | 1.4% | 65 | 1.4% |
| | 高砂市 | 33 | 0.8% | 31 | 0.7% |
| | 川西市 | 20 | 0.5% | 21 | 0.5% |
| | 小野市 | 40 | 1.0% | 45 | 1.0% |
| | 三田市 | 69 | 1.6% | 94 | 2.0% |
| 加西市 | 26 | 0.6% | 32 | 0.7% | |
| 篠山市 | 30 | 0.7% | 24 | 0.5% | |
| 養父市 | 17 | 0.4% | 7 | 0.2% | |
| 丹波市 | 53 | 1.3% | 52 | 1.1% | |

| 区 分 | | 28 年度 | | 29 年度 | |
|-------|-------|--------|--------|--------|--------|
| | | 患者数 | 構成比 | 患者数 | 構成比 |
| 兵 庫 県 | 南あわじ市 | 195 | 0.8% | 214 | 0.8% |
| | 朝来市 | 105 | 0.4% | 131 | 0.5% |
| | 淡路市 | 187 | 0.8% | 257 | 0.9% |
| | 宍粟市 | 73 | 0.3% | 94 | 0.3% |
| | 加東市 | 155 | 0.6% | 189 | 0.7% |
| | たつの市 | 139 | 0.6% | 184 | 0.7% |
| | 猪名川町 | 25 | 0.1% | 26 | 0.1% |
| | 多可町 | 59 | 0.2% | 65 | 0.2% |
| | 稲美町 | 84 | 0.3% | 104 | 0.4% |
| | 播磨町 | 106 | 0.4% | 117 | 0.4% |
| | 市川町 | 19 | 0.1% | 25 | 0.1% |
| | 福崎町 | 61 | 0.3% | 45 | 0.2% |
| | 神河町 | 33 | 0.1% | 18 | 0.1% |
| | 太子町 | 61 | 0.3% | 72 | 0.3% |
| | 上郡町 | 20 | 0.1% | 20 | 0.1% |
| | 佐用町 | 24 | 0.1% | 28 | 0.1% |
| | 香美町 | 40 | 0.2% | 45 | 0.2% |
| | 新温泉町 | 35 | 0.1% | 37 | 0.1% |
| | その他 | 80 | 0.3% | 32 | 0.1% |
| | 計 | 22,787 | 93.8% | 25,483 | 93.0% |
| 近畿圏 | | 735 | 3.0% | 971 | 3.5% |
| 近畿圏外 | | 762 | 3.1% | 959 | 3.5% |
| 総 計 | | 24,284 | 100.0% | 27,413 | 100.0% |

| 区 分 | | 28 年度 | | 29 年度 | |
|-------|-------|-------|--------|-------|--------|
| | | 患者数 | 構成比 | 患者数 | 構成比 |
| 兵 庫 県 | 南あわじ市 | 39 | 0.9% | 50 | 1.1% |
| | 朝来市 | 37 | 0.9% | 27 | 0.6% |
| | 淡路市 | 18 | 0.4% | 55 | 1.2% |
| | 宍粟市 | 7 | 0.2% | 13 | 0.3% |
| | 加東市 | 31 | 0.7% | 28 | 0.6% |
| | たつの市 | 22 | 0.5% | 33 | 0.7% |
| | 猪名川町 | 5 | 0.1% | 2 | 0.0% |
| | 多可町 | 13 | 0.3% | 14 | 0.3% |
| | 稲美町 | 13 | 0.3% | 11 | 0.2% |
| | 播磨町 | 19 | 0.5% | 19 | 0.4% |
| | 市川町 | 5 | 0.1% | 6 | 0.1% |
| | 福崎町 | 8 | 0.2% | 9 | 0.2% |
| | 神河町 | 6 | 0.1% | 1 | 0.0% |
| | 太子町 | 12 | 0.3% | 11 | 0.2% |
| | 上郡町 | 2 | 0.0% | 5 | 0.1% |
| | 佐用町 | 0 | 0.0% | 3 | 0.1% |
| | 香美町 | 6 | 0.1% | 6 | 0.1% |
| | 新温泉町 | 10 | 0.2% | 8 | 0.2% |
| | その他 | 19 | 0.5% | 0 | 0.0% |
| | 計 | 3,817 | 91.1% | 4,157 | 90.0% |
| 近畿圏 | | 146 | 3.5% | 195 | 4.2% |
| 近畿圏外 | | 229 | 5.5% | 265 | 5.7% |
| 総 計 | | 4,192 | 100.0% | 4,617 | 100.0% |

※実患者数

8. 公費負担患者状況

H29 年度

| 公費負担制度 | 件数 | 構成比 |
|-------------|-------|--------|
| 1. 小児慢性特定疾患 | 1,222 | 46.5% |
| 2. 育成医療 | 101 | 3.8% |
| 3. 養育医療 | 190 | 7.2% |
| 4. 児童福祉（措置） | 49 | 1.9% |
| 5. 特定疾患 | 52 | 2.0% |
| 6. 生活保護 | 76 | 2.9% |
| 7. 精神保健 | 52 | 2.0% |
| 8. 自 費 | 887 | 33.7% |
| 合 計 | 2,629 | 100.0% |

9. 時間外患者状況

H29年度

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------------|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 循環器内科 | 外来 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 | 1 | 1 | 2 | 13 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 | 1 | 1 | 2 | 13 |
| 腎臓内科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 神経内科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 入院 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 8 |
| | 計 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 3 | 0 | 1 | 12 |
| 血液内科 | 外来 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 2 | 0 | 1 | 9 |
| | 入院 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 計 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 3 | 1 | 2 | 0 | 1 | 12 |
| 代謝・ 内分泌内科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 新生児内科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 7 | 20 | 12 | 18 | 12 | 15 | 16 | 16 | 17 | 8 | 7 | 9 | 157 |
| | 計 | 7 | 20 | 12 | 18 | 12 | 15 | 16 | 16 | 17 | 8 | 7 | 9 | 157 |
| 心臓血管外科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 脳神経外科 | 外来 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 |
| 小児外科 | 外来 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 6 | 18 |
| | 入院 | 3 | 2 | 1 | 2 | 2 | 3 | 4 | 2 | 0 | 1 | 1 | 3 | 24 |
| | 計 | 3 | 2 | 2 | 3 | 2 | 5 | 7 | 3 | 1 | 2 | 3 | 9 | 42 |
| 整形外科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 7 |
| 形成外科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 精神科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| アレルギー 内科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| リウマチ科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 感染症内科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 臨床遺伝科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 泌尿器科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 4 | 10 |
| | 入院 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 5 |
| | 計 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 | 4 | 0 | 4 | 15 |
| 産科 | 外来 | 1 | 3 | 4 | 6 | 1 | 2 | 2 | 3 | 4 | 7 | 1 | 1 | 35 |
| | 入院 | 5 | 7 | 2 | 7 | 4 | 3 | 3 | 4 | 3 | 4 | 2 | 2 | 46 |
| | 計 | 6 | 10 | 6 | 13 | 5 | 5 | 5 | 7 | 7 | 11 | 3 | 3 | 81 |
| 眼科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 5 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 5 |
| 耳鼻咽喉科 | 外来 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| リハビリテーション科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 放射線科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 麻酔科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総合診療科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 入院 | 3 | 7 | 5 | 17 | 26 | 25 | 31 | 25 | 16 | 32 | 20 | 21 | 228 |
| | 計 | 3 | 7 | 5 | 17 | 26 | 25 | 31 | 25 | 17 | 32 | 20 | 21 | 229 |
| 救急科 | 外来 | 268 | 331 | 290 | 362 | 332 | 281 | 291 | 505 | 631 | 659 | 533 | 612 | 5,095 |
| | 入院 | 19 | 21 | 19 | 8 | 1 | 4 | 5 | 0 | 4 | 4 | 0 | 0 | 85 |
| | 計 | 287 | 352 | 309 | 370 | 333 | 285 | 296 | 505 | 635 | 663 | 533 | 612 | 5,180 |
| 小児集中治療科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 10 | 14 | 7 | 12 | 3 | 2 | 9 | 6 | 6 | 8 | 2 | 6 | 85 |
| | 計 | 10 | 14 | 7 | 12 | 3 | 2 | 9 | 6 | 6 | 8 | 2 | 6 | 85 |
| 歯科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 外来 | 269 | 337 | 296 | 375 | 336 | 286 | 302 | 515 | 654 | 671 | 537 | 630 | 5,208 |
| | 入院 | 48 | 73 | 46 | 65 | 50 | 55 | 69 | 53 | 46 | 64 | 32 | 43 | 644 |
| | 計 | 317 | 410 | 342 | 440 | 386 | 341 | 371 | 568 | 700 | 735 | 569 | 673 | 5,852 |

10. 小児がん患者入院延べ日数 平成29年度[総計] 8,412日

経理状況

| 区分 | | 単位 | 28年度 決算 | 29年度 | | | | 決算評価 | | |
|------------|---------------|-------------|------------|---------|---------|---------|---------|-------|------|---|
| | | | | 計画 | 決算 | 計画対比 | 前年対比 | 計画対比 | 前年対比 | |
| 業務量 | 入院 | 許可病床数 | 床 | 290 | 290 | 290 | 0 | 0 | | |
| | | 稼働病床数 | 床 | 267 | 269 | 269 | 0 | 2 | | |
| | | 病床利用率 | % | 78.7 | 88.9 | 86.9 | △ 2.0 | 8.2 | × | ○ |
| | | 病床利用率(一般のみ) | % | 78.7 | 88.9 | 86.9 | △ 2.0 | 8.2 | × | ○ |
| | | 延入院患者数 | 人 | 76,733 | 87,273 | 85,354 | △ 1,919 | 8,621 | × | ○ |
| | | 1日当たり患者数 | 人/日 | 210 | 239 | 234 | △ 5 | 24 | × | ○ |
| | | 新規入院患者数 | 人 | 5,681 | 6,527 | 6,478 | △ 49 | 797 | × | ○ |
| | | 平均在院日数 | 日 | 12.5 | 12.4 | 12.1 | △ 0.3 | △ 0.4 | ○ | ○ |
| | 外来 | 入院単価 | 円 | 91,145 | 95,069 | 94,215 | △ 854 | 3,070 | × | ○ |
| | | 入院単価(一般) | 円 | 91,145 | 95,069 | 94,215 | △ 854 | 3,070 | × | ○ |
| | | 延外来患者数 | 人 | 84,099 | 91,508 | 93,614 | 2,106 | 9,515 | ○ | ○ |
| | | 1日当たり患者数 | 人/日 | 346 | 375 | 384 | 9 | 38 | ○ | ○ |
| | | 外来単価 | 円 | 18,371 | 17,546 | 17,722 | 176 | △ 649 | ○ | × |
| | | 新規外来患者数 | 人 | 7,348 | 9,241 | 10,498 | 1,257 | 3,150 | ○ | ○ |
| | | 紹介率 | % | 95.8 | 93.7 | 95.3 | 1.6 | △ 0.5 | ○ | × |
| | | 手術件数 | 件 | 4,312 | 4,575 | 4,647 | △ 820 | △ 557 | × | × |
| 救急車搬送患者数 | 人 | 1,608 | 1,900 | 1,994 | 94 | 386 | ○ | ○ | | |
| 収支 | 入院収益 | 百万円 | 6,994 | 8,297 | 8,042 | △ 255 | 1,048 | × | ○ | |
| | 外来収益 | 百万円 | 1,545 | 1,606 | 1,659 | 53 | 114 | ○ | ○ | |
| | その他医業収益 | 百万円 | 125 | 129 | 128 | △ 1 | 3 | × | ○ | |
| | * 医業収益 * | 百万円 | 8,663 | 10,032 | 9,828 | △ 204 | 1,165 | × | ○ | |
| | 医業外収益 | 百万円 | 110 | 135 | 141 | 6 | 31 | ○ | ○ | |
| | 長期前受金戻入額 | 百万円 | 295 | 763 | 763 | 0 | 468 | - | - | |
| | * 経常収益計 ① * | 百万円 | 9,069 | 10,930 | 10,732 | △ 198 | 1,663 | × | ○ | |
| | 給与費 | 百万円 | 7,548 | 7,781 | 7,734 | △ 47 | 186 | | | |
| | (うち退職給与金) | 百万円 | 200 | 342 | 346 | 4 | 146 | | | |
| | (うち退職給付引当金) | 百万円 | 157 | 157 | 140 | △ 17 | △ 17 | | | |
| | (うち賞与引当金) | 百万円 | 323 | 331 | 331 | 0 | 8 | | | |
| | 材料費 | 百万円 | 2,102 | 2,168 | 2,091 | △ 77 | △ 11 | | | |
| | (うち薬品費) | 百万円 | 1,230 | 1,266 | 1,206 | △ 60 | △ 24 | | | |
| | (うち診療材料費) | 百万円 | 808 | 828 | 814 | △ 14 | 6 | | | |
| | 経費 | 百万円 | 1,972 | 1,969 | 1,944 | △ 25 | △ 28 | | | |
| | 減価償却費 | 百万円 | 243 | 1,331 | 1,330 | △ 1 | 1,087 | | | |
| | その他の医業費用 | 百万円 | 151 | 63 | 56 | △ 7 | △ 95 | | | |
| | * 医業費用 * | 百万円 | 12,017 | 13,313 | 13,155 | △ 158 | 1,138 | | | |
| | 医業外費用 | 百万円 | 250 | 259 | 266 | 7 | 16 | | | |
| | * 経常費用計 ② * | 百万円 | 12,266 | 13,572 | 13,421 | △ 151 | 1,155 | | | |
| | 繰入前経常損益③(①-②) | 百万円 | △ 3,197 | △ 2,642 | △ 2,689 | △ 47 | 508 | | | × |
| 一般会計繰入金④ | 百万円 | 2,296 | 2,322 | 2,322 | 0 | 26 | - | | | - |
| 経常損益⑤(③+④) | 百万円 | △ 902 | △ 320 | △ 368 | △ 48 | 534 | × | | | ○ |
| 特別利益⑥ | 百万円 | 1 | 22 | 21 | △ 1 | 20 | - | | | - |
| 特別損失⑦ | 百万円 | 2,783 | 32 | 31 | △ 1 | △ 2,752 | - | - | | |
| 当期純損益⑤+⑥-⑦ | 百万円 | △ 3,684 | △ 331 | △ 378 | △ 47 | 3,306 | × | ○ | | |
| 経営指標 | 医業収益比率 | 給与費比率 | % | 87.1 | 77.6 | 78.7 | 1.1 | △ 8.4 | × | ○ |
| | | 材料費比率 | % | 24.3 | 21.6 | 21.3 | △ 0.3 | △ 3.0 | ○ | ○ |
| | | (うち薬品費比率) | % | 14.2 | 12.6 | 12.3 | △ 0.4 | △ 1.9 | ○ | ○ |
| | | (うち診療材料費比率) | % | 9.3 | 8.3 | 8.3 | 0.0 | △ 1.0 | × | ○ |
| | 経費比率 | % | 22.8 | 19.6 | 19.8 | 0.2 | △ 3.0 | × | ○ | |
| 医業収支比率 | % | 72.1 | 75.4 | 74.7 | △ 0.6 | 2.6 | × | ○ | | |
| 経常収支比率 | % | 92.7 | 97.6 | 97.3 | △ 0.4 | 4.6 | × | ○ | | |

※紹介率=地域支援病院の紹介率

決算の推移

入院日数 日 365 365 366 365 365
 外来日数 日 244 244 243 243 244 (単位:床、%、人、千円)

| 区 分 | 平成 25 年度 | | | 平成 26 年度 | | | 平成 27 年度 | | | 平成 28 年度 | | | 平成 29 年度 | | | | | |
|-------------|------------|-----------|-------------|----------|-----------|-------------|----------|-----------|-------------|----------|-------------|-------------|-----------|-----------|-------------|--------|-----------|-------------|
| | 決 算 | 医業比 | 前年比 | 決 算 | 医業比 | 前年比 | 決 算 | 医業比 | 前年比 | 決 算 | 医業比 | 前年比 | 決 算 | 医業比 | 前年比 | 前年度差引 | | |
| 業 務 量 | 稼働病床数 | 床 | 266 | - | 100.0 | 266 | - | 100.0 | 266 | - | 100.0 | 267 | - | 100.4 | 269 | - | 100.7 | 3 |
| | 病床利用率 | % | 89.0 | - | 97.5 | 86.4 | - | 97.1 | 85.9 | - | 99.4 | 78.7 | - | 91.6 | 86.9 | - | 110.4 | 0.5 |
| | 平均在院日数 | 日 | 15.4 | - | 100.0 | 14.5 | - | 94.2 | 14.0 | - | 96.6 | 12.5 | - | 89.3 | 12.1 | - | 96.8 | △ 2.4 |
| | 延入院患者数 | 人 | 86,385 | - | 97.2 | 83,843 | - | 97.1 | 83,583 | - | 99.7 | 76,733 | - | 91.8 | 85,354 | - | 111.2 | 1,511 |
| | (1日当り) | 人 | 237 | - | 97.5 | 230 | - | 97.0 | 228 | - | 99.1 | 210 | - | 92.1 | 234 | - | 111.4 | 4 |
| | 新規入院患者数 | 人 | 5,271 | - | 97.2 | 5,406 | - | 102.6 | 5,546 | - | 102.6 | 5,681 | - | 102.4 | 6,478 | - | 114.0 | 1,072 |
| | 延外来患者数 | 人 | 87,254 | - | 100.9 | 85,527 | - | 98.0 | 86,135 | - | 100.7 | 84,099 | - | 97.6 | 93,614 | - | 111.3 | 8,087 |
| | (1日当り) | 人 | 358 | - | 101.1 | 351 | - | 98.0 | 354 | - | 100.9 | 346 | - | 97.7 | 384 | - | 111.0 | 33 |
| | 新規外来患者数 | 人 | 8,032 | - | 104.4 | 7,744 | - | 96.4 | 7,687 | - | 99.3 | 7,347 | - | 95.6 | 10,498 | - | 142.9 | 2,754 |
| 収 益 | 入院収益 | 千円 | 7,156,347 | 79.4 | 101.5 | 7,424,137 | 80.2 | 103.7 | 7,203,916 | 79.3 | 97.0 | 6,993,826 | 80.7 | 97.1 | 8,041,629 | 81.8 | 115.0 | 617,492 |
| | (1日1人) | 円 | 82,842 | - | 104.4 | 88,548 | - | 106.9 | 86,189 | - | 97.3 | 91,145 | - | 105.8 | 94,215 | - | 103.4 | 5,667 |
| | 外来収益 | 千円 | 1,725,720 | 19.1 | 102.0 | 1,720,897 | 18.6 | 99.7 | 1,782,031 | 19.6 | 103.6 | 1,545,024 | 17.8 | 86.7 | 1,658,986 | 16.9 | 107.4 | △ 61,911 |
| | (1日1人) | 円 | 19,778 | - | 101.1 | 20,121 | - | 101.7 | 20,689 | - | 102.8 | 18,371 | - | 88.8 | 17,722 | - | 96.5 | △ 2,399 |
| | その他医業収益 | 千円 | 134,832 | 1.5 | 120.7 | 107,974 | 1.2 | 80.1 | 101,946 | 1.1 | 94.4 | 124,591 | 1.4 | 122.2 | 127,804 | 1.3 | 102.6 | 19,830 |
| | * 医業収益計 * | 千円 | 9,016,899 | 100.0 | 101.9 | 9,253,008 | 100.0 | 102.6 | 9,087,893 | 100.0 | 98.2 | 8,663,441 | 100.0 | 95.3 | 9,828,419 | 100.0 | 113.4 | 575,411 |
| | 医業外収益 | 千円 | 155,866 | 1.7 | 102.8 | 429,262 | 4.6 | 275.4 | 382,166 | 4.2 | 89.0 | 405,326 | 4.7 | 106.1 | 903,261 | 9.2 | 222.8 | 473,999 |
| | 特別利益 | 千円 | 1,926 | 0.0 | 7,133.3 | 1,263 | 0.0 | 65.6 | 2,737 | 0.0 | 216.7 | 856 | 0.0 | 31.3 | 20,994 | 0.2 | 2,452.6 | 19,731 |
| | ** 収益合計 ** | 千円 | 9,174,691 | 101.7 | 101.9 | 9,683,533 | 104.7 | 105.5 | 9,472,796 | 104.2 | 97.8 | 9,069,623 | 104.7 | 95.7 | 10,752,674 | 109.4 | 118.6 | 1,069,141 |
| 費 用 | 給与費 | 千円 | 6,455,660 | 71.6 | 104.1 | 6,658,655 | 72.0 | 103.1 | 6,740,424 | 74.2 | 101.2 | 7,548,291 | 87.1 | 112.0 | 7,733,509 | 78.7 | 102.5 | 1,074,854 |
| | うち退職給与金 | 千円 | (193,264) | 2.1 | 70.4 | (186,486) | 2.0 | 96.5 | (165,319) | 1.8 | 88.6 | (200,489) | 2.3 | 121.3 | (346,383) | 3.5 | 172.8 | 159,897 |
| | うち退職給与引当金 | 千円 | (178,185) | 2.0 | 93.9 | (157,000) | 1.7 | 88.1 | (157,000) | 1.7 | 100.0 | (157,000) | 1.8 | 100.0 | (140,353) | 1.4 | 89.4 | △ 16,647 |
| | 材料費 | 千円 | 2,176,781 | 24.1 | 99.3 | 2,176,205 | 23.5 | 100.0 | 2,311,603 | 25.4 | 106.2 | 2,102,489 | 24.3 | 91.0 | 2,091,234 | 21.3 | 99.5 | △ 84,971 |
| | 経費 | 千円 | 1,465,310 | 16.3 | 103.4 | 1,505,218 | 16.3 | 102.7 | 1,493,342 | 16.4 | 99.2 | 1,971,681 | 22.8 | 132.0 | 1,944,053 | 19.8 | 98.6 | 438,835 |
| | 減価償却費 | 千円 | 517,497 | 5.7 | 107.0 | 590,150 | 6.4 | 114.0 | 437,252 | 4.8 | 74.1 | 242,978 | 2.8 | 55.6 | 1,330,259 | 13.5 | 547.5 | 740,109 |
| | 資産減耗費 | 千円 | 5,575 | 0.1 | 25.0 | 2,101 | 0.0 | 37.7 | 582 | 0.0 | 27.7 | 90,787 | 1.0 | 15,599.1 | 5,916 | 0.1 | 6.5 | 3,815 |
| | 研究研修費 | 千円 | 67,032 | 0.7 | 122.4 | 57,766 | 0.6 | 86.2 | 54,713 | 0.6 | 94.7 | 60,331 | 0.7 | 110.3 | 50,180 | 0.5 | 83.2 | △ 7,586 |
| | * 医業費用計 * | 千円 | 10,687,855 | 118.5 | 103.0 | 10,990,095 | 118.8 | 102.8 | 11,037,916 | 121.5 | 100.4 | 12,016,557 | 138.7 | 108.9 | 13,155,151 | 133.8 | 109.5 | 2,165,056 |
| | 医業外費用 | 千円 | 196,811 | 2.2 | 93.3 | 182,173 | 2.0 | 92.6 | 168,990 | 1.9 | 92.8 | 249,709 | 2.9 | 147.8 | 265,818 | 2.7 | 106.5 | 83,645 |
| | 特別損失 | 千円 | 27,670 | 0.3 | 105.8 | 26,161 | 0.3 | 94.5 | 10,764 | 0.1 | 41.1 | 2,783,070 | 32.1 | 25,855.4 | 30,881 | 0.3 | 1.1 | 4,720 |
| | ** 費用合計 ** | 千円 | 10,912,336 | 121.0 | 102.8 | 11,198,447 | 121.0 | 102.6 | 11,217,670 | 123.4 | 100.2 | 15,049,336 | 173.7 | 134.2 | 13,451,850 | 136.9 | 89.4 | 2,253,403 |
| | 差引損益 | 千円 | △ 1,737,645 | △ 19.3 | 91.9 | △ 1,514,914 | △ 16.4 | 112.8 | △ 1,744,874 | △ 19.2 | 84.8 | △ 5,979,713 | △ 69.0 | △ 142.7 | △ 2,699,176 | △ 27.5 | 45.1 | △ 1,184,262 |
| 一般会計繰入金 | 千円 | 1,810,684 | 20.1 | 104.6 | 1,781,957 | 19.3 | 98.4 | 1,830,581 | 20.1 | 102.7 | 2,295,934 | 26.5 | 125.4 | 2,321,662 | 23.6 | 101.1 | 539,705 | |
| 経常損益 | 千円 | 98,783 | 1.1 | 1.1 | 291,941 | 3.2 | △ 95.5 | 93,734 | 1.0 | 32.1 | △ 901,565 | △ 10.4 | △ 961.8 | △ 367,627 | △ 3.7 | 40.8 | △ 659,568 | |
| 当期純損益 | 千円 | 73,039 | 0.8 | 58.7 | 267,043 | 2.9 | △ 165.6 | 85,707 | 0.9 | 32.1 | △ 3,683,779 | △ 42.5 | △ 4,298.1 | △ 377,514 | △ 3.8 | 10.2 | △ 644,557 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---|-------|---|------|-------|---|-------|-------|---|------|------|---|------|------|---|-------|---|
| 経常収支比率 | % | 100.9 | - | 99.5 | 102.6 | - | 101.7 | 100.8 | - | 98.3 | 92.7 | - | 91.9 | 97.3 | - | 105.0 | - |
| 医業収支比率 | % | 84.4 | - | 98.9 | 84.2 | - | 99.8 | 82.3 | - | 97.8 | 72.1 | - | 87.6 | 74.7 | - | 103.6 | - |

III 診 療 統 計

1. 救急総合診療科（総診）

1. スタッフ

科長 田中亮二郎（腎臓内科と兼任）

上谷良行、宅見晃子、上村克徳、津田雅世、藤田杏子

フェロー

張慶哲、倉橋幸也

2. 活動内容

当院は小児専門病院であるため臓器別、疾患別に専門分野が細分化され、複数の臓器に問題を抱える患者さんであっても単一科で診ているケースもあった。しかし、患者さんから多様な医学的問題に関して多角的に診療をおこなって欲しいというニーズがあり、当科の総合診療部門はそのニーズに応えるために2017年4月から田中亮二郎が科長（腎臓内科と兼任）となり、上谷良行、宅見晃子、上村克徳、津田雅世、藤田杏子、張慶哲、倉橋幸也の計8名で新しく出発した。また小児救命救急センターの救急外来から入院となった患者さんの対応や検診・予防接種を含めた予防医学、在宅医療の推進も当科の大きな役目となっている。それぞれの医師のキャリアは異なるが、チームとして“こどもにとって最善の利益を目指し誠実かつ謙虚に診療し、地域医療への貢献と小児医療の進歩に邁進すること”を常に考え日々の診療を行っている。また専攻医教育の充実は、当科の大きな使命と考えている。木曜日以外の12:30からスタッフや専攻医がさまざまなテーマについて発表し、日々研鑽している。今年度、花房宏昭（1-3月）、永尾宏之（3-6月）、村田剛士（4-5月）、山内悠輔（4-6月）、西村明紘（4-6月）、土井圭（7-9月）、田中俊光（7-9月）、山田優里子（10-12月）、近藤亜耶（11-1月）がそれぞれ2-4ヶ月の研修を行った。また他県立病院から初期研修医の受け入れも行った（宮脇康輔 県立加古川病院 4-6月、藤原優香 県立淡路病院 7月）。この1年間の外来初診患者は、206名で、入院患者数は1142名であった。

2. 救急総合診療科（救急）

1. 診療活動

平成 14 年 10 月に救急医療室が開設されて当院における救急医療の歴史がスタートして以来、平成 19 年 10 月には小児救急医療センターが専用の集中治療室を持った独立した建物としてオープンし、さらに平成 28 年 5 月の新病院移転によって新たな救急医療センターが設置された。そしてこれまで 15 年間の三次救急医療の実績を踏まえて平成 29 年 4 月から全国で 12 番目、近畿圏では初めての小児救命救急センターに指定された。

新病院に移転してからは、救急外来を担当する部門、救急外来から入院する比較的軽症の患者を担当する入院部門、重症患者を担当する集中治療部門に分けて運用している。救急外来部門には新たに 2 名のスタッフを迎えて 6 名で担当している。小児救命救急センターの指定を契機に、次長に田中亮二郎部長を迎え、救急患者の受け入れをより積極的に行うために、救急車の依頼を断らないことを徹底し、2 次の患者や初期の患者も来院すれば受け入れることで対応し、平日の日勤帯も救急担当を配置することとした。

その結果、総受診者数は 7000 人、救急搬送件数は旧病院の 1.5 倍に増加し、神戸市の救急隊からの応需率はほぼ 100%となっている。

29 年 10 月より神戸市が開始した救急電話相談事業 # 7119 経由で当院を紹介されて受診する軽症の外傷も増加し、外科系各科からの指導を受けながらできるだけ救急医が縫合や骨折の固定なども実施するようになっている。

近隣の医療施設からの出迎え搬送の依頼にもできるだけ対応するようにしているが、ナースや医師が常に搬送に出ることができる体制を組めていない現状を何とか改善したい。

今後は病院が掲げている「断らない救急」を実現すべく、初期患者にも確実に対応するように体制を作る必要がある。

2. スタッフ

救急総合診療科（救急）：上谷良行、田中亮二郎、山口善道、楠元真由美、梶原伸介、林卓郎、松井鋭
フェロー：谷澤直子

専攻医：村田剛士（平成29年4月～5月）
西村明紘（平成29年4月～6月）
山内悠輔（平成29年4月～6月）
永尾宏之（平成29年4月～6月）
土井圭（平成29年7月～9月）
田中俊光（平成29年7月～9月）
菊池菜摘（平成29年10月～11月）
山田優里子（平成29年10月～12月）
近藤亜耶（平成29年11月～12月）

新病院では小児外科が救急対応のために当直体制を組んでおり、その他の外科系診療科は on call 体制を継続している。

3. 診療統計

○総合診療科患者数

総入院患者数（2017/1/1 ～ 2017/12/31） 1142名

【主要疾患の内訳】

| | |
|-----------------------------------|------|
| 上気道感染症（鼻咽頭炎・咽頭炎・扁桃炎・中耳炎など） | 43名 |
| クループ症候群 | 10名 |
| 下気道感染症（気管支炎・細気管支炎・肺炎など） | 213名 |
| 熱性けいれん | 69名 |
| てんかん | 31名 |
| 無菌性髄膜炎 | 4名 |
| 細菌性髄膜炎 | 2名 |
| アナフィラキシー | 10名 |
| 気管支喘息 | 32名 |
| 尿路感染症（急性巣状細菌性腎炎を含む） | 36名 |
| 関節炎・骨髄炎 | 14名 |
| 消化管感染症（ウイルス性・細菌性） | 52名 |
| 皮膚軟部組織感染症（膿痂疹・蜂窩織炎・筋炎など） | 15名 |
| 川崎病 | 27名 |
| IgA血管炎 | 4名 |
| 腸重積症（非観血的治療症例） | 20名 |
| 頭部外傷（脳震盪、頭蓋骨骨折、頭蓋内出血などで内科管理のみ） | 70名 |
| その他の外傷（熱傷、高エネルギー外傷、四肢骨折などで内科管理のみ） | 39名 |

○学会発表

演題名、発表者、学会名、日時

- ・急性左中足骨骨髄炎の8歳男児 救急総合診療科
山内悠輔、倉橋幸也、永尾宏之、西村明紘、張慶哲、藤田杏子、津田雅世、上村克徳、田中亮二郎
第272回 日本小児科学会兵庫県地方会
- ・体重減少と細菌尿を契機に発見された続発性偽性低アルドステロン症の一例 救急総合診療科
西村明紘、永尾宏之、張慶哲、倉橋幸也、藤田杏子、津田雅世、上村克徳、田中亮二郎
第272回 日本小児科学会兵庫県地方会
- ・小児専門病院PICUのない北陸において小児重症患者の診療体制をどのように充実させていくべきか
救急総合診療科 津田雅世
第23回北陸小児救急・集中治療研究会 金沢
- ・小児急性胃腸炎診療ガイドライン2017と経口補水療法
救急総合診療科 上村克徳
第31回日本小児救急医学会学術集会ランチョンセミナー 東京
- ・小児急性胃腸炎診療ガイドライン2017と経口補水療法
救急総合診療科 上村克徳
第三期（2017）日本コミュニティーファーマシー協会研修会 東京

○論文

なし

○講演

なし

○複数科合同 多職種カンファレンス

第1回総合診療科M&Mカンファレンス

救急総合診療科、集中治療科、リウマチ科、専攻医

2017/5/26 17:30 カンファレンス室3 参加数20

川崎病治療の標準化

第2回総合診療科M&Mカンファレンス

総合診療科、HCU看護師、専攻医

2017/6/20 17:30 カンファレンス室3 参加数30

虐待疑い事例の振り返り

第3回総合診療科M&Mカンファレンス

救急総合診療科、集中治療科、専攻医、家族支援室

2017/10/16 17:30 カンファレンス室3 参加数30

家庭内での重大な事故の入院例をどのように扱うか

第4回総合診療科M&Mカンファレンス

総合診療科、集中治療科、専攻医、HCU看護師

2017/10/31 17:30 カンファレンス室3 参加数30

バイタルサイン変化の早期認識と医療者間の情報共有

第5回総合診療科M&Mカンファレンス

総合診療科、専攻医、HCU看護師

2017/12/27 17:30 スキルラボ 参加数20

気管カニューレ予定外抜管、CPA事例

| 疾患名 | 人数（人） |
|-----------------------------------|-------|
| 上気道感染症（鼻咽喉炎・咽喉炎・扁桃炎・中耳炎など） | 43 |
| クループ症候群 | 10 |
| 下気道感染症（気管支炎・細気管支炎・肺炎など） | 213 |
| 熱性けいれん | 69 |
| てんかん | 31 |
| 無菌性髄膜炎 | 4 |
| 細菌性髄膜炎 | 2 |
| アナフィラキシー | 10 |
| 気管支喘息 | 32 |
| 尿路感染症（急性巣状細菌性腎炎を含む） | 36 |
| 関節炎・骨髄炎 | 14 |
| 消化管感染症（ウイルス性・細菌性） | 52 |
| 皮膚軟部組織感染症（膿痂疹・蜂窩織炎・筋炎など） | 15 |
| 川崎病 | 27 |
| IgA 血管炎 | 4 |
| 腸重積症（非観血的治療症例） | 20 |
| 頭部外傷（脳震盪、頭蓋骨骨折、頭蓋内出血などで内科管理のみ） | 70 |
| その他の外傷（熱傷、高エネルギー外傷、四肢骨折などで内科管理のみ） | 39 |
| その他 | 451 |
| 計 | 1142 |

小児救命救急センター 救急外来統計 2017年1月～12月

1. 救急患者数

| | | | H28 | H29 |
|------|----|----|------|------|
| 平日昼間 | 初診 | 帰宅 | 244 | 448 |
| | | 入院 | 143 | 224 |
| | 再診 | 帰宅 | 423 | 1155 |
| | | 入院 | 253 | 399 |
| 平日夜間 | 初診 | 帰宅 | 212 | 730 |
| | | 入院 | 105 | 191 |
| | 再診 | 帰宅 | 369 | 785 |
| | | 入院 | 145 | 249 |
| 休日 | 初診 | 帰宅 | 321 | 1109 |
| | | 入院 | 119 | 201 |
| | 再診 | 帰宅 | 516 | 1203 |
| | | 入院 | 179 | 308 |
| 合計 | | | 3029 | 7327 |

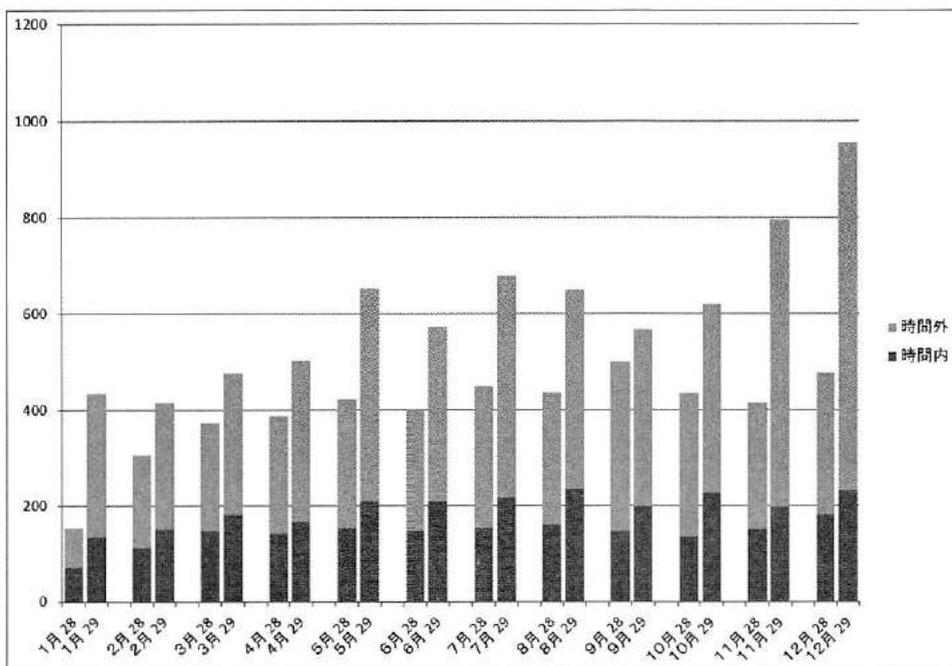
3. 住所地別患者数

| | 入院 | | 帰宅 | | 総計 | |
|-----|-----|------|------|------|------|------|
| | H28 | H29 | H28 | H29 | H28 | H29 |
| 兵庫県 | 892 | 1492 | 1971 | 5186 | 5186 | 6678 |
| 神戸 | 584 | 1022 | 1516 | 4236 | 2100 | 5258 |
| 阪神南 | 44 | 64 | 91 | 242 | 135 | 306 |
| 阪神北 | 36 | 62 | 53 | 117 | 89 | 179 |
| 東播磨 | 114 | 143 | 175 | 302 | 289 | 445 |
| 北播磨 | 47 | 85 | 58 | 129 | 105 | 214 |
| 中播磨 | 15 | 25 | 28 | 55 | 43 | 80 |
| 西播磨 | 11 | 13 | 14 | 31 | 25 | 44 |
| 但馬 | 8 | 10 | 4 | 12 | 12 | 22 |
| 丹波 | 13 | 24 | 18 | 29 | 31 | 53 |
| 淡路 | 20 | 44 | 14 | 33 | 34 | 77 |
| 県外 | 52 | 80 | 114 | 244 | 166 | 324 |
| 合計 | 944 | 1572 | 2085 | 5430 | 3029 | 7002 |

2. 救急車、ヘリコプター搬送

| | H28 | H29 |
|-------|-----|------|
| 当院救急車 | 8 | 42 |
| 公的救急車 | 890 | 1561 |
| 他救急車 | 22 | 47 |
| ヘリ | 35 | 37 |

4. 救命救急センター総受診数の推移



3. 代謝・内分泌内科

1. スタッフ

| | |
|--------|--------|
| 部長（科長） | 郷司 克己 |
| 部長 | 尾崎 佳代 |
| フェロー | 奥野 美佐子 |

本年はスタッフ2名、フェロー1名の3名体制で診療をおこなった。また、専攻医7名が1ヶ月間のサイクルで研修を行った。

2. 診療活動

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。本年度の新規外来患者数は323名であり、例年より多くの患者様を当科にご紹介頂いた。施設としては日本内分泌学会の認定教育施設に認定され、内分泌専門医を目指す小児科医の研修支援を行っている。

当科においては遺伝工学的手法を駆使して診療にあたるのが社会的要請に合致することと考え分子生物学的技術を用いた解析に努めている。本年度は、学校検尿で尿糖陽性を指摘され当科に紹介となった症例に対し、GCK、HNF1A、INS 遺伝子等の解析を行い4症例においてGCK遺伝子異常を見だし、この結果をもとにして、適切な生活指導を行うことができた。これは、まさに個別化医療 (Precision Medicine) というべきものであり、今後も神戸大学小児科とも協力しながら、分子生物学的手法を用いた解析、研究を臨床の場に役立てたいと考えている。また、当科は患者様の治療法の改善、生活の質の向上を目的とした臨床治験にも積極的に参加している。本年度は1型糖尿病の治療において欠かせない超速攻型インスリンの新薬の治験に参加をした。

外来患者（新患）

| | 患者数 |
|-----------|-----|
| 低身長症 | 89 |
| 甲状腺疾患 | 27 |
| 性腺疾患 | 78 |
| 副腎 | 0 |
| 糖代謝異常 | 28 |
| 肥満 | 13 |
| マススクリーニング | |
| クレチン症 | 15 |
| 先天代謝異常症 | 12 |
| 先天性副腎過形成 | 6 |
| その他 | 55 |
| 計 | 323 |

入院患者

| | 患者数 |
|-------|-----|
| 低身長症 | 24 |
| 糖代謝異常 | 18 |
| 性腺疾患 | 0 |
| 甲状腺疾患 | 6 |
| 副腎疾患 | 4 |
| その他 | 13 |
| 計 | 65 |

4. リウマチ科

1. 人事異動

【スタッフ】

| | |
|----|-------|
| 科長 | 中岸 保夫 |
| 医長 | 笠井 和子 |

【フェロー】

| | |
|------|-------|
| 3月まで | 菱谷 好洋 |
|------|-------|

2. 診療活動

16歳未満で発症した小児の膠原病・リウマチ性疾患を対象に主に外来で診療している。具体的には、昔は若年性関節リウマチ（JRA）と呼ばれていた若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス（SLE）、若年性皮膚筋炎（JDM）、全身性強皮症、シェーグレン症候群、他にはクリオピリン関連周期熱症候群（CAPS）、家族性地中海熱などの自己炎症性疾患、川崎病や高安動脈炎を含めた血管炎症候群などが対象になる。入院管理は総合診療科と協力して診療にあたっている。

こどもの膠原病・リウマチ性疾患に対しては、標準的な医療のみならず、重症度に応じて適切な免疫抑制薬や生物学的製剤を用いて積極的な治療を行っている。

3. 特色

外来診療にあたっては、小児施設には数少ない日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師（リウマチケア看護師）が在籍している。患児の気持ちを理解し、患児自身が理解・納得できるようにサポートしている。

4. 診療実績

外来初診 208名（うち初診）

主な疾患

| | |
|----------------|----------|
| 関節型若年性特発性関節炎 | 55名（4名） |
| 全身型若年性特発性関節炎 | 24名（4名） |
| 上記以外の若年性特発性関節炎 | 2名 |
| 全身性エリテマトーデス | 7名（2名） |
| 若年性皮膚筋炎・多発筋炎 | 6名 |
| 全身性強皮症・限局性強皮症 | 5名（1名） |
| シェーグレン症候群 | 3名 |
| 高安動脈炎 | 3名 |
| （冠動脈病変のない）川崎病 | 38名（28名） |
| クリオピリン関連周期性発熱 | 2名（2名） |
| 家族性地中海熱 | 2名（1名） |
| 他の自己炎症性疾患 | 4名（1名） |

他の初診患者

| | |
|--------------|-----|
| 関節痛・関節炎 | 28名 |
| 不明熱 | 10名 |
| くりかえす口内炎 | 3名 |
| ブドウ膜炎の基礎疾患精査 | 4名 |
| 抗核抗体陽性の精査 | 4名 |

入院患者 20名（総合診療科が入院管理した症例は除く）

| | | |
|----|-------------------------------------|----|
| 内訳 | 全身型若年性特発性関節炎 （初発時および生物学的製剤導入のため） | 3名 |
| | 関節型若年性特発性関節炎 （初発時および生物学的製剤導入のため） | 6名 |
| | 全身性エリテマトーデス （初発時および定期治療のため） | 4名 |
| | 川崎病 | 4名 |
| | 他 | 3名 |

5. アレルギー科

1. 人事異動

長年にわたり多大な貢献のあった三好麻里医師が6月に退職となった。

【スタッフ】

| | |
|----|--|
| 科長 | 中岸 保夫 日本リウマチ学会専門医 |
| 医長 | 笠井 和子 日本アレルギー学会専門医・指導医 日本リウマチ学会専門医 |

2. 診療活動

前年から引き続き、主に笠井が診療を担当した。基礎疾患に合併したアレルギー疾患や重症例にも対応しているが、地域の医療機関からのご紹介や当院救急外来受診後のフォローなど、基礎疾患を有しない軽症例にも対応している。外来は月曜日・木曜日の午後・火曜日の午前を基本外来としている。食物負荷試験は外来・入院両方で行っている。アレルギー疾患の総合的なコントロールを心がけており、スギ・ダニへの皮下・舌下免疫療法患者が増加している。アレルギー専門看護師（小児アレルギーエデュケーター）を中心にしたコメディカルが食物アレルギーでのエピペン指導や喘息の吸入指導、アトピー性皮膚炎の皮膚ケア、舌下免疫療法の指導などを行い、より患者に寄り添った医療を行うよう努めている。

当科は日本アレルギー学会で認定された教育病院であり、若手医師への教育を行っている。

3. 診療実績

(1月～12月)

| | | |
|----------|-------|------------------|
| ●食物負荷試験 | 135件 | (外来 32件・入院 103件) |
| ●外来患者 | 1208名 | |
| ●新規患者 | 141名 | |
| 内訳(重複あり) | | |
| 食物アレルギー | 77名 | |
| アトピー性皮膚炎 | 60名 | |
| 気管支喘息 | 43名 | |
| アレルギー性鼻炎 | 28名 | |
| 薬剤アレルギー | 7名 | |
| 慢性蕁麻疹 | 5名 | |
| その他 | 2名 | |

6. 脳神経内科

1. スタッフ

| | |
|--------|-----------------|
| 部長（科長） | 丸山 あずさ |
| 医長 | 豊嶋 大作 |
| フェロー | 石田 悠介 |
| | 山口 宏（2017年4月から） |
| | 田中 司（2017年3月まで） |

本年は田中が3月で退職し神戸大学病院に、山口が連携大学院フェローとなった。昨年と同様、スタッフ2名と合わせ4人体制で診療を担当した。また児玉荘一先生と永瀬裕朗先生に月2回ずつ診療応援や専攻医教育、臨床研究のアドバイスなどをお願いしている。

2. 活動状況

2017年診療活動は、神経内科外来初診418名、外来延べ人数3622名であった。また入院患者数は184名であった。初診患者数が昨年290名に比較して増加したのは、救急外来患者の受け入れ増加に伴い、けいれん性疾患の院内紹介が増加した影響と考えられる。けいれん重積や意識障害が遷延する状態については、休日夜間を問わずオンコール体制でコンサルトを受けており、また当科で重点的に取り組んでいる救急集中治療領域における連続脳波モニタリングは190例に行なった。新病院に移転後には、PICUのみならず救急外来初療室でも速やかに脳波モニタリングが出来る体制が整ったため、年々件数は増加傾向にあると考えられる。引き続き神経救急疾患の急性期管理の質の向上に尽力していきたい。

てんかん診療については、研究会で地域連携をテーマに講演を行い、地域の小児神経科のみならず成人科の神経内科、脳神経外科の先生との交流を深めた。今後も、成人を迎える患者の移行医療が円滑に行えるように取り組んでいる予定である。平成27年度からの厚生労働省の事業である「てんかん地域診療連携体制の整備事業」に於いて、当院の社会的役割は大きいと考える。

当院は小児神経専門医研修施設、日本てんかん学会研修施設に認定されており、小児神経専門医を目指す小児科医の育成にも引き続き取り組んでいきたい。

学術活動については、引き続き急性脳症に対する臨床研究を神戸大学と連携して行っており、こども病院のデータを神戸大学で解析し、学会報告やpublicationの準備をしている。

神経内科初診患者数 418 名
 (疾患名には疑いも含む、一部重複あり)

発作性疾患 256

| | |
|------------|-----|
| てんかん | 110 |
| 初回非誘発性発作 | 36 |
| ウェスト症候群 | 4 |
| 熱性けいれん | 89 |
| 失神 | 18 |
| 心因性非てんかん発作 | 5 |
| 不随意運動 | 10 |

神経系感染症 28

| | |
|---------|----|
| 急性脳症・脳炎 | 25 |
|---------|----|

自己免疫性神経疾患 11

| | |
|------------|---|
| 多発性硬化症・CIS | 1 |
| 急性散在性脳脊髄炎 | 1 |
| 急性小脳失調 | 5 |

発達障害 42

| | |
|---------|----|
| 精神遅滞 | 32 |
| 広汎性発達障害 | 5 |

心身症 等 41

| | |
|---------|----|
| チック | 9 |
| 頭痛 | 21 |
| 身体表現性障害 | 9 |

| | |
|---------|----|
| 神経発生異常 | 4 |
| 先天異常症候群 | 11 |
| 神経変性疾患 | 3 |
| 神経皮膚症候群 | 4 |

7. 血液・腫瘍内科

【人事】

2016年3月末に川崎圭一郎部長が転出し、神戸大学より山本暢之医師が正規採用となった。これに伴い、4月より科長が長谷川大一郎部長に交代した。

フェロー人事については、2016年3月末に二野菜々子医師（神戸大学医学部附属病院）、植村優医師（神戸大学大学院医学系研究科）、横井健人医師（大阪大学医学部附属病院）が転出し、4月に大阪市立総合医療センターより中村さやか医師、大阪大学医学部附属病院より藤原隆弘医師が新たにフェローとして採用となった。神前愛子医師が産休から時短勤務の形で復帰したため総数としては現状維持であるが、フェローは4名から3名への1名減となった。短期ローテーターは割愛する。

| | |
|-----------------|--------|
| 部長（小児がん医療センター長） | 小阪嘉之 |
| 部長（科長） | 長谷川大一郎 |
| 医長 | 石田敏章 |
| 医長 | 岸本健治 |
| 医長 | 神前愛子 |
| 医長 | 斎藤敦郎 |
| 医長 | 田村彰広 |
| 医長 | 山本暢之 |
| フェロー | 太原鉄平 |
| フェロー | 中村さやか |
| フェロー | 藤原隆弘 |

【診療活動】

新患者数と造血細胞移植数に関してはそれぞれ表1、表2を参照されたい。新病院移転後、診療数・移植数ともに堅調に推移している。2017年の新患者数は過去最多であり、平均稼働病床も40床と高水準を推移した。腫瘍性疾患に関しては全国屈指の症例数であり、移植数も小児科単科の施設のものとしては多い。2017年12月に隣接して神戸陽子線センターが稼働開始したことに伴って、陽子線治療目的の紹介患者或いはコンサルテーション例が、2015年4例、2016年7例、2017年13例と増加している。主には小児陽子線の空白地域（中四国、九州）からの紹介であるが、治療海外（中華人民共和国）からのコンサルテーション症例も含まれており、2018年3月の神戸陽子線センターにおける陽子線治療の保険診療開始に向けて今後も患者増加が見込まれる。また、新病院における無菌室増床（4床）に伴い、HLA半合致移植など難治例に対する難易度の高い造血幹細胞移植症例も増加している。田村彰広医長／山本暢之医長を中心に、造血幹細胞移植症例における網羅的ウイルス解析の導入に取り組んでおり、難治例に対する造血幹細胞移植の基盤整備も進みつつある。その他、難治性脳腫瘍に対するがんペプチド療法、小児急性リンパ性白血病の再発患者に対するボルテゾミブを含む多剤併用化学療法第II相試験等の日本小児がん研究グループ（JCCG）施設限定臨床試験に取り組むことにより、再発難治例に対してより多くの治療選択肢を提供できるよう努めている。

月1回（第1月曜日午後）の長期フォローアップ外来（CCS）は神前愛子医師が、代謝・内分泌科や循環器内科他の協力を得て行っている。毎週金曜日の午前には造血細胞移植後外来を開設し、山本暢之医師が移植症例の亜急性期から慢性期の診療にあたっている。CCS外来、造血細胞移植外来ともに医師・コメディ

カルを含めて病棟・外来の連携が重要であるので、CCSカンファレンス（第3木曜日午後）、造血幹細胞移植カンファレンス（第3月曜日夕）を定例開催し、緊密な連携に努めている。

入院患者に占める15歳から20歳前後の思春期・若年成人（Adolescent and Young Adult, AYA）の占める割合が増えている。急性白血病だけでなく若年発症の肉腫患者に対して積極的且つ集学的な治療に取り組んでいる。AYA世代の入院患者の生活の質（QOL）の改善を図るために教育環境の整備に取り組んでいる。石田敏章医長を中心に療養環境の改善に取り組み、長期療養中の高校生患者に対するインターネット通信を利用したオンデマンド型補助授業を開始した。一方、この世代のがん化学療法後の晩期障害低減のため、兵庫県がん生殖医療ネットワークと連携して、女性患者に対する妊孕性温存のための卵巣組織凍結保存に対する取り組みを開始し、2017年12月までに5例の卵巣組織保存を行った。がん患者に対する晩期障害低減、生活の質向上のため今後も努力を続けていく。

【研究・学術活動】

臨床業務と並行して、JCCGの委員会活動・研究活動等に従事した。小阪センター長がJCCG運営委員、長谷川大一郎部長がJCCG-AML委員会／ユーズング肉腫委員会／JACLS-ALL委員会、石田敏章医長がJCCG神経芽腫委員会に所属し、臨床試験の計画・実施に携わっている。JCCG等の臨床試験の成果が発表されたほか、神戸大学小児科学教室と連携し、基礎研究や疫学研究等に取り組んでおり、第59回日本小児血液・がん学会総会（松山）では齋藤敦郎医長が造血幹細胞移植に関する研究成果をシンポジストとして講演した。また、岸本健治医長、田村彰広医長が中心となって精力的に研究成果を英文誌等に発表した。これらの業績が認められ、岸本健治医長が第59回日本感染症学会中日本地方会学術奨励賞を受賞した。昨年度、田村彰広医長が白血病研究基金若手一般研究賞を受賞したもの続く榮譽であり、今後益々の活躍が期待される。

2017年1月～12月 新患

| | | | |
|---------------|-------------------|--------------|---|
| 血液腫瘍性疾患 | 急性リンパ性白血病 | | |
| | B細胞性 ALL | 15 | |
| | Ph陽性 ALL | 2 | |
| | T細胞性 ALL | 3 | |
| | 成熟B細胞性 ALL | 1 | |
| | 急性骨髄性白血病 | | |
| | (M2) | 1 | |
| | (M5) | 1 | |
| | (M7) | 1 | |
| | 悪性リンパ腫 | | |
| | T-LBL | 2 | |
| | DLBCL | 1 | |
| | Burkitt | 1 | |
| | Hodgkin | 1 | |
| | その他のリンパ腫 (PTCL) | 1 | |
| | 骨髄異型性症候群 | | |
| | RCC | 1 | |
| | RCMD | 1 | |
| | MDS 疑い | 1 | |
| | JMML | 1 | |
| | Down 症 TAM | 1 | |
| ランゲルハンス細胞組織球症 | 5 | | |
| 血球貪食性リンパ増殖性疾患 | 5 | | |
| | 45 | | |
| 固形腫瘍性疾患 | 髄芽腫 | 3 | |
| | AT/RT | 3 | |
| | 頭蓋内胚細胞腫瘍 | 6 | |
| | 神経膠芽腫 | 1 | |
| | 脈絡叢乳頭腫 | 2 | |
| | 脳幹神経膠腫 | 2 | |
| | Low grade glioma | 2 | |
| | 退形成性上衣腫 | 1 | |
| | 脊髄腫瘍 | 1 | |
| | 視神経膠腫 | 1 | |
| | 神経芽腫 | 5 | |
| | Rbl | 8 | |
| | 肝芽腫 | 3 | |
| | 腎腫瘍 | | |
| | wilms 腫瘍 | 1 | |
| | 先天性間葉芽腎腫 | 1 | |
| | ユーイング肉腫 | 1 | |
| | 骨肉腫 | 2 | |
| | 未分化肉腫 | 3 | |
| | 頭蓋外胚細胞腫瘍 | | |
| | immature teratoma | 3 | |
| | mature teratoma | 2 | |
| | yolk sac tumor | 2 | |
| | 神経線維腫症 1 型 | 1 | |
| | 悪性末梢神経鞘腫瘍 (MPNST) | 1 | |
| | 若年性黄色肉芽腫 | 1 | |
| | 血管腫 | 3 | |
| | | 59 | |
| | 固形その他 | 21 | |
| | 血液疾患 | 特発性血小板減少性紫斑病 | 8 |
| | | 血友病 A | 6 |
| | | 自己免疫性好中球減少症 | 5 |
| | | 好中球減少症 | 1 |
| SNL | | 5 | |
| 補体欠損症 | | 1 | |
| 遺伝性球状赤血球症 | | 4 | |
| 血液その他 | | 39 | |
| 血縁ドナー | | 3 | |
| | | 72 | |
| セカンドオピニオン | | 6 | |
| 新患合計 | | 203 | |

造血細胞移植一覧

| 番号 | 疾患 | 年齢 | 性別 | 病期 | 移植種別 | 転帰 |
|----|------------|----|----|------|--------------|-------|
| 1 | 急性リンパ性白血病 | 11 | F | 第1寛解 | 非血縁者間骨髄移植 | 無病生存 |
| 2 | 神経芽腫 | 3 | F | 部分寛解 | 非血縁者間臍帯血移植 | 腫瘍死 |
| 3 | 急性混合性白血病 | 17 | M | 第1寛解 | 非血縁者間骨髄移植 | 無病生存 |
| 4 | 急性骨髄性白血病 | 16 | M | 非寛解 | 血縁者間末梢血幹細胞移植 | 無病生存 |
| 5 | 神経芽腫 | 3 | M | 部分寛解 | 非血縁者間臍帯血移植 | 腫瘍死 |
| 6 | 神経芽腫 | 8 | F | 部分寛解 | 非血縁者間臍帯血移植 | 無病生存 |
| 7 | 急性骨髄性白血病 | 14 | F | 第2寛解 | 非血縁者間骨髄移植 | 無病生存 |
| 8 | 神経芽腫 | 3 | M | 部分寛解 | 非血縁者間臍帯血移植 | 腫瘍死 |
| 9 | リンパ芽球性リンパ腫 | 5 | M | 非寛解 | 非血縁者間骨髄移植 | 腫瘍死 |
| 10 | ユーイング肉腫 | 5 | M | 部分寛解 | 自家末梢血幹細胞移植 | 担癌生存 |
| 11 | 悪性胚細胞腫瘍 | 11 | F | 部分寛解 | 自家末梢血幹細胞移植 | 担癌生存 |
| 12 | 急性骨髄性白血病 | 1 | F | 非寛解 | 非血縁者間臍帯血移植 | 担癌生存 |
| 13 | 骨髄異形成症候群 | 13 | F | - | 非血縁者間骨髄移植 | 無病生存 |
| 14 | 悪性胚細胞腫瘍 | 14 | F | 第2寛解 | 自家末梢血幹細胞移植 | 担癌生存 |
| 15 | 急性リンパ性白血病 | 15 | F | 非寛解 | 血縁者間末梢血幹細胞移植 | 移植関連死 |
| 16 | 神経芽腫 | 3 | M | 部分寛解 | 自家末梢血幹細胞移植 | 無病生存 |
| 17 | ユーイング肉腫 | 5 | M | 部分寛解 | 自家末梢血幹細胞移植 | 担癌生存 |

8. 循環器内科

【スタッフ・フェロー】

| | | | |
|------|-------------------|------|-------|
| スタッフ | 城戸佐知子 | フェロー | 谷口 由記 |
| | 田中 敏克 | | 上村 和也 |
| | 藤田 秀樹 (2017年3月まで) | | 瓦野 昌大 |
| | 富永 健太 | | |
| | 小川 禎治 | | |
| | 亀井 直哉 | | |
| | 松岡 道生 | | |
| | 三木 康暢 (2017年4月から) | | |

非常勤 佐藤 有美

スタッフ7名、フェロー3名、他に専攻医数名。専攻医は2か月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができることを主たる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられること、小児循環器学会専門医を取得すること、などが目標である。

【診療活動】

- (1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、基本2診体制で対応している。新規患者は毎日受け入れており、総新規患者数は797名で昨年に比べ大幅な増加であった。2診体制が定着した結果と考えられる。新患患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損(109)、心房中隔欠損(74)、肺動脈狭窄(33)、動脈管開存(25)、川崎病(既往含む)(12)、ファロー四徴症(6)、不整脈(69)、意識消失(46)、自律神経調節障害(38)などであった。カテーテル治療相談外来(木曜午前、担当：田中医師)や移行期外来(月曜午前、担当：城戸)、成人先天性心疾患外来(月曜午後、担当：城戸)、OD・不整脈外来(火曜午後、担当：小川)、今年度から当科に移行したペースメーカー外来(木曜午後、担当：小川・松岡)など専門外来も紹介患者が増加傾向である。成人に達した患者については、地域との医療連携の必要性を考慮に入れ、兵庫県立姫路循環器病センターなどでの診療応援(外来応援)を続ける一方、2013年1月からは神戸大学附属病院循環器内科において成人先天性心疾患部門を立ち上げ、協力体制を強化している。また胎児心疾患診断についても、産科外来において胎児心エコーを行っているほか、他院にて診療の応援を行い、医療連携にも重点を置いて取り組んでいる。
- (2) 入院：1年間の総入院患者数は473名で、昨年と比べ大幅な増加傾向であった。6西病棟だけでは収容しきれず、7東病棟やHCU病棟にも入院を受け入れていただいた。また、心疾患の他に他疾患を合併する症例も多く、CICU、ICU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、昨年に引き続き病棟運営上の問題となっている。
- (3) 生理検査：総心電図件数6294件、Master 負荷心電図件数1330件、Holter心電図件数514件、トレッドミル負荷心電図は314件と昨年までと比べ大幅に増加した。心エコーは7715件と昨年より大幅な

増加であった。胎児心エコーは228件（担当：佐藤医師、亀井医師 主として木曜日）で、やや増加した。また、新たに心肺機能検査（CPX）を導入し、2件施行した。人手と時間を要する検査ではあるが、今後件数を増やしていく予定である。ヘッドアップチルト検査は79件で増加傾向であった。

- (4) 心臓カテーテル検査・治療：総件数318件、カテーテル治療の件数は131件と、昨年と比べ約30%の増加であった。麻酔科医増員に伴うカテーテル検査枠の拡大による効果と思われる。現在検査の待機期間が約2か月となっており、今後、待機期間を短縮するために、木曜日に脳外科がアンジオ室を使用しない時の有効利用を検討中である。

【その他の活動】

- (1) カンファレンス：月曜日に心臓外科との合同カンファレンス、木曜日にカテーテル検査および心エコー検討会、木曜日朝に心臓外科と合同の抄読会・検討会を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加：小児循環器病学会、JPIC学会、胎児心臓病学会、成人先天性心疾患学会、HOT研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。

【新規患者内訳】

入院患者総数 473

| | | | |
|--------------------------------------|-----|-----------------------------|-----|
| 全入院患者の疾患内訳 (カテーテル検査入院含む同一患者の重複あり) | 473 | 感染性心内膜炎 | 0 |
| フォンタン型手術関連疾患 (いわゆる単心室型心臓) | 135 | 不整脈 | 11 |
| ファロー四徴症 | 36 | エプスタイン奇形 | 1 |
| 肺動脈閉鎖・心室中隔欠損 | 38 | 総動脈幹症 | 2 |
| 心室中隔欠損 | 17 | 僧帽弁閉鎖不全 | 6 |
| 心房中隔欠損 | 32 | 肺動脈弁欠損 | 6 |
| 動脈管開存 | 11 | 肺高血圧 | 0 |
| 両大血管右室起始 | 19 | 大動脈・肺動脈窓 | 1 |
| 大動脈弓離断・大動脈縮窄 | 16 | 修正大血管転位 | 8 |
| 房室中隔欠損 | 13 | その他 | 13 |
| 大血管転位 | 22 | カテーテル治療（カテーテル総数件318） | 131 |
| 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖 | 18 | 弁形成（大動脈弁・肺動脈弁） | 10 |
| 肺動脈狭窄 | 10 | 血管形成 | 54 |
| 心膜・心筋疾患 | 3 | ステント留置術 | 4 |
| 大動脈弁疾患（狭窄・逆流） | 18 | コイル塞栓術（動脈管開存） | 4 |
| 川崎病・冠動脈後遺症 | 15 | コイル塞栓術（側副血管・動静脈瘻） | 25 |
| 総肺静脈環流異常 | 27 | バルーン心房中隔裂開術 | 10 |
| 両大血管右室起始・房室中隔欠損 | 0 | 心房中隔欠損閉鎖術（Amplatzer, FF-II） | 15 |
| | | 動脈管開存閉鎖術（Amplatzer） | 4 |
| | | その他 | 5 |

9. 腎臓内科

外来/入院診療については、白鳥孝俊医師（フェロー：3月まで）、稲熊洋祐医師（フェロー4月から）、中川拓医師、神田杏子医師（救急科兼務）と田中亮二郎医師が担当した。また専攻医の山田優里子医師（2月）、稲熊洋祐医師（3月）、近藤亜耶医師（5月）、宍戸亜由美医師（6月）、大野茜子医師（8月）、大西理史医師（9月）、永尾宏之医師（10月）、花房宏昭医師（11月）、村田剛士医師（12月）が当科で研修した。また2017年度の外来初診患者数は232名、入院患者数は133名であった。

【活動状況】

ネフローゼ症候群、急性腎炎、IgA腎症、紫斑病性腎炎、遺伝性腎炎、その他慢性腎炎、全身性エリテマトーデス、溶血性尿毒症症候群などの急性腎不全、慢性腎不全、高血圧、尿路感染症、先天性尿路奇形、腎臓移植後のフォロー、夜尿症等を対象としている。本年度はネフローゼ症候群や腎炎などに対して27例の腎生検を施行した。急性腎不全の患児に対しては集中治療科と協力して診療にあたった。現在3名の慢性腎不全患児が外来維持腹膜透析を受けている。腎移植に関しては他院にお願いし、現在計8名の患者さんが当科外来にてフォロー中である。今後急性腎不全に対する血液浄化や慢性腎不全に対する在宅腹膜透析を積極的に推し進めたいと考えている。これまで数多くの多施設による臨床研究に参加してきた。2008年より医師主導治験として実施された「小児期発症の難治性ネフローゼ症候群に対する IDEC-C2B8 の多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験」では、治験結果に基づき2014年8月にリツキシマブが難治性頻回再発型/ステロイド依存性ネフローゼ症候群に対して保険適用薬として承認された（Lancet 384 1273-1281, 2014）。現在は、先進医療Bとして「小児難治性頻回再発型/ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験」と「小児難治性頻回再発型/ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの薬物動態試験」の臨床研究に発展している。本年度「初発寛解後早期に再発する小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群を対象とした標準治療と標準治療+高用量ミゾリピン併用治療の多施設共同オープンランダム化比較試験」と「頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたタクロリムス治療とシクロスポリン治療の多施設共同非盲検ランダム化比較試験」の登録が終了した。今後の結果が期待される。さらに2013年より神戸市と協力して、「3歳児検尿の効果的方法と腎尿路奇形の早期発見に関する研究」を行ってきた。先天性腎尿路奇形は小児期腎不全の60%を占める重要な疾患である。3歳児検尿の役割について今後解析していく予定である。また2017年度から小児治験ネットワークを通じて「6歳以上16歳未満の小児高血圧患者を対象とした TAK-536（アジルサルタン）の第III相長期投与試験」を開始した。このように当科では臨床研究・治験と疫学的研究を通して新しいエビデンス構築に向けて貢献している。院内活動としては、週1回英文抄読会を行い、最新の情報の収集に努めている。さらに2006年より日本腎臓学会の研修教育施設にも指定されている。臨床研究のできる小児腎臓医を育てることを目標にしている。

2017 年入院患者内訳

| 疾患名 | 人数（人） |
|-------------|-------|
| ネフローゼ症候群 | 57 |
| IgA 腎症 | 10 |
| 膜性増殖性糸球体腎炎 | 2 |
| 膜性腎症 | 1 |
| 微小変化 | 2 |
| 紫斑病性腎炎 | 4 |
| 全身性エリテマトーデス | 6 |
| 慢性腎障害（腹膜透析） | 10 |
| 慢性腎障害 | 10 |
| 急性糸球体腎炎 | 2 |
| 急性腎障害 | 2 |
| 溶血性尿毒症症候群 | 1 |
| 尿路感染症 | 17 |
| 腎移植後 | 4 |
| 高血圧 | 4 |
| Lowe 症候群 | 1 |
| 計 | 133 |

10. 感染症科

・陣容

2017年は2016年と変わらず、科長笠井正志、フェロー伊藤雄介の2名体制であった。

主な業務

1. 感染症診療、2. チーム医療（ICT、ASTなど）、3. 教育、3つの柱である。

1. 感染症診療

24時間365日体制で各科からコンサルテーションを受ける診療スタイルで、世界標準の感染症診療を実践している。院外からもコンサルテーションを受けている。

感染症外来では、不明熱、繰り返す発熱・感染症、先天感染症、渡航前後相談、ワクチン接種を行っている。入院担当ナースより発疹相談も受け付けている。

予防接種外来は患者さんの利便性のため、毎日接種を行っている。また市町村や診療所などより予防接種関連の相談を受けている。また患者さんからの予防接種相談は中島ICNと協力しながら、対応している。

小児感染症学会認定専門医指導施設として認定されており、奈良医大小児科と相互ラウンドを行っている。

2. 感染症のすべてに関わるチーム医療（KPIC）

Kobe Prevention and control of Infection for Children and family（KPIC；次項図）を病院組織図上には存在しないが、機能的組織として結成した。感染対策、感染症診療などでスタッフ・患者さん「迷子」にならないように活動し、各専門部署がそれぞれの分野で責任を持って「自走」できるように体制を構築した。それぞれの主な成果を次項表にまとめた（ICT分はICTを参照）。

3. 教育

教育体制の充実にも力を入れている。2～3年のフェロー（現在1名）。院内外から受け入れている1日から数か月短期研修のプログラムがある。

院内より後期研修医受け入れ6名、共同研究含む学会発表10回、論文13編

院外より研修受け入れ3名：派遣元（豊岡病院、六甲アイランド病院、姫路赤十字病院）

その他

競争的研究費獲得：小児における感染症対策に係る地域ネットワークの標準モデルを検証し全国に普及するための研究（厚生労働科学研究費；H29-新興行政・一般-2）に参画し、当院が中心となって未来のこども達に抗菌薬を残すために地域モデルとなるべく共同研究を行っている。

図 (KPIC 体制図)

KPIC ;

Kobe Prevention and control of Infection for Children and family

当院における感染のすべてに主に関わるチーム

KPIC team 2017

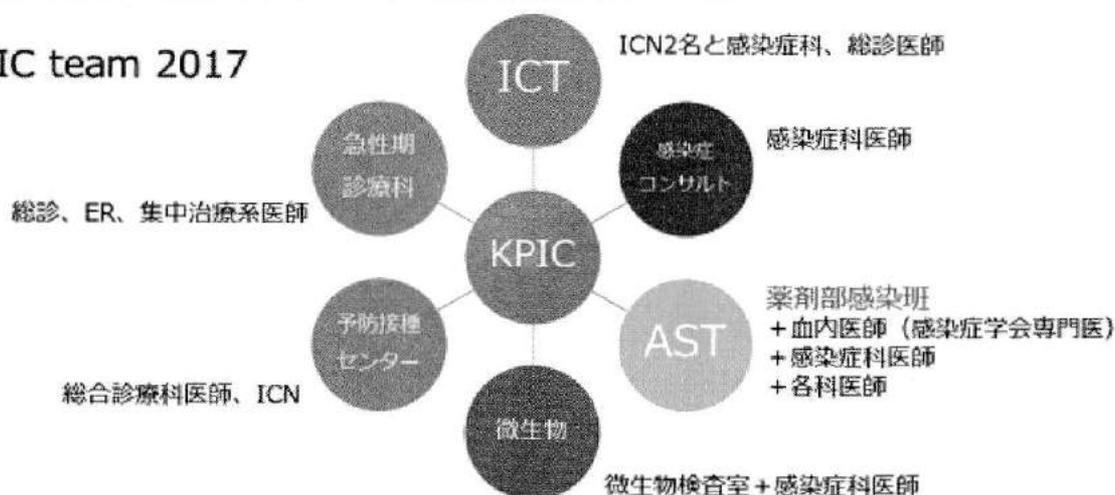


表 KPIC 成果

| | 成果指標 | |
|----------|----------------------|---------|
| 感染症科 | コンサルト数 | 518 件 |
| | 発疹相談数 | 136 件 |
| | 学術集会での招聘教育講演数 | 2 回 |
| | 論文 (査読あり) 数 | 10 編 |
| AST | カルバペネム DOT* | 6.8 |
| | 静注抗菌薬処方件数 | 17624 件 |
| | 第3世代処方件数 | 338 件 |
| 微生物検査 | 血液培養提出数 | 2929 件 |
| | 血液培養複数セット率 | 25% |
| | 最適量 (1 ~ 3ml) の血液培養率 | 64% |
| 予防接種センター | 相談数 | 36 件 |

11. 臨床遺伝科

臨床遺伝科は常勤医 1 名で森貞直哉（部長）が診療を担当している。

【診療活動】

臨床遺伝科は院内外からの紹介を受けた遺伝性疾患の患者（疑いを含む）の診療を行っている。外来日は火曜日と木曜日の終日であるが、そのほかにも入院中の患者や他科診療患者の突発的な依頼にも、可能な限り応じることとしている。

具体的な診療内容

- ・ 遺伝性疾患のトータル管理（ダウン症候群、神経線維腫症 1 型、Noonan 症候群など）
- ・ 原因不明患者の網羅的遺伝子解析（神戸大学小児科、未診断疾患イニシアチブ・IRUD との共同研究）
- ・ すでに臨床診断されている疾患の原因遺伝子解析（結節性硬化症、アペール症候群など）
- ・ 他施設で解析された事例の遺伝学的説明（染色体異常、心筋症家系など）

受診症例、具体的な解析数は別表のとおりである。

【遺伝子解析】

当院症例の遺伝子解析は、保険診療でできるものとできないもの両方を受諾している。保険診療で解析可能なものは G バンド法や FISH 解析であるが、対象疾患が増加しており、例えばこれまで研究の一環として行なわれていた Marfan 症候群は、保険診療としてかずさ DNA 研究所（千葉県）で解析を行ない、結果が返却された。

保険診療で対応できないものは主に神戸大学小児科との共同研究として行っている。直接シーケンスは Kniest 異形成（*COL2A1*）、Kabuki 症候群（*KMT2D*）、QT 延長症候群（*SCN5A*）、MPPH 症候群（*CCND2*）、神経線維腫症 2 型（*NF2*）、虹彩欠損症（*PAX6*）、Townes-Brocks 症候群（*SALL1*）、Tay-Sachs 病（*HEXA*）、Dravet 症候群（*SCN1A*）、Noonan 症候群（*SOS1*）、Crouzon 病（*FGFR2*）で施行した。網羅的解析は保険診療で行える G バンド法以外に、アレイ CGH、次世代シーケンサー（next generation sequencing、NGS）による解析を研究目的で行っている。本年はアレイ CGH で 1q21.1 重複、2q 欠失、4p 欠失、4q 欠失、12q13 欠失、20p 欠失、t(22;X) 不均衡転座、Sotos 症候群、Smith-Magenis 症候群などを同定した。NGS では Hartnup 病（*SLC6A19*）、NAA10 異常症、Noonan 症候群（*NRAS*）、Genitopatellar 症候群（*KAT6B*）、GRIN1 異常症、Opitz GBBB 症候群 1 型（*MID1*）、2 型（*SPECC1L*）、RETT 症候群（*MECP2*）が同定できた。外部研究機関にも当院の倫理委員会の承認を得た上で検体を送付している。名古屋市立大学、国立成育医療研究センター、神戸大学疫学などである。これら解析でも診断が同定できない場合は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が主導している未診断疾患イニシアチブ（IRUD）に検体を送付している。本年は 18 家系の検体を送付し、常染色体優性脊髄性筋萎縮症（*BICD2*）、Loeys-Dietz 症候群（*TGFBR2*）が同定された。

【学会、研究活動】

他施設との共同研究を含め活発に行なっている。詳細は別項参照

【院外講演】

第 22 回若葉小児科臨床研究会 神戸 2017.2.25

「小児医療における臨床遺伝学の役割」

Dysmorphology のタベ 大宮 2017.10.13

「Potter Sequence の原因となり得る遺伝性腎泌尿器疾患」

【今後の展望】

ゲノム医療の推進はすでに国家的戦略として行なわれており、来年度からはがんゲノム分野での臨床での実装が全国規模で開始される。当院は先天異常、家族性腫瘍など性腺系列の遺伝性疾患を主に取り扱っているが、今後はがんゲノムを含めたゲノム医療の幅広い分野を対象としたいと考えている。そのためには院内外の関係各科との連携を強化し、院外への情報発信、人材の育成にも取り組みたい。

| 血液・腫瘍 | |
|--|----|
| 家族性腫瘍 | 1 |
| 腎・泌尿器 | |
| CAKUT（先天性腎尿路異常） | 6 |
| 常染色体劣性多発性嚢胞腎 | 2 |
| その他嚢胞腎 | 1 |
| 結合織疾患 | |
| Ehlers-Danlos 症候群 | 2 |
| Loyes-Dietz 症候群 | 1 |
| Marfan 症候群 | 4 |
| 骨疾患 | |
| Kniest 異形成 | 1 |
| Larsen 症候群 | 1 |
| Multicentric carpotarsal osteolysis syndrome | 1 |
| 骨系統疾患 | 3 |
| 大理石骨病 | 1 |
| 手根骨融解 | 1 |
| 側弯症 | 1 |
| 神経疾患 | |
| Cahrcot-Marie-Tooth 病 | 1 |
| Dravet 症候群 | 1 |
| Pelizaeus-Merzbacher 病 | 2 |
| Rett 症候群 | 1 |
| X 染色体連鎖型知的障害 | 3 |
| 常染色体優性型脊髄性筋萎縮症 | 1 |
| 神経線維腫症 1 型 | 19 |
| 神経線維腫症 2 型 | 1 |
| 結節性硬化症 | 1 |
| 滑脳症 | 1 |
| てんかん | 2 |
| 循環器疾患 | |
| 家族性不整脈 | 2 |
| 先天性心疾患 | 1 |
| 心筋症 | 1 |
| 内分泌・代謝疾患 | |
| Tay-Sachs 病 | 1 |
| 高インスリン血症性低血糖症 | 1 |
| 血管異常 | |
| Klippel-Trenaunay 症候群 | 1 |
| Sturge-Weber 症候群 | 1 |
| 脳神経外科疾患 | |
| Crouzon 病 | 2 |
| 硬膜下血腫 | 1 |
| 小頭症 | 2 |
| 大頭症 | 1 |
| もやもや病 | 1 |

| 先天異常症候群 | |
|---------------------------|----|
| Alagille 症候群 | 3 |
| Bardet-Biedl 症候群 | 2 |
| Beckwith-Wiedemann 症候群 | 3 |
| DiGeorge 症候群 | 3 |
| Genitopatellar 症候群 | 1 |
| Kabuki 症候群 | 2 |
| Kagami-Ogata 症候群 | 1 |
| MPPH 症候群 | 1 |
| Noonan 症候群 | 3 |
| Opitz GBBB 症候群 1 型 | 1 |
| Opitz GBBB 症候群 2 型 | 1 |
| Pallister-Killian 症候群 | 1 |
| Senior-Loken 症候群 | 1 |
| Smith-Magenis 症候群 | 1 |
| Sotos 症候群 | 2 |
| Townes-Brocks 症候群 | 1 |
| Waardenburg 症候群 | 2 |
| Williams 症候群 | 1 |
| ネフロン癆関連シリオパチー | 1 |
| 染色体異常 | |
| 1q21 重複 | 2 |
| 2q 欠失 | 1 |
| 4p 欠失 | 1 |
| 4q 欠失 | 1 |
| 12q 欠失 | 1 |
| 13q 欠失 | 7 |
| 15q テトラソミー | 2 |
| 20q 欠失 | 1 |
| 21 トリソミー | 5 |
| 22q 欠失 | 1 |
| Turner 症候群 | 1 |
| Klinefelter 症候群 | 2 |
| その他染色体異常 | 12 |
| その他 | |
| Opsoclonus-myooclonus 症候群 | 1 |
| 先天性サイトメガロウイルス感染症 | 2 |
| ミトコンドリア異常 | 1 |
| 虹彩欠損 | 1 |
| 家族性地中海熱 | 1 |
| 原因不明の先天異常症候群 | 33 |
| 原因不明の知的障害 | 11 |
| 自閉症 | 2 |
| 内臓逆位 | 1 |
| 羊膜索症候群 | 1 |
| その他 | 15 |

12. 精神科

【スタッフ】

| | |
|---------|---|
| 部長 | 関口 典子 |
| 医長 | 玉岡 文子 |
| 非常勤医師 | 長谷川 弘子（神戸市こども家庭センター） 松川 悦之（松川神経科診療所） |
| 心理士 | 宮崎美知恵 藤井美有 淀裕美子 |
| 非常勤心理士 | 3名 |
| 精神保健福祉士 | 野呂朝子 |

常勤医師2名、非常勤医師2名で診療を行った。非常勤医師は長谷川（木曜日）、松川（火曜日）が週1回半コマ外来を担当している。

【活動内容】

- 1) 対象疾患は、身体疾患など器質に由来する精神障害から、発達障害、ストレス関連障害を中心として多岐に渡る。年齢は小学生から中学生の学齢期を中心としている。
- 2) 診療活動は外来診療が主であり、初診予約待ちは4週間程度である。急を要する院内紹介には随時対応している。精神科外来のほか、総合診療科とともに発達行動外来を担当している。
- 3) 入院患者に対するリエゾンでは、虐待、産後うつなど精神科医が必要とされている分野は多く、小児がんや救急患者の家族への支援を期待されることもある。より細やかに緊密な関係をとることを目指している。
- 4) 児童精神科領域での啓蒙、教育研修として看護学生実習の受け入れや、新聞取材への協力等を行った。
- 5) 兵庫県の子どものこころの診療ネットワーク事業に参加し、兵庫県内の関連施設と連携している。

平成 29 年 新患分布

| | | | 1-2 | 3-5 | 6-8 | 9-11 | 12-17 | | |
|----|-----|------------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-----|
| | | | 幼児 前期 | 幼児 後期 | 学童 前期 | 学童 後期 | 中学 高校 | 18歳 以上 | 計 |
| F0 | F05 | せん妄、アルコールおよび他の精神作用物質によらないもの | | | 1 | | | | 1 |
| | F06 | 脳損傷、脳機能不全および身体疾患による他の精神障害 | | 3 | 13 | | | | 5 |
| F4 | F40 | 恐怖症性不安障害 | | | | | 2 | | 2 |
| | F41 | 他の不安障害 | | | | | | 1 | 1 |
| | F42 | 強迫性障害 | | | 4 | 2 | 2 | 1 | 9 |
| | F43 | 重度ストレス反応 [重度ストレスへの反応]および適応障害 | | 2 | | 4 | 29 | 8 | 43 |
| | F44 | 解離性[転換性]障害 | | | 12 | 15 | 8 | | 35 |
| | F45 | 身体表現性障害 | | 2 | 15 | 14 | 19 | | 50 |
| F5 | F50 | 摂食障害 | | | | 3 | 4 | | 7 |
| | F51 | 非器質性睡眠障害 | | 1 | | | | | 1 |
| F6 | F63 | 習慣および衝動の障害 | | | 1 | | | | 1 |
| F7 | F70 | 軽度精神遅滞[知的障害] | 1 | 2 | 8 | 3 | 3 | | 17 |
| | F71 | 中度[中等度]精神遅滞[知的障害] | | | | 1 | | 1 | 2 |
| | F72 | 重度精神遅滞[知的障害] | | | | | 1 | | 1 |
| | F73 | 最重度精神遅滞[知的障害] | | | | 1 | | | 1 |
| F8 | F84 | 広汎性発達障害 | 2 | 10 | 18 | 17 | 10 | | 57 |
| F9 | F90 | 多動性障害 | | 2 | 5 | 3 | 3 | | 13 |
| | F91 | 行為障害 | | | 6 | 2 | 1 | | 9 |
| | F93 | 小児期に特異的に発症する社会的機能の障害 | | | 2 | 1 | | | 3 |
| | F94 | 小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害 | 1 | 4 | 10 | 4 | 1 | | 20 |
| | F95 | チック障害 | | | 1 | 1 | 4 | | 6 |
| | F98 | 小児期および青年期に通常発症する他の行動および情緒の障害 | | 1 | | | | | 1 |
| 計 | | | 5 | 26 | 84 | 72 | 87 | 11 | 285 |

【こどもとおやの相談室について】

心理士、精神保健福祉士は、こどもとおやの相談室として活動している。他科からのコンサルテーションに対し、精神科医師、心理士、精神保健福祉士でチームとしての相談対応も行っている。今後もより広い診療科と連携を深め、こどもと家族の療養支援を実施することを目指している。

① 心理士

外来では、複数の科と連携し、心理アセスメントや心理治療を中心に行っている。

入院では、小児がん拠点病院の認定に伴い、血液腫瘍科との連携を継続している。

② 精神保健福祉士

外来、入院において、医療福祉相談、発達相談、療養の相談など様々な相談に対応している。また、患者だけでなく家族や学校、関係機関からの相談にも対応し、院内外との連携の中心として活動している。

心理士

| 診療科 | アセスメント | | | 本人 | | | | 家族 | | その他 | 新患 |
|---------|--------|-----|-----|---------|---------|--------|----------|-----|------|-----|-----|
| | 知能発達 | 性格 | その他 | プレイセラピー | カウンセリング | 心理サポート | 小児ガンフォロー | 相談 | 結果報告 | | |
| 救急総合診療科 | 71 | 8 | 6 | | | 27 | 1 | 49 | | 1 | 50 |
| 代謝内分泌科 | 178 | | 84 | | | | | | 3 | | 6 |
| 神経内科 | 58 | | 1 | | | 4 | | 38 | 1 | 3 | 35 |
| 血液腫瘍科 | 6 | | 4 | 2 | | 3 | 1262 | 100 | 5 | 18 | 23 |
| 循環器科 | 2 | | | | | 5 | | 6 | 1 | | |
| 腎臓内科 | 2 | | | 5 | | 66 | | | | | 1 |
| 臨床遺伝科 | 9 | | | | | | | | | | 8 |
| 新生児科 | 71 | | | | | | | | | | 48 |
| 精神科 | 186 | 165 | 118 | 201 | 182 | 54 | 1 | 26 | 3 | 6 | 148 |
| 脳神経外科 | 31 | | | | | | 4 | 6 | 2 | | 20 |
| 一般外科 | | 1 | | 1 | | 37 | 1 | 1 | | | 1 |
| 救急集中治療科 | | | | | | 3 | | 32 | | 6 | 5 |
| 耳鼻咽喉科 | 34 | 11 | | | | | | 9 | 1 | | 30 |
| その他の科 | 2 | 1 | | 1 | | 40 | | 9 | 1 | | 3 |
| 合計 | 650 | 186 | 213 | 210 | 182 | 239 | 1269 | 276 | 17 | 34 | 378 |

PSW 相談内容別

| 相談内容／対象 | 本人・ 家族 | 院内 | 保健福祉 機関 | こども 家庭 センター | 学校・ 園・ 教育関係 | 訪問 看護 | 児童福祉 施設 | その他 | 計 |
|---------|-----------|------|------------|-------------------|-------------------|----------|------------|-----|------|
| 福祉・経済問題 | 107 | 203 | 46 | 6 | 2 | 6 | 3 | 108 | 481 |
| 療養問題 | 315 | 758 | 11 | 8 | 44 | 93 | 61 | 72 | 1362 |
| 教育問題 | 6 | 18 | 3 | 0 | 18 | 0 | 0 | 0 | 45 |
| 家庭問題 | 2 | 7 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 14 |
| 心理情緒的問題 | 124 | 26 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 151 |
| 養育問題 | 10 | 125 | 24 | 30 | 4 | 0 | 5 | 1 | 199 |
| 受診援助 | 53 | 179 | 4 | 1 | 1 | 0 | 12 | 66 | 316 |
| その他 | 1 | 10 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 14 |
| 計 | 618 | 1326 | 88 | 46 | 71 | 102 | 83 | 248 | 2582 |

支援方法別

| | | | | | | | | | |
|----|-----|------|----|----|----|-----|----|-----|------|
| 面接 | 552 | 1040 | 2 | 10 | 16 | 12 | 19 | 70 | 1721 |
| 電話 | 64 | 284 | 81 | 36 | 53 | 72 | 60 | 175 | 825 |
| 文書 | 2 | 2 | 5 | 0 | 2 | 18 | 4 | 3 | 36 |
| 計 | 618 | 1326 | 88 | 46 | 71 | 102 | 83 | 248 | 2582 |

初回相談依頼者

| | |
|-----------|-----|
| 総合診療科 | 19 |
| 集中治療科 | 5 |
| 代謝内分泌科 | 12 |
| 精神神経科 | 50 |
| 院内その他 | 22 |
| 本人・家族 | 7 |
| 学校 | 1 |
| こども家庭センター | 4 |
| 市 | 7 |
| その他 | 6 |
| 計 | 133 |

13. 小児外科

小児外科スタッフ

前田眞作（科長・副院長）

横井暁子（部長）

中尾 真（部長）

福澤宏明（医長）

大片佑一（医長）（～5月まで）

久松千恵子（医長）（～3月まで）

森田圭一（医長）

フェロー

三浦紫津（フェロー）

山木聡史（フェロー）（～3月まで）

三島泰彦（フェロー）（～3月まで）

關根沙知（フェロー）（～3月まで）

矢部清晃（フェロー）（～9月まで）

河原仁守（フェロー）（4月～）

鮫島由友（フェロー）（4月～）

磯野香織（フェロー）（4月～）

梶原啓亮（フェロー）（4月～）

植村光太郎（フェロー）（10月～）

【人事異動】

大学人事で3月末に久松医師が姫路赤十字病院に異動。山木医師、三島医師、關根医師がそれぞれの出身医局に戻られた。4月から河原医師（神戸大学）、鮫島医師（杏林大学）、磯野医師（熊本大学）、梶原医師（九州大学）が赴任。大片医師は6月より神戸大学小児外科講師として帰局。矢部医師が9月末で異動。10月より植村医師（岡山大学）が赴任と出入の多い1年であった。

当科の特色としては

1. 高度専門医療

- ①小児呼吸器外科：気管狭窄症の手術については日本で最大の症例数と治療成績を誇っています。小児外科・心臓血管外科・麻酔科・集中治療科が密接に連携しチーム医療を推進しています。
- ②悪性腫瘍：小児がん拠点病院の一翼を担い、多数例の固形腫瘍手術を行なっています。4名の小児がん認定外科医を中心に、血液・腫瘍科、放射線科とチームを組んでお子さまに最善の治療を提供出来るように心掛けています。昨年は隣接する神戸陽子線センターが設立され、ますます多くの症例を扱うようになって来ました。
- ③機能再建手術：鎖肛やヒルシュスプルング病及び類縁疾患などの排便機能障害の治療にも積極的に取り組んでいます。

2. 新生児外科

- ①周産母子センターの一翼を担い、出生前からの治療に積極的に参画しています。
- ②新生児期に必要な外科治療については万全の態勢で対応できる様にしています。

3. 救急医療

- ①小児救命救急センターの一員として重要な役割を担い、要請には100%対応出来るようにしています。
- ②外傷を含めた小児の救急疾患に対して救急診療科、集中治療科と連携しいつでも対応できる態勢を取っています。

4. 日帰り手術

鼠径ヘルニアをはじめとする短時間の手術は麻酔科の協力の元出来る限り日帰り（入院）手術を推進しています。

5. 障害児に対する外科治療

障害児に対する外科治療を積極的に進め、県内の療育施設と連携を取りながら外科治療の部分を担当しています。

6. 内視鏡外科手術の推進

身体に対する負担が少なく、キズの小さな低侵襲手術に積極的に取り組んでいます。2名の内視鏡外科技術認定医を中心にお子さまの病態にあわせた最も良い治療を選択できるように考えています。

【教育活動】

神戸大学5年生、6年生の臨床実習を受け入れています。熊本大学5年生、6年生の臨床実習も受け入れています。国際的には2017年度はフィリピン（Philippin General Hospital）から2カ月間臨床研修医を受け入れました。また Vietnam からの研修生も受け入れています。

【学会活動】

日本小児外科学会、太平洋小児外科学会、日本周産期・新生児学会、日本小児血液・がん学会、日本小児救急医学会、日本小児呼吸器外科研究会などの学術集会で演題を発表しました。

発表論文は邦文10編、英文7編でした。

(入院手術 895 例 + 日帰り手術 213 例)

| | | | | | |
|----------|-------------------|--------|------------------|-----------------------|----|
| 頭頸部 | 頸部リンパ管腫 (硬化療法を含む) | 7 | | 腸間膜嚢胞摘出術 | 0 |
| | 頸部嚢胞摘出術 | 4 | | 腸管重複症手術 | 1 |
| 気道 | 甲状舌管嚢胞摘出術 | 4 | | Hirschsprung 病 / 類縁疾患 | |
| | 梨状窩瘻手術 | 2 | | 腹腔鏡補助下手術 | 0 |
| | 喉頭気管食道裂手術 | 1 | | 径肛門の根治術 | 3 |
| | 声帯外方固定術 | 0 | | 開腹根治術 | 0 |
| | 声門下腔狭窄症手術 | | | 直腸生検 | 7 |
| | 喉頭気管形成術 | 3 | | 人工肛門造設 / 閉鎖術 | 1 |
| | PCTR | 1 | | 腸瘻造設術 / 閉鎖術 | 2 |
| | バルーン拡張 | 0 | | 腸穿孔手術 | 2 |
| | レーザー焼灼 | 2 | | 内ヘルニア手術 | 0 |
| | その他 | 3 | | 腹腔鏡下虫垂切除術 | 22 |
| | 先天性気管狭窄症手術 | | | 消化管ポリープ切除術 | 4 |
| | スライド気管形成術 | 15 | | 臍腸瘻手術 | 0 |
| | バルーン拡張 | 2 | | 直腸肛門 | |
| | レーザー焼灼 | 6 | | 直腸肛門奇形 | |
| | その他の形成術 | 2 | | PSARP | 7 |
| | 気管軟化症手術 | | | 腹会陰式 | 1 |
| | 大動脈胸骨固定術 | 1 | | 肛門形成術 | 2 |
| | 腕頭動脈離断術 | 7 | | 人工肛門造設術 | 10 |
| | 喉頭嚢胞、腫瘍摘出術 | 1 | | 人工肛門閉鎖術 | 10 |
| | 喉頭気管分離術 | 3 | | 痔瘻根治術 | 3 |
| | 気管切開術 | 30 | | 肛門粘膜形成術 | 4 |
| | 気管切開閉鎖術 | 3 | | 摘便 | 5 |
| | その他の形成術 | 2 | | 肝胆膵 | |
| | 肺部分切除 | 10 | | 先天性胆道拡張症手術 | |
| | 肺葉切除 | 6 | | 開腹 | 8 |
| 胸腔鏡下肺切除術 | 0 | 腹腔鏡下 | 1 | | |
| 胸腔鏡下剥皮術 | 2 | 胆嚢瘻造設術 | 1 | | |
| 胸壁・縦隔 | 漏斗胸手術 | | 胆道閉鎖症手術 | 2 | |
| | Nuss 手術 | 5 | 胆嚢摘出術 | 0 | |
| 横隔膜 | バー抜去 | 6 | 門脈圧亢進症手術 | 0 | |
| | その他の形成術 | 1 | 肝外傷開腹止血術 | 2 | |
| 食道 | 縦隔腫瘍摘出術 | 3 | 脾臓摘出術 (腹腔鏡下) | 2 | |
| | 先天性横隔膜ヘルニア手術 | 4 | 臍帯ヘルニア手術 | 6 | |
| 胃 | 胸腔鏡下横隔膜縫縮術 | 4 | 腹壁破裂手術 | 1 | |
| | 先天性食道閉鎖症手術 | | 鼠径ヘルニア関連手術 | | |
| 十二指腸 | 一次的根治術 | 0 | 鼠径法 | 241 | |
| | 気管食道瘻閉鎖 + 胃瘻 | 3 | 腹腔鏡下 | 20 | |
| 小腸・大腸 | 食道吻合 | 0 | 臍ヘルニア手術 | 36 | |
| | 食道延長術 | 1 | 腹壁ヘルニア手術 | 3 | |
| 胃 | 先天性食道狭窄症手術 | 0 | 尿管管遺残症手術 | 6 | |
| | 胃瘻造設術 | | 卵巣核出手術 | 1 | |
| 胃 | 開腹 | 11 | その他の手術 | 3 | |
| | 腹腔鏡下 | 4 | 神経芽腫 | 5 | |
| 胃 | 噴門形成術 | | 肝芽腫 | 5 | |
| | 開腹 | 15 | 腎芽腫 | 2 | |
| 胃 | 腹腔鏡下 | 9 | 胚細胞腫瘍 | 6 | |
| | 肥厚性幽門狭窄症手術 | 5 | 肉腫 | 6 | |
| 胃 | 胃固定術 | 1 | その他の腫瘍 | 11 | |
| | 先天性十二指腸閉鎖症手術 | 3 | 中心静脈カテーテル留置 | 92 | |
| 小腸・大腸 | 開腹止血術 | 1 | 中心静脈カテーテル抜去 | 66 | |
| | 腸回転異常症手術 | 3 | テンコフカテーテル留置 / 抜去 | 6 | |
| 小腸・大腸 | 小腸閉鎖症手術 | 2 | ドレナージ手術 | 7 | |
| | 観血的腸重積症整復術 | 2 | 気管支鏡検査 | 147 | |
| 小腸・大腸 | メッケル憩室切除術 | 4 | 消化管内視鏡検査 | 72 | |
| | イレウス解除術 | 4 | 異物摘出 | | |
| | | | 気道 | 4 | |
| | | | 消化管 | 2 | |
| | | | その他 | 16 | |
| | | 総計 | | 1108 例 | |

新生児外科症例 (62 例)

| 病名 | 治療 |
|-------------------|---------------|
| 先天性肺嚢胞症 | 経過観察 |
| 胎児胸水 | 胸腔内遺残カテーテル抜去 |
| タナトフォリック骨異形成症 | 気管切開術 |
| タナトフォリック骨異形成症 | 気管切開術 |
| トリソミー 13 | 気管切開術 |
| トリソミー 18 | 気管切開術 |
| 頸部リンパ管腫 | 気管切開術 |
| 喉頭軟化症 | 保存的治療 |
| 喉頭軟化症 | 保存的治療 |
| 乳び胸、ダウン症 | OK432 胸腔内注入 |
| 横隔膜挙上症、トリソミー 18 | 横隔膜縫縮術 |
| 先天性横隔膜ヘルニア | 横隔膜ヘルニア手術 |
| 先天性横隔膜ヘルニア | 横隔膜ヘルニア手術 |
| 気管無形成、先天性食道閉鎖症 | 気管食道瘻閉鎖術 |
| 気管無形成、先天性食道閉鎖症 | 食道絞扼術 + 胃瘻造設術 |
| 先天性食道閉鎖症、トリソミー 18 | 食道絞扼術 + 胃瘻造設術 |
| 臍帯内ヘルニア | 臍帯内ヘルニア手術 |
| 臍帯内ヘルニア、ダウン症 | 臍帯内ヘルニア手術 |
| 臍帯ヘルニア | 臍帯ヘルニア手術 |
| 臍帯ヘルニア | 臍帯ヘルニア手術 |
| 臍帯ヘルニア、トリソミー 8 | 臍帯ヘルニア手術 |
| 臍帯ヘルニア、トリソミー 8 | 臍帯ヘルニア手術 |
| 腹壁破裂 | 腹壁破裂根治術 |
| 新生児胃食道逆流 | 保存的治療 |
| 新生児胃食道逆流 | 噴門形成術 |
| 肥厚性幽門狭窄症 | 粘膜筋層切開術 |
| 肥厚性幽門狭窄症 | 粘膜外筋層切開術 |
| 鼠径ヘルニア嵌頓 | 鼠径ヘルニア手術 |
| 十二指腸閉鎖症 | ダイヤモンド吻合 |
| 十二指腸閉鎖症 | ダイヤモンド吻合 |
| 十二指腸閉鎖症 | ダイヤモンド吻合 |
| 回腸閉鎖 | 回腸閉鎖症手術 |
| 壊死性腸炎 | 腸瘻造設術 |
| 消化管穿孔 | 腸瘻造設術 |
| 消化管穿孔 | 腸瘻造設術 |
| 胎便関連イレウス | 腸瘻造設術、CV 挿入 |
| 胎便性イレウス | 腸瘻造設術 |
| 腸回転異常症 | ラッド手術 |
| 肝被膜下血腫 (腹腔内出血) | 試験開腹術 |
| 先天性胆道拡張症 | 経過観察 |
| 先天性胆道拡張症 | 胆道拡張症手術 |
| 先天性胆道拡張症 | 胆道拡張症手術 |
| 低位鎖肛 | 保存的治療 |
| 低位鎖肛 | 保存的治療 |
| 低位鎖肛 | 保存的治療 |
| 中間位鎖肛 (直腸隆前庭瘻) | 保存的治療 |
| 中間位鎖肛 (直腸隆前庭瘻) | 保存的治療 |
| 中間位鎖肛 | 人工肛門造設術 |
| 中間位鎖肛 | 人工肛門造設術 |
| 高位鎖肛 (直腸隆瘻) | 人工肛門造設術 |
| ヒルシュスプルング病 | 経肛門の根治術 |
| 肝芽腫 | 肝生検 |
| 急性骨髄性白血病 | CV 挿入 |
| 黄色肉芽腫 | 肝生検 |
| 先天性間葉芽腎腫 | 右腎摘出術 |
| 卵巣嚢胞 | 卵巣嚢腫開窓術 |
| 尿管開存症 | 尿管遺残症手術 |

14. 心臓血管外科

【スタッフ紹介】

部長（副院長兼任）大嶋 義博（昭和 57 年神戸大卒）

神戸大学医学研究科医科学専攻外科系講座 臨床教授

心臓血管外科専門医、同修練指導医

医 長 松久 弘典（平成 11 年神戸大卒）心臓血管外科専門医、同修練指導医

医 長 日隈 智憲（平成 12 年神戸大卒）心臓血管外科専門医

フェロー 岩城 隆馬（平成 19 年愛媛大卒）心臓血管外科専門医

専攻医 村上 優（平成 23 年神戸大卒）

【診療体制】

外来：月、水、金の午後 2 診

手術：月～金

心臓センター開設後 1 年が経過し、外科・内科のより緊密な連携に加え、術前・術後管理を集中治療科が担う体制が整ってきた。また、加古川中央市民病院、姫路赤十字病院や神戸大学との地域連携、救急医療を含めた体制の強化が進められている。平成 29 年は松島峻介先生がドイツへ留学のため転任となり、心臓血管外科スタッフは 5 人体制となった。

手術件数は前年に比べ若干の増加となった。2017 年の体外循環を用いた手術は 197 例（新生児 30 例）と新生児症例が倍増し、体外循環非使用の心臓手術は 50 例（新生児 25 例）、その他 54 例であった。集中治療、地域連携のシステム構築の成果か、ヘリコプター搬送症例の増加と、急性心筋炎などの ECMO 症例の増加も 2017 年の特徴であった。術後 30 日未満の手術死亡は 2 例で脳性麻痺の多剤耐性菌保菌者の術後感染による症例、染色体異常を伴う症例といった high risk 症例であった。

毎朝の CICU カンファレンス、麻酔科との術前カンファレンス、毎週月曜朝の術前検討会、夕方の循環器カンファレンス、金曜の術後検討会に加え、臨時の症例検討会や複数科（小児外科、感染症科、新生児科など）との audit meeting も行っている。

学術活動：Spring 8 における多施設共同研究では、科研費取得や複数の海外学会演題採択、更に全国学会での最優秀演題に選出されるなど成果を上げている。そのほか、英文・法文論文が掲載あるいは投稿中で、海外学会（BCVS、AHA）、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本小児循環器学会、その他多数の学会、研究会で発表した。

| 術式 (疾患) | 28日未満 | | | ～1歳未満 | | | 1歳～17歳 | | | 18歳以上 | | | 総数 | | |
|----------------------------|-------|----|------|-------|----|------|--------|----|------|-------|----|------|-----|----|------|
| | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 |
| PDA | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| CoA (simple) | 2 | | | 2 | | | 1 | | | | | | 5 | | |
| +VSD | 3 | | | 1 | | | | | | | | | 4 | | |
| +DORV | | | | | | | | | | | | | | | |
| +AVSD | 1 | | | 1 | | | | | | | | | 2 | | |
| +TGA | | | | | | | | | | | | | | | |
| +SV | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| +others | | | | | | | | | | | | | | | |
| IAA (simple) | | | | | | | | | | | | | | | |
| +VSD | | | | | | | | | | | | | | | |
| +DORV | | | | | | | | | | | | | | | |
| +Truncus | | | | | | | | | | | | | | | |
| +TGA | | | | | | | | | | | | | | | |
| +SV | | | | | | | | | | | | | | | |
| +others | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| Vascular ring | | | | | | | | | | | | | | | |
| PS | | | | 3 | | | 3 | | | | | | 6 | | |
| PPA or critical PS | 3 | | | | | | | | | | | | 3 | | |
| TAPVR | 4 | | | | | | | | | | | | 4 | | |
| asplenia | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| PAPVR ± ASD | | | | | | | 2 | | | | | | 2 | | |
| ASD | | | | 2 | | | 16 | | | | | | 18 | | |
| Cor triatriatum | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| AVSD (partial) | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | |
| AVSD (complete) | | | | 5 | | | 1 | | | | | | 6 | | |
| +TF or DORV | | | | | | | | | | | | | | | |
| +others | | | | | | | | | | | | | | | |
| VSD (I) | | | | 3 | | | 3 | | | | | | 6 | | |
| VSD (II or IV) | | | | 19 | | | 11 | | | | | | 30 | | |
| VSD(III) | | | | | | | | | | | | | | | |
| VSD + PS | | | | | | | | | | | | | | | |
| DCRV ± VSD | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| Aneurysm of sinus Valsalva | | | | | | | | | | | | | | | |
| TF | | | | 5 | | | 4 | | | | | | 9 | | |
| (SP shunt) | | | | | | | | | | | | | | | |
| PA + VSD (Rastelli) | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| (SP shunt) | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| (UF ± shunt) | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| DORV | | | | | | | 6 | | | | | | 6 | | |
| TGA (simple) | 3 | | | | | | | | | | | | 3 | | |
| + VSD | 7 | | | | | | 1 | | | | | | 8 | | |
| + VSD + PS | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | |
| corrected TGA | | | | | | | | | | | | | | | |
| Truncus arteriosus | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| SV (SP shunt) | | | | | | | | | | | | | | | |
| (BDG) | | | | 5 | | | | | | 1 | | | 6 | | |
| (Fontan) | | | | | | | 11 | | | | | | 11 | | |
| TA (SP shunt) | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| (BDG) | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| (Fontan) | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | |
| HLHS (Norwood) | 3 | | | 3 | | | | | | | | | 6 | | |
| (BDG) | | | | 4 | | | | | | | | | 4 | | |
| (Fontan) | | | | | | | 5 | | | | | | 5 | | |
| Aortic valve lesion (形成) | | | | | | | 4 | | | | | | 4 | | |
| (弁置換) | | | | | | | 2 | | | | | | 2 | | |
| SAS | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | |
| supra AS | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | |
| Mitral valve lesion (MR形成) | | | | 2 | | | 2 | | | | | | 4 | | |
| (MR 弁置換) | | | | | | | 2 | | | | | | 2 | | |
| (MS 形成) | | | | | | | | | | | | | | | |
| (MS 弁置換) | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| Ebstein | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| Coronary disease | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| その他 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再手術 VSD 再閉鎖 | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 | | |
| PS 解除 | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 | | |
| RV-PA 導管再置換 | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | | |
| (PVRを伴う) | 1 | | | 1 | | | 5 | 1 | 1 | 5 | | | 11 | 1 | 1 |
| その他 | | | | 2 | | | 2 | | | | | | 4 | | |
| 総数 | 30 | 0 | 0 | 73 | 0 | 0 | 88 | 1 | 1 | 6 | 0 | 0 | 197 | 1 | 1 |

| 術式 (疾患) | 28日未満 | | | ～1歳未満 | | | 1歳～17歳 | | | 18歳以上 | | | 総数 | | |
|---|-------|----|------|-------|----|------|--------|----|------|-------|----|------|-------|----|------|
| | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 |
| PDA | 16 | | | 7 | | | | | | | | | 23 | | |
| CoA (simple) +VSD +DORV +AVSD +TGA +SV +others | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| IAA (simple) +VSD +DORV +Truncus +TGA +SV +others | | | | | | | | | | | | | | | |
| Vascular ring | | | | 5 | | | 7 | | | | | | 12 | | |
| PS | | | | | | | | | | | | | | | |
| PPA or critical PS | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| TAPVR asplenia | | | | | | | | | | | | | | | |
| PAPVR ± ASD | | | | | | | | | | | | | | | |
| ASD | | | | | | | | | | | | | | | |
| Cor triatriatum | | | | | | | | | | | | | | | |
| AVSD (partial) | | | | | | | | | | | | | | | |
| AVSD (complete) +TF or DORV +others | 1 | | | 1 | | | | | | | | | 2 | | |
| VSD (I) | | | | | | | | | | | | | | | |
| VSD (II or IV) | 2 | | | 3 | | | 1 1 | | | | | | 5 1 1 | | |
| VSD (III) | | | | | | | | | | | | | | | |
| VSD + PS | | | | | | | | | | | | | | | |
| DCRV ± VSD | | | | | | | | | | | | | | | |
| Aneurysm of sinus Valsalva | | | | | | | | | | | | | | | |
| TF | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| PA + VSD | | | | | | | | | | | | | | | |
| DORV | | | | | | | | | | | | | | | |
| TGA (simple) + VSD + VSD + PS | | | | | | | | | | | | | | | |
| corrected TGA | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| Truncus arteriosus | | | | | | | | | | | | | | | |
| SV (SP shunt) (PAB) | | | | | | | | | | | | | | | |
| TA (SP shunt) (BDG) (Fontan) | | | | | | | | | | | | | | | |
| HLHS (bil.PAB) (SP shunt追加) | 3 | | | | | | | | | | | | 3 | | |
| Aortic valve lesion (形成) (弁置換) SAS supra AS | | | | | | | | | | | | | | | |
| Mitral valve lesion (MR形成) (MR 弁置換) (MS 形成) (MS 弁置換) | | | | | | | | | | | | | | | |
| Ebstein | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| Coronary disease | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再手術 VSD 再閉鎖 PS 解除 RV-PA 導管再置換 (PVRを伴う) その他 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総数 | 25 | 0 | 0 | 18 | 1 | 1 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 50 | 1 | 1 |

| | 症例数 | 死亡 | 在院死亡 |
|------------------|-----|----|------|
| 皮下膿瘍、デブリードメント | 1 | | |
| ペースメーカー植え込み | 9 | | |
| ペースメーカー電池交換 | 8 | | |
| 心臓ドレナージ | 6 | | |
| 胸腔ドレナージ | | | |
| ECMO 装着 (ショック) | 4 | | |
| ECMO 装着 (気管形成術等) | 10 | | |

| | | | |
|--------------|----|---|---|
| 横隔膜縫縮 | 3 | | |
| 気管腕頭動脈瘻 | 7 | | |
| 縦隔炎手術 | | | |
| 大動脈 / 肺動脈吊上げ | | | |
| 気胸手術 | | | |
| 血腫除去 | 3 | | |
| その他 | 3 | | |
| 総計 | 54 | 0 | 0 |

15. 脳神経外科

本年度は長嶋達也を会長に、6月1日～3日の日程で第45回日本小児神経外科学会学術集会（教育セミナーを含む）を主管し、演題数218題、参加者約540人と盛況に開催できた。また11月から日本こども病院神経外科医会事務局を置くこととなった。

2017年度の脳神経外科スタッフは、河村淳史（部長兼小児がん医療センター次長）、小山淳二（医長）、阿久津宣行（医長）の指導医とローテーション医師とで診療に従事した。また4月より徳島大学脳神経外科教室より安積麻衣先生がフェローとして着任した。

脳神経外科専門医研修の一環として、2016年10月1日—2017年1月31日に山下俊輔先生、2017年2月1日—5月31日に原田智明先生、2017年6月1日—2016年9月30日に岩橋洋文先生、2016年10月1日—2018年1月31日に岡田真幸先生が専攻医として着任した。

診療活動では2016年5月の病院移転に伴い外来患者数、手術件数の増加と共に、兵庫県下のみならず他府県からの紹介及びセカンドオピニオン例も増加している。当施設脳神経外科の特色は複数科との緊密な連携によるチーム医療であり、血液腫瘍内科・放射線治療科・臨床病理部と隣接した神戸陽子線センター放射線科との集学的治療を必要とする脳脊髄腫瘍症例、整形外科・泌尿器科・育児内科との治療および管理は必要な二分脊椎症例、形成外科合同の外科的治療を要する頭蓋顔面奇形症例、救急・集中治療科をはじめ多数科との協力が必要な頭部外傷・多発外傷症例などを中心に積極的な治療に取り組んでいる。

特に小児脳腫瘍に関しては小児がん拠点病院として全人的医療を実施するために必要な部署と連携して治療チームを編成し、時間を取って診療に従事している。また12月1日より渡り廊下で往来できる神戸陽子線センターの開設に伴い、正常組織への侵襲の少ない陽子線治療にも容易に対応可能となり、鎮静が必要な症例も含め1日10例の治療が可能となった。

各症例においては地域小児医療各方面と密な連絡・連携を保ちながらAYA世代に渡り長期の追跡を行ない、成人した時点でのQOLの向上を目指しており、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術・治療成績を積み重ねていく所存である。

脳神経外科手術ナビゲーションが順調に稼働し、新型顕微鏡や手術機器導入により困難な手術を支える施設面も充実した。今後も24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を維持し続けたい。

その他の活動

- (1) カンファレンス；毎週水曜日 腫瘍治療検討会、月1回 二分脊椎カンファレンス、随時 頭部外傷カンファレンス、陽子線治療検討会
- (2) 学会参加；日本小児神経外科学会、脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科コンgres、日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、日本二分脊椎研究会、日本こども病院神経外科医会、日本脳卒中学会学術総会、日本脳腫瘍学会、小児血液・がん学会学術集会、日本脳腫瘍病理学会、日本神経内視鏡学会、日本粒子線臨床研究会などへの参加

2017年度 脳神経外科手術件数

件数

| 脳神経外科手術の総数 | | | | | |
|------------|---------|----|----|---------|-----|
| 1 | 脳腫瘍 | | 4 | 奇形 | |
| | 摘出術 | 15 | | 頭蓋・脳 | 23 |
| | 開頭生検術 | 0 | | 脊髄・脊椎 | 35 |
| | 定位的生検術 | 3 | 5 | 水頭症 | |
| | 経蝶形骨洞手術 | 1 | | 脳室シャント術 | 34 |
| 2 | 脳血管障害 | | | 内視鏡手術 | 7 |
| | バイパス手術 | 8 | 6 | 脊髄・脊椎 | |
| | 開頭血腫除去術 | 1 | | 腫瘍 | 7 |
| | 脳血管奇形手術 | 2 | | 脊椎固定術 | 1 |
| 3 | 外傷 | | | 脊髄空洞症 | 0 |
| | 急性硬膜外血腫 | 4 | 7 | その他 | 38 |
| | 急性硬膜下血腫 | 3 | 8 | 血管内手術 | 0 |
| | 減圧開頭術 | 0 | 9 | 定位放射線治療 | 1 |
| | 慢性硬膜下血腫 | 0 | 10 | 陽子線治療 | 3 |
| | | | | | 186 |

日本脳神経外科学会の分類に準ずる

脳神経外科 専攻医指導記録

専攻医 山下俊輔
 研修期間 2017/01/01-01/31
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

| 症例 | 執刀 | 第1助手 | 第2助手 |
|--------------|----|------|------|
| 脳腫瘍摘出術 | | | |
| 動脈瘤・脳動静脈奇形ほか | | | |
| 開頭脳内血腫 | | | |
| バイパス手術 | | | |
| 急性硬膜外血腫 | | 1 | |
| 急性硬膜下血腫 | | | |
| 慢性硬膜下血腫・水腫 | | | |
| 頭蓋・脳奇形 | | 2 | |
| 脊椎・脊髄奇形 | | 2 | |
| 水頭症脳室シャント | | 1 | |
| 神経内視鏡手術 | | | |
| 脊椎・脊髄腫瘍 | | | |
| 脊髄空洞症 | | | |
| その他 | | 2 | |
| 血管内手術 | | | |
| 計 | | 8 | |
| 合計 | | | |

専攻医 原田智明
 研修期間 2017/02/01-05/31
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

| 症例 | 執刀 | 第1助手 | 第2助手 |
|--------------|----|------|------|
| 脳腫瘍摘出術 | | 2 | |
| 動脈瘤・脳動静脈奇形ほか | | | |
| 開頭脳内血腫 | | | |
| バイパス手術 | | 1 | |
| 急性硬膜外血腫 | | | |
| 急性硬膜下血腫 | | | |
| 慢性硬膜下血腫・水腫 | | | |
| 頭蓋・脳奇形 | | 4 | |
| 脊椎・脊髄奇形 | | 8 | |
| 水頭症脳室シャント | | 4 | |
| 神経内視鏡手術 | | 1 | |
| 脊椎・脊髄腫瘍 | | | |

| | | | |
|-------|--|----|--|
| 脊髄空洞症 | | | |
| その他 | | 5 | |
| 血管内手術 | | | |
| 計 | | 25 | |
| 合計 | | | |

専攻医 岩橋洋文
 研修期間 2017/06/01-09/30
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

| 症例 | 執刀 | 第1助手 | 第2助手 |
|--------------|----|------|------|
| 脳腫瘍摘出術 | | 4 | |
| 動脈瘤・脳動静脈奇形ほか | | | |
| 開頭脳内血腫 | | 1 | |
| バイパス手術 | | 1 | |
| 急性硬膜外血腫 | | | |
| 急性硬膜下血腫 | | 1 | |
| 慢性硬膜下血腫・水腫 | | | |
| 頭蓋・脳奇形 | | 2 | |
| 脊椎・脊髄奇形 | | 8 | |
| 水頭症脳室シャント | | 5 | |
| 神経内視鏡手術 | | | |
| 脊椎・脊髄腫瘍 | | | |
| 脊髄空洞症 | | | |
| その他 | | 3 | |
| 血管内手術 | | | |
| 計 | | 25 | |
| 合計 | | | |

専攻医 岡田真幸
 研修期間 2017/10/01-12/31
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

| 症例 | 執刀 | 第1助手 | 第2助手 |
|--------------|----|------|------|
| 脳腫瘍摘出術 | | | |
| 動脈瘤・脳動静脈奇形ほか | | 1 | |
| 開頭脳内血腫 | | | |
| バイパス手術 | | 2 | |
| 急性硬膜外血腫 | | | |
| 急性硬膜下血腫 | | 1 | |
| 慢性硬膜下血腫・水腫 | | | |
| 頭蓋・脳奇形 | | 1 | |
| 脊椎・脊髄奇形 | | 6 | |
| 水頭症脳室シャント | | 6 | |
| 神経内視鏡手術 | | | |
| 脊椎・脊髄腫瘍 | | | |
| 脊髄空洞症 | | | |
| その他 | | 2 | |
| 血管内手術 | | | |
| 計 | | 19 | |
| 合計 | | | |

16. 形成外科

2017年は4月より後期研修医として若松侑加医師を迎え、7月からは池村光之介医師の兵庫医科大学への転任に伴い山内菜都美医師がベルランド総合病院より赴任した。以前と同様の3人体制により診療を継続している。

診療内容に関しての大きな変化はないが、以前に引き続いてルビーレーザーと色素レーザーの稼働により色素性疾患の治療にあたっていることに加え、乳児血管腫に対するヘマンジオール内服治療の保険認可に伴い、より集学的な治療が可能になると見込まれる。手術実績に関しては一例ごとの完成度に対しより深くアプローチし、少しでも患者様の満足度にご貢献できるように心がけている。移転に伴い一時減少していた新患者数・手術症例数ともに漸増傾向であり、引き続き安定した治療実績を残すことで地域の信頼を継続的に獲得できるものと考えている。

年間の患者数及び手術件数

2017年1月1日～12月31日

| | |
|-----------|-------------------------|
| 形成外科新患者数 | 606名 |
| 形成外科入院患者数 | 224名（延べ人数ではない） |
| 形成外科手術件数 | |
| 入院手術 | |
| 全身麻酔 | 234件（合計234件） |
| 腰麻・伝達麻酔 | 0件 |
| 局所麻酔・その他* | 0件 |
| 外来手術 | |
| 全身麻酔 | 96件（合計499件） |
| 腰麻・伝達麻酔 | 0件 |
| 局所麻酔・その他* | 403件 *その他には無麻酔や分類不明を入れる |

手術内容区分

| 区 分 | 件 数 | | | | | | 計 |
|------------------|---------|---------|----------|---------|---------|----------|-----|
| | 入 院 手 術 | | | 外 来 手 術 | | | |
| | 全身麻酔 | 腰麻・伝達麻酔 | 局所麻酔・その他 | 全身麻酔 | 腰麻・伝達麻酔 | 局所麻酔・その他 | |
| I. 外傷 | 11 | | | | | | 11 |
| II. 先天異常 | 158 | | | 34 | | 3 | 195 |
| III. 腫瘍 | 48 | | | 39 | | 2 | 89 |
| IV. 瘻管・瘻管拘縮・ケロイド | 12 | | | 1 | | 1 | 14 |
| V. 難治性潰瘍 | 1 | | | | | | 1 |
| VI. 炎症・変性疾患 | 4 | | | 1 | | | 5 |
| VII. 美容（手術） | | | | | | | 0 |
| VIII. その他 | | | | | | | 0 |
| Extra. レーザー治療 | | | | 21 | | 397 | 418 |
| 大分類計 | 234 | 0 | 0 | 96 | 0 | 403 | 733 |

17. 整形外科

2017年度の整形外科は山本哲也医師が転出し、新たに向原伸太郎医師が赴任した。さらに国内留学医として迎えていた琉球大整形外科の山中理菜医師（フェロー）は当科でのトレーニングを修了し、所属大学へ小児整形外科医として帰任した。これにより、薩摩眞一（部長）、小林大介（リハビリテーション部長と兼任）、坂田亮介（医長）、衣笠真紀（医長）に向原医師を加えた5人体制にて診療を行った。

従来より、股関節、足部疾患を中心に、兵庫県内のみならず他府県よりの紹介患児を幅広く受け入れ、多彩な小児整形外科疾患の診療を行ってきた。外来診療として従来の月曜日午後、火曜日終日、水曜日午前に加え、昨年度より金曜日午前を新たに加え、増加する外来患児の診療にあたっている。また、他院では手術が困難な全身状態を含めたハイリスク患児の手術も、集中治療部や麻酔科、外科、循環器内科などの関係各科との連携に支えられ、多数行っている。開院以来診療を行ってきた小児慢性疾患に加え、新病院への移転後は増加し続ける救急外傷診療に対応すべく人員配置や麻酔科を含めた関連各科との連携を深めた結果、30%以上も増加した手術そして入院加療件数に対応することができた。

これらの診療経験及び実績を蓄積し、専攻医を含めた後進の指導を行なう一方で、日本小児整形外科学会を中心とした学術研究を推進している。本年度は北米小児整形外科学会よりのトラベリングフェローの受け入れやベトナム研修医の短期受け入れなど国際的な交流や医学貢献も行った。

本年度の手術実績は、下記の通り348件とスタッフが減員したにもかかわらず2016年度よりさらに大きな増加幅を記録した。今後も手術、救急症例の増加が予想されるため、スタッフの教育、確保を含めた診療体制のさらなる整備が今後の課題となっていく。県内、近隣の小児整形外科患児のため今後も様々な面でのレベルアップを目指していく所存である。

2017年整形外科手術・検査内容区分

| | | 病名 | 術式 | 手術数 | 小計 |
|-----------|-----------------------|------------------------------|-------------------------------|--------|-----|
| 体 幹 | | 側 弯 症 | 矯正術 | 6 | 16 |
| | | 斜 頸 | 切腱術 | 5 | |
| | | 側 弯 症 | その他（ロッド切除、除圧など） | 4 | |
| | | 脊椎疾患（側弯を除く） | 頸椎固定術 など | 1 | |
| 股 関 節 | 先天性股関節脱臼など （麻痺性除く） | | 観血的整復術 | 0 | 27 |
| | | | 大腿骨骨切り術 | 0 | |
| | | | 白蓋形成術（ソルター骨盤骨切り術以外） | 3 | |
| | | | ソルター骨盤骨切り術 | 9 | |
| | ペ ル テ ス 病 | 大腿骨骨きり術 | 3 | | |
| | 大 腿 骨 頭 す べ り | | ピン入れ替え | 2 | |
| | | | ピンニング | 6 | |
| | | 麻痺性股関節脱臼など、先 天性股関節脱臼以外の疾患 | 大腿骨骨切り 骨盤骨切り術など（大腿骨切り合併含む） | 4 2 | |
| 膝 関 節 | 膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼 | 観血整復 | 6 | 7 | |
| | 関節炎、円板状半月板など | 鏡視下手術など | 1 | | |
| 足 部 | 先 天 性 内 反 足 | | アキレス腱皮下切腱術（Ponseti） | 26 | 60 |
| | | | 軟部組織解離術 腱移行術 エバンス手術など | 7 | |
| | 麻 痺 性 変 形（症 候 性） | | 足根骨骨切り（トリプル骨切り術など） | 1 | |
| | | | 軟部組織解離術 腱移行術など | 8 | |
| | | | それ以外の変形矯正（創外固定、骨切り術含む） | 2 | |
| | 垂 直 距 骨 | 変形矯正術など | 4 | | |
| | 下 腿 内 捻 | 下腿回旋骨切り | 5 | | |
| 尖 足 | アキレス腱延長 | 7 | | | |
| 下 肢 | 脚 長 差 変 形 な ど | | 脚延長、変形矯正（創外固定使用） | 9 | 34 |
| | | | 成長抑止術（8プレート） | 11 | |
| | | | 変形矯正（創外固定使用以外） | 1 | |
| | | | ボトックス注射 | 8 | |
| | 足 根 骨 癒 合 症 | 癒合部切除 | 5 | | |
| | 外 脛 骨 | 摘出など | 0 | | |
| 下 肢 変 形 | 矯正、切断など | 0 | | | |
| 上 肢 | 橈 骨 頭 脱 臼 | 観血的整復術 | 1 | 4 | |
| | 上 肢 短 縮 | 上肢骨延長術（上腕、前腕） | 2 | | |
| | 橈 尺 骨 癒 合 症 | 回旋骨切り術 | 1 | | |
| 外 傷 | 上肢骨の骨折脱臼（顎上、外頸など） | 整復固定術 | 29 | 59 | |
| | 下 肢 骨 折 | 整復 固定 | 19 | | |
| | 骨 折 後 偽 関 節 | 骨接合術など | 2 | | |
| | 骨 折 な ど | 鋼線牽引 | 9 | | |
| | 腱 断 裂 , 外 傷 | 腱縫合など | 0 | | |
| 炎 症 ・ 腫 瘍 | 化膿性関節炎 脊椎炎 | 病巣搔爬、洗浄 穿刺 | 2 | 19 | |
| | 腫瘍 骨髓炎,LCH,病態不明など | 生検術 病巣搔爬 | 4 | | |
| | 腫 瘍 | 骨 軟部 | 8 5 | | |
| 手 指 ・ 足 趾 | 多 ・ 合 指（趾）症 | | 余剩指（趾）切除 | 13 | 26 |
| | | | 指（趾）間形成 | 8 | |
| | 手指（足趾含む）変形 | 矯正、骨切り術など | 5 | | |
| そ の 他 | 癒痕拘縮 先天性拘縮 | 形成術 | 0 | 73 | |
| | 剛 直 母 指 | 腱鞘切開 | 5 | | |
| | そ の 他 | | 68 | | |
| | | | | 総数 | |
| 年間手術件数 | | | | 325 | 325 |

検査

| 部位 | 方法 | | |
|---------------|-----------|----|----|
| 股関節 | アルトロ | 13 | 23 |
| 股関節（先天性股関節脱臼） | 牽引後、整復ギプス | 8 | |
| その他 | アルトロ | 2 | |
| | | 23 | |

18. リハビリテーション科

リハビリテーション科が開設されてから1年が経過した。外来、入院ともリハビリのオーダーは順調に増えておりますますの船出と考えている。個別にみると2017年1月にがんリハビリテーションの認可を受け主に血液腫瘍科からのリハビリ対象患者の点数が増加した。集中治療科からはPICU入院患者の早期リハビリ介入を依頼されており人的補充がなされれば積極的に対応したい。運動器リハに関しては脳性麻痺患者のボトックス治療を入院の上行っており今後も患者数は増加するものと考えられる。入院患者のリハビリ対応に追われ外来リハが十分にこなせてない印象があるが二分脊椎の患者などを中心に今後さらに増やしていきたいと考えている。

スタッフ

医師のスタッフとして小林、セラピストのスタッフとして理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士4名の体制で行っている。

| | |
|------------------|---|
| 医師（リハビリテーション科部長） | 1 |
| 理学療法士 | 2 |
| 作業療法士 | 1 |
| 言語聴覚士（非常勤含む） | 5 |
| 計 | 9 |

平成29年度 施設基準別患者数および単位数（平成29年1月～12月）

1. 理学療法

| | 施設基準 | 患者数 | 単位数 |
|----|-----------------|-------|-------|
| 入院 | 脳血管疾患等リハ料(Ⅱ) | 1,627 | 2,150 |
| | 運動器疾患リハ料(Ⅱ) | 567 | 1,070 |
| | 呼吸器疾患リハ料(Ⅰ) | 461 | 617 |
| | 障害児リハ料6歳未満 | 580 | 782 |
| | 障害児リハ料6歳以上18歳未満 | 95 | 170 |
| | 障害児リハ料18歳以上 | 138 | 262 |
| | 廃用症候群リハ料 | 105 | 177 |
| | がんリハ料 | 138 | 228 |
| 外来 | 脳血管疾患等リハ料(Ⅱ) | 142 | 316 |
| | 運動器疾患リハ料(Ⅱ) | 221 | 486 |
| | 呼吸器疾患リハ料(Ⅰ) | 2 | 6 |
| | 障害児リハ料6歳未満 | 227 | 503 |
| | 障害児リハ料6歳以上18歳未満 | 57 | 134 |
| | 障害児リハ料18歳以上 | 2 | 4 |
| 計 | | 4,362 | 6,905 |

2. 作業療法

| | 施設基準 | 患者数 | 単位数 |
|----|-----------------|-------|-------|
| 入院 | 脳血管疾患等リハ料(Ⅱ) | 629 | 1,115 |
| | 運動器疾患リハ料(Ⅱ) | 48 | 90 |
| | 呼吸器疾患リハ料(Ⅰ) | 14 | 25 |
| | 障害児リハ料6歳未満 | 213 | 405 |
| | 障害児リハ料6歳以上18歳未満 | 153 | 300 |
| | 障害児リハ料18歳以上 | 33 | 57 |
| | 廃用症候群リハ料 | 147 | 206 |
| | がんリハ料 | 829 | 1,283 |
| 外来 | 脳血管疾患等リハ料(Ⅱ) | 56 | 132 |
| | 運動器疾患リハ料(Ⅱ) | 20 | 46 |
| | 呼吸器疾患リハ料(Ⅰ) | 0 | 0 |
| | 障害児リハ料6歳未満 | 163 | 364 |
| | 障害児リハ料6歳以上18歳未満 | 11 | 25 |
| | 障害児リハ料18歳以上 | 1 | 4 |
| 計 | | 2,317 | 4,052 |

3. 言語聴覚療法

| | 施設基準 | 患者数 | 単位数 |
|----|-----------------|-------|-------|
| 入院 | 脳血管疾患等リハ料(Ⅱ) | 1,898 | 3,692 |
| | 障害児リハ料6歳未満 | 297 | 540 |
| | 障害児リハ料6歳以上18歳未満 | 91 | 170 |
| | 障害児リハ料18歳以上 | 0 | 0 |
| | 廃用症候群リハ料 | 17 | 29 |
| | がんリハ料 | 198 | 350 |
| 外来 | 脳血管疾患等リハ料(Ⅱ) | 446 | 1,118 |
| | 障害児リハ料6歳未満 | 3 | 5 |
| | 障害児リハ料6歳以上18歳未満 | 0 | 0 |
| | 障害児リハ料18歳以上 | 0 | 0 |
| 計 | | 2,950 | 5,904 |

| 検査名 | 実施件数 |
|----------|------|
| 音声医学的検査 | 57 |
| 発達及び知能検査 | 47 |
| 計 | 104 |

4. 言語聴覚士耳鼻咽喉科関連業務件数

| 検査項目 | 件数 |
|-----------------|-------|
| 高度難聴管理料(その他) | 9 |
| 標準純音聴力検査 | 661 |
| 標準語音聴力検査 | 86 |
| 気道純音聴力検査 | 39 |
| 遊戯聴力検査 | 2,615 |
| 補聴器適合検査 1回目 | 49 |
| 補聴器適合検査 2回目以降 | 425 |
| 発達及び知能検査(容易なもの) | 37 |
| 計 | 3,912 |

診療科別リハビリテーション科処方数

| 診療科 | 入院 | | | 外来 | | |
|----------|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| | PT | OT | ST | PT | OT | ST |
| 臨床遺伝科 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 循環器内科 | 18 | 5 | 15 | 1 | 1 | 4 |
| 腎臓内科 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 神経内科 | 13 | 1 | 7 | 11 | 0 | 3 |
| 血液腫瘍内科 | 100 | 97 | 19 | 3 | 2 | 2 |
| 代謝・内分泌内科 | 2 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 新生児内科 | 95 | 24 | 48 | 14 | 5 | 14 |
| 心臓血管外科 | 5 | 1 | 4 | 0 | 0 | 1 |
| 脳神経外科 | 34 | 34 | 17 | 11 | 7 | 4 |
| 小児外科 | 12 | 3 | 17 | 0 | 0 | 6 |
| 整形外科 | 99 | 3 | 1 | 45 | 29 | 0 |
| 形成外科 | | 1 | 9 | 2 | 4 | 29 |
| 精神科 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 15 |
| リウマチ科 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 耳鼻咽喉科 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 46 |
| 救急科総合診療科 | 28 | 4 | 24 | 8 | 4 | 13 |
| 集中治療科 | 120 | 5 | 91 | 1 | 0 | 0 |
| 小児歯科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 合計 | 528 | 179 | 255 | 102 | 53 | 138 |

19. 眼 科

本年度の眼科医師の異動は以下の通り。1月より産休、育休となった中野由美子専攻医に代わる外来日ヘルプ要員として神戸大学より中村賢和専攻医の派遣を受けた。同専攻医は4月以降、常勤医として留任。4月、福永とも子専攻医が新長田病院に異動、代わって甲南病院より安武博樹専攻医が着任した。

眼科外来では以前から待ち時間の長さが問題となっており、新病院への移転の際に導入された時間枠の設定により幾分の改善にはなったものの、依然、患者家族から不満の声が多い。特に指摘されることは検査室前にある案内ディスプレイが稼働しておらず、待ち時間が見込めないことである。眼科の場合、3診の並診であるが、例外を除いて担当医は当日に決まる。また、検査も科内で行われるものが多い。つまり、他科の様に予約の際に診察医が一例で固定され、当日の検査もブロックを変えて他所の受付を通るという流れではない。このため、そもそも案内ディスプレイに診察の進捗状況を反映させたり、メール案内を送ったりすることはシステム運用上まず不可能とのことである。しかし、この眼科外来の特殊性について患者家族に理解を求めることが本来の対応ではない。そこで、何かしら外来の進み具合を提供出来る様、眼科オリジナルの案内ディスプレイについて候補となる提案を富士通サイドにしておき、回答を待っているところである。

2017年 眼科 新患統計

| 病名 | 新生児 | 乳児 | | 幼児 | | 学童 | | 思春期 | 合計 |
|----------|-----|-------|--------|------|------|------|--------|-------|------|
| | | 1～5ヶ月 | 6～11ヶ月 | 1～3歳 | 4～6歳 | 7～9歳 | 10～12歳 | 13歳以上 | |
| 屈折異常 | 1 | 10 | 45 | 216 | 176 | 91 | 51 | 30 | 620 |
| 弱視 | 0 | 1 | 2 | 37 | 35 | 12 | 3 | 2 | 92 |
| 斜視及び疑い | 1 | 9 | 38 | 167 | 80 | 41 | 22 | 11 | 369 |
| 未熟眼底 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 未熟児網膜症 | 0 | 16 | 4 | 8 | 2 | 2 | 0 | 0 | 32 |
| 眼瞼疾患 | 0 | 11 | 6 | 25 | 26 | 32 | 5 | 6 | 111 |
| 涙器疾患 | 0 | 3 | 3 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 19 |
| 結膜疾患 | 0 | 1 | 1 | 7 | 4 | 7 | 1 | 0 | 21 |
| 角膜・強膜疾患 | 2 | 3 | 1 | 5 | 4 | 3 | 1 | 2 | 21 |
| ブドウ膜疾患 | 1 | 13 | 5 | 5 | 0 | 0 | 2 | 3 | 29 |
| 網膜・硝子体疾患 | 2 | 5 | 6 | 8 | 7 | 1 | 1 | 4 | 34 |
| 水晶体疾患 | 5 | 17 | 5 | 14 | 9 | 1 | 1 | 4 | 56 |
| 眼窩疾患 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 遺伝性疾患 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 視神経・視路疾患 | 0 | 6 | 3 | 29 | 23 | 6 | 7 | 7 | 81 |
| 眼振 | 0 | 0 | 4 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 緑内障 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 3 | 0 | 2 | 14 |
| 外傷 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 症候群 | 1 | 3 | 3 | 4 | 3 | 0 | 1 | 1 | 16 |
| 心因性視力障害 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 | 4 | 1 | 17 |
| 腫瘍 | 0 | 4 | 3 | 13 | 1 | 0 | 0 | 0 | 21 |
| その他 | 2 | 4 | 1 | 4 | 4 | 5 | 3 | 1 | 24 |
| 小計 | 17 | 108 | 133 | 561 | 379 | 217 | 103 | 75 | 1593 |

(2) 入院手術

| | 新生児 | 乳児 | | 幼児 | | 学童 | | 思春期 | 計 |
|-----------|-----|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 斜視 | 0 | 1 | 1 | 30 | 50 | 97 | 66 | 59 | 304 |
| 内反症 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 15 | 12 | 3 | 40 |
| 眼瞼下垂 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 眼瞼・眼窩疾患 | 0 | 2 | 7 | 6 | 4 | 0 | 0 | 0 | 19 |
| 結膜疾患(腫瘍) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 3 |
| 角膜疾患 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 網膜疾患(腫瘍) | 0 | 1 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 硝子体 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 鼻涙管閉鎖及び異常 | 0 | 0 | 0 | 6 | 3 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| 眼瞼形成 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 緑内障 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 0 | 2 | 2 | 13 |
| 白内障 | 0 | 2 | 2 | 6 | 12 | 4 | 3 | 3 | 32 |
| 未熟児網膜症 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 眼球振盪症 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 外傷・検査・その他 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 | 2 | 0 | 1 | 8 |
| 合計 | 0 | 8 | 12 | 52 | 92 | 120 | 83 | 69 | 436 |

(3) 日帰り手術

| | 新生児 | 乳児 | | 幼児 | | 学童 | | 思春期 | 計 |
|-----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 内反症 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 15 | 14 | 5 | 43 |
| 霰粒腫 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 2 | 0 | 2 | 8 |
| 斜視 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | | 1 | 3 | 15 | 18 | 14 | 1 | 6 | 58 |
| 合計 | | | | | | | | | 109 |

2017年 訓練及び検査人数(合計 1536名)

| | |
|-------------|-----------|
| PAT(プリズム検査) | 140名 |
| 視野検査(GP) | 225名 434眼 |
| 視野検査(ハンフリー) | 166名 328眼 |
| PL検査・TAC | 386名 |
| OCT | 546名 |
| ヘス(眼球運動検査) | 17名 |
| 色覚検査 | 46名 |
| 合計 | 1536名 |

20. 耳鼻咽喉科

1. 外来診療

2016年5月より常勤医2人体制となり、外来診療は月曜木曜が大江、火曜金曜は勝沼が終日担当している。週一回言語聴覚士・補聴器技能者ととも補聴器外来を行っている。

新患数は897名、延べ患者数は5434人であった。内訳としては、例年同様、難聴疑い、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、扁桃・アデノイド肥大、言葉の遅れの精査依頼などが多い。新生児聴覚スクリーニング検査の普及（兵庫県での受検率は2012年の68%から2016年86%に上昇）に伴い、聴力精査の乳幼児の受診は相変わらず増加傾向にある。高度難聴のみならず軽中等度難聴児も早期発見されるようになり、乳児期からの補聴器装用開始児が増えてきている。早期からの聴覚支援学校や難聴児通園施設との連携がますます重要となってきた。一方補聴器が安定装用できるようになった年長の感音難聴児の聴覚管理について、地域の医療機関との役割分担が今後の課題である。

聴力図の電子カルテへの登録方法には現時点で適切なものは開発されていない。当院の様に聴力検査件数の多い施設では、診療効率を維持するために電子カルテ導入後も10年以上紙カルテでの聴力検査結果閲覧を続ける施設もある。過去の聴力検査結果の閲覧性をどう確保するかは耳鼻科外来診療の最大の課題である。

2. 手術・入院診療

2017年6月から入院手術枠が偶数週に半日、日帰り手術枠は1週間に約1時間増えた。このため4か月近くになっていた手術待機がかなり解消されてきた。手術症例数は入院と日帰り合計して366例であった。移転に伴い神戸以西からの手術紹介はやや減ったが、阪神間や神戸市東部からの紹介は徐々に増えてきている。年少児の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出術・アデノイド切除術は周術期の呼吸管理が重要であり術後数日間挿管管理を要することも多い。麻酔科・集中治療科・総合診療科各医師と集中系病棟看護スタッフの多大の協力で支えられている。医療安全に十分配慮しつつ手術治療に取り組みたい。

学術活動としては日本耳鼻咽喉科学会総会、日本小児耳鼻咽喉科学会などで発表を行った。地域貢献としては、兵庫県新生児聴覚検査専門家会議の委員として会議に参加、神戸地区耳鼻咽喉科医会、伊丹市医師会などの学術講演会で講演を行った。

入院手術（併施含む）

| | |
|------------------|-----|
| 扁桃摘出術 | 88 |
| アデノイド切除術 | 86 |
| 鼓膜チューブ挿入術 | 39 |
| 鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術 | 4 |
| 鼻副鼻腔内視鏡手術 | 4 |
| 喉頭微細手術 | 2 |
| 膿瘍切開排膿 | 2 |
| 鼻涙管チューブ挿入（眼科と共同） | 7 |
| その他 | 13 |
| 合計症例数（他科入院22名含） | 146 |

日帰り手術（併施を含む）

| | |
|---------------|-----|
| 鼓膜チューブ挿入術 | 205 |
| 鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術 | 7 |
| 鼓膜肉芽切除術、鼓膜切開等 | 17 |
| 口唇粘液嚢胞摘出 | 2 |
| 舌小帯形成術 | 4 |
| 合計症例数 | 220 |

3. 言語聴覚療法について

【人員】

言語聴覚士（以下、ST）は正規職員4名であったが、11月より1名が産育休を取得し、年度途中から3名体制となった。平成28年5月の移転に伴い、STの所属はリハビリテーション科となったが、耳鼻科診察日は予約状況に応じ1～2名が外来業務に従事した。

【主な業務】

耳鼻科外来では①聴力検査、②補聴器外来を行った。健診でことばの遅れが指摘された児についてはその場で医師がリハビリテーション科のST処方を出し、耳鼻科外来で対応した。

【業務詳細】

①聴力検査

一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などをケースに合わせて実施している。さまざまな検査の結果、補聴器適応となれば、補聴器外来での予約をとるよう勧めている。

②補聴器外来

週一度実施している。新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、早期からの補聴器装着ケースが増えているのにくわえ、これまで補聴器装用を勧めてこなかった軽度の難聴であっても学習面での困難さが指摘されるようになり、補聴器適応となる患者は増加傾向にある。各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、親への心理面を含めたサポート、難聴児通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

表1【H29年聴力検査件数】

| 検査項目 | 件数（件） |
|----------------|-------|
| 標準純音聴力検査 | 661 |
| 標準語音聴力検査 | 86 |
| 気導純音聴力検査 | 39 |
| 遊戯聴力検査 | 2615 |
| 補聴器適合聴力検査1回目 | 49 |
| 補聴器適合聴力検査2回目以降 | 425 |
| 計 | 3875 |

2017年 耳鼻咽喉科新患集計 紹介元別内訳

| | 症例数 | 院内 | 耳鼻科 | 小児科 | 産科 | 健診 | 聾学校 | その他 | なし |
|-------------------|------|-----|------|-----|----|----|-----|-----|----|
| 言語発達遅滞 | 110 | 26 | 58 | 13 | | 13 | | | |
| 構音障害 | 38 | 10 | 21 | 5 | | 2 | | | |
| 発達遅滞 | 4 | 2 | 2 | | | | | | |
| ダウン症 | 17 | 11 | 3 | 2 | 1 | | | | |
| 自閉症 | 11 | 1 | 5 | 3 | | 2 | | | |
| 耳介奇形・小耳症 | 9 | | 2 | 3 | 4 | | | | |
| 外耳道閉鎖・狭窄 | 10 | 1 | 4 | 1 | 4 | | | | |
| 先天性耳ろう孔 | 7 | | 4 | 2 | | 1 | | | |
| 外耳道損傷 | 5 | 5 | | | | | | | |
| 外耳炎 | 8 | 6 | 2 | | | | | | |
| 耳垢栓塞 | 22 | 15 | 2 | 4 | | 1 | | | |
| 急性中耳炎 | 30 | 16 | 11 | 3 | | | | | |
| 反復性中耳炎 | 10 | 7 | 3 | | | | | | |
| 滲出性中耳炎 | 237 | 53 | 156 | 17 | 1 | 7 | 1 | 2 | |
| 慢性中耳炎 | 13 | 4 | 8 | 1 | | | | | |
| 真珠腫性中耳炎 | 3 | | 2 | 1 | | | | | |
| 癒着性中耳炎 | 1 | | 1 | | | | | | |
| 先天性難聴(疑い含む) | 97 | 36 | 17 | 17 | 24 | 3 | | | |
| ムンプス難聴(疑い含む) | 3 | | 3 | | | | | | |
| 心因性難聴 | 30 | 3 | 26 | 1 | | | | | |
| 突発性難聴 | 3 | | 3 | | | | | | |
| 高音障害型難聴 | 3 | 1 | 2 | | | | | | |
| 低音障害型難聴 | 3 | | 3 | | | | | | |
| 難聴 | 237 | 84 | 116 | 18 | 3 | 15 | 1 | | |
| 難聴(疑) | 199 | 33 | 138 | 18 | 3 | 5 | | 2 | |
| 後迷路性難聴 | 4 | 2 | 1 | | 1 | | | | |
| 内耳奇形 | 33 | 1 | 27 | 2 | 3 | | | | |
| 中耳奇形 | 2 | | 2 | | | | | | |
| めまい | 14 | 8 | 4 | 1 | | | | 1 | |
| 顔面神経麻痺・顔面痙攣・下口唇麻痺 | 10 | 6 | 1 | 2 | | 1 | | | |
| 慢性鼻・副鼻腔炎・後鼻孔ポリープ | 112 | 35 | 61 | 15 | | | 1 | | |
| 急性鼻・副鼻腔炎 | 22 | 19 | 2 | 1 | | | | | |
| アレルギー性鼻炎 | 103 | 20 | 61 | 20 | | 1 | | 1 | |
| 鼻出血 | 11 | 8 | 2 | 1 | | | | | |
| 鼻腔異物 | 4 | 4 | | | | | | | |
| 鼻咽腔閉鎖不全 | 2 | 2 | | | | | | | |
| 後鼻孔閉鎖・狭窄/鼻腔狭窄 | 4 | 2 | 2 | | | | | | |
| 鼻骨骨折・顔面外傷 | 3 | | 2 | 1 | | | | | |
| アデノイド肥大 | 218 | 27 | 149 | 35 | 1 | 2 | 1 | 3 | |
| 扁桃肥大 | 147 | 17 | 98 | 28 | | 1 | | 3 | |
| 扁桃炎 | 18 | 2 | 9 | 6 | 1 | | | | |
| 睡眠時無呼吸症候群 | 158 | 17 | 102 | 33 | 1 | 2 | | 3 | |
| 咽頭外傷 | 5 | 3 | | 2 | | | | | |
| 舌腫瘍 | 2 | 1 | | | 1 | | | | |
| 口唇粘液のう胞 | 4 | | 2 | 2 | | | | | |
| 舌小帯短縮症 | 7 | 1 | 3 | 1 | | 2 | | | |
| がま腫 | 1 | | 1 | | | | | | |
| 耳下腺炎・顎下腺炎 | 2 | 1 | 1 | | | | | | |
| 耳下腺腫瘍・顎下腺腫瘍 | 3 | 1 | | 2 | | | | | |
| 頸部腫瘍・頸部膿瘍 | 4 | | 1 | 3 | | | | | |
| 咽・喉頭異物 | 8 | 7 | 1 | | | | | | |
| 喉頭軟化症 | 56 | 47 | 2 | 7 | | | | | |
| 反回神経麻痺 | 48 | 45 | 2 | 1 | | | | | |
| 声帯ポリープ・喉頭肉芽 | 14 | 7 | 4 | 3 | | | | | |
| 先天性声門下狭窄 | 5 | 4 | | 1 | | | | | |
| 急性声門下喉頭炎 | 2 | 2 | | | | | | | |
| 嚥下障害 | 37 | 34 | 1 | | | | | 2 | |
| 正中頸のう胞・側頸のう胞 | 3 | | 3 | | | | | | |
| 舌根のう胞・喉頭蓋のう胞 | 1 | 1 | | | | | | | |
| 喉頭浮腫 | 6 | 3 | 1 | 2 | | | | | |
| 頸部リンパ節炎 | 8 | 4 | 2 | 2 | | | | | |
| 感染症チェック | 46 | 45 | | | | | | 1 | |
| 新スク後精密検査 | 69 | 22 | 12 | 13 | 22 | | | | |
| 合計症例数(重複計上) | 2306 | 712 | 1151 | 293 | 70 | 58 | 4 | 18 | |
| 新患数(重複除く) | 897 | | | | | | | | |

21. 泌尿器科

2017年3月に賀來泰大が退職し、4月に大饗政嗣、武中良大が入職したので、2017年度は4人体制（杉多、大饗、春名、武中）で診療を行った。

外来新規・再診患者数は病院移転の影響がなくなり、昨年よりも増加した。第2・第4金曜午後と月曜日午後の新たな手術枠を有効に使用することにより、入院手術件数は飛躍的に増加した。この新たな手術枠は、手術待機患者の増加を防止するのに有効であると考えている。2018年度は5人体制で診療を行う予定なので、2017年度と同様あるいはそれ以上の診療実績を目指すとともに、懸案となっている外来待ち時間の短縮など患者サービスの向上に努めたい。

国外学会では、Korean and Japanese Society of Pediatric Urologists（ソウル）で春名が口演、Asia-Pacific Association of Pediatric Urologists（ジョグジャカルタ）で杉多が口演、大饗がポスター発表を行った。国内学会では、RN フォーラム（名古屋）、日本泌尿器科学会総会（鹿児島）、日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会（東京）、日本小児泌尿器科学会総会（名古屋）、日本泌尿器内視鏡学会総会（徳島）、日本泌尿器科学会中部総会（大阪）において、当科の手術成績等を発表した。

2018年度も高度かつ安全・安心な医療を心がけるとともに、積極的に学術活動を行いたい。（杉多記）

2017年度 手術実績 474
 尿路系

| | |
|-------------|-----|
| VUR手術（開腹） | 49 |
| VUR手術（気膀胱） | 4 |
| デフラックス注入 | 4 |
| 膀胱尿管新吻合 | 5 |
| 尿管カテーテル抜去 | 28 |
| 腎盂形成 | 5 |
| 腹腔鏡下腎盂形成 | 12 |
| 腹腔鏡下腎摘出 | 2 |
| 内視尿道切開 | 7 |
| 腎瘻造設 | 3 |
| 内視鏡（膀胱鏡・膣鏡） | 9 |
| 膀胱瘻造設 | 2 |
| 膀胱結石摘除 | 11 |
| 尿管瘤切除 | 3 |
| その他 | 6 |
| 計 | 150 |

性器系

| | |
|---------------------|-----|
| 尿道下裂形成 | 60 |
| 陰茎形成 | 13 |
| 精巣固定 | 148 |
| 精巣捻転 | 8 |
| 停留精巣摘除 | 9 |
| 腹腔鏡下精巣血管結紮（F-S1 期目） | 2 |
| 腹腔鏡下精巣固定術（F-S 2 期目） | 1 |
| 陰嚢水腫根治術 | 16 |
| ヘルニア手術 | 7 |
| 包皮形成術 | 10 |
| 包茎手術 | 15 |
| 尿道下裂瘻孔閉鎖 | 8 |
| 陰嚢形成 | 5 |
| 陰茎腫瘤摘除 | 1 |
| 精巣腫瘍核出 | 2 |
| 顕微鏡下精巣静脈低位結紮術 | 12 |
| 膣形成 | 3 |
| 膣切開 | 4 |
| 計 | 324 |

| | |
|-----|-----|
| 入院 | 307 |
| 日帰り | 167 |

22. 小児歯科

診療内容として、全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に院内において先天性の疾患を有する患児に対しては低年齢（乳前歯萌出時期）からの定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っている。また、周術期における口腔管理が保険に組み込まれ数年たち周知されたことにより、歯科衛生士による周術期口腔ケア介入症例は増加傾向にあり、週に1度、歯科衛生士による病棟ラウンドを行っている。一方、摂食嚥下外来については現在休診中である。

人事面に変わりはなく、小児歯科は常勤歯科医師一名（曾根由美子）の体制をとっており、育児短時間勤務中であつたため、外来診療は本郷孝子歯科医師、石原順子歯科医師による応援診療を必要とした。

| 新患内訳 (2017) | | 院内紹介 | 院外紹介 | | 紹介なし | 計 |
|-------------|---------|------|------|----|------|-----|
| | | | 歯科 | 医科 | | |
| 小児歯科関連 | 口腔内検診希望 | 32 | 4 | 0 | 2 | 38 |
| | 齲蝕 | 8 | 36 | 0 | 0 | 44 |
| | 乳歯晚期残存 | 4 | 3 | 0 | 0 | 7 |
| | 先天性歯 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| | その他 | 10 | 1 | 1 | 0 | 12 |
| 矯正歯科関連 | 不正咬合 | 6 | 5 | 0 | 0 | 11 |
| | 術前顎矯正 | 6 | 1 | 0 | 0 | 7 |
| 口腔外科関連 | 外傷 | 7 | 5 | 1 | 0 | 13 |
| | 埋伏歯・過剰歯 | 2 | 6 | 0 | 0 | 8 |
| 周術期口腔機能管理 | | 40 | 0 | 0 | 0 | 40 |
| その他（小児歯科以外） | | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 計 | | 118 | 61 | 3 | 2 | 184 |

| 全身麻酔下処置 | 歯科単独 | 他科合同 | 計 |
|---------|------|------|----|
| 入院手術 | 0 | 5 | 5 |
| 外来手術 | 20 | 0 | 20 |
| 計 | 20 | 5 | 25 |

23. 麻酔科

1. 2017年の人事異動

常勤医として鹿原医師が青森県立中央病院から、神戸大学から廣瀬医師が赴任した。両名とも以前当院に勤務しており、即戦力であるとともに、麻酔科診療の質の向上への寄与を期待したい。

兵庫県立粒子線センター附属神戸陽子線センターの開院にともない、当院で勤続23年になる鈴木医師が同院の部長として異動した。彼は照井克生前麻酔科部長の時から当院の麻酔科診療の主軸として活躍し、その豊富な経験により多くの麻酔科医の育成に携わった。陽子線センターは隣の施設であり、当院の入院患者が治療対象となることから、今後も情報交換、情報共有を行い、一体となって診療を行っていきたいと考えている。また同時期に常勤医の森医師が京都医療センターに転出した。彼女も2年7か月にわたり臨床業務および後進の教育に熱心に取り組んでいただいたことに感謝したい。

各大学所属医師の異動としては、神戸大学からは山脇医師、辰巳医師が転入し、横田医師は麻酔科研修後に当院の集中治療科にて3か月の短期研修を行った。香川大学からは小川医師、黒田健司医師を迎えた。大阪市大から桑田医師、大阪医大から北埜医師を迎えた。兵庫医大から金子医師を迎えた。中央市民病院から山村医師を迎えた。また、兵庫県立病院麻酔科総合研修システムにおいては黒田光朗医師、田中医師、秋泉医師、山口医師、松本医師の異動があった。

公募採用医師は、奈良医大から神頭医師を、名古屋市立大学から長谷川医師を迎えた。小児科医師の短期研修として、当院小児科から大野医師、中央市民病院から根津医師を迎えた。

2017年12月の時点では香川、高辻、大西、池島、鹿原、末田、藤原、廣瀬、飯塚、神頭、長谷川、北埜、桑田、松本、黒田、山脇、秋泉、辰巳、金子が従事している。

2. 活動状況と反省

2017年は、下記4点が麻酔科および手術室の重要活動事項となった。

1、手術枠増枠

新病院への移転により手術室数が増えたこと、手術枠の増枠を希望する診療科があることから、手術室運営委員会での協議を経て、6月からの手術枠増枠に対応した。結果として平日日勤帯に手術をより多く入れることができるようになり、予定手術が増加したとともに、緊急手術の受け入れもスムーズになった。

2、PACU(Post Anesthesia Care Unit)開始

術後のリカバリーであるPACUで、患者が十分覚醒し、状態が安定していることを確認してから病棟に帰室するという運用を開始した。麻酔からの覚醒後に発生しやすい興奮や疼痛に対しては手術室内で迅速に対応することができ、麻酔の安全性、快適性が向上した。

3、シアトル小児病院研修

末田医師が5～6月にシアトル小児病院で短期研修を行った。米国の小児麻酔を当院にフィードバックすることができたとともに、米国での寄付文化について情報収集し、当院での報告会で発表し好評を得ることができた。

4、小児麻酔学会の準備

2018年10月20日(土)21日(日)に当院麻酔科が日本小児麻酔学会第24回大会を主幹することになっており、その準備の一環として学会活動、学術活動に当科一体となって取り組んでいる。

3. 展望

PACUの開始に当たっては看護部の多大な協力をいただき、現在では看護部が主体となって運営していることにこの場を借りて感謝したい。PACUによるメリットを明らかにし、エビデンスとして訴えていきたい。また病院機能評価も見据えて、各種運用やマニュアルを見直し、安全性のさらなる向上を求めていきたいと考えている。

2018年10月の日本小児麻酔学会第24回大会の準備を鋭意進めていく予定である。麻酔科医はもちろん小児医療・手術に関わる医療従事者の交流や情報交換のチャンスであり、こうした機会を通じて当院のみならず広く小児麻酔の安全性や質の向上に寄与できると確信している。

4. 麻酔科 診療統計

年間総麻酔件数は4646件です。

麻酔法の内訳としては全身麻酔(主に小児)が4511件、脊椎麻酔・硬膜外麻酔(産科)が134件、その他1件でした。

場所の内訳として、手術室内で行われた麻酔は4067件(うちアンギオ室326件、日帰り手術873件)、手術室外で行われた麻酔は579件(うちMRI検査20件、病棟での麻酔531件)でした。

年齢の区分では、新生児症例(生後1ヵ月未満)が119件、乳児症例(生後1ヶ月以上1才未満)が609件と全体の16%を占めています。

診療統計

総麻酔件数(麻酔科管理症例数) 2017.1.1 ~ 12.31

| |
|--------|
| 4646 件 |
|--------|

麻酔の場所による内訳

| | |
|------|------|
| OPE1 | 257 |
| OPE2 | 385 |
| OPE3 | 379 |
| OPE4 | 647 |
| OPE5 | 565 |
| OPE6 | 444 |
| OPE7 | 147 |
| OPE8 | 107 |
| OPE9 | 810 |
| アンギオ | 326 |
| MRI | 20 |
| X-TV | 28 |
| 病棟 | 531 |
| 合計 | 4646 |

麻酔法による内訳

| | |
|-----------------------|------|
| A.全身麻酔(吸入) | 2035 |
| B.全身麻酔(TIVA) | 1807 |
| C.全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻 | 352 |
| D.全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻 | 317 |
| E.脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA) | 3 |
| F.硬膜外麻酔 | 0 |
| G.脊髄くも膜下麻酔 | 131 |
| H.伝達麻酔 | 1 |
| X.その他 | 0 |
| 合計 | 4646 |

年齢別内訳

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|-----------|------|------|------|
| A. ~ 1ヶ月 | 63 | 56 | 119 |
| B. ~ 12ヶ月 | 369 | 240 | 609 |
| C. ~ 5歳 | 1175 | 738 | 1913 |
| D. ~ 18歳 | 1020 | 774 | 1794 |
| E. ~ 65歳 | 30 | 181 | 211 |
| F. ~ 85歳 | 0 | 0 | 0 |
| G.86歳~ | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 2657 | 1989 | 4646 |

24. 新生児内科

1. 医師の異動

前年より引き続いて武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人が在任した。中尾秀人周産期医療センター長は4月より病院長に就任し、病院全体の代表としての業務が中心となった。他施設NICUより新生児専門医、横田知之医師がスタッフとして着任し豊富な経験に基づき即戦力、および指導医として活躍している。大久保沙紀医師とフェローの生田寿彦医師は神戸大学小児科に帰局した。秋田大輔医師は出身地近くのNICUに異動した。フェローとして李進剛医師および山内貴未医師は引き続き勤務した。新たに片岡大医師がフェローに加わり新生児専門医をめざした研修を開始した。岡山大学産婦人科より大平安希子医師が6ヶ月間の予定で新生児管理研修を開始している。ローテート専攻医（後期研修医）として大野茜子、土井圭、大西理史、西村明紘、幸伏寛和、飯塚理各医師が3か月ずつ研修をおこなった。

当科の特徴として女性医師も活躍できる診療体制をめざしているが、産休、育休、育児とのライフワークバランスという現実の課題に直面している。総合周産期母子医療センターとしての24時間365日の診療業務とフェロー、専攻医の研修教育という当施設に課せられた使命を全うするにはスタッフの負担はやはり過剰と言わざるをえず、持続可能な診療教育体制の確保が急務である。

2. 診療活動

新生児病棟の診療統計は別表の通りである。前年の移転に伴う診療制限解除から、徐々に入院患者数の回復がみられた。

最重症先天性横隔膜ヘルニア2例に対して、NICU内手術室での早期根治術および引き続き膜型人工肺療法施行により救命することができた。新病院での新たな取り組みである最重症児NICU内手術が軌道にのりつつある。

急性期以降も医療的ケアを必要とする児の継続的管理については、円滑な在宅医療への移行、外来での療育支援体制充実のため、総合診療科の協力を得て、早期に新生児病棟から当該病棟へ橋渡しする体制が確立しつつある。その結果、新生児病棟で1年を超える長期入院例の新規発生はなくなり、新生児患者受け入れにおいて余裕のある対応が可能になった。

3. 研究学会活動

日常診療における疑問の解決、稀な疾患管理、治療法の工夫などを臨床研究として医療チーム全体で取り組んでいる。それらの結果は順次、国内外の多くの学会で発表をおこなっており、日常診療の限られた時間の中で論文化し当院での成果を世界に発信する努力を続けている。

2017 年新生児科統計

I. 新生児病棟統計

1) 月別入院数

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 50 | 34 | 27 | 27 | 42 | 39 | 48 | 37 | 40 | 41 | 46 | 44 | 475 |

2) 診療科別入院数

| | |
|--------|-----|
| 新生児科入院 | 474 |
| 集中治療科 | 1 |

| | |
|-----------|----|
| 新生児科からの転科 | 44 |
| 集中治療科 | 27 |
| 循環器内科 | 8 |
| 総合診療科 | 2 |
| 小児外科 | 2 |
| 血液腫瘍科 | 3 |
| 脳神経外科 | 1 |
| 整形外科 | 1 |

3) 入院形態と紹介医療機関地域

| | | 神戸 | 阪神南 | 阪神北 | 東播磨 | 中播磨 | 西播磨 | 北播磨 | 淡路 | 丹波 | 但馬 | 県外 |
|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 院外出生 | 175 | 127 | 3 | 1 | 26 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 |
| 一次搬送 (14日以上) | 127 | 102 | 2 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 |
| 二次搬送 | 48 | 25 | 1 | 1 | 6 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 4 | 8 |
| 院内出生 | 300 | 196 | 14 | 0 | 42 | 2 | 0 | 8 | 12 | 3 | 8 | 15 |
| 緊急母体 | 84 | 56 | 6 | 0 | 11 | 0 | 0 | 4 | 6 | 0 | 1 | 0 |
| 非緊急母体 | 216 | 140 | 8 | 0 | 31 | 2 | 0 | 4 | 6 | 3 | 7 | 15 |
| 院内出生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日齢14未満一次搬送+院内出生 | 427 | 298 | 16 | 0 | 62 | 2 | 0 | 8 | 14 | 3 | 8 | 16 |

II. 新生児科統計

対象：新生児科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生426症例，転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

| 出生体重 | 患者数 | 院内 | 率 | 帰院 | 産科 |
|---------------|-----|-----|-------|----|----|
| 500 g 未満 | 2 | 2 | 100% | 0 | 0 |
| 500-749 g | 10 | 10 | 100% | 0 | 0 |
| 750-999 g | 16 | 16 | 100% | 0 | 0 |
| 1,000-1,499 g | 41 | 40 | 97.6% | 3 | 0 |
| 1,500-1,999 g | 49 | 45 | 91.8% | 1 | 0 |
| 2,000-2,499 g | 79 | 61 | 77.2% | 7 | 13 |
| 2,500 g 以上 | 229 | 125 | 54.6% | 16 | 58 |
| 計 | 426 | 299 | 70.2% | 27 | 71 |

| 週数 | 患者数 | 院内 | 率 | 帰院 | 産科 |
|--------|-----|-----|-------|----|----|
| 22, 23 | 9 | 9 | 100% | 0 | 0 |
| 24, 25 | 5 | 5 | 100% | 0 | 0 |
| 26, 27 | 11 | 10 | 90.9% | 0 | 0 |
| 28, 29 | 21 | 21 | 100% | 3 | 0 |
| 30, 31 | 28 | 28 | 100% | 0 | 0 |
| 32, 33 | 16 | 16 | 100% | 0 | 0 |
| 34-36 | 74 | 60 | 81.1% | 4 | 9 |
| 37以上 | 262 | 150 | 57.3% | 20 | 62 |
| 計 | 426 | 299 | 70.2% | 27 | 71 |

2) 分娩方法・出生前ステロイド

| 出生体重 | 患者数 | 帝切 | 率 | ANS | 率 |
|---------------|-----|-----|-------|-----|------|
| 500 g 未満 | 2 | 0 | 0% | 2 | 100% |
| 500-749 g | 10 | 5 | 50.0% | 4 | 40% |
| 750-999 g | 16 | 13 | 81.3% | 12 | 75% |
| 1,000-1,499 g | 41 | 33 | 80.5% | 18 | 44% |
| 1,500-1,999 g | 49 | 32 | 65.3% | 19 | 39% |
| 2,000-2,499 g | 79 | 49 | 62.0% | 8 | 10% |
| 2,500 g 以上 | 229 | 71 | 31.0% | 3 | 1% |
| 計 | 426 | 203 | 47.7% | 66 | 15% |

| 週数 | 患者数 | 帝切 | 率 | ANS | 率 |
|--------|-----|-----|-------|-----|-----|
| 22, 23 | 9 | 2 | 22.2% | 6 | 67% |
| 24, 25 | 5 | 4 | 80.0% | 2 | 40% |
| 26, 27 | 11 | 7 | 63.6% | 9 | 82% |
| 28, 29 | 21 | 17 | 81.0% | 9 | 43% |
| 30, 31 | 28 | 24 | 85.7% | 19 | 68% |
| 32, 33 | 16 | 9 | 56.3% | 9 | 56% |
| 34-36 | 74 | 44 | 59.5% | 9 | 12% |
| 37以上 | 262 | 96 | 36.6% | 3 | 1% |
| 計 | 426 | 203 | 47.7% | 66 | 15% |

3) 生存率, 死亡率

| 出生体重 | 患者数 | 死亡数 | 生存率 |
|---------------|-----|-----|-------|
| 500 g 未満 | 2 | 0 | 100% |
| 500-749 g | 10 | 2 | 80.0% |
| 750-999 g | 16 | 0 | 100% |
| 1,000-1,499 g | 41 | 2 | 95.1% |
| 1,500-1,999 g | 49 | 0 | 100% |
| 2,000-2,499 g | 79 | 0 | 100% |
| 2,500 g 以上 | 229 | 0 | 100% |
| 計 | 426 | 4 | 99.1% |

| 週数 | 患者数 | 死亡数 | 生存率 |
|--------|-----|-----|-------|
| 22, 23 | 9 | 2 | 77.8% |
| 24, 25 | 5 | 0 | 100% |
| 26, 27 | 11 | 2 | 81.8% |
| 28, 29 | 21 | 0 | 100% |
| 30, 31 | 28 | 0 | 100% |
| 32, 33 | 16 | 0 | 100% |
| 34-36 | 74 | 0 | 100% |
| 37 以上 | 262 | 0 | 100% |
| 計 | 426 | 4 | 99.1% |

4) 多胎割合 (品胎 0 組)

| 出生体重 | 患者数 | 多胎 | 率 | 品胎 |
|---------------|-----|----|-------|----|
| 500 g 未満 | 2 | 2 | 100% | 0 |
| 500-749 g | 10 | 2 | 20.0% | 0 |
| 750-999 g | 16 | 1 | 6.3% | 0 |
| 1,000-1,499 g | 41 | 15 | 36.6% | 0 |
| 1,500-1,999 g | 49 | 13 | 26.5% | 0 |
| 2,000-2,499 g | 79 | 26 | 32.9% | 0 |
| 2,500 g 以上 | 229 | 11 | 4.8% | 0 |
| 計 | 426 | 70 | 16.4% | 0 |

| 週数 | 患者数 | 多胎 | 率 | 品胎 |
|--------|-----|----|-------|----|
| 22, 23 | 9 | 2 | 22.2% | 0 |
| 24, 25 | 5 | 2 | 40.0% | 0 |
| 26, 27 | 11 | 0 | 0.0% | 0 |
| 28, 29 | 21 | 7 | 33.3% | 0 |
| 30, 31 | 28 | 11 | 39.3% | 0 |
| 32, 33 | 16 | 2 | 12.5% | 0 |
| 34-36 | 74 | 26 | 35.1% | 0 |
| 37 以上 | 262 | 20 | 7.6% | 0 |
| 計 | 426 | 70 | 16.4% | 0 |

5) 人工呼吸管理の割合

| 出生体重 | 患者数 | MV | 率 | HFO | CPAP |
|---------------|-----|----|-------|-----|------|
| 500 g 未満 | 2 | 2 | 100% | 2 | 2 |
| 500-749 g | 10 | 10 | 100% | 8 | 8 |
| 750-999 g | 16 | 12 | 75% | 5 | 16 |
| 1,000-1,499 g | 41 | 27 | 65.9% | 6 | 30 |
| 1,500-1,999 g | 49 | 10 | 20.4% | 1 | 24 |
| 2,000-2,499 g | 79 | 9 | 11.4% | 2 | 16 |
| 2,500 g 以上 | 229 | 28 | 12.2% | 6 | 38 |
| 計 | 426 | 98 | 23.0% | 30 | 134 |

| 週数 | 患者数 | MV | 率 | HFO | CPAP |
|--------|-----|----|-------|-----|------|
| 22, 23 | 9 | 9 | 100% | 7 | 7 |
| 24, 25 | 5 | 5 | 100% | 5 | 5 |
| 26, 27 | 11 | 10 | 90.9% | 3 | 9 |
| 28, 29 | 21 | 16 | 76.2% | 6 | 20 |
| 30, 31 | 28 | 15 | 53.6% | 1 | 24 |
| 32, 33 | 16 | 2 | 12.5% | 1 | 13 |
| 34-36 | 74 | 11 | 14.9% | 1 | 16 |
| 37 以上 | 262 | 30 | 11.5% | 6 | 40 |
| 計 | 426 | 98 | 23.0% | 30 | 134 |

6) 特殊治療

| | | | |
|----------|-----------------|-------------|-----|
| PDA 閉鎖術 | 22例 (+ 二次搬送 6例) | 生後ステロイド全身投与 | 34例 |
| NO 吸入療法 | 26例 | ステロイド吸入 | 1例 |
| NICU 内手術 | 2例 | 在宅酸素療法 | 12例 |
| ECMO | 2例 | ROP レーザー | 3例 |
| CHDF | 3例 | | |
| PD | 0例 | | |

7) 新生児搬送出動回数 113 回

| | | |
|-----|----|----------|
| 入院 | 89 | (へり 2 回) |
| 転院 | 23 | |
| 非搬送 | 1 | |

| | |
|-------|----|
| 分娩立合い | 0 |
| 時間外搬送 | 33 |
| 計 | 37 |

8) 多胎生存率, 死亡率

| 出生体重 | 患者数 | 死亡数 | 生存率 | 品胎 |
|---------------|-----|-----|------|----|
| 500 g 未満 | 2 | 0 | 100% | 0 |
| 500-749 g | 2 | 0 | 100% | 0 |
| 750-999 g | 1 | 0 | 100% | 0 |
| 1,000-1,499 g | 15 | 0 | 100% | 0 |
| 1,500-1,999 g | 13 | 0 | 100% | 0 |
| 2,000-2,499 g | 26 | 0 | 100% | 0 |
| 2,500 g 以上 | 11 | 0 | 100% | 0 |
| 計 | 70 | 0 | 100% | 0 |

| 週数 | 患者数 | 死亡数 | 生存率 |
|--------|-----|-----|------|
| 22, 23 | 2 | 0 | 100% |
| 24, 25 | 2 | 0 | 100% |
| 26, 27 | 0 | 0 | — |
| 28, 29 | 7 | 0 | 100% |
| 30, 31 | 11 | 0 | 100% |
| 32, 33 | 2 | 0 | 100% |
| 34-36 | 26 | 0 | 100% |
| 37 以上 | 20 | 0 | 100% |
| 計 | 70 | 0 | 100% |

25. 産科

産科は総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦のみを受け入れる紹介型医療施設です。病床はMFICU（母体胎児集中治療室）6床を含めて32床です。LDR 1室、侵襲的検査処置室（羊水穿刺、羊水除去、胎児胸水穿刺、胎児胸腔・羊水腔シャント留置術等を施行する処置室）1室、陣痛室1室、分娩室2室あり、外来と病棟が隣接しています。また、産科専用手術室1室を有し、4D超音波断層装置が4台あり、2人当直制を行っています（第2当直は本来院外医師が担当することになっていましたが、最近では応募者不足のため、第1当直に加えて第2当直の約30%も院内医師が担当しています）。そして、「近畿ブロック周産期医療広域連携事業」における兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送にも対応しています。

入院理由の上位は切迫早産、胎児形態異常、胎児発育不全、前期破水、多胎です。高年妊娠の増加（2017年：126例）に伴い2005年頃から羊水検査が増加していましたが、NIPT（新型出生前診断）導入に伴い最近では減少しました（2017年：18例）。なお、当院はNIPT実施施設ではありませんので希望者には実施施設である神戸大学病院、兵庫医大病院等をご紹介します。

2017年の臨床統計は昨年より入院患者数、分娩数、帝切数等において増加しましたが（昨年は病院移転に伴う診療制限があった）、本邦の出生数の減少（2017年94.1万人）と当院の須磨区からポートアイランドへの移転に伴う西区、垂水区、須磨区からの紹介患者の減少のため一昨年に比べると減少しています。緊急母体搬送受け入れ数は増加していました。

2017年臨床統計：分娩数274（22週未満の単胎1例の死産含む）、出産児数310、生産児数301、死産児数9、多胎36（DD双胎19、MD双胎15、MM双胎2、品胎0）、帝切数145（率53.1%）、早産数133（率48.7%）、出生体重1,000g未満の児数27（率8.9%）。病床稼働率73.1%、緊急母体搬送の受け入れ133件（受け入れ率89.3%）。

当院は兵庫県の総合周産期母子医療センターとして診療レベルの維持・向上に努め、また、空床がある限り母体搬送入院を受け入れております。

2016年から母体搬送依頼直通電話（母体搬送ホットライン）を開設しております。また、胎児機能不全等の適応があれば手術決定から15分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行なっています。2017年の超緊急帝切は2件でした。2年で産科の教科書に出てくるほとんどの症例を経験できます。当院は「周産期新生児医学会専門医制度」の母体胎児研修の基幹施設であり周産期新生児医学会専門医を育成しています。牧志 綾医長と森下 紀医長が日本周産期新生児医学会専門医（母体・胎児）に合格しました。船越が兵庫県医師会設立70周年記念式・祝賀パーティーにて「永年在任本会委員会委員10年」にて表彰をいただきました。

12月9日に兵庫県医師会館で「平成29年度兵庫県周産期医療研修会」を開催し、妊娠高血圧学会常任理事、パルモア病院院長の山崎峰夫先生に「最近の妊娠高血圧症候群の話題 - PIHからHDPへ」の特別講演をいただきました。妊娠高血圧症候群の最近の話題と定義変更について講演していただきました。

神戸赤十字病院から橋本黎、浅田裕也、猿渡和也、村上篤志、丸口彩、角森雅樹（敬称略）の6名が臨床研修医（2年目）として1か月ずつ産科の研修を行いました。1ヶ月という短い期間ですが、大学病院のBSLでは経験できない貴重な研修ができたことと思います。

放射線科医師と胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、その後の経過を検討する「MRIカンファレンス」を11月に開催しました。報告書からだけでは伺えないMRIの読み方について研修することができます。

毎週金曜朝に英文雑誌の抄読会を行っています（毎年約 40 回開催）。

学会活動を奨励しています（研究業績参照）。

当科はこども病院に併設された周産期母子医療センターですので、他科のベッドを借りることができません。従って、当科が満床となれば搬送依頼をお断りし、他院を紹介せざるを得ないこともあります。そのため、病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。2017 年のバックトランスファー（紹介元へ戻れた方）は 186 名でした（外来レベルで行われたものも含む）。また、当院には産科以外の成人を診る常勤の専門医がおられませんので、母体合併症に関しては神戸大学医学部附属病院や神戸市立医療センター中央市民病院等をご紹介しております。隣接する神戸市立医療センター中央市民病院も総合周産期母子医療センターではありますが、中央市民病院は「母体合併症」を、当院は「胎児・新生児」にフォーカスした診療の棲み分け、病病連携を行なっております。お互いの紹介症例のその後の転機を検討するため、両院の産科と新生児科医師が参加して 9 月 19 日に中央市民病院にて「第 1 回合同カンファレンス」行いました。

人事:2017 年は、船越 徹周産期医療センター次長兼産科部長、佐本 崇産科科長兼部長、喜吉賢二医長、高松祐幸医長、牧志 綾医長、森下 紀医長、河崎あさひ医長、鷲尾佳一専攻医の 8 人で始めました。6 月末に喜吉賢二医長が退職し、7 人体制になりました。

1) 平成29年(2017年)産科診療状況

| | |
|---------------------|-----|
| 入院患者数* | 371 |
| うち緊急母体搬送によるもの | 133 |
| 紹介元へ戻すまたは他院紹介** | 186 |
| 分娩母体数(22週以降)*** | 273 |
| 正期産 | 139 |
| 早産 | 133 |
| 過期産 | 1 |
| 多胎妊娠 | 36 |
| うち双胎 | 36 |
| うち品胎 | 0 |
| 経膈分娩 | 128 |
| うち吸引分娩 | 7 |
| うち骨盤位牽出術 | 0 |
| 帝王切開術 | 145 |
| 出産児数(22週以降、死産含む)*** | 309 |
| 正期産児 | 149 |
| 早産児 | 159 |
| 過期産児 | 1 |
| 低出生体重児(2,500g未満) | 185 |
| 巨大児(4,000g以上) | 2 |
| その他 | |
| 22週未満死産児 | 1 |
| 22週以降死産児**** | 8 |
| 自己血貯血回数 | 2 |

*入院患者数は2017.1-12入院したもの

**紹介元へ戻すまたは他院紹介は、外来で行なわれたものも含む

***分娩母体数、出産児数は2017.1-12に出産したもの

****双胎第1子経膈、第2子帝切1例あり

*****単胎4、双胎1

2) 紹介元施設所在地別入院件数

| 大分類 | 地区 | 件数 | 率 | 大分類 | 地区 | 件数 | 率 |
|-----|------|-----|-----|------|-------|------|----|
| 阪神南 | 尼崎市 | 1 | 0% | 中播磨 | 姫路市 | 7 | 2% |
| | 西宮市 | 15 | 4% | | 神崎郡 | 0 | 0% |
| | 芦屋市 | 3 | 1% | | 小計 | 7 | 2% |
| | 小計 | 19 | 5% | 西播磨 | 相生市 | 0 | 0% |
| 阪神北 | 宝塚市 | 0 | 0% | | たつの市 | 0 | 0% |
| | 三田市 | 1 | 0% | | 赤穂市 | 1 | 0% |
| | 川西市 | 0 | 0% | | 揖保郡 | 0 | 0% |
| | 伊丹市 | 0 | 0% | | 赤穂郡 | 0 | 0% |
| | 川辺郡 | 0 | 0% | | 佐用郡 | 0 | 0% |
| | 小計 | 1 | 0% | | 宍粟市 | 0 | 0% |
| 神戸市 | 中央区 | 87 | 23% | 小計 | 1 | 0% | |
| | 西区 | 65 | 18% | 但馬 | 豊岡市 | 8 | 2% |
| | 須磨区 | 32 | 9% | | 美方郡 | 0 | 0% |
| | 東灘区 | 21 | 6% | | 養父市 | 0 | 0% |
| | 北区 | 12 | 3% | | 朝来市 | 0 | 0% |
| | 長田区 | 10 | 3% | | 小計 | 8 | 2% |
| | 灘区 | 10 | 3% | 丹波 | 篠山市 | 0 | 0% |
| | 垂水区 | 5 | 1% | | 丹波市 | 2 | 1% |
| | 兵庫区 | 1 | 0% | | 小計 | 2 | 1% |
| | 小計 | 243 | 65% | 淡路 | 洲本市 | 13 | 4% |
| 東播磨 | 明石市 | 46 | 12% | | 淡路市 | 2 | 1% |
| | 加古川市 | 3 | 1% | | 南あわじ市 | 0 | 0% |
| | 高砂市 | 2 | 1% | 小計 | 15 | 4% | |
| | 加古郡 | 0 | 0% | 他府県 | 大阪 | 5 | 1% |
| 小計 | 51 | 14% | 奈良 | | 2 | 1% | |
| 他 | 8 | 2% | | | | | |
| 北播磨 | 西脇市 | 5 | 1% | 計 | 15 | 4% | |
| | 三木市 | 0 | 0% | 海外 | 0 | 0% | |
| | 小野市 | 4 | 1% | 院内紹介 | 0 | 0% | |
| | 加西市 | 0 | 0% | 計 | 371 | 100% | |
| | 加東市 | 0 | 0% | | | | |
| | 多可郡 | 0 | 0% | | | | |
| 小計 | 9 | 2% | | | | | |

救急隊はその所属地域にカウントした

3) 取り扱い疾患（重複あり）

| 疾患名* | 件数 | 率 |
|--------------------|-------|------|
| 切迫早産 | 179 | 32% |
| 高年妊娠(35歳以上) | 126 | 49% |
| 胎児形態異常 | 117 | 35% |
| 胎児発育不全 | 55 | 15% |
| 前期破水 | 51 | 14% |
| 羊水過多・過少 | 40 | 11% |
| 既往帝王切開 | 38 | 10% |
| 多胎 | 36 | 10% |
| 絨毛膜羊膜炎・子宮内感染 | 32 | 9% |
| 胎位異常 | 29 | 8% |
| B群溶連菌保菌者 | 25 | 7% |
| 妊娠高血圧症候群 | 24 | 7% |
| 甲状腺疾患合併 | 19 | 5% |
| 胎児機能不全 | 18 | 5% |
| 羊水検査 | 18 | 5% |
| その他感染 | 14 | 4% |
| 心疾患合併 | 12 | 3% |
| 子宮筋腫合併 | 10 | 3% |
| 妊娠糖尿病 | 9 | 2% |
| 他科合併症(GDM、甲状腺疾患以外) | 9 | 2% |
| 胎児不整脈 | 8 | 2% |
| 切迫流産 | 6 | 2% |
| 胎児水腫 | 5 | 1% |
| 子宮内胎児死亡 | 4 | 1% |
| 常位胎盤早期剝離 | 4 | 1% |
| 双胎胎児発育不均衡 | 4 | 1% |
| 前置・低置胎盤 | 3 | 1% |
| 胎児染色体異常 | 2 | 1% |
| 胎盤機能不全 | 2 | 1% |
| 血腫 | 2 | 1% |
| その他 | 161 | 44% |
| 計 | 1,062 | 292% |

入院時、入院中に診断された疾患名

4) 入院時間帯

| 時間帯 | 件数 | 率 |
|-------|-----|------|
| 時間内 | 266 | 72% |
| 平日日勤帯 | | |
| 時間外 | 105 | 28% |
| 平日夜勤帯 | 62 | 17% |
| 休日日勤帯 | 22 | 6% |
| 休日夜勤帯 | 21 | 6% |
| 計 | 371 | 100% |

6) 分娩時間帯（流産、死産含む）

| 時間帯 | 件数 | 率 |
|-------|-----|------|
| 時間内 | 160 | 58% |
| 平日日勤帯 | | |
| 時間外 | 114 | 42% |
| 平日夜勤帯 | 64 | 23% |
| 休日日勤帯 | 17 | 6% |
| 休日夜勤帯 | 33 | 12% |
| 計 | 274 | 100% |

8) 分娩時妊娠週数（流産、死産含む）

| 週数 | 件数 | 率 | 累積率 |
|--------|-----|------|------|
| ～21週 | 1 | 0% | 0% |
| 22～24週 | 11 | 4% | 4% |
| 25～28週 | 23 | 8% | 13% |
| 29～32週 | 39 | 14% | 27% |
| 33～36週 | 59 | 22% | 49% |
| 37～41週 | 139 | 51% | 99% |
| 42週～ | 1 | 0% | 100% |
| 不明 | 1 | 0% | 100% |
| 計 | 274 | 100% | |

5) 入院時妊娠週数（母）

| 週数 | 件数 | 率 | 累積率 |
|--------|-----|------|------|
| ～21週 | 26 | 7% | 7% |
| 22～24週 | 52 | 14% | 21% |
| 25～28週 | 52 | 14% | 35% |
| 29～32週 | 57 | 15% | 50% |
| 33～36週 | 60 | 16% | 67% |
| 37週～ | 115 | 31% | 98% |
| 不明 | 0 | 0% | 98% |
| 産後 | 9 | 2% | 100% |
| 非妊娠 | 0 | 0% | 100% |
| 計 | 371 | 100% | |

7) 帝王切開時間帯

| 時間帯 | 件数 | 率 |
|-------|-----|------|
| 時間内 | 108 | 74% |
| 平日日勤帯 | | |
| 時間外 | 37 | 26% |
| 平日夜勤帯 | 20 | 14% |
| 休日日勤帯 | 4 | 3% |
| 休日夜勤帯 | 13 | 9% |
| 計 | 145 | 100% |

9) 出産時児体重（流産、死産含む）

| 児体重 | 件数 | 率 | 累積率 |
|------------|-----|------|------|
| ～499g | 5 | 2% | 2% |
| 500～999g | 26 | 8% | 10% |
| 1000～1499g | 41 | 13% | 23% |
| 1500～1999g | 50 | 16% | 39% |
| 2000～2499g | 63 | 20% | 60% |
| 2500～2999g | 69 | 22% | 82% |
| 3000～3499g | 47 | 15% | 97% |
| 3500～3999g | 7 | 2% | 99% |
| 4000～4499g | 2 | 1% | 100% |
| 計 | 310 | 100% | |

10) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

| 月 | 依頼件数 | 受け入れ不能件数 | 受け入れ不能率 |
|----|------|----------|---------|
| 1 | 10 | 0 | 0% |
| 2 | 10 | 0 | 0% |
| 3 | 17 | 0 | 0% |
| 4 | 9 | 2 | 22% |
| 5 | 19 | 0 | 0% |
| 6 | 12 | 4 | 33% |
| 7 | 13 | 0 | 0% |
| 8 | 12 | 2 | 17% |
| 9 | 17 | 3 | 18% |
| 10 | 12 | 1 | 8% |
| 11 | 8 | 1 | 13% |
| 12 | 13 | 2 | 15% |
| 不明 | 1 | 1 | 100% |
| 計 | 153 | 16 | 10% |

11) 年次別搬送受け入れ不能状況

| 年 | 依頼件数 | 受け入れ不能件数 | 受け入れ不能率 | 備考 |
|-------|------|----------|---------|--------------|
| 平成6年 | 66 | 12 | 18% | 10月開設(22床) |
| 平成7年 | 240 | 38 | 16% | 阪神・淡路大震災 |
| 平成8年 | 312 | 76 | 24% | |
| 平成9年 | 340 | 111 | 33% | |
| 平成10年 | 324 | 105 | 32% | |
| 平成11年 | 326 | 55 | 17% | フルオープン(32床) |
| 平成12年 | 362 | 100 | 28% | 総合周産期センターに指定 |
| 平成13年 | 328 | 60 | 18% | |
| 平成14年 | 394 | 110 | 28% | |
| 平成15年 | 367 | 140 | 38% | |
| 平成16年 | 298 | 126 | 42% | |
| 平成17年 | 285 | 120 | 42% | MFICU6床整備 |
| 平成18年 | 316 | 124 | 39% | 空床情報ネットワーク整備 |
| 平成19年 | 285 | 91 | 32% | |
| 平成20年 | 259 | 65 | 25% | |
| 平成21年 | 279 | 88 | 32% | |
| 平成22年 | 276 | 85 | 31% | |
| 平成23年 | 256 | 96 | 38% | |
| 平成24年 | 225 | 83 | 37% | |
| 平成25年 | 232 | 16 | 10% | |
| 平成26年 | 221 | 71 | 32% | |
| 平成27年 | 160 | 42 | 26% | |
| 平成28年 | 152 | 41 | 27% | 5月病院移転 |
| 平成29年 | 153 | 16 | 10% | 病床稼働率73.1% |

12) 搬送依頼施設所在地別受信件数

| 大分類 | 地区 | 件数 | 率 | 大分類 | 地区 | 件数 | 率 |
|------|-----|-----|-----|------|------|-------|----|
| 阪神南 | 尼崎市 | 0 | 0% | 中播磨 | 姫路市 | 0 | 0% |
| | 西宮市 | 9 | 6% | | 神埼郡 | 0 | 0% |
| | 芦屋市 | 1 | 1% | | 小計 | 0 | 0% |
| | 小計 | 10 | 7% | | 相生市 | 0 | 0% |
| 阪神北 | 宝塚市 | 0 | 0% | 西播磨 | 赤穂市 | 0 | 0% |
| | 三田市 | 1 | 1% | | 宍粟市 | 0 | 0% |
| | 川西市 | 0 | 0% | | たつの市 | 0 | 0% |
| | 伊丹市 | 0 | 0% | | 揖保郡 | 0 | 0% |
| | 川辺郡 | 0 | 0% | | 赤穂郡 | 0 | 0% |
| | 小計 | 1 | 1% | | 佐用郡 | 0 | 0% |
| | 須磨区 | 10 | 7% | | 小計 | 0 | 0% |
| 神戸市 | 中央区 | 42 | 28% | 但馬 | 豊岡市 | 2 | 1% |
| | 西区 | 25 | 16% | | 養父市 | 0 | 0% |
| | 垂水区 | 0 | 0% | | 朝来市 | 0 | 0% |
| | 灘区 | 5 | 3% | | 美方郡 | 0 | 0% |
| | 東灘区 | 9 | 6% | | 小計 | 2 | 1% |
| | 北区 | 5 | 3% | 丹波 | 篠山市 | 0 | 0% |
| | 兵庫区 | 0 | 0% | | 丹波市 | 1 | 1% |
| | 長田区 | 8 | 5% | | 小計 | 1 | 1% |
| | 小計 | 104 | 68% | 淡路 | 洲本市 | 11 | 7% |
| | 東播磨 | 明石市 | 17 | | 11% | 南あわじ市 | 0 |
| 加古川市 | | 1 | 1% | | 淡路市 | 1 | 1% |
| 高砂市 | | 0 | 0% | | 小計 | 12 | 8% |
| 加古郡 | | 0 | 0% | 他府県 | 徳島 | 1 | 1% |
| 小計 | | 18 | 12% | | 小計 | 1 | 1% |
| 北播磨 | 西脇市 | 1 | 1% | 海外 | 0 | 0% | |
| | 三木市 | 1 | 1% | 院内紹介 | 0 | 0% | |
| | 小野市 | 2 | 1% | 不明 | 0 | 0% | |
| | 加西市 | 0 | 0% | 計 | 153 | 100% | |
| | 加東市 | 0 | 0% | | | | |
| | 多可郡 | 0 | 0% | | | | |
| | 小計 | 4 | 3% | | | | |

救急隊はその所属地域にカウントした

13) 搬送依頼元施設種類別

| 施設種類 | 件数 | 率 |
|-------------|-----|------|
| 総合周産期医療センター | 9 | 6% |
| 地域周産期医療センター | 22 | 14% |
| 一般病院 | 77 | 50% |
| 診療所 | 42 | 27% |
| 助産院 | 0 | 0% |
| 救急隊 | 3 | 2% |
| 他 | 0 | 0% |
| 不明 | 0 | 0% |
| 計 | 153 | 100% |

他府県の施設も含む

14) 搬送依頼電話受信時刻

| 勤務帯 | | 件数 | 率 |
|-----|--------|-----|------|
| 時間内 | 平日・日勤帯 | 96 | 63% |
| | 平日・夜勤帯 | 37 | 24% |
| 時間外 | 休日・日勤帯 | 12 | 8% |
| | 休日・夜勤帯 | 7 | 5% |
| 不明 | | 1 | 1% |
| 計 | | 153 | 100% |

15) 搬送電話依頼時理由

| 搬送理由 | 件数 | 率 |
|----------|-----|------|
| 切迫早産 | 90 | 59% |
| 前期破水 | 19 | 12% |
| 切迫流産 | 10 | 7% |
| 妊娠高血圧症候群 | 3 | 2% |
| 胎児形態異常 | 3 | 2% |
| 多胎 | 3 | 2% |
| 胎盤早期剥離 | 2 | 1% |
| 出血多量 | 2 | 1% |
| 胎児発育不全 | 1 | 1% |
| 胎児機能不全 | 1 | 1% |
| 前置胎盤 | 1 | 1% |
| 前回帝切 | 1 | 1% |
| その他 | 17 | 11% |
| 不明 | 0 | 0% |
| 計 | 153 | 100% |

主たる理由で分類

18) 受け入れ不能の理由

| 理由 | 件数 | 率 |
|---------|----|------|
| NICU 満床 | 1 | 6% |
| 産科満床 | 0 | 0% |
| 両方満床 | 0 | 0% |
| 対象外 | 9 | 56% |
| その他 | 6 | 38% |
| 不明 | 0 | 0% |
| 計 | 16 | 100% |

その他:当直医が手術中、分娩中、外来対応中

16) 搬送電話依頼時妊娠週数

| 妊娠週数 | 件数 | 率 |
|-----------|-----|------|
| 22 週未満 | 14 | 9% |
| 22 ~ 24 週 | 35 | 23% |
| 25 ~ 28 週 | 41 | 27% |
| 29 ~ 32 週 | 31 | 20% |
| 33 ~ 36 週 | 20 | 13% |
| 37 ~ 40 週 | 7 | 5% |
| 41 週以降 | 0 | 0% |
| 分娩後 | 0 | 0% |
| 不明 | 5 | 3% |
| 非妊娠 | 0 | 0% |
| 計 | 153 | 100% |

17) 受け入れ可否返事所要時間

| 所要時間 | 件数 | 累積率 |
|---------|-----|------|
| ~ 1 分 | 122 | 80% |
| ~ 3 分 | 10 | 86% |
| ~ 10 分 | 15 | 96% |
| ~ 20 分 | 3 | 98% |
| ~ 30 分 | 0 | 98% |
| ~ 60 分 | 1 | 99% |
| ~ 120 分 | 1 | 99% |
| ~ 240 分 | 0 | 99% |
| 不明 | 1 | 100% |
| 計 | 153 | 100% |

26. 放射線診断科／放射線治療科

1. 人事異動

放射線診断科のスタッフは赤坂好宣、杉岡勇典の2名、フェローが松永卓明の1名で昨年と同じ。

応援医師が藤本雄介医師（月・木：超音波検査担当）と救急総合診療科の山口善道医師（金：超音波検査・画像読影）にお願いしており、昨年と同じである。

放射線治療科は従来通り兵庫県立がんセンターより副島先生に金曜日に来ていただいている。（応援医師）

12月より隣接して神戸陽子線センターが開院し、副島医師が就任し当院にも兼務となった。同様に神戸陽子線センターの出水祐介医師（2018年から福光延吉医師も）も当院放射線治療科に兼務となり、強力なバックアップ体制となった。2018年からは当診療統計も区別して記載することとする。

2. 2017年の動向

診療業務では超音波検査とMRIが著増した。

超音波検査は予約枠を12から60へ大幅に増やした影響と思われるが、今までも常に増加傾向であり、今後もあらゆる小児診療の診断へのプロセスの最初の入り口となっていくであろう。

MRIも病院移転に伴い2台に増えた影響で著増している。放射線被ばくがなく客観的な情報が得られるため今後もますます需要が出ると思われる。

その他の検査はおおむね昨年並みであるが超音波検査とMRIの急な増加により、マンパワーの恒常的な確保がますます必要になる。

放射線治療科の業務については、小児がん拠点病院となったことや神戸陽子線センターが12月に開院したことにより小児の放射線治療患者が継続的に増加することが予想される。当院も放射線治療の専門家が複数兼務となります質、量ともこの分野は繁栄することが容易に想像できる。

兵庫県下で小児診療規模の特に大きな尼崎総合医療センターへは赤坂が、加古川中央市民病院へは杉岡医師が診療応援で出向いて画像診断、超音波検査や消化管造影、膀胱造影検査を行うことで地域医療に貢献している。

院内、院外の小児科医を対象とした小児放射線研修も軌道に乗っている。

放射線科読影件数（2017年）

| | |
|-------|-------|
| CT | 2938件 |
| MRI | 3109件 |
| RI | 276件 |
| 消化管造影 | 269件 |
| 超音波検査 | 6266件 |
| 放射線治療 | 34人 |

27. 小児集中治療科

【スタッフ】

2017年度の常勤医は黒澤寛史（診療科長）、長谷川智巳、椎間優子、青木一憲、制野勇介の5名。フェローは楠本耕平、宮下徳久、染谷真紀、鴻池善彦、増井美苗、神納幸治、高寺侑、平田旭、潮見祐樹、山下由理子の10名。麻酔科からの短期研修1名、ローテート専攻医（後期研修医）8名受け入れ。院外の専攻医短期研修1名受け入れ。

【資格】

集中治療専門医4名、小児科専門医11名（指導医3名）、麻酔標榜許可2名、救急科専門医・外科学会専門医・心臓血管外科専門医・循環器専門医・脈管専門医・移植認定医 各1名

PALS インストラクター2名、JPLS 講師1名

【診療体制】

CICU8床、PICU6床、ICU11床の25床を担当し（Closed ICU）、関係各科と連携をとりながら重篤な症例の診療に当たった。日中は7～8名、夜間は3名体制。

【集中治療室（CICU、PICU、ICU）入室患者の内訳（2017年1月～12月）】

| | |
|--------------------------|--------------------|
| ●入室患者数 | 965例（3病棟間の移床は数えない） |
| ●月齢中央値 | 25ヶ月 |
| ●予測死亡率（PIM3） | 2.5% |
| ●実死亡率 | 1.6%（15例） |
| ●搬送手段 | |
| ○院内（手術室、病棟など） | 759例（78.7%） |
| ○当院搬送チーム | 17例（1.8%） |
| ○救急車（他院同乗） | 75例（7.8%） |
| ○救急車（現場直送、ER経由） | 40例（4.1%） |
| ○ヘリコプター | 18例（1.9%） |
| ○その他（独歩など） | 56例（5.8%） |
| ●入室理由 | |
| ○術後管理 | 617例（63.9%） |
| ○呼吸不全 | 136例（14.1%） |
| ○循環不全 | 46例（4.8%） |
| ○中枢神経系の異常 | 60例（6.2%） |
| ○モニタリング | 77例（8.0%） |
| ○心肺停止蘇生後 | 14例（1.5%） |
| ○その他 | 15例（1.6%） |
| ●治療内容 | |
| ○人工呼吸管理 | 422例 |
| ○NPPV（非侵襲的陽圧人工呼吸） | 66例 |
| ○High Flow Nasal Cannula | 116例 |
| ○HFO | 2例 |

- 一酸化窒素吸入療法 52 例
- ECMO（体外式膜型人工肺） 9 例
- 血液浄化療法 / 血漿交換 13 例

●病棟別内訳

| 病棟 | CICU (8 床) | PICU/SICU (4 床) | ICU (11 床) |
|----------|---------------|--------------------|---------------|
| 入室患者数 | 333 | 365 | 608 |
| 月齢中央値 | 10 | 35 | 31 |
| 予測死亡率 | 2.3 | 3.9 | 2.0 |
| 実死亡率 | 0.6 (2 例) | 3.3 (12 例) | 0.6 (2 例) |
| 在室 日数 | 平均 | 9.8 | 7.7 |
| | 中央値 (IQR) | 6 (3-12) | 4 (2-10) |
| 入室理由 | 術後管理 | 265 (81.3) | 177 (49.9) |
| | 呼吸不全 | 20 (6.1) | 80 (22.5) |
| | 循環不全 | 17 (5.2) | 23 (6.5) |
| | 中枢神経 | 2 (0.6) | 38 (10.7) |
| | モニタリング | 16 (4.9) | 16 (4.5) |
| | 蘇生後 | 6 (1.8) | 9 (2.5) |
| | その他 | 0 | 12 (3.4) |
| 担当科 | 心臓外科 | 287 (88.0) | 4 (1.1) |
| | 循環器科 | | 6 (1.7) |
| | 外科 | 26 (8.0) | 102 (28.7) |
| | 脳外科 | 5 (1.5) | 95 (26.8) |
| | 総合診療科 | 4 (1.2) | 83 (23.4) |
| | 神経内科 | 0 | 28 (7.9) |
| | 血液腫瘍科 | 0 | 11 (3.1) |
| | 整形外科 | 1 (0.3) | 5 (1.4) |
| | 形成外科 | 0 | 5 (1.4) |
| | 泌尿器科 | 1 (0.3) | 3 (0.9) |
| | 新生児科 | 2 (0.6) | 0 |
| | 腎臓内科 | 0 | 0 |
| | 眼科 | 0 | 2 (0.6) |
| | アレルギー科 | 0 | 2 (0.6) |
| | 耳鼻科 | 1 (0.3) | 3 (0.9) |
| | 代謝内分泌科 | 0 | 5 (1.4) |

●県外から直接入室

- ・合計 29 例
- ・担当科別内訳
 - 外科 21 例
 - 循環器科 2 例
 - 脳外科 2 例
 - 心臓外科 1 例
 - 神経内科 1 例
 - 血液腫瘍科 1 例
 - 泌尿器科 1 例

●地域別内訳

- 宮城2、愛知1、滋賀3、京都1、大阪2、広島6、鳥取3、徳島1、愛媛1、香川1、高知1、福岡4、大分2、熊本1

28. 病理診断科

病理診断科では、胎盤病理・死産児の剖検などの周産期の病理診断、ヒルシュスプルング病や嚢胞性肺疾患などの小児外科領域の病理診断、小児固形腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は日本小児がん研究グループ（JCCG）の病理委員会事務局である国立成育医療センターに病理標本や凍結腫瘍組織を送付して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は、電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では、検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。臨床カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝えることで診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみの検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。大学のカンファレンスや全国の講習会や研究会に積極的に参加している。

2017年の動向

2017年より腎生検凍結切片の蛍光免疫染色を開始し、蛍光顕微鏡写真は電子カルテから閲覧可能となった。

2017年10月28日（土）に行われた日本SIDS・乳幼児突然死予防学会の症例検討会の病理医レビューを兵庫県立こども病院病理診断科が担当した。

2017年に当院救急に心肺停止で搬送され行政解剖を施行された解剖標本の病理検索を2例行わせて頂いた。2018年には当院に心肺停止で搬送された行政解剖施行例について、救急科、兵庫県監察医務室、病理診断科でCPAカンファレンスを行う予定である。

2013年から当院腎臓内科の主催で、神戸大学医学部付属病院病理部の原重雄先生を講師に招いた腎生検カンファレンスを開催している。2017年も2回の腎生検カンファレンスが、2月と7月に行われた。

2017年2月3日にCPCが行われ、臨床報告は産科の喜吉賢二先生、臨床遺伝科の森貞直哉先生が担当された。

2017年の件数

組織診断件数 1111件（うち迅速有り59件、胎盤272件、腎生検26件、その他）

細胞診断件数 187件

剖検件数 4件（新生児科2件、集中治療科1名、血液腫瘍科1名）

29. 看護部

看護部理念

命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます。

看護部のスローガン

「小児看護」→「笑児看護（しょうにかんご）」

「みる・まもる・つなぐ・つたえる」で、こどもと家族の輝く笑顔を引き出そう！！

看護部方針

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します。
- 看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します。
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます。

看護の体制

- より安全で質の高い看護を提供することを目的とし、パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）看護提供方式への変更に取組み、全部署日勤帯でのPNSから導入を図っています。
- 患者様が治療や検査を理解し、確実に行えるように、プリパレーションやディストラクションを取り入れた看護を実践しています。
- 保育士と協働し、患者様の成長発達に応じた療育への支援を行っています。
- 患者様に少しでも快適で豊かな入院生活を送っていただけるよう様々なボランティアの皆様と季節折々の行事を実施しています。
- 看護系大学との事例検討会や共同研究を推進し、看護の向上に向けて取り組んでいます。

看護部目標

未来に向けての飛躍

TAKE OFF

「共働・共育・共創」

1. 共働：互いを尊重し合うチームづくりと安全な看護の提供
2. 共育：教え育む力を発揮し共に成長
3. 共創：地域連携（保健・福祉・教育機関）を推進し、在宅支援の地域基盤

看護部の活動

看護部

5階西病棟

小児外科・泌尿器科疾患に加え、脳神経外科や耳鼻咽喉科、整形外科の患者の周手術期看護にも取り組んだ。安全で安楽な看護の提供を目指し、各診療科と勉強会・カンファレンスの開催を実施した。

泌尿器科のクリニカルパスを作成し、泌尿器科疾患患者の看護の標準化を行なった。

5 階東病棟

在宅支援病棟として、患者や家族の安心・安全な在宅移行を目指し、在宅カンファレンス（多職種カンファレンス）や、退院前後同行訪問の定着、在宅支援訓練室や在宅管理評価入院の運用・拡大などを行った。また、退院支援に関するツールやパンフレットの作成などにも力を入れて取り組みを行った。

6 階西病棟

安心で安全な看護の提供を目的に、共に育つことを念頭に教育をすすめた。CICU・ICUと循環器・心臓外科医師との定期的なカンファレンスを行ない、継続した看護の提供に取り組んだ。毎月の育児教室や外来と連携した循環器患者教室を今年度2回開催する事ができ、継続した患者支援を行った。

6 階東病棟

整形外科、リハビリテーション科と連携し、術後の早期リハビリテーションの導入と、患児の生活に合わせた退院支援をおこなうことができた。「移行期支援」として、前年度に引き続き「親と子の腎臓病教室」を開催し、こどものセルフケア能力の向上にむけた取り組みに努めている。

7 階西病棟

小児がん拠点病院として、患者の療養生活の質の維持向上を目指し、多職種と協働、チーム医療の推進により、がん治療に伴うリスクを予測した予防的に看護ケアを提供することができた。また、抗がん薬曝露対策を徹底すると共に、看護手順を作成、ケアの統一をおこない安心・安全な医療の提供に努めた。スタッフ全員で看護の統一と個別性のある看護計画の立案と看護ケアの提供に取り組み看護の質の向上につなげた。

7 階東病棟

小児がん拠点病院として7西病棟と連携し、患者・家族が治療に専念できるように、緩和ケアも視野に入れた療養環境の提供と支援を行った。また、長期入院後の生活支援として復学支援にも積極的に取り組んだ。スタッフ教育に関しても経験年数の若いスタッフを中心に勉強会を定期的に開催し、血液腫瘍疾患の知識の向上に努め、専門性を高めた。

C I C U

心臓外科周術期の安全なクリティカルケアの提供をチームで推進できることを目指した。

刻々と変化する患者状況に応じタイムリーなケア介入ができるよう、医師とのベッドサイドカンファレンスの見直し等、チーム医療の推進に取り組んだ。また、PNS体制や教育計画を見直し、段階的な人材育成と教育支援の強化を図った。

P I C U

4月より小児救命救急センターの指定をうけ、6症増床の運用を開始した。チーム医療を推進し、安全なクリティカルケアの提供を目指し、日々医師と共にベッドサイドカンファレンスを行ない、個別的なケアの提供につなげている。日々トレーニングを行ない、集中治療を要する患者に対応し、必要な看護が提供出来るよう取り組んでいる。

I C U

4月からPICU・ICUは看護単位が独立した。新チームとして活動を開始、多職種連携を強化し退院を見据えた看護提供をめざし取り組んだ。集中治療医師のみならず、主担当科の医師、PT、OT、STとのカンファレンス、地域連携室との連携など、患者にとってよりよい医療・看護が提供出来るように日々研鑽している。

N I C U

NICUでの経験が3年未満のスタッフに対する人材育成を強化し、ステップアップを図った。また、医師・GCU病棟との話し合い・調整を重ねて面会時間の拡大を実現し、ファミリーセンタードケアの充実に努めた。

G C U

今年度は、申し送り方法の変更やカンファレンス運営を再考し、育児参加の拡大や、タッチケアの導入等、「赤ちゃんに優しい 家族に優しい」看護ケアの提供ができるよう、業務改善に取り組んだ。また、NICU

への訪問システムの構築を図り次年度へつなげていくようにした。

産科

出生前診断を受けた患者・家族に対し、新生児科・循環器科と連携し、出生後の児の状態・育児に関する不安の軽減に繋がる様プレネイタルビジットを行っている。外来より受け持ち看護師決め、入院・分娩・育児と継続した看護を実践している。母乳外来では、他院で分娩した母親も対象とし、母乳栄養指導だけでなく母親の精神面での支援や、育児不安の緩和に努めることができた。

手術室

WHOの指針に基づいた「手術室安全チェックリスト」を用い、安全な手術環境を整えると共に、チーム医療の質の向上に取り組んでいる。また、他職種、他部門と協働し、手術後回復期のPACU運用など、術前・術中・術後の安全と安心に繋がる看護を推進している。

外来

在宅療養支援として個々のニーズに合わせた支援に加え、今年度から移行期を見据え他部署と連携し、就園・就学時期にある患者家族の支援を行なっている。また、骨髄移植後フォローアップ看護外来を9月に開設した。

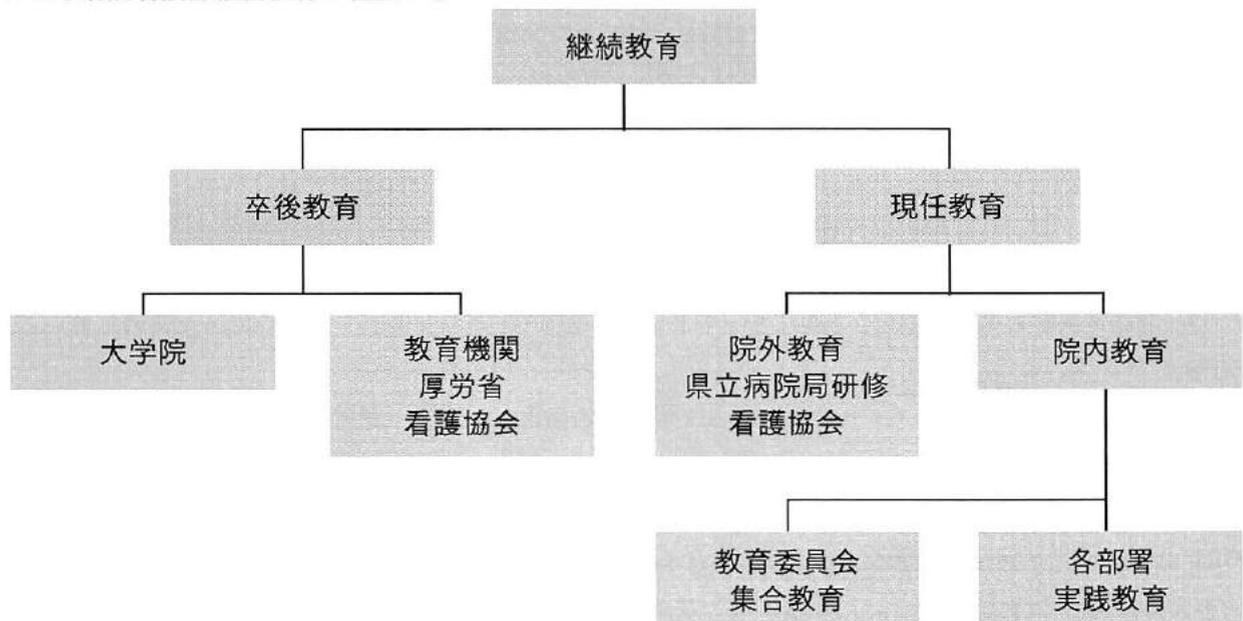
救急・HCU

高度集学的救急医療とともに「断らない救急」をテーマに、軽症から重症までの救急患者の安全な受け入れ体制の整備を目指した。特に「病棟と救急外来の一体運用」「日帰り手術室・一般外来勤務」「救急外来でのトリアージの実施」「お迎え搬送」など、多様な看護実践が求められる中、計画的に人材育成を進め、スタッフの成長に繋げることができた。

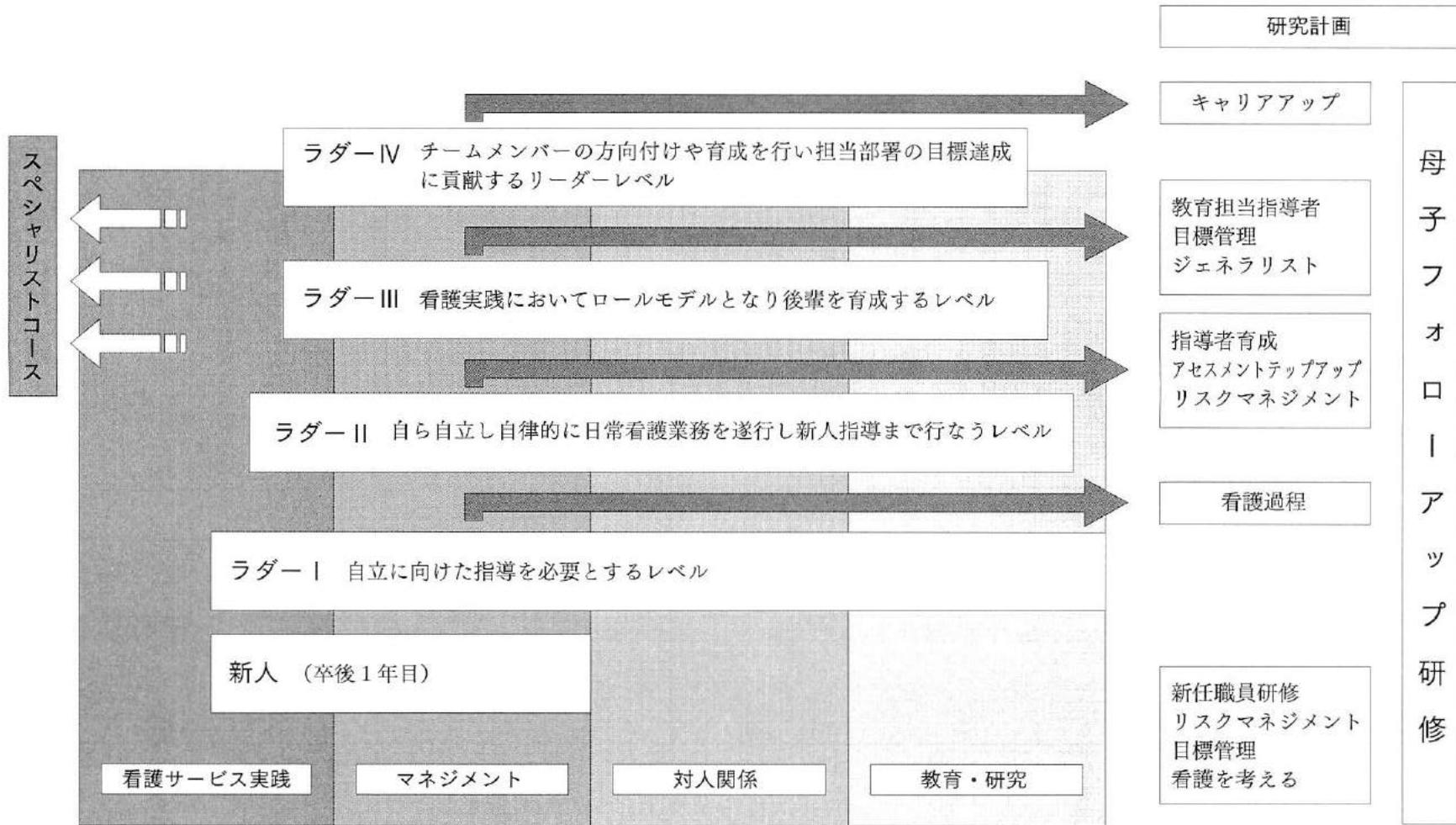
こども病院看護部教育方針

1. 高度専門的な母子看護の知識・技術をもち、エビデンスに基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. こどもの権利を守り、患者家族の思いを尊重できる看護師の育成
3. チーム医療の調整役として行動できる看護師の育成
4. 研究的視点で看護実践の改善がはかれる看護師の育成

こども病院看護部継続教育の位置づけ



小児ジェネラリストの実践家として役割を認識し行動できる



看護部委員会

| 委員会名 | 開催回数 | 活動内容と結果 |
|-----------|------|--|
| 看護師長補佐会 | 11回 | <p><目的> 各看護単位の円滑な運営と看護の質向上を図ることができる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護補助者との効果的な協働を推進する 2. 医療接遇文化を醸成する 3. 補佐会が担当している各学生に向けたPR活動が円滑に実施できる 4. こども病院の看護提供方式としてのPNSを推進する <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護補助者との協働の視点を持ち、業務整理や職場環境の検討を行った。 <ol style="list-style-type: none"> ①看護補助者がチームの一員として勤務する環境の整備 ②勤務開始前の業務調整の定着 ③各病棟で協働の理解を啓蒙し、定期的な意見交換を行う事で業務整理、業務改善につながった。 ④協働して安全な看護を提供するために、6回の研修を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・9/19/26：安全・移送 ・10/31/17：感染（環境整備・清掃を含む） ・11/7/21：ガウンテクニック標準予防策 2. 院内の接遇力の向上に向けて現状調査・啓蒙活動 <ol style="list-style-type: none"> ①看護師の接遇・マナーについて考え、話し合える環境作りを行った。 ②現状分析をもとに「接遇チェックリスト」を検討し作成を行った。 ③作成したチェックリストを全補佐にプレテストを行った。 ④プレテスト結果を分析し全スタッフへの活用に向けて準備を行った。 3. 次年度のPR活動が円滑に行えるよう、マニュアルや施設紹介のDVDの修正を行った。 4. 各病棟でのPNSの現状を調査・分析を行い、当院で実践しているPNSについて成文化を行った。 |
| 看護部教育委員会 | 12回 | <p><目的> 看護職員のキャリア開発を支援するとともに、良質な看護を提供するための教育体系を整備、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年間計画に沿って、集合教育を実施し、看護のおもしろさ・やりがい感を発見することができる研修を企画する 2. 教育委員が元気で、各病棟の教育支援ができるとともに、委員としての成長ができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTとリンクした継続性のある教育の検討と実施 3. 看護師個々のキャリアに応じた支援の検討と実施 |
| 看護部教育担当者会 | 14回 | <p><目的> 新人看護師を支援する教育体制を整備し、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護師が現場に順応し、各自のペースに合わせて目標を達成していけるよう支援できる 2. 教育担当者が、新人看護師やプリセプターへの指導・教育、研修企画・運営、問題解決に関する知識やスキルを高め、成長できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護師の院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTでの継続性のある新人看護師教育の検討と実施 3. 実施指導者・教育担当者の支援・育成 4. 全スタッフで新人看護師を育成する風土づくり・体制整備 |

| | | |
|----------|-----|---|
| 臨床指導者会 | 11回 | <p><目的> 臨床指導者の育成と学生の効果的な臨床実習ができることを目的とする</p> <p><目標> 1. 集中系病棟の実習受け入れ体制の整備ができる 2. 病棟内の実習環境づくりを行い、スタッフ全員で実習を受け入れることができるとともに指導スキルの向上をはかる</p> <p><活動内容> 1. 各学校との実習内容の調整、目的を共有し、各病棟で実習を受け入れた 2. 集中系の病棟での実習のガイドラインの作成した 3. PNSの中で学生指導を行う上での取り決めを作成し継続して学生を支援できるよう取り組んだ 4. 病院局や大学が主催する研修会に参加し学びを共有した</p> |
| 業務・手順委員会 | 11回 | <p><目的> 看護業務を見直し、当院で必要な看護基準・手順の作成し、安全で安楽な標準化したケアを提供する</p> <p><目標> 1. 看護業務の見直しと改善策の検討 2. 各委員会と連携を図り、看護手順の作成及び修正を図る</p> <p><活動内容> 1. 新病院移転によるシステムに応じた看護手順の見直しを行い、35項目の見直しと2項目の新手順を作成した 2. 看護手順が遵守でき安全な看護が提供できるよう監査ツールを作成し、監査を実施することで遵守できない項目を抽出し、遵守できるよう啓蒙した 3. 看護手順を遵守していないために起こっているヒヤリハットや手順に関する疑問点など毎月事例を抽出し、手順の不備によることか、手順の理解ができていないために起こっていることかなど検討し問題解決に努めた。</p> |
| 感染対策委員会 | 11回 | <p><目的> 1. 各看護単位での感染対策の中心的役割を担う。 2. 各看護単位の感染対策を検討・改善し感染対策に関する看護の質を向上させる。 3. ICCやICT、ICNと連携し、院内の感染対策を推進する。</p> <p><目標> 1. スタッフの知識、技術が向上し、徹底した標準予防策の実践ができる。 2. 流行性感染症、耐性菌などのアウトブレイクが発生しない。 3. 勉強会、研修会、学会参加などを通して実践モデルとしての役割がとれる。</p> <p><活動内容> 1. 全職員の手指衛生遵守率向上に寄与する活動を行った。 1) ICTと連携し、手指衛生の直接観察の実施と改善活動に取り組んだ。 2) 手指衛生川柳を募集し、手指衛生に対する意識向上に取り組んだ。 3) 全職員対象感染対策研修会の企画、運営の一端を担った。 2. 適切な環境整備を行い、患者に安全な療養環境を提供する事を目的に環境ラウンドを委員会内で実施した。 3. ゴミの分別と使用後器材の適正処理ができるよう、実施状況を確認するラウンドを行った。 4. リンクナースの感染対策に関する知識の向上にのため、チェックリストによる自己評価を実施した。</p> |

| | | |
|------------|-----|---|
| 安全対策委員会 | 11回 | <p><目的> 看護事故防止対策を検討し、全看護職員のリスク感性向上に向けて取り組むことを目的とする</p> <p><目標> 1. ヒヤリハット報告・事故事例を分析し対応策を検討することができる 2. 安全文化の醸成に向けた活動を推進することができる 3. 安全な療養環境が提供できる</p> <p><活動内容> 1. ヒヤリハットの情報共有 2. 安全な療養環境転倒・転落の家族指導の統一化と病棟ラウンドによる各病棟の現状を評価し、病棟に還元する 3. 安全な与薬、注射に向け、チェックリストを活用し自己及び他者評価の実施。病棟ラウンドによる他者チェックを行い、内服、注射の手順の周知、徹底を行う 4. 安全新聞の発行（4回）、KYT分析を推進し、リスク感性の向上に取り組む</p> |
| 看護部情報管理委員会 | 11回 | <p><目的> 病院情報システムに必要とされる「真正性」「見読性」「保存性」の3原則の確保のために、業務上看護が取り扱う情報を以下の3点に基づき管理することを目的とする。</p> <p>①看護過程に必要な情報を特定し、分析を行い看護計画に役立てる。 ②看護実践用のシステム（看護支援システム・病院情報システム）を活用し、その改善に関わる。 ③情報管理に関する法令遵守及び、施設のセキュリティーポリシーに基づいたシステムの安全管理に関わる。</p> <p>本会は前項の目的を達成するために次の事項を協議する</p> <p>1. 看護に必要な情報の適切な入力および適時の入力 2. 看護の思考過程の記録 3. 看護記録の量的・質的監査の実施 4. 看護情報の2次利用(活動内容)</p> <p>1. 電子カルテにおいて適切で正確な記録ができるよう、監査ツールの整備を進め、監査を実施しし（機械的監査）、結果を踏まえ各病棟へ対策案の立案を働きかけた。 2. 記載要綱の整備と活用に進め、看護サマリー・中間サマリー・アセスメントシート・プロフィールシートの要綱を見直した。 3. 看護計画と記録の連動を進め、看護の可視化が行えるよう働きかけた。 4. 院内パスの本格稼働に向けて医師と調整すると共に、勉強会をおこなった</p> |
| 看護部地域連携委員会 | 11回 | <p><目的> 在宅療養支援に関する院内外の現状を知り、地域連携推進に取り組む</p> <p><目標> 1. 子供の健康生活を支援する地域関係機関との連携の充実を図る 2. 在宅療法指導マニュアルの見直しを行う。 3. 看護連絡票の必要な情報が記載できる。 4. 退院支援システムを理解し、早期から院内連携を図り、スムーズな退院支援ができる</p> <p><活動内容> 1. 在宅療養マニュアル・パンフレットの再検討と修正を行った 2. 訪問看護ステーションを対象とした研修会を2回行い、地域の医療者との交流や意見交換を行った。</p> |

| | | |
|--------------|-----|---|
| 看護部専門・認定看護師会 | 11回 | <p><目的> 医療・看護の質向上に向け、専門看護師・認定看護師が連携して問題解決への取り組みや支援を行う</p> <p><目標> 1. 各専門・認定看護師の活動を共有し連携をはかる 2. 各専門分野もしくは共通している問題について、ともに検討し解決につなげる 3. 専門・認定看護師が協働して教育活動を行う 4. 専門・認定看護師の支援体制を整える</p> <p><活動内容> 1. 各自の年間計画、月間・年間活動報告の共有 2. 活動の中で発見した問題提起と検討、互いの支援 3. 専門・認定看護師が協働する勉強会の企画・運営 4. 活動に関する看護部との調整・交渉</p> |
| 看護部研究支援委員会 | 8回 | <p><目的> スタッフが看護研究を意欲的かつ適切に実施できるように、研究の全過程にわたって支援する</p> <p><目標> 1. 看護研究の計画や実施において、スタッフが適切な倫理的配慮を行えるよう支援する 2. スタッフが、看護に関して科学的方法を用いて探求し、新しい知見を得るために、適切な指導と支援を行う</p> <p><活動内容> 1. 看護研究の倫理的配慮に対する指導・教育 2. 看護研究の計画・実施プロセスにおけるスタッフの支援</p> |
| 皮膚・排泄ケア部会 | 11回 | <p><目的> 皮膚排泄における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標> 1. ストーマケア、失禁ケア、創傷ケアなどの専門知識、技術を共有する 2. 各部署におけるストーマケア、失禁ケア、創傷ケア、電子カルテでの記入不備の現状や課題を検証し改善する</p> <p><具体的取り組み> 1. 電子カルテに対応したマニュアルの作成 2. 創傷フローシートの不備率の削減 3. 体圧分散寝具の適切な管理 4. MDRPU発生リスクのある患者の基準看護計画の作成 5. 勉強会・事例検討をおこなう</p> <p><結果> ・褥瘡対策に関する記載手順を作成しマニュアルに追加した ・新規採用の体圧分散寝具の取り扱い手順を作成・ベビーズマットレスの使用基準の改定 ・ソフトナース・ペディケアマットレスを一括管理し、部署間での貸し借りによる行方不明・紛失を無くした ・褥瘡対策に関する記録の不備に関しては、監査票の改善をおこない有効な監査がおこなえ、問題点を明確にし意識付けをおこなうことで不備率の削減に繋がった ・昨年度のMDRPUの発生データを基に、頻発する医療器機に対して「MDRPU発生リスクのある患者」の基準看護計画を作成した ・部会内での勉強会を実施(褥瘡対策に関わる施設基準・褥瘡に関する記録記載に関して) ・事例検討を実施(VAC療法中の患者・経鼻挿管によるMDRPU予防の取り組み)</p> |

| | | |
|----------|-----|---|
| 呼吸障害ケア部会 | 11回 | <p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸障害における専門知識を習得する 2. 呼吸障害におけるケアの質の向上を図る <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸障害における専門知識を習得し根拠を持って実践できる 2. 各呼吸器に応じた安全チェックが統一してできる 3. 呼吸器関連に関する物品を統一して行える <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸管理に関するヒヤリハットを共有し、分析をもとに対策検討と周知を図る 2. 呼吸療法マニュアルの修正 3. RSTと連携を取り、呼吸管理に関する勉強会の開催 |
| 摂食障害ケア部会 | 11回 | <p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食に関する最新の知識を学び、共有する 2. 事例検討を行い、摂食ケアの質の向上を図る <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各委員が摂食に関する知識を学び、リンクナースとしての役割が担える 2. 症例検討を通して、実際のケアを学び病棟間及び病棟外来連携ができ、継続看護が行える <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員が、摂食ケアについての基礎知識を習得できるよう上半期、勉強会を行なった。下半期は3つのグループに分かれ自分達の学びを発表した 2. 毎月各部署からの症例をアセスメントの考え方用紙を用いて検討し、ケア方法の共有や病棟間の連携に繋げた 3. 口腔ケアが確実に実施できるよう各部署で各委員が口腔ケア方法の勉強会を開催し、看護指示の活用を推奨した |

平成29年度 院内研修

| | 研修会名 | 日程 | 時間 | ねらい | 参加数 | 講師 |
|----------------|-----------------------------|----------------------|----------------|--|------------|--|
| 新人 | 740-研修① 子どもの安全・感染 | 4月5日(水) | 1日 | 1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる | 41名 | 中村次長、藤田課長、鳴滝 CN、教育担当者 |
| | 740-研修② 子どもの看護・清潔・排泄 | 4月6日(木) | 1日 | | 40名 | 栗林 CNS、大亀 Ns、教育担当者 |
| | 看護記録・電子カルテ操作 | 4月11日(火) | 1日 | | 39名 | 武田師長、田原師長、情報管理委員、富士通 |
| | 740-研修③ スキンケア・与薬 | 4月14日(金) | 1日 | | 38名 | 鎌田 CN、教育担当者 |
| | 740-研修④ 輸液管理 | 4月19日(水) | 1日 | | 38名 | テルモ、コヴィディエン、検査技師、教育担当者 |
| | 740-研修⑤ 点滴管理・シーネ固定 | 4月28日(金) | 1日 | | 38名 | 大亀 Ns、教育担当者 |
| | 740-研修⑥ 栄養・NG挿入・TF | 5月19日(金) | 1日 | | 37名 | 森本 CN、島井管理栄養士、上田薬剤部次長、教育担当者 |
| | 740-研修⑦ 呼吸・周手術期看護・麻酔・吸引 | 5月26日(金) | 1日 | | 37名 | 坂本 CN、新井 Ns、教育担当者 |
| | 740-研修⑧ 救急蘇生 | 6月16日(金) | 1日 | | 34名 | 藤原 CN、坂本 CN、和久 CN、教育担当者 |
| | 740-研修⑨ 子どもの権利・アパレル・検疫・ストマツ | 6月27日(火) | 1日 | | 36名 | 西川 CNS、鎌田 CN、中田 PT、放射線科医/技師、轡 Ns、教育担当者 |
| | 740-研修⑩ 家族看護・地域連携・CV/PI 管理 | 7月21日(金) | 1日 | | 38名 | 橋本次長、教育担当者 |
| | 740-研修⑪ 多重業務 | 8月18日(金) | 1日 | | 36名 | 教育担当者 |
| | 740-研修⑫ 技術発表・感染740-・安全740- | 9月15日(金) | 1日 | | 37名 | 藤田課長、鳴滝 CN、泊 CN、教育担当者 |
| | 740-研修⑬ 看護過程 | 10月20日(金) | 1日 | | 35名 | 西川 CNS |
| 740-研修⑭ 看護を考える | 3月5日(月) | 1日 | 34名 | 教育担当者 | | |
| | ポンプ・モニター技術演習 | 5月8・15・22・29日 | 各1時間 | 1. 輸液ポンプ・シリンジポンプ、心電図モニター・SpO2モニターを正確に取り扱うことができる | 63名 | ME、中谷 CNS、濱田師長 |
| | 外来研修 | 6~8月 | 各1日 | 1. 外科外来の外来における子どもと家族の思いや体験を理解し、入院後の自部署での看護につなげることができる 2. 外来検査部門の場所と機能が理解できる など | 37名 | 教育担当者 |
| | 他部署研修 | 11~2月 | 各1~2日 | 1. 自部署と関連する他部署における子どもの状態やケアを知る、または可能な範囲で実践する 2. 経験したことがない看護技術を見学し、支援を受けながら経験する など | 35名 | 教育担当者 |
| | フィジカルアセスメント・救急蘇生研修 | 11~12月 | 各1日 | 1. 子どもの生理学的異常兆候を察知し、報告することができる 2. 小児の救急蘇生場面において、迅速な役割行動をとることができる | 34名 | 藤原 CN、坂本 CN、インストラクター他 |
| 既卒 | 既卒者研修① | 5月31日(水) | 0.5 (PM) | 1. 職場への早期適応を図り、ワークライフハーモニーを基盤とし、専門職としてキャリア開発に主体的に取り組みことができる | 5名 | 藤久保副院長、河野臨床心理士、賀本 Ns |
| | 既卒者研修② | 7月31日(月) | 0.5 (PM) | | 5名 | 河野臨床心理士、夏川 N s、森行 N s |
| | 既卒者研修③ | 10月24日(火) | 0.5 (PM) | | 5名 | 轡 Ns、山中 Ns、坂本 CN |
| 2年目研修 | 看護過程 | 5月23日(火) 5月30日(火) | 1日×2 | 1. 支援を受けながら個性のある看護過程の展開について学び、日々の実践に活かすことができる | 53名 48名 | 奈須補佐 |
| | PNS・メンバーシップ研修 | 6月12日(月) 6月26日(月) | 0.5 (AM) ×2 | 1. 自己の役割を理解し、チームメンバーの一員として行動できる | 47名 54名 | 竹井看護師長、梁 CN |
| | 家族看護 | 7月31日(月) 8月7日(月) | 0.5 (AM) ×2 | 1. 家族看護の基本的な考え方をすることができる 2. 子どもが入院した家族の抱える課題に気づくことができる 3. 家族を看護の対象と捉えて、支援を受けながら入院している子どもの家族へ関わるることができる | 46名 51名 | 西川 CNS |
| | 看護倫理 | 9月22日(月) 9月28日(木) | 0.5 (AM) ×2 | 1. 倫理原則と倫理綱領を理解し、倫理的視点をもって日常のケア場面が考えられる | 48名 50名 | 栗林 CNS |
| 3年目研修 | 家族看護 | 6月28日(水) | 1日 | 1. 受け持ち看護師として支援を受けながら個性のある家族看護が展開できる 2. ケーススタディをまとめることができる | 40名 | 梁 CN |
| | 看護倫理 | 9月11日(月) | 1日 | 1. 倫理綱領・倫理原則について理解でき、子どもを中心とし尊重したケアを考えることができる | 38名 | 西川 CNS |
| | ケーススタディ発表 | 12月11日(月) | 1日 | 1. 看護過程・家族看護・看護倫理を踏まえて、事例を通して自分の大切にしている看護を明確化する | 36名 | 教育委員 |

| | | | | | | |
|----------------|---------------------------------------|-----------------------------------|----------|---|-----|--------------------------|
| リーダー I・II | プリセプターフォロー研修① | 6月12日(月) | 0.5 (PM) | 1. プリセプターとしての役割を理解し、アソシエイトプリセプターの支援のもと、プリセプティと共育できる | 26名 | 佐藤看護師長 |
| | PNS マインド研修 | 7月27日(水) | 0.5 (AM) | 1. パートナーシップマインドについて理解し、育て、活用することができる 2. PNSにおける自己の役割を理解し行動できる 3. 自己の課題を見出し、具体的な行動計画を立て、取り組むことができる | 25名 | 奈須補佐 |
| | プリセプターフォロー研修② | 10月24日(火) | 0.5 (AM) | 1. プリセプターとしての役割を理解し、アソシエイトプリセプターと協力して、プリセプティの成長に合わせた支援ができる 2. プリセプティとのかかわりを通して、自己の課題や目標を見出し取り組むことで、プリセプターとしての役割を担うことができる | 24名 | 伊丹看護師長、星尾 Ns、奥井 Ns、増永 Ns |
| | リーダーシップ発表会 (今年度県立病院リーダーシップ 初級編受講者) | 3月12日(月) | 0.5 (AM) | 1. リーダーシップを学び、自立してリーダーシップが発揮できる | 10名 | 教育委員 |
| リーダーIII・ IV | ファシリテーター研修 | 9月22日(金) | 0.5 (PM) | 1. ファシリテーターの役割が理解でき実践できる | 17名 | 佐藤看護師長 |
| | 退院支援推進者研修 | 11月22日(水) | 0.5 (PM) | 1. 退院支援における病棟看護師の役割を理解し、自部署での退院支援に活かすことができる 2. 自部署で患者と家族の意思を尊重した退院支援を展開できる | 30名 | 橋本地域医療連携部次長 |
| 看護研究 | 看護研究② | 5月31日(水) | 0.5 (AM) | 1. 看護研究の基礎知識を得ることができる | 23名 | 中谷 CNS、濱田看護師長 |
| | 看護研究③ | 11月22日(水) | 0.5 (AM) | 2. 日々の実践を研究的視点で捉え、支援を受けながらメンバーの一員として研究に取り組むことができる | 22名 | 濱田看護師長 |
| | 看護研究① | 2月22日(木) | 0.5 (AM) | 3. 効果的なプレゼンテーションができる | 24名 | 中谷 CNS |
| 役割研修 | 教育担当者研修① | 12月4日(月) | 1日 | 1. 先輩看護師の指導を受けながら、教育担当者、アソシエイト・プリセプターとして新人看護師の支援と教育ができる | 37名 | 井谷 CN、梁 CN、河南 Ns |
| | 教育担当者研修② | 1月29日(月) | 0.5 (PM) | 2. シミュレーション教育の知識を習得し、研修の企画運営に活かすことができる | 40名 | 竹原歩先生(兵庫県立大学) |
| | 教育研修フォローアップ 研修 | 12月22日(金) | 0.5 (PM) | 1. ともに育つことができる教育環境を作ることができる | 54名 | 教育委員 |
| | 教育研修 | 1月25日(木) | 0.5 (PM) | 1. 若年看護師の特徴を理解し、相手に合わせた教育支援ができる | 43名 | 内藤知佐子先生(京都大学医学部附属病院) |
| スキルアップ 研修 | ストーマケア② | 7月26日(水) 9月27日(水) 1月31日(水) | 0.5 (PM) | 1. 新生児期の生理学的適応過程を理解し、必要な看護について理解する 2. 親子の始まりを支えるための看護を理解する 3. 母乳育児支援の実際について理解する 4. ディベロップメンタルケアやポジショニングなど、新生児の神経発達援助を理解する 5. 1～4をふまえて、疾病新生児の看護の実際について考えられる | 6名 | 井谷 CN |
| | 糖尿病看護 | | | | | |
| | 摂食・嚥下障害看護 | | | | | |
| | 創傷ケア | 8月21日(月) 10月10日(火) 2月13日(火) | 0.5 (AM) | 1. 適切な病態アセスメントと情報の共有、報告のスキルを身につけ、患者への適切なケアや治療につなげることで、児の急変や重症化、合併症を予防することができる | 10名 | 坂本 CN |
| | 新生児看護 | 8月8日(火) 10月10日(火) 2月13日(火) | 0.5 (PM) | 1. ラダーII以上の看護師の感染対策に対するレベルが向上する 2. 現場における感染対策の風土を改善する 3. 受講者が、感染対策の基礎知識を基盤に、根拠を理解して看護ケアを展開できる 4. 受講者が、役割モデルとして感染対策を実践、推進、スタッフへの指導ができる 5. 受講者が、常に問題意識をもって行動し、感染防止対策の改善策について考えることができる | 8名 | 鳴滝 CN・新谷 CN |
| | 集中ケア | | | | | |
| | 感染管理 | | | | | |

30. 薬剤部

1 薬剤部員異動

| | | | | |
|-------|------|--------|--------------|---------------|
| 【転出者】 | 次長 | 福井 由美子 | 県立加古川医療センター | (平成29年4月1日付) |
| | 職員 | 永井 浩章 | 県立尼崎総合医療センター | (平成29年4月1日付) |
| | 職員 | 中山 淳司 | 県立豊岡健康福祉事務所 | (平成29年4月1日付) |
| 【転入者】 | 次長 | 石田 達彦 | 県立柏原病院 | (平成29年4月1日付) |
| | 課長補佐 | 大前 隆広 | 県立がんセンター | (平成29年4月1日付) |
| | 職員 | 斎藤 あゆみ | 新規採用者 | (平成29年4月1日付) |
| | 職員 | 渡邊 稜子 | 新規採用者 | (平成29年4月1日付) |
| 【退職者】 | 職員 | 小林 知世 | | (平成29年4月30日付) |
| | 課長補佐 | 丁子 江利 | | (平成29年7月15日付) |

2 平成29活動報告

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

(1) 病棟薬剤師業務の充実

病棟での薬剤師業務の充実を図った。従来の薬剤管理指導件数の増だけでなく、病棟薬剤業務実施加算1を取得しており、一般病棟に週20時間以上薬剤師を常駐させ医療スタッフや患者からの問い合わせ・指導を行った。

(2) 薬剤部内での医薬品に係わるヒヤリハット防止への取組

「医療事故防止のための薬剤業務マニュアル」等の各種マニュアルの輪読の他、増加している若手職員を中心にリスク防止対策等の研修会を実施しリスク防止意識の醸成を図った。更に薬剤業務が適正に実施されているかを確認する目的で実践検証を実施する等、部員全員でヒヤリハット防止対策に取り組んだ。

(3) 治験への取組

院内治験審査委員会事務局として新規治験や継続中の治験の適否に携わった。さらに、小児治験ネットワークを介した治験（中央治験審査委員会で審議）にも積極的に参加し、より充実した治験業務が展開できた。

(4) 薬学生の長期実務実習及びレジデントの受け入れ

実務実習モデル・コアカリキュラムに基づき13名の薬学生を受入れ指導を行った。また、2名のレジデントの受け入れについては当院作成のレジデント研修マニュアル等で、病院薬剤師として必要な知識等を指導した。

(5) 部員の育成

薬剤部の活性化と個々の部員のモチベーションを高めるため、部内勉強会や薬剤管理指導症例報告会を定期的実施した。さらに学会等での発表等の支援を行った。

(6) AST活動

薬剤師が中心的役割を担う、抗微生物薬適正使用推進チーム（AST）を発足させ、月2回の定期ミーティング・週3回の抗微生物薬のモニタリングを行い抗微生物薬の適正使用について検討・処方支援を行った。カルバペネム・経口第3世代セフェム使用量の効率的な削減に貢献した。

3 今後の展望

医療事故防止対策の充実やチーム医療の促進という観点から病棟での薬剤師業務を更に充実させるため、集中部門や手術室への薬剤師を配備させるべく取り組んでいく。更に、薬剤師個々の技術・知識を充実させ院内の医薬品の適正な管理及び有効かつ安全な薬物療法の推進に寄与していく。

(1) 調剤件数

| 区 分 | 内用・外用薬 | | 注 射 薬 | |
|------|--------|--------|--------|--------|
| | 処方箋枚数 | 調剤数 | 処方箋枚数 | 延本数 |
| 入 院 | 57898 | 96188 | 115403 | 663005 |
| 外 来 | 5753 | 40440 | 9042 | 17790 |
| 計 | 63651 | 136628 | 124445 | 680795 |
| 一日平均 | 174.4 | 374.3 | 340.9 | 1865.2 |

(2) 薬剤管理指導関係件数

| 診療科 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 薬剤管理指導 | 885 | 897 | 750 | 776 | 710 | 836 | 873 | 963 | 839 | 842 | 832 | 816 | 9251 |
| 麻薬加算 | 9 | 7 | 7 | 2 | 0 | 2 | 3 | 12 | 2 | 4 | 4 | 8 | 60 |
| 退院指導 | 108 | 110 | 104 | 100 | 82 | 109 | 129 | 132 | 104 | 103 | 99 | 117 | 1298 |

(3) 薬剤情報提供料 件数

| 診療科 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 全 科 | 306 | 263 | 311 | 277 | 331 | 286 | 355 | 354 | 314 | 319 | 379 | 472 | 3967 |

(4) 無菌製剤調製業務

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 抗がん剤 | 123 | 138 | 227 | 137 | 131 | 272 | 302 | 350 | 324 | 376 | 375 | 360 | 3115 |
| 高カロリー | 86 | 172 | 203 | 190 | 158 | 140 | 109 | 155 | 47 | 108 | 180 | 141 | 1689 |
| 計 | 209 | 310 | 430 | 327 | 289 | 412 | 411 | 505 | 371 | 484 | 555 | 501 | 4804 |

(5) TDM 件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| バンコマイシン | 4 | 1 | 5 | 6 | 14 | 8 | 4 | 16 | 18 | 13 | 3 | 3 | 85 |
| ゲンタマイシン | 0 | 0 | 0 | 2 | 5 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| 計 | 4 | 1 | 5 | 8 | 19 | 10 | 4 | 16 | 18 | 13 | 3 | 3 | 104 |

(6) 抗緑膿菌薬の DOT (days of therapy : 抗菌薬治療日数 抗微生物薬の投与日数のみを評価する指標)

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| MEPM | 4.1 | 7.7 | 9.8 | 6.6 | 10.5 | 7.2 | 2.8 | 12.3 | 3.6 | 7.3 | 7.5 | 5.5 |
| CAZ | 2.8 | 0.0 | 0.3 | 5.2 | 2.0 | 4.7 | 1.5 | 0.5 | 1.3 | 2.6 | 0.9 | 0.7 |
| TAZ/PIPC | 2.8 | 2.6 | 5.6 | 5.0 | 10.3 | 7.0 | 1.8 | 5.1 | 6.2 | 3.4 | 3.4 | 4.8 |
| PIPC | 9.5 | 8.2 | 6.9 | 5.5 | 7.3 | 8.6 | 2.8 | 3.5 | 4.9 | 4.1 | 2.8 | 2.4 |
| CFPM | 9.5 | 11.3 | 16.3 | 10.9 | 26.1 | 13.6 | 13.2 | 14.6 | 10.7 | 21.6 | 27.0 | 16.3 |
| CPFX | 0.5 | 1.9 | 3.0 | 1.7 | 1.7 | 0.0 | 0.6 | 1.2 | 2.3 | 2.5 | 1.3 | 0.0 |

(7) 院内D I 業務

① 電子メールによる情報提供

| 送 信 日 | 件 名 |
|------------|-----------------------|
| 2017.2.6 | 医薬品安全対策情報 No.256 |
| 2017.3.13 | 医薬品安全対策情報 No.257 |
| 2017.3.24 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.340 |
| 2017.3.24 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.341 |
| 2017.4.18 | 医薬品安全対策情報 No.258 |
| 2017.4.25 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.342 |
| 2017.5.23 | 医薬品安全対策情報 No.259 |
| 2017.5.26 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.343 |
| 2017.6.26 | 医薬品安全対策情報 No.260 |
| 2017.7.3 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.344 |
| 2017.8.3 | 医薬品安全対策情報 No.261 |
| 2017.8.4 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.345 |
| 2017.8.31 | 医薬品安全対策情報 No.262 |
| 2017.9.13 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.346 |
| 2017.10.25 | 医薬品安全対策情報 No.263 |
| 2017.10.25 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.347 |
| 2017.11.30 | 医薬品安全対策情報 No.264 |
| 2017.11.30 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.348 |
| 2017.12.25 | 医薬品安全対策情報 No.265 |

② 主な問い合わせ内容

| 問 い 合 わ せ 内 容 | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・注射薬配合変化について ・注射薬溶解後の安定性について ・注射薬のフィルター透過性について ・食品と薬剤の相互作用について ・内服薬の飲み易い飲み方について ・冷所保存医薬品の常温での安定性について | <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の副作用について ・血液製剤の投与方法について ・小児薬用量について ・錠剤の粉碎可否について ・抗がん剤の適切な投与方法について |

(8) 院内製剤

① 内用液剤

| 製 剤 名 | 製剤量 (単位 /mL) |
|---------------|--------------|
| 内服用ルゴール液 | 420 |
| 0.1%ミダゾラムシロップ | 11100 |

② 軟 膏

| 製 剤 名 | 製剤量 (単位 /g) |
|-----------------|-------------|
| バリアー | 160000 |
| 10% テストステロン軟膏 | 1295 |
| 0.4% エストラジオール軟膏 | 1000 |

③ 外用液剤

| 製 剤 名 | 製剤量 (単位 /mL) |
|---------------|--------------|
| アセモートル | 4000 |
| 1/2 カプトドロップ | 640 |
| 0.5% アトロピン点眼 | 40 |
| 25% グリセリン液 | 48000 |
| 食塩重層液 | 0 |
| 20% 硝酸銀 | 0 |
| 30% 硝酸銀 | 40 |
| 40% 硝酸銀 | 0 |
| 10% ピオクタニン青液 | 250 |
| 1% ピオクタニン青液 | 0 |
| 0.2% ピオクタニン青液 | 400 |
| 30% アルコール | 180 |
| 50% アルコール | 180 |
| ツェンテール液 | 150 |

④ 予製剤

| 製剤名 | 製剤量 (単位 /g) | 製剤名 | 製剤量 (単位 /g) |
|-----------------|-------------|----------------------|-------------|
| (倍散→倍散) | | ベラプロスト (× 50000) | 6000 |
| 0.01% ジゴシン散 | 1500 | ヒドロクロチアジド散 (× 10) | 750 |
| (錠→散) | | フラジール散 (× 4) | 0 |
| インデラル (× 100) | 4680 | オキシブチニン散 (× 100) | 600 |
| グリチロン散 | 300 | メキシチール散 (× 10) | 0 |
| コートリル散 (× 20) | 1600 | ロンゲス散 (× 100) | 1400 |
| デカドロン散 (× 1000) | 900 | イムラン散 (× 10) | 150 |
| レバチオ散 (× 50) | 10800 | カタプレス 75 μ g/g 散 | 1800 |

31. 検査・放射線部（検査部門）

1. 人事異動（平成 29 年 4 月 1 日付）

【転出者】

| | | |
|--------|--------|---------|
| 検査技師長 | 松尾 美也子 | 定年退職 |
| 主任検査技師 | 千田 園子 | 西宮病院へ |
| 主査 | 溝根 尚子 | がんセンターへ |

【転入者】

| | | |
|--------|--------|--------------|
| 検査技師長 | 幸福 淳子 | 姫路循環器病センターより |
| 主任検査技師 | 山内 由里子 | 加古川医療センターより |
| 課長補佐 | 筑紫 和江 | 尼崎総合医療センターより |
| 職員 | 芳井 佳奈 | 新規採用 |

2. 活動報告

(1) 臨床検査業務の充実

新病院 2 年目を迎え、患者数の増加とともに臨床検査件数も増加し、対前年比 108% となった。新規業務として、1 月に日当直帯での血液培養陽性検体の培地への塗布、2 月に α フェトプロテイン、8 月に L-FABP（半定量）の院内測定を開始した。新病院より開始した遺伝子検査は手技が確立しルーチン業務として軌道に載っている。検査システムや採取ラベル等の見直しは随時行い、臨床検査業務の充実を図った。

(2) ヒヤリハット防止への取り組み

ヒューマンエラーや環境・設備の不備に対する感受性を高めるため、「尿検体」「採血」「心電図」について危険予知トレーニング（KYT）を行い、行動目標を立案した。また、医療安全月間では「患者情報の確認」をテーマとし、医療安全への意識向上に努めた。

(3) 院内感染対策

感染対策委員会事務局として本委員会を定期開催（年 12 回）した。感染対策チーム（ICT）の活動に力を入れ、感染管理加算 I 取得を継続している。

(4) 安全な輸血治療

輸血療法委員会事務局として本委員会を定期開催（年 6 回）した。適正な輸血療法の推進、血液製剤の有効利用を図り（廃棄率 0.8%）、輸血管理料 I 取得を継続している。

(5) 人材育成

学会や研修会・セミナー等に積極的に参加して知識を向上させ、県立病院相互研修制度を利用して技術の習得や運用改善を行った。また、業務到達度チェックリストを活用して各業務を評価し研鑽に努めた。

〈認定・資格〉

| | | | |
|----------------------|----|-------------|----|
| 超音波検査士（循環器） | 5名 | 超音波検査士（消化器） | 4名 |
| 超音波検査士（体表臓器） | 1名 | 細胞検査士 | 3名 |
| 認定血液検査技師 | 1名 | 認定輸血検査技師 | 1名 |
| 臨床工学士 | 1名 | 第一種衛生管理者 | 1名 |
| 衛生工学衛生管理者 | 1名 | 有機溶剤作業主任者 | 1名 |
| 特定化学物質及び四アルカリ鉛等作業主任者 | 1名 | | |

3. 次年度の課題

現在、検体検査の精度を確保するための法改正が進められている。これに対応するため遺伝子検査を含む検体検査の精度管理・精度保証に取り組む。またチーム医療を推進するため、安全で適切な輸血療法の啓蒙や、ICT（院内感染対策チーム）の活動などに積極的に取り組んでいく。

(1) 臨床検査実施状況

*メディスコードを用いた集計に変更

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 一般 | 3,021 | 2,681 | 3,392 | 2,367 | 2,572 | 2,668 | 3,058 | 3,956 | 2,916 | 2,731 | 2,601 | 2,937 | 34,900 |
| 血液 | 12,192 | 12,265 | 14,770 | 12,051 | 12,860 | 12,584 | 13,413 | 14,616 | 11,862 | 13,066 | 13,278 | 13,256 | 156,213 |
| 細菌 | 1,984 | 1,738 | 1,911 | 1,677 | 2,155 | 2,026 | 2,137 | 1,978 | 2,003 | 2,178 | 2,128 | 1,938 | 23,853 |
| 血清 | 5,162 | 5,035 | 5,969 | 4,816 | 5,227 | 5,112 | 5,744 | 5,980 | 4,889 | 5,109 | 5,132 | 5,131 | 63,306 |
| 生化学 | 47,551 | 46,587 | 57,256 | 45,379 | 49,331 | 49,018 | 51,243 | 57,242 | 45,718 | 48,012 | 48,614 | 49,868 | 595,819 |
| 病理 | 160 | 174 | 147 | 144 | 165 | 142 | 152 | 176 | 152 | 169 | 140 | 139 | 1,860 |
| 生理 | 1,203 | 1,166 | 1,638 | 1,232 | 1,133 | 1,300 | 1,364 | 2,112 | 1,352 | 1,189 | 1,125 | 1,338 | 16,152 |
| 職員検診 | 66 | 24 | 60 | 183 | 41 | 3,416 | 53 | 51 | 55 | 57 | 23 | 23 | 4,052 |
| 外部委託 | 3,477 | 2,848 | 3,373 | 3,102 | 3,074 | 3,302 | 3,337 | 3,970 | 3,179 | 3,103 | 2,983 | 3,125 | 38,873 |
| 合計 | 74,816 | 72,518 | 88,516 | 70,951 | 76,558 | 79,568 | 80,501 | 90,081 | 72,126 | 75,614 | 76,024 | 77,755 | 935,028 |

(2) 時間外(日、当直)検査実施状況

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年度累計 |
|------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|
| 項目数 | 3,070 | 3,006 | 3,175 | 2,719 | 3,448 | 2,959 | 3,047 | 2,938 | 2,749 | 3,105 | 3,025 | 3,069 | 36,310 |
| 対前年比 | 95.0% | 113.4% | 124.7% | 225.8% | 174.9% | 100.7% | 96.3% | 96.7% | 80.3% | 93.5% | 102.8% | 94.1% | 107.8% |
| 患者数 | 1,295 | 1,249 | 1,313 | 1,043 | 1,320 | 1,164 | 1,221 | 1,121 | 1,137 | 1,194 | 1,160 | 1,240 | 14,457 |
| 対前年比 | 96.4% | 114.3% | 124.8% | 204.1% | 164.8% | 327.0% | 92.9% | 89.5% | 79.7% | 91.1% | 96.9% | 93.2% | 105.2% |

(3) 血液製剤使用状況

| 製剤 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | |
|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-----|-----|-------|-----|--------|
| RCC | 購入数 | 単位数 | 241 | 261 | 286 | 244 | 299 | 294 | 259 | 227 | 163 | 264 | 252 | 248 | 3,038 |
| | 使用量 | 単位数 | 236 | 264 | 285 | 244 | 289 | 300 | 242 | 231 | 167 | 260 | 243 | 246 | 3,007 |
| | 廃棄量 | 単位数 | 0 | 4 | 0 | 0 | 2 | 0 | 4 | 2 | 4 | 0 | 8 | 0 | 24 |
| | 廃棄率 | % | 0.0 | 1.5 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 1.6 | 0.9 | 2.3 | 0.0 | 3.2 | 0.0 | 0.8 |
| FFP | 購入数 | 単位数 | 119 | 135 | 126 | 118 | 185 | 164 | 198 | 83 | 47 | 149 | 93 | 118 | 1,535 |
| | 使用量 | 単位数 | 123 | 142 | 122 | 116 | 161 | 181 | 172 | 94 | 50 | 144 | 97 | 109 | 1,511 |
| | 廃棄量 | 単位数 | 2 | 0 | 0 | 4 | 2 | 3 | 4 | 6 | 2 | 0 | 0 | 2 | 25 |
| | 廃棄率 | % | 1.6 | 0.0 | 0.0 | 3.3 | 1.2 | 1.6 | 2.3 | 6.0 | 3.8 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 1.6 |
| PC | 購入数 | 単位数 | 870 | 1,005 | 1,420 | 1,050 | 1,285 | 1,158 | 870 | 1,235 | 500 | 780 | 1,280 | 855 | 12,308 |
| | 使用量 | 単位数 | 860 | 1,005 | 1,420 | 1,030 | 1,265 | 1,158 | 870 | 1,225 | 510 | 760 | 1,300 | 845 | 12,248 |
| | 廃棄量 | 単位数 | 0 | 10 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 10 | 60 |
| | 廃棄率 | % | 0.0 | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 1.6 | 0.0 | 0.0 | 1.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.2 | 0.5 |

(4) 血液培養

| 材料 | 件数 | 陽性件数 | 陽性率(%) |
|----------|------|------|--------|
| 静脈血(末梢血) | 1731 | 109 | 6.3 |
| 静脈血(CV血) | 781 | 56 | 7.2 |
| 動脈血 | 416 | 15 | 3.6 |
| 計 | 2928 | 180 | 6.1 |

| |
|------------|
| 血液培養複数セット率 |
| 25% |

| | |
|------------------|-------------|
| 小児用血液培養ボトル適正量採取率 | 2017年3月～11月 |
| 64% | |

| 血液培養 検出菌 | 件数 | 血液培養 検出菌 | 件数 |
|----------------------------|----|------------------------------|----|
| S.epidermidis(MRSE) | 12 | E.coli ESBL | 1 |
| S.aureus(MRSA) | 9 | K.pneumoniae AmpC | 1 |
| Coag Neg Staph MRS | 8 | Haemophilus parainfluenzae | 1 |
| Bacillus sp. | 8 | Stenotrophomonas maltophilia | 1 |
| Coag Neg Staph | 8 | Acinetobacter baumannii | 1 |
| Staphylococcus aureus | 7 | P.fluorescens/putida | 1 |
| Staphylococcus epidermidis | 6 | Streptococcus gallolyticus | 1 |
| Escherichia coli | 6 | Enterococcus avium | 1 |
| Streptococcus mitis | 6 | Streptococcus oralis | 1 |
| S.pneumoniae(PSSP) | 6 | Brevibacterium sp. | 1 |
| Viridans Streptococcus | 5 | Rhodococcus sp. | 1 |
| Pseudomonas aeruginosa | 4 | Candida glabrata | 1 |
| Streptococcus agalactiae | 4 | Moraxella osloensis | 1 |
| Klebsiella oxytoca | 3 | Moraxella lacunata | 1 |
| Klebsiella pneumoniae | 3 | Neisseria lactamica | 1 |
| Enterococcus faecalis | 2 | Fusobacterium sp. | 1 |
| Enterococcus faecium | 2 | Gram Pos rod | 1 |
| Enterobacter cloacae | 2 | Corynebacterium sp. | 1 |
| Moraxella catarrhalis | 2 | Gram Positive coccus | 1 |
| Neisseria sp. | 2 | γ Streptococcus | 1 |

(5) 耐性菌検出状況

| 菌名 | 件数 | 耐性率* |
|---|-----|------|
| MRSA | 119 | 38% |
| S.pneumoniae(PRSP) PCG MIC ≥ 0.12 (髄膜炎基準) | 19 | 48% |
| H.influenzae(BLNAR) | 20 | 36% |
| E.coli ESBL | 29 | 18% |
| P. aeruginosa MBL | 0 | 0% |
| P. aeruginosa MDRP | 0 | 0% |
| CPE (カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌) | 0 | 0% |

*耐性率は各細菌に対する耐性の割合
例 MRSA…全 S.aureus 中の MRSA の割合

(6) 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン

| | 成果指標 | 実績値 |
|-----------------------|--------|-----|
| 肺炎球菌のペニシリン耐性率 (髄膜炎基準) | 15%以下 | 52% |
| 黄色ブドウ球菌のメチシリン耐性率 | 20%以下 | 38% |
| 大腸菌のフルオロキノロン耐性率 | 25%以下 | 30% |
| 緑膿菌のイミペネム耐性率 | 10%以下 | 9% |
| 大腸菌肺炎桿菌のカルバペネム耐性率 | 0.2%以下 | 0% |

32. 検査・放射線部（放射線部門）

1. 人事異動 平成 29 年 4 月 1 日付

| | | | |
|-------|---------|--------|--------------|
| 【転出者】 | 放射線技師長 | 芦原 龍彦 | 加古川医療センターへ |
| | 主任放射線技師 | 久保田 晴元 | 西宮病院へ |
| | 職員 | 射場 智美 | 尼崎総合医療センターへ |
| 【転入者】 | 放射線技師長 | 山崎 敏弘 | 柏原病院より |
| | 主任放射線技師 | 中島 宏樹 | 尼崎総合医療センターより |
| | 主査 | 平井 政嗣 | 西宮病院より |

2. 活動状況

1) 放射線検査業務実績（表 1、2、3）

新病院移転時の混乱も落ち着き、各装置も安定稼働に入ったため平成 29 年の放射線検査実績は、総検査人数 44,745 人で、新病院移転に伴う業務制限があった前年より 4,176 人増加した。一昨年に比べても 1,214 件増加しており、病床数の増加による検査全体の底上げと考えるが、特に救急診療の充実で時間外検査やポータブル撮影の増加が顕著である。また MRI 検査は 2 台体制となり大幅に増加した。

2) 機器（表 4）

昨年多くの装置を増設および更新できたことで、最新技術による画像情報を効率よく提供することができるようになった。特に X 線撮影用フラットパネルディテクターシステムは撮影効率が格段に向上し、待ち時間の短縮と被ばく線量の低減に大きく貢献した。また MRI を 2 台態勢にしたことで予約待ちが解消し、緊急検査の対応が容易になった。その他、パノラマ・セファロ X 線撮影装置、X 線骨密度測定装置、CT 装置の更新によりこれまでより質の高い画像情報の提供が可能になった。

3) 医療事故防止の取組み

患者間違いや撮影間違いの防止に向けて取り組んでおり、患者情報の取り込みにバーコード認証を導入したことで旧病院時に比べ患者間違いは大幅に減少している。また、MRI 室へ磁性体の持ち込みがないように、入念な確認作業や担当看護師に対して講習会を開催するなど事故のない検査実施に努めている。

4) チーム医療の推進

チーム医療推進の一環として疑義照会や依頼内容の確認を積極的に行い、正確な検査結果を提供するよう努めている。また緊急処置を要する代表的な症例画像を検査室に掲示し、発見した際には直ちに主治医へ連絡する体制を整えた。

5) 資質向上と教育

職員の資質向上を図るため、学会・研修会への積極的な参加と研究発表を行っている。

- ・学会・研修会発表 : 7 演題
- ・学会・研修会等への参加 : 日本放射線技術学会学術大会、全国自治体病院学会、小児放射線技術研究会、磁気共鳴医学会、日本核医学技術学会、医療情報学連合大会、兵庫県放射線技師学術大会、電離箱式サーベイメータ比較校正実習、県立

病院放射線技師部会

<認定資格>

| | | | |
|-------------|----|-----------|----|
| 第1種放射線取扱主任者 | 1名 | 放射線管理士 | 1名 |
| 放射線機器管理士 | 1名 | 医療情報技師 | 1名 |
| 医療画像情報専門管理士 | 1名 | 放射線被ばく相談員 | 1名 |
| 臨床実習指導教員 | 2名 | 情報処理技術者 | 1名 |
| 第2種放射線取扱主任者 | 1名 | | |

3. 来年度の課題

最新装置の日常点検および定期点検を怠らず、安定稼働に努めることで安心安全な検査を継続する。またチーム医療の推進および医療事故防止については、部内の継続した取り組みに加え、今後さらに他部署との連携に着目した取り組みを進めます。

(1) 放射線検査人数 (表 1)

| 区分 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | | |
|--------|--------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| 単純撮影 | X線撮影 | 外来 | 1267 | 1241 | 1779 | 1407 | 1294 | 1311 | 1550 | 2097 | 1459 | 1324 | 1289 | 1621 | 17639 | |
| | | 入院 | 106 | 129 | 165 | 163 | 194 | 160 | 175 | 190 | 123 | 163 | 132 | 130 | 1830 | |
| | | 計 | 1373 | 1370 | 1944 | 1570 | 1488 | 1471 | 1725 | 2287 | 1582 | 1487 | 1421 | 1751 | 19469 | |
| | ポータブル | 外来 | 21 | 26 | 29 | 45 | 49 | 35 | 31 | 34 | 37 | 54 | 44 | 45 | 450 | |
| | | 入院 | 879 | 806 | 886 | 730 | 904 | 848 | 949 | 795 | 732 | 924 | 880 | 877 | 10210 | |
| | | 計 | 900 | 832 | 915 | 775 | 953 | 883 | 980 | 829 | 769 | 978 | 924 | 922 | 10660 | |
| 単純撮影合計 | | 外来 | 1288 | 1267 | 1808 | 1452 | 1343 | 1346 | 1581 | 2131 | 1496 | 1378 | 1333 | 1666 | 18089 | |
| | | 入院 | 985 | 935 | 1051 | 893 | 1098 | 1008 | 1124 | 985 | 855 | 1087 | 1012 | 1007 | 12040 | |
| | | 計 | 2273 | 2202 | 2859 | 2345 | 2441 | 2354 | 2705 | 3116 | 2351 | 2465 | 2345 | 2673 | 30129 | |
| 造影撮影 | 消化器 | 外来 | 22 | 20 | 26 | 19 | 24 | 19 | 28 | 15 | 13 | 26 | 24 | 19 | 255 | |
| | | 入院 | 13 | 14 | 21 | 30 | 13 | 19 | 31 | 18 | 22 | 10 | 18 | 20 | 229 | |
| | | 計 | 35 | 34 | 47 | 49 | 37 | 38 | 59 | 33 | 35 | 36 | 42 | 39 | 484 | |
| | 脳血管 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 入院 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 | 2 | 1 | 11 | |
| | | 計 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 | 2 | 1 | 11 | |
| | 心臓血管 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 入院 | 17 | 28 | 31 | 29 | 22 | 26 | 24 | 37 | 25 | 28 | 26 | 26 | 319 | |
| | | 計 | 17 | 28 | 31 | 29 | 22 | 26 | 24 | 37 | 25 | 28 | 26 | 26 | 319 | |
| | その他血管 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 入院 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 5 | |
| | | 計 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 5 | |
| | 泌尿器系 | 外来 | 22 | 19 | 22 | 37 | 28 | 28 | 33 | 48 | 34 | 37 | 27 | 30 | 365 | |
| | | 入院 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 8 | 5 | 1 | 3 | 1 | 5 | 1 | 37 | |
| | | 計 | 24 | 21 | 25 | 40 | 31 | 36 | 38 | 49 | 37 | 38 | 32 | 31 | 402 | |
| | その他造影 | 外来 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | |
| | | 入院 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 3 | 2 | 3 | 4 | 6 | 5 | 4 | 39 | |
| | | 計 | 3 | 4 | 4 | 2 | 2 | 3 | 2 | 3 | 4 | 6 | 5 | 4 | 42 | |
| | 造影撮影合計 | | 外来 | 44 | 40 | 50 | 56 | 52 | 47 | 61 | 63 | 47 | 63 | 51 | 49 | 623 |
| | | | 入院 | 38 | 48 | 57 | 64 | 41 | 57 | 64 | 62 | 54 | 47 | 56 | 52 | 640 |
| | | | 計 | 82 | 88 | 107 | 120 | 93 | 104 | 125 | 125 | 101 | 110 | 107 | 101 | 1263 |
| | CT検査 | | 外来 | 144 | 111 | 157 | 117 | 119 | 123 | 147 | 151 | 116 | 117 | 119 | 131 | 1552 |
| | | | 入院 | 104 | 128 | 125 | 87 | 124 | 97 | 110 | 138 | 91 | 112 | 124 | 112 | 1352 |
| | | | 計 | 248 | 239 | 282 | 204 | 243 | 220 | 257 | 289 | 207 | 229 | 243 | 243 | 2904 |
| MRI検査 | | 外来 | 195 | 184 | 228 | 191 | 164 | 200 | 204 | 289 | 231 | 207 | 142 | 160 | 2395 | |
| | | 入院 | 54 | 67 | 64 | 47 | 67 | 76 | 52 | 51 | 59 | 52 | 57 | 58 | 704 | |
| | | 計 | 249 | 251 | 292 | 238 | 231 | 276 | 256 | 340 | 290 | 259 | 199 | 218 | 3099 | |
| 核医学検査 | | 外来 | 11 | 13 | 24 | 7 | 14 | 12 | 15 | 38 | 17 | 15 | 12 | 12 | 190 | |
| | | 入院 | 3 | 6 | 8 | 9 | 8 | 10 | 8 | 9 | 4 | 9 | 6 | 2 | 82 | |
| | | 計 | 14 | 19 | 32 | 16 | 22 | 22 | 23 | 47 | 21 | 24 | 18 | 14 | 272 | |
| 放射線治療 | | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 14 | 18 | |
| | | 入院 | 63 | 95 | 29 | 15 | 28 | 54 | 68 | 47 | 62 | 45 | 26 | 104 | 636 | |
| | | 計 | 63 | 95 | 29 | 15 | 28 | 54 | 68 | 50 | 63 | 45 | 26 | 118 | 654 | |
| 超音波検査 | | 外来 | 400 | 408 | 544 | 410 | 386 | 360 | 485 | 659 | 450 | 424 | 359 | 492 | 5377 | |
| | | 入院 | 64 | 69 | 78 | 73 | 71 | 88 | 79 | 78 | 76 | 72 | 77 | 64 | 889 | |
| | | 計 | 464 | 477 | 622 | 483 | 457 | 448 | 564 | 737 | 526 | 496 | 436 | 556 | 6266 | |
| 骨塩定量 | | 外来 | 6 | 2 | 7 | 3 | 11 | 11 | 8 | 18 | 11 | 17 | 8 | 12 | 114 | |
| | | 入院 | 5 | 3 | 3 | 2 | 4 | 5 | 5 | 4 | 2 | 5 | 5 | 1 | 44 | |
| | | 計 | 11 | 5 | 10 | 5 | 15 | 16 | 13 | 22 | 13 | 22 | 13 | 13 | 158 | |
| 総合計 | | 外来 | 2088 | 2025 | 2818 | 2236 | 2089 | 2099 | 2501 | 3352 | 2369 | 2221 | 2024 | 2536 | 28358 | |
| | | 入院 | 1316 | 1351 | 1415 | 1190 | 1441 | 1395 | 1510 | 1374 | 1203 | 1429 | 1363 | 1400 | 16387 | |
| | | 計 | 3404 | 3376 | 4233 | 3426 | 3530 | 3494 | 4011 | 4726 | 3572 | 3650 | 3387 | 3936 | 44745 | |

* 6月からMRI装置2台稼働

(2) 時間外 時間帯別検査人数 (表 2)

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 日動帯検査人数 | 257 | 176 | 237 | 209 | 249 | 180 | 247 | 174 | 196 | 216 | 227 | 253 | 2621 |
| 業務時間(時) | 44 | 33 | 45 | 41 | 49 | 37 | 48 | 34 | 39 | 44 | 42 | 48 | 504 |
| 準夜帯検査人数 | 128 | 155 | 129 | 143 | 191 | 152 | 155 | 179 | 121 | 151 | 180 | 169 | 1853 |
| 業務時間(時) | 51 | 46 | 41 | 45 | 74 | 49 | 52 | 55 | 39 | 51 | 12 | 58 | 572 |
| 深夜帯検査人数 | 54 | 54 | 38 | 31 | 58 | 43 | 61 | 48 | 53 | 61 | 53 | 67 | 621 |
| 業務時間(時) | 23 | 21 | 15 | 13 | 24 | 16 | 23 | 23 | 24 | 25 | 22 | 24 | 251 |
| 検査人数(計) | 439 | 385 | 404 | 383 | 498 | 375 | 463 | 401 | 370 | 428 | 460 | 489 | 5095 |
| 業務時間(計) | 118 | 100 | 101 | 99 | 146 | 101 | 123 | 111 | 102 | 120 | 76 | 130 | 1326 |

(3) 時間外 検査種別検査人数 (表 3)

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| ポータブル | 350 | 286 | 305 | 274 | 348 | 279 | 354 | 263 | 273 | 306 | 316 | 352 | 3706 |
| 一般撮影 | 48 | 49 | 57 | 76 | 87 | 57 | 59 | 89 | 60 | 76 | 84 | 76 | 818 |
| C T | 34 | 44 | 38 | 28 | 53 | 31 | 43 | 47 | 32 | 38 | 53 | 56 | 497 |
| T V | 5 | 2 | 2 | 4 | 10 | 6 | 6 | 1 | 3 | 4 | 6 | 2 | 51 |
| M R I | 2 | 3 | 2 | 1 | | 2 | 1 | 1 | 2 | 4 | 1 | 2 | 21 |
| アンギオ | | 1 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 合計 | 439 | 385 | 404 | 383 | 498 | 375 | 463 | 401 | 370 | 428 | 460 | 489 | 5095 |

(4) 新病院放射線機器 一覧表 (表 4)

| 機器名 | 製造・販売業者 | 装置名 | |
|-------------------------|----------------|------------------------|---------|
| MRI 装置 | フィリップス | Ingenia 1.5T CX | H28年3月 |
| MRI 装置 | フィリップス | Achieva 1.5T Nova Dual | H19年11月 |
| 全身用 CT 装置 (320 列) | 東芝メディカルシステムズ | Aquilion PREMIUM | H23年3月 |
| 放射線治療位置決め用 CT 装置 (80 列) | 東芝メディカルシステムズ | Aquilion PRIME | H28年3月 |
| 血管連続撮影装置 | フィリップス | Allura Xper FD20/20 | H21年11月 |
| FPD システム (12 式) | 富士フイルムメディカル | CALNEO Smart | H28年3月 |
| 長尺 FPD 装置 (2 台) | 富士フイルムメディカル | CALNEO GL | H28年3月 |
| 泌尿器用 X 線テレビ装置 | 東芝メディカルシステムズ | Ultimax-i | H28年3月 |
| 消化器用 X 線テレビ装置 | 日立メディコ | CUREVISTA | H24年9月 |
| 診断用 X 線撮影システム (2 台) | 島津製作所 | RADspeed Pro | H28年3月 |
| 医用画像システム | 富士フイルムメディカル | VINCENT | H22年3月 |
| パノラマ・セファロ X 撮影装置 | モリタ | Veraviewepocs 2DB | H28年3月 |
| ガンマカメラ | GE 横河メディカル | Infinia | H20年12月 |
| リニアック | シーメンス旭メデイトック | ONCOR Impression | H22年3月 |
| 治療計画装置 | ELEKTA | Xio | H22年3月 |
| 移動型 X 線撮影装置 (2 台) | 日立メディコ | Sirius 130HP | H28年3月 |
| 移動型 X 線撮影装置 (3 台) | 日立メディコ | Sirius 130HP | H23年2月 |
| 線量モニタリングシステム | 米国 Sun Nuclear | 1137 型 IVD2 | H28年3月 |
| RI 対応安全キャビネット | 日本エアーテック | BHC-1307 II A2-RI-S | H28年3月 |
| X 線骨密度測定装置 | HOLOGIC | Horizon W | H28年3月 |
| アンギオ用動画サーバー | ネクシス | Nahri AQUA | H28年3月 |
| 超音波画像診断装置 | 日立アロカメディカル | Ascendus | H28年3月 |
| 超音波診断装置 | GE ヘルスケア・ジャパン | LOGIQ E9 with Xdclear | H25年12月 |
| 超音波診断装置 | GE ヘルスケア・ジャパン | LOGIQ S8 | H24年3月 |
| 外科用 X 線 C アーム装置 | シーメンス | SIREMOBIL Compact-L | H23年2月 |
| 外科用 X 線 C アーム装置 | シーメンス | ARCADIS Orbic | H26年4月 |
| 造影剤自動注入器 (アンギオ) | シーマン | ZONE MASTER MODELA | H21年12月 |
| 造影剤自動注入器 (MRI) | 根本杏林堂 | Sonic Shot GX | H19年11月 |
| 造影剤自動注入器 (MRI) | 根本杏林堂 | Sonic Shot 7 | H28年3月 |
| 造影剤自動注入器 (CT) | 根本杏林堂 | Dual Shot GXV | H23年9月 |
| 造影剤自動注入器 (CT) | 根本杏林堂 | Dual Shot GX7 | H28年3月 |
| 造影剤自動注入器 (TV) | シーマン | ZONE MASTER SR Fusion | H28年3月 |
| キュリーメータ | アロカ | IGC-7E | H20年12月 |
| 分注器 | 安西 | AZ-2000N | H20年12月 |

33. 栄養管理部

1. 人事異動 平成 29 年 4 月 1 日付

(転出者) 栄養管理課長 徳田 慶造 県立こころの医療センター医事企画課へ

(転入者) 栄養管理課長 木下 修 県立尼崎総合医療センター医事課より

(主な活動報告)

- ・平成 29 年 5 月より管理栄養士 1 名の増員を図り、アレルギー科患者等の栄養指導の充実を図った。
- ・NST (チーム医療) の円滑な稼働
- ・医療事故防止対策に関する取り組み。(ひやりはっと報告)
- ・褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- ・IT化の推進 (給食オーダーリングシステムの安定稼働)
- ・患者給食のサービス向上のための給食イベントの開催「クリスマス・ケーキバイキング食等の提供」等
- ・知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- ・栄養管理業務に関する研究の成果として学術学会等への積極的な参加と発表

2. これからの展望

平成 30 年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養管理課の基盤業務と共に診療部門との更なる連携強化を図った栄養指導・相談を行うなど患者サービスの充実・向上に努める。

3. 給食

(1) 調製乳 月別延数

① 調製乳 人数

(単位 人)

| 区分 | 月別 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 計 | % |
|---------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 調乳のみ人員(人) | | 1,874 | 1,684 | 1,689 | 1,647 | 1,785 | 2,024 | 1,960 | 1,624 | 1,618 | 1,629 | 1,849 | 1,722 | 21,105 | 78.8 |
| 調乳食事人員: 調乳(人) | | 65 | 52 | 55 | 60 | 63 | 70 | 59 | 60 | 60 | 62 | 63 | 65 | 734 | 2.7 |
| 小計 | | 1,939 | 1,736 | 1,744 | 1,707 | 1,848 | 2,094 | 2,019 | 1,684 | 1,678 | 1,691 | 1,912 | 1,787 | 21,839 | 81.6 |
| 調乳・食事人員(食事) | | 349 | 328 | 322 | 380 | 435 | 494 | 500 | 340 | 478 | 462 | 494 | 353 | 4,935 | 18.4 |
| 計 | | 2,288 | 2,064 | 2,066 | 2,087 | 2,283 | 2,588 | 2,519 | 2,024 | 2,156 | 2,153 | 2,406 | 2,140 | 26,774 | 100.0 |

(注) 調乳・食事人員・・・調乳(人) 調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳 種類及び本数

(単位 本)

| 種類 | 月別 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 計 | % |
|---------------------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|---------|------|
| 13% レーベンスミルク | | 9,344 | 8,607 | 9,259 | 9,695 | 9,593 | 10,859 | 10,883 | 8,989 | 9,710 | 9,229 | 10,253 | 9,608 | 116,029 | 61.1 |
| 15% LW | | 2,596 | 2,193 | 1,777 | 1,382 | 2,358 | 3,058 | 3,001 | 1,788 | 1,502 | 1,747 | 2,200 | 1,592 | 25,194 | 13.3 |
| 16% LW | | | | | | | | 42 | 48 | | | | | 90 | |
| 17% LW | | | 252 | 279 | 270 | 295 | 261 | 225 | | 10 | | | | 1,592 | |
| 8% レーベンスミルク | | 87 | | | | | | | | | | | | 87 | |
| 14% レーベンスミルク | | | | | | | | 88 | 18 | | | | | 106 | |
| 15% レーベンスミルク | | 251 | 165 | 224 | 31 | 346 | 351 | 465 | 283 | 335 | 327 | 207 | 408 | 3,393 | |
| 16% レーベンスミルク | | 48 | 52 | | | | | | 13 | 4 | | 50 | 245 | 412 | |
| 17% レーベンスミルク | | 935 | 634 | 728 | 363 | 461 | 178 | | 230 | 411 | 554 | 315 | 611 | 5,420 | |
| 18% レーベンスミルク | | | | | | | | | | | 9 | | 224 | 233 | |
| 13% ARミルク | | 520 | 186 | 10 | 278 | 307 | 397 | 459 | 512 | 124 | 191 | 147 | 76 | 3,207 | |
| 14% ARミルク | | 54 | | | | | | | | | | | | 54 | |
| 15% ARミルク | | 72 | | 5 | | | | | | | | | | 77 | |
| 16% ARミルク | | 9 | 117 | | | | | | | | | | | 126 | |
| 14% MA -1 | | | | | | | | 225 | | | | | | 225 | |
| 15% MA -1 | | 139 | 54 | 90 | 417 | 137 | 330 | 168 | 15 | 153 | 279 | 596 | 349 | 2,727 | |
| 16% MA -1 | | | | | | | | 108 | 557 | 372 | 143 | 162 | 117 | 1,459 | |
| 17% MA -1 | | | | | | | | 36 | | | 6 | 98 | | 140 | |
| 10% E赤ちゃん | | | | | 24 | 150 | 180 | 180 | 132 | 60 | 30 | | | 756 | |
| 12% E赤ちゃん | | | | | | | | | | | 156 | 132 | 136 | 424 | |
| 13% E赤ちゃん | | 646 | 416 | 301 | 284 | 16 | 66 | 24 | 142 | 15 | 105 | 326 | 6 | 2,347 | |
| 17% E赤ちゃん | | | | | | | | | 28 | | | | | 28 | |
| 13% エレメンタルフォーミュラ | | | | | 14 | | | | | | | | | 14 | |
| 15% エレメンタルフォーミュラ | | | | | 7 | | | | | | | | | 7 | |
| 17% エレメンタルフォーミュラ | | | | | 35 | | | 18 | 21 | | 76 | 130 | | 280 | |
| 18% エレメンタルフォーミュラ | | | | | | | | 60 | | | | | | 60 | |
| 20% エレメンタルフォーミュラ | | | | | | | | 63 | | | | | | 63 | |
| 13% MCTフォーミュラ | | | | | | | | | 88 | | | | | 88 | |
| 14% MCTフォーミュラ | | 246 | 390 | 312 | 434 | 662 | 1,152 | 529 | 332 | 1,049 | 1,590 | 1,188 | 706 | 8,590 | |
| 15% MCTフォーミュラ | | | | | | | | | | | | | 81 | 81 | |
| 16% MCTフォーミュラ | | | 9 | 252 | 15 | | 126 | 72 | | 81 | | 468 | 99 | 1,122 | |
| 17% MCTフォーミュラ | | | 51 | 117 | | | 63 | | | | | | | 231 | |
| 18% MCTフォーミュラ | | | | | | 35 | 5 | | | 27 | 162 | 134 | 468 | 831 | |
| 20% MCTフォーミュラ | | | | | | | | | | | | | 18 | 18 | |
| 13% 8806 (低カリウム中リンフォーミュラ) | | | | | | | | | | 28 | | | 38 | 66 | |
| 15% 8806 (低カリウム中リンフォーミュラ) | | 25 | | | 21 | 71 | 146 | 126 | 186 | 18 | | | 6 | 599 | |
| 12% エレンダール | | | | | | 30 | | | | | | | | 30 | |

| 種類 | 月別 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 計 | % | |
|--------------|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|-------|-------|--|
| 特殊乳 | 13% エレンタール | 28 | 77 | 130 | 28 | | | 12 | | | | | | 275 | | |
| | 15% エレンタール | | 58 | 20 | | | | | | | | | | 78 | | |
| | 16% エレンタール | 4 | | | | | | | | | | | | 4 | | |
| | 17% エレンタール | | | 6 | 6 | | | | 8 | | | | | 20 | | |
| | 18% エレンタール | | | | | | | | 18 | | | | | 18 | | |
| | 19% エレンタール | | | | 12 | | | | | | | | | 12 | | |
| | 20% エレンタール | 10 | 42 | | 40 | | | | | | | | | 105 | 197 | |
| | 21% エレンタール | | | | 6 | | | | | | | | | | 6 | |
| | 23% エレンタール | | 58 | | 98 | | | | | | | | | | 156 | |
| | 24% エレンタール | | 6 | | | | 5 | | | | | | | | 11 | |
| | 26% エレンタール | | 14 | | | 36 | 18 | | | | | | | | 68 | |
| | 27% エレンタール | | 10 | | | | | 21 | | | | | | | 31 | |
| | 10% エレンタールP | | | | | | 65 | | 81 | 144 | 54 | 45 | 88 | | 477 | |
| | 12% エレンタールP | | | 28 | | | | | | | | | | | 28 | |
| | 13% エレンタールP | 152 | 257 | 313 | 464 | 352 | 260 | 193 | 45 | 178 | 54 | 174 | 113 | | 2,555 | |
| | 15% エレンタールP | | 24 | | 37 | 18 | | | | | | | | 130 | 209 | |
| | 16% エレンタールP | 426 | 260 | 279 | 261 | 268 | 146 | 12 | 75 | 26 | 48 | | | | 1,801 | |
| | 17% エレンタールP | | | | 23 | 18 | | | | | | | | 12 | 53 | |
| | 18% エレンタールP | 4 | 35 | 21 | 114 | 234 | 36 | 48 | | | | | | | 492 | |
| | 19% エレンタールP | | 3 | | | | | | | | | | | | 3 | |
| | 20% エレンタールP | 66 | 50 | | 74 | 52 | 203 | 35 | | | 181 | 70 | | | 731 | |
| | 23% エレンタールP | 27 | | | 32 | | | | | | | | | | 59 | |
| | 24% エレンタールP | | 32 | 49 | 22 | 277 | 118 | | | | | | 9 | | 507 | |
| | 25% エレンタールP | | | | | 50 | 150 | | | | | | | | 200 | |
| | 26% エレンタールP | 27 | | | | | | | | | | | | | 27 | |
| | 27% エレンタールP | | 31 | | | | | | 144 | 128 | 128 | 46 | 124 | 9 | 610 | |
| | 14% ケトンフォーミュラ | 28 | | | | | | | | | | | | 12 | 40 | |
| 特殊乳 小計 | 3,804 | 3,283 | 3,164 | 3,446 | 3,867 | 4,189 | 3,439 | 2,997 | 3,073 | 4,002 | 4,418 | 3,969 | 43,651 | 23.0 | | |
| 濃厚流動食 | GFO | 35 | 46 | 16 | 25 | 12 | 63 | 63 | 24 | 46 | 47 | 64 | 23 | 464 | | |
| | アイソカルジュニア | 170 | 151 | 218 | 200 | 218 | 242 | 270 | 197 | 156 | 226 | 237 | 188 | 2,473 | | |
| | MA-8 プラス | 124 | 100 | 105 | 104 | 113 | 90 | 93 | 93 | 90 | 93 | 90 | 93 | 1,188 | | |
| | レナウエルA | 2 | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | レナウエル3 | 2 | | | | | 27 | 23 | | | | | | 52 | | |
| | ペプタメンスタンダード | 16 | 11 | 9 | 11 | 31 | 47 | 28 | 20 | 56 | 108 | 84 | 66 | 487 | | |
| | 濃厚流動食 小計 | 349 | 308 | 348 | 340 | 374 | 469 | 477 | 334 | 348 | 474 | 475 | 370 | 4,666 | 2.5 | |
| 滅菌水 | 57 | | | 5 | 2 | 53 | 35 | 19 | 42 | 35 | 11 | | | 259 | 0.1 | |
| 合計 | 16,150 | 14,391 | 14,548 | 14,868 | 16,194 | 18,628 | 17,835 | 14,127 | 14,675 | 15,487 | 17,357 | 15,539 | 189,799 | 100.0 | | |
| 空瓶 大 200 c c | 6,495 | 5,908 | 6,225 | 6,592 | 6,065 | 6,372 | 6,510 | 5,129 | 4,687 | 5,396 | 5,696 | 5,319 | 70,394 | 50.7 | | |
| 空瓶 小 100 c c | 5,160 | 4,824 | 4,584 | 4,448 | 6,336 | 6,360 | 6,456 | 5,448 | 6,632 | 6,096 | 5,936 | 6,168 | 68,448 | 49.3 | | |
| 合計 | 11,655 | 10,732 | 10,809 | 11,040 | 12,401 | 12,732 | 12,966 | 10,577 | 11,319 | 11,492 | 11,632 | 11,487 | 138,842 | 100.0 | | |

(2) 患者食事数

① 患者食事数

(単位 食)

| 区 分 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 合計 |
|---------------|---------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|---------|--------|
| 常食 | 学 童 食 | 2,028 | 1,817 | 2,866 | 2,739 | 2,596 | 2,541 | 3,258 | 4,073 | 2,712 | 2,831 | 2,697 | 2,767 | 32,925 |
| | 妊 産 婦 食 | 1,669 | 1,288 | 1,948 | 1,815 | 1,705 | 1,887 | 1,475 | 1,379 | 1,574 | 1,799 | 1,755 | 1,768 | 20,062 |
| | 小 計 | 3,697 | 3,105 | 4,814 | 4,554 | 4,301 | 4,428 | 4,733 | 5,452 | 4,286 | 4,630 | 4,452 | 4,535 | 52,987 |
| 軟菜・幼児・ 離乳食 | 幼 児 ・ 離 乳 食 | 2,674 | 2,902 | 3,010 | 2,864 | 2,737 | 3,004 | 2,869 | 2,199 | 2,889 | 3,184 | 3,073 | 3,080 | 34,485 |
| | 軟 菜 ・ 流 動 食 | 1,077 | 1,043 | 1,287 | 1,130 | 1,325 | 1,093 | 878 | 865 | 850 | 912 | 1,143 | 1,008 | 12,611 |
| | 小 計 | 3,751 | 3,945 | 4,297 | 3,994 | 4,062 | 4,097 | 3,747 | 3,064 | 3,739 | 4,096 | 4,216 | 4,088 | 47,096 |
| 非加算特別食 | ペ ー ス ト 食 | 70 | 236 | 146 | 111 | 208 | 133 | 173 | 117 | 156 | 147 | 207 | 159 | 1,863 |
| | ア レ ル ギ ー 食 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 自 由 食 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 口 蓋 裂 食 | | 23 | 67 | 59 | 22 | 18 | 89 | 72 | 8 | | 14 | 19 | 391 |
| | 肩 摘 術 後 食 | 122 | 146 | 127 | 168 | 34 | 146 | 189 | 114 | 126 | 164 | 151 | 118 | 1,605 |
| | 移 植 対 応 食 | 311 | 362 | 704 | 404 | 643 | 458 | 674 | 873 | 425 | 396 | 548 | 476 | 6,274 |
| | ク ロ ー ン 病 食 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 低 残 査 食 | | 18 | 22 | 63 | 31 | 2 | 36 | 21 | 5 | 35 | 13 | 18 | 264 |
| | 肥 満 食 | 5 | 19 | 45 | | | | | | 9 | 93 | | | 171 |
| | ケ ト ン 食 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 減 塩 食 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | そ の 他 特 別 食 | 493 | 518 | 418 | 420 | 405 | 356 | 409 | 501 | 454 | 406 | 494 | 592 | 5,466 |
| | 小 計 | 1,001 | 1,322 | 1,529 | 1,225 | 1,343 | 1,113 | 1,570 | 1,698 | 1,183 | 1,241 | 1,427 | 1,382 | 16,034 |
| 加算特別食 | 腎 臓 食 | 227 | 198 | 158 | 176 | 132 | 98 | 157 | 183 | 218 | 42 | 78 | 113 | 1,780 |
| | 肝 臓 食 | 70 | 89 | 51 | 53 | 92 | 79 | 63 | 52 | 92 | 53 | 63 | 178 | 935 |
| | 糖 尿 病 食 | 63 | 198 | 37 | 135 | 200 | 308 | 21 | 57 | 31 | 42 | 83 | 128 | 1,303 |
| | 乳 び 胸 食 | | 105 | 89 | | 2 | 10 | 51 | 91 | | | 77 | 16 | 441 |
| | 心 臓 食 | | | | | | | | | 7 | | | | 7 |
| | 低 ナ ト リ ウ ム 食 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 検 査 食 (加) | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 妊 娠 中 毒 症 食 | 149 | 95 | 71 | 116 | 90 | 65 | 92 | 61 | 46 | 147 | 200 | 13 | 1,145 |
| | 妊 産 婦 糖 尿 病 食 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 妊 産 婦 肝 臓 病 食 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 高 尿 酸 血 症 食 | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| 小 計 | 509 | 685 | 406 | 480 | 516 | 560 | 384 | 444 | 394 | 284 | 501 | 448 | 5,611 | |
| 合 計 | 8,958 | 9,057 | 11,046 | 10,253 | 10,222 | 10,198 | 10,434 | 10,658 | 9,602 | 10,251 | 10,596 | 10,453 | 121,728 | |
| 検食等 | 保 存 食 | 186 | 168 | 186 | 180 | 186 | 180 | 186 | 186 | 180 | 186 | 180 | 186 | 2,190 |
| | 検 食 | 188 | 170 | 188 | 182 | 188 | 182 | 188 | 188 | 182 | 188 | 182 | 188 | 2,214 |
| | 合 計 | 374 | 338 | 374 | 362 | 374 | 362 | 374 | 374 | 362 | 374 | 362 | 374 | 4,404 |
| 総 合 計 | 9,332 | 9,395 | 11,420 | 10,615 | 10,596 | 10,560 | 10,808 | 11,032 | 9,964 | 10,625 | 10,958 | 10,827 | 126,132 | |

② 患者おやつ数

(単位 食)

| 区分 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 合計 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| おやつ数 | 2,090 | 2,120 | 2,550 | 2,277 | 2,251 | 2,282 | 2,448 | 2,611 | 2,324 | 2,497 | 2,439 | 2,413 | 28,302 |

(3) 患者外食事数 (保育食)

(単位 食)

| 区分 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 保育児食 | 164 | 173 | 227 | 184 | 162 | 173 | 154 | 214 | 206 | 218 | 202 | 243 | 2,320 |

4. 栄養指導 月別種類別件数

(単位 件)

| 種類 | 月別 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 合計 |
|-------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 1型糖尿病 | | 71 | 38 | 37 | 40 | 36 | 40 | 34 | 45 | 41 | 42 | 38 | 47 | 509 |
| 2型糖尿病 | | 29 | 17 | 14 | 11 | 12 | 9 | 10 | 16 | 9 | 14 | 12 | 10 | 163 |
| 妊娠糖尿病 | | 2 | | | 1 | 1 | 3 | | | | | | | 7 |
| 肥満 | | 24 | 12 | 15 | 5 | 10 | 10 | 11 | 12 | 15 | 15 | 9 | 17 | 155 |
| 腎臓病 | | 4 | 1 | 4 | 5 | 4 | 4 | 5 | 4 | 7 | 6 | 6 | 4 | 54 |
| 妊娠高血圧症候群 | | 2 | | | 2 | 2 | | 3 | | 1 | 2 | 2 | 1 | 15 |
| 心臓病 | | 12 | 3 | 5 | 2 | 6 | 5 | 2 | 1 | 5 | 2 | 4 | 5 | 52 |
| 肝臓病 | | 3 | 2 | 2 | 3 | 2 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | | | 19 |
| 膵臓病 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | 2 |
| フェニルケトン尿症 | | 4 | 1 | 3 | | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 24 |
| ガラクトース血症 | | 2 | 1 | | | | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | | 2 | 14 |
| 脂質異常症 | | 11 | 2 | 3 | 3 | 4 | 1 | 4 | 6 | 4 | 4 | 4 | 7 | 53 |
| 高尿酸血症 | | 1 | | 2 | 1 | | | | | | 1 | | 1 | 6 |
| 胃潰瘍食 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 低残渣食 | | | | | 2 | 1 | | 1 | | | | | | 4 |
| 小児食物アレルギー | | 29 | 9 | 6 | 9 | 13 | 28 | 32 | 45 | 27 | 32 | 38 | 19 | 287 |
| 貧血食 | | | | 1 | 3 | | | | | 1 | 1 | | 1 | 7 |
| 移植対応食 | | 2 | 1 | 5 | | | 1 | | | | | | | 9 |
| てんかん食(ケトン食) | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| がん | | 20 | 12 | 10 | 13 | 23 | 18 | 25 | 12 | 13 | 9 | 19 | 8 | 182 |
| 摂食・嚥下機能低下 | | | 3 | 3 | | | | | | 1 | | 2 | 2 | 11 |
| ミキサー食(胃ろう) | | 3 | | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | | 2 | 1 | | 15 |
| 低栄養 | | 5 | 3 | 2 | 2 | 4 | 6 | 1 | 2 | 5 | 2 | 1 | 1 | 34 |
| 調乳(標準ミルク) | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 調乳(特殊ミルク) | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 |
| 調乳(高濃度ミルク) | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | 2 |
| その他 | | 19 | 6 | 3 | 2 | 4 | 11 | 8 | 12 | 19 | 19 | 12 | 11 | 126 |
| 合計(件) | | 245 | 111 | 117 | 108 | 127 | 143 | 142 | 163 | 155 | 155 | 150 | 138 | 1,754 |
| 件数 | 外来 | 196 | 82 | 88 | 68 | 91 | 97 | 105 | 137 | 119 | 128 | 111 | 109 | 1,331 |
| | 入院 | 49 | 29 | 29 | 40 | 36 | 46 | 37 | 26 | 36 | 27 | 39 | 29 | 423 |
| 合計(件) | | 245 | 111 | 117 | 108 | 127 | 143 | 142 | 163 | 155 | 155 | 150 | 138 | 1,754 |
| 人数 | 外来 | 386 | 159 | 171 | 132 | 178 | 198 | 230 | 302 | 256 | 269 | 255 | 234 | 2,770 |
| | 入院 | 97 | 56 | 58 | 78 | 70 | 88 | 79 | 51 | 75 | 56 | 81 | 57 | 846 |
| 合計(人) | | 483 | 215 | 229 | 210 | 248 | 286 | 309 | 353 | 331 | 325 | 336 | 291 | 3,616 |

(注) 件数に比べ人数が多いのは、患者1人1件において、本人以外の親等にも栄養指導を行い、その人数に含めているためである。

34. 家族支援・地域医療連携部

Ⅰ. 組織

29年は、新病院の在宅療養支援病棟とともに入院時から退院後の在宅生活の支援を主眼として活動した。各病棟と連携を強化して、家族の支援に努めることができた。

| | |
|-----|--|
| 部長 | 宅見晃子（総合診療科医師） |
| 次長 | 橋本ひとみ（看護師） |
| 看護師 | 渡邊千恵 水本智子（29年4月より） 藤定睦子 |
| MSW | 小橋諒子 松尾さおり 小坂明子（がん相談担当 29年11月まで） 進藤美佳（がん相談担当 29年9月より） |

予約センターでは、委託業者が受診予約を担当している。

Ⅱ. 平成 29 年活動

< 29年の主な活動 >

1. 新たな紹介病院、診療所の登録
 - ① 病院訪問による紹介依頼
2. 広報活動の推進（ホームページ更新、年報作成、広報誌「げんきカエル」作成）
3. 在宅療養支援の推進
 - ① 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催・研修会開催）
 - ② 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催・病院訪問）
 - ③ 制度活用支援・医療機器等の購入支援
 - ④ 周産期センターからの退院児への支援
 - ⑤ 在宅支援病棟での在宅支援の後方支援
4. 院内各科の診療支援
 - ① 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
 - ② 家族背景へのケースワーク
5. 患者家族の不安への対応
 - ① 医療制度・福祉制度の説明
 - ② 在宅での医療資源・福祉資源の紹介
 - ③ 各種手続きのサポート
 - ④ その他、治療や生活全般の不安に対する不安の解消への手助け
6. 発達支援・養育支援
 - ① 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
 - ② 事故予防活動（外傷カンファレンス開催、症例集積、地域との連携）

③ 発達相談、育児相談活動（評価、診断、関わり方指導）

7. 教育支援

① 教育機関とのカンファレンス

<今後の活動目標>

- ① 医療的ケアを必要とする児と家族が安心して在宅生活を送れるように支援する
- ② 高度専門医療機関としての役割の広報に務め、地域との連携を強化していく
- ③ 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修に貢献するよう努める
- ④ 疾病を抱えた子どもと家族の育児支援に努める
- ⑤ 事故予防・虐待防止を含めた子育て支援に努める
- ⑥ 子どもと家族の不安の解消に努める
- ⑦ 小児がん拠点病院としての責務を果たすための支援に努める
- ⑧ 広報活動を強化し、患者獲得に努める

表1 支援内容別業務統計

| | 内 容 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 累計 | 2016年 |
|----|-----------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|
| 1 | 療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助 | 195 | 212 | 234 | 225 | 260 | 272 | 223 | 257 | 225 | 281 | 271 | 244 | 2899 | 2323 |
| 2 | 退院援助 | 55 | 60 | 47 | 63 | 58 | 138 | 96 | 112 | 62 | 64 | 72 | 106 | 933 | 462 |
| 3 | 社会復帰援助 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 10 | 5 |
| 4 | 受診・受療援助 | 9 | 12 | 9 | 18 | 32 | 29 | 29 | 35 | 21 | 35 | 48 | 48 | 325 | 146 |
| 5 | 経済的問題の解決・調整援助 | 43 | 47 | 37 | 46 | 61 | 69 | 87 | 71 | 73 | 88 | 72 | 65 | 759 | 449 |
| 6 | 地域活動 | 3 | 0 | 0 | 73 | 126 | 23 | 7 | 2 | 7 | 1 | 4 | 6 | 252 | 53 |
| 7 | 養育支援(虐待予防を省く) | 11 | 2 | 3 | 4 | 3 | 7 | 16 | 14 | 7 | 9 | 10 | 16 | 102 | 34 |
| 8 | 虐待・虐待予防関連 | 12 | 9 | 14 | 3 | 10 | 4 | 4 | 6 | 3 | 13 | 2 | 3 | 83 | 72 |
| 9 | 発達・発育指導 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 3 | 1 |
| 10 | 一時保護 | 3 | 0 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 9 |
| 11 | がん患者の社会的問題の解決・調整 | 23 | 21 | 20 | 14 | 25 | 39 | 29 | 28 | 28 | 43 | 38 | 49 | 357 | 318 |
| 12 | その他 | 4 | 2 | 2 | 2 | 2 | 9 | 1 | 4 | 3 | 3 | 7 | 1 | 40 | 13 |
| | 合 計 | 359 | 366 | 367 | 450 | 582 | 593 | 492 | 530 | 430 | 538 | 526 | 538 | 5771 | 3885 |

表2 機関別延べ連絡調整数

| | 機 関 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|------------------|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 1 | 教育機関 | | | | 5 | 4 | 2 | 3 | 6 | 3 | 6 | 0 | 3 | 32 |
| 2 | 保健所・保健センター | | | | 39 | 31 | 46 | 47 | 53 | 64 | 53 | 38 | 62 | 433 |
| 3 | 福祉事務所 | | | | 34 | 20 | 21 | 20 | 38 | 20 | 25 | 12 | 8 | 198 |
| 4 | こども家庭センター(児童相談所) | | | | 20 | 40 | 19 | 17 | 7 | 6 | 34 | 14 | 8 | 165 |
| 5 | 児童福祉施設 | | | | 5 | 12 | 8 | 4 | 8 | 6 | 3 | 7 | 8 | 61 |
| 6 | 訪問看護ステーション | | | | 39 | 23 | 51 | 44 | 66 | 35 | 20 | 53 | 68 | 399 |
| 7 | 地域医療機関 | | | | 40 | 26 | 61 | 52 | 55 | 26 | 41 | 45 | 62 | 408 |
| | 合 計 | 0 | 0 | 0 | 182 | 156 | 208 | 187 | 233 | 160 | 182 | 169 | 219 | 1696 |

表3 関連機関カンファレンス

| | 内 容 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 2016年 |
|----|----------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 1 | 被虐待児等症例検討会 | 4 | 1 | 4 | 2 | 6 | 1 | 0 | 2 | 0 | 7 | 0 | 0 | 27 | 27 |
| 2 | 外傷カンファレンス | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 5 |
| 3 | 施設入所カンファレンス | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 4 | 在宅病棟移行前カンファレンス | 1 | 1 | 3 | 1 | 4 | 2 | 3 | 2 | 0 | 1 | 3 | 1 | 22 | 25 |
| 5 | 在宅病棟カンファレンス | 13 | 13 | 3 | 6 | 11 | 36 | 30 | 37 | 22 | 14 | 14 | 17 | 216 | 110 |
| 6 | 外泊前カンファレンス | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 6 |
| 7 | 退院前カンファレンス | 3 | 1 | 5 | 4 | 0 | 3 | 5 | 5 | 1 | 1 | 2 | 7 | 37 | 20 |
| 8 | 教育機関カンファレンス | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 5 | 3 |
| 9 | 臓器提供Aカンファレンス | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10 | その他 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 3 |
| | 合 計 | 25 | 18 | 15 | 13 | 21 | 50 | 39 | 48 | 23 | 23 | 19 | 26 | 320 | 199 |

表4 電話相談件数

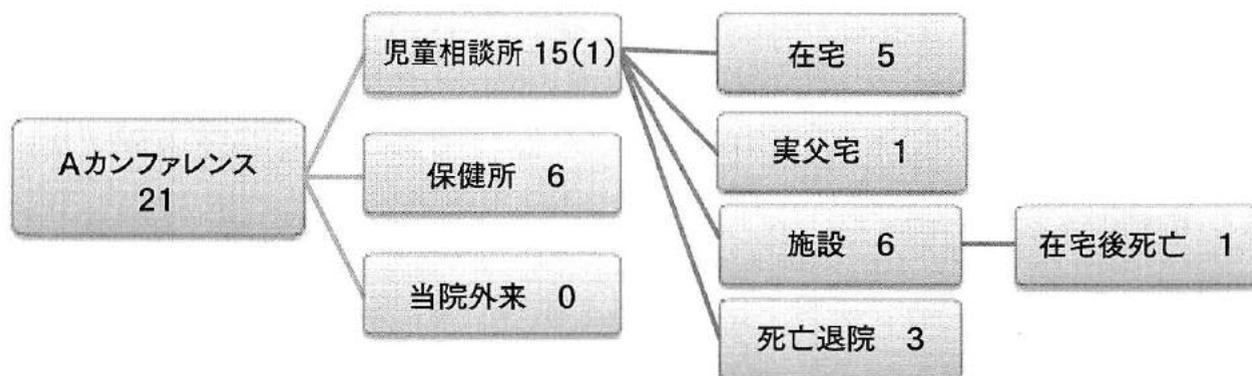
| 項 目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 累計 | 2016年 |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 電 話 相 談 | 8 | 10 | 8 | 10 | 13 | 9 | 7 | 6 | 17 | 11 | 8 | 7 | 114 | 122 |

表5 2017年1月～12月 Aカンファレンス 外傷（疾患）別処遇

| | 一時保護 | 児童相談所 | 保健所 | 外来のみ | フォローなし | 合計 |
|-------------|------|-------|-----|------|--------|----|
| くも膜下出血 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 頭蓋骨骨折 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 硬膜外血腫 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 硬膜外血腫+頭蓋骨骨折 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 硬膜下血腫 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 | 5 |
| 硬膜下血腫+頭蓋骨骨折 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 上腕骨骨折 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 大腿骨骨折 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| ネグレクト | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 医療ネグレクト | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 顔面叩打 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 腹部叩打 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 薬物中毒 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 心肺停止 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 熱傷 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 多発性皮下血腫 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 溺水 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 1 | 14 | 6 | 0 | 0 | 21 |

2017年1月～12月

児童相談所の（1）は一時保護されて入院したケース



Ⅲ. 支援依頼

1. 在宅療養支援の依頼

当部署に紙面またはコンサルテーションで依頼があった件数を表で示す。内容として、医療制度の案内、施設の紹介等が多かった。

表5 依頼件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 2016年 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-------|
| コンサルテーション | 9 | 5 | 8 | 3 | 9 | 9 | 9 | 14 | 10 | 12 | 11 | 12 | 111 | 77 |
| 内訳 (外来) | 4 | 1 | 4 | 0 | 0 | 4 | 4 | 4 | 4 | 7 | 8 | 4 | 44 | 33 |
| (入院) | 5 | 4 | 4 | 3 | 9 | 5 | 5 | 10 | 6 | 5 | 3 | 8 | 67 | 44 |

* 直接電話での依頼は集計に含まず

2. 退院支援の依頼

チーム医療（退院支援）で依頼があった件数を示す。

表6 退院支援受付け件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 2016年 |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 受付け件数 | 21 | 43 | 32 | 33 | 45 | 48 | 48 | 42 | 39 | 46 | 49 | 46 | 492 | 264 |
| 却下 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 2 | 0 | 7 | 0 |
| 合計 | 22 | 44 | 32 | 33 | 45 | 48 | 48 | 42 | 39 | 49 | 51 | 46 | 499 | 264 |

* 却下理由は、退院日近くの依頼で家族の面会と時間が合わなかった、コンサルテーションと退院支援依頼と重複したなど

表7 診療科別退院支援件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 2016年 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 総合診療科（総合） | 1 | 4 | 1 | 3 | 8 | 2 | 4 | 2 | 2 | 1 | 2 | | 30 | 11 |
| 総合診療科（救急） | | 1 | | | | | | | | | | 2 | 3 | 24 |
| 新生児科 | 9 | 22 | 24 | 19 | 20 | 38 | 33 | 30 | 29 | 30 | 38 | 38 | 330 | 137 |
| 神経内科 | | | 1 | 1 | | | 2 | 1 | | 1 | 2 | | 8 | 3 |
| 循環器内科 | 3 | 3 | 2 | 3 | 7 | 2 | 3 | 1 | 2 | 1 | | 3 | 30 | 16 |
| 代謝・内分泌内科 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 血液・腫瘍内科 | | | | 2 | 2 | 1 | 1 | | 1 | | 2 | 1 | 10 | 5 |
| 腎臓内科 | | | | | | | | 2 | | | | | 2 | 0 |
| 小児集中治療科 | 1 | 2 | 2 | | 1 | | 2 | 4 | | 5 | 2 | | 19 | 8 |
| 小児外科 | 4 | 7 | 1 | 3 | 2 | | 2 | | 2 | 6 | 1 | 1 | 29 | 22 |
| 心臓血管外科 | 2 | 3 | 1 | 1 | 2 | 3 | | 1 | 1 | 2 | 1 | | 17 | 21 |
| 脳神経外科 | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | 1 | | | 1 | 1 | 7 | 11 |
| 形成外科 | | | | | 2 | | | | | | | | 2 | 2 |
| 整形外科 | | | | | | 1 | | | 1 | | | | 2 | 2 |
| 泌尿器科 | | | | | | | | | | | | | 0 | 1 |
| 眼科 | | | | | | | | | | | | | 0 | 1 |
| 耳鼻咽喉科 | | | | | 1 | | | | 1 | | | | 2 | 0 |
| 産科 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 |
| 合計 | 21 | 43 | 32 | 33 | 45 | 48 | 48 | 42 | 39 | 46 | 49 | 46 | 492 | 264 |

表8 退院支援加算3（1200点）の退院支援計画作成数と診療報酬取得数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 2016年 |
|-----------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 新生児特定集中治療室 加算算定患者数 | 39 | 33 | 21 | 26 | 34 | 36 | 40 | 33 | 34 | 39 | 44 | 48 | 427 | 355 |
| 退院支援計画作成患者数 | 22 | 18 | 17 | 19 | 16 | 26 | 22 | 22 | 19 | 39 | 40 | 40 | 300 | 115 |
| 退院支援加算3取得患者数 | 23 | 16 | 12 | 15 | 14 | 17 | 23 | 23 | 21 | 29 | 37 | 37 | 267 | 107 |

* 退院支援計画は入院1ヶ月以内に計画作成に着手するが、取得は退院日である

* 退院支援加算3は新生児特定集中治療室加算を算定した患者の内、退院困難な要件に値するもの

新生児科医師及びNICU/GCU病棟の協力を得て、10月からシステムを改善することで退院支援依頼件数が増加し、退院支援加算3取得割合が〇%（前年比〇%）となった

家族支援・地域医療連携部（予約センター）

1. 業務内容

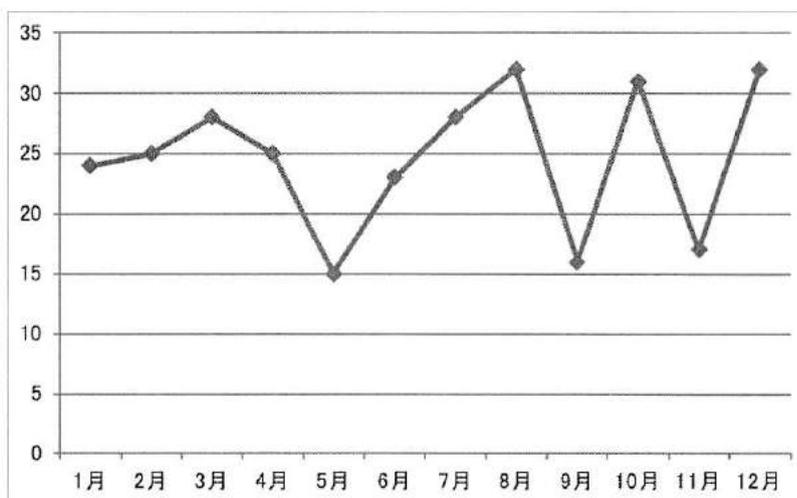
予約センターは委託職員が従事している。主な業務は初診患者の予約業務と受診報告書の発送、再診患者の予約業務である。しかし、予約日変更や確認の電話が多く、電話が通じにくいなどの業務に支障をきたしていることがある。

| 延べ数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 2015年 |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|
| メール相談対応数 | 5 | 3 | 8 | 2 | 2 | 8 | 7 | 5 | 7 | 2 | 10 | 2 | 61 | 56 |
| （内訳）各科医師相談 | 3 | 2 | 2 | 1 | 0 | 4 | 4 | 0 | 2 | 1 | 2 | 1 | 22 | 10 |
| 地域医療連携で返答 | 2 | 1 | 6 | 1 | 2 | 4 | 3 | 5 | 5 | 1 | 8 | 1 | 39 | 46 |
| セカンドオピニオン数 | 5 | 4 | 7 | 4 | 0 | 3 | 4 | 5 | 4 | 5 | 6 | 5 | 52 | 28 |
| 受診報告書発送数（紹介状件数） | 420 | 398 | 519 | 476 | 475 | 533 | 478 | 572 | 457 | 478 | 460 | 445 | 5711 | 5256 |
| 返書率 | 86.8 | 88.5 | 88.5 | 88.9 | 89.2 | 88.3 | 89.1 | 88.7 | 87.6 | 86.8 | 88.8 | 91.9 | 88.6% | 88.4% |
| 新患 FAX 予約受付件数 | 328 | 345 | 478 | 350 | 427 | 435 | 457 | 390 | 341 | 355 | 384 | 374 | 4664 | 6397 |
| 新患電話予約受付件数 | 256 | 276 | 308 | 265 | 322 | 290 | 325 | 294 | 293 | 277 | 337 | 321 | 3564 | |
| 新患予約キャンセル受付件数 | 11 | 14 | 8 | 4 | 12 | 10 | 13 | 13 | 7 | 7 | 5 | 21 | 125 | 124 |
| 再診対面・電話予約受付件数 | 2416 | 2269 | 2306 | 2182 | 2586 | 2440 | 2269 | 2155 | 2278 | 2079 | 2032 | 2099 | 27111 | 16046 |
| その他（予約日確認などの電話件数） | 825 | 817 | 853 | 818 | 875 | 836 | 946 | 884 | 811 | 688 | 644 | 688 | 9685 | 5510 |

2. 紹介元新規医療機関

紹介元医療機関の登録件数は199件あった。2005年から地域医療連携業務を行い、2016年12月末で累計は4596件になった。

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 2015年 |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 新規登録件 | 24 | 25 | 28 | 25 | 15 | 23 | 28 | 32 | 16 | 31 | 17 | 32 | 296 | 298 |



35. ME 室

【スタッフ紹介】

| | | |
|----|--------|-----------|
| 主査 | 横山 真司 | 体外循環技術認定士 |
| | 秋元 明日香 | 体外循環技術認定士 |
| | 三坂 勇介 | 体外循環技術認定士 |
| | 簗田 拓磨 | |
| | 秋山 正太 | |
| | 立野 聡 | |
| | 土谷 海雲 | |
| | 井原 智弘 | |
| | 橋本 健太郎 | |
| | 川相 俊太 | |
| | 西中 夕貴 | |

【業務実績】

医療機器管理業務

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 平均 |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| 院内修理 | 20 | 15 | 34 | 22 | 25 | 24 | 18 | 19 | 24 | 23 | 14 | 20 | 258 | 21.5 |
| 依頼点検 | 16 | 15 | 22 | 15 | 22 | 23 | 35 | 16 | 25 | 21 | 21 | 23 | 254 | 21.1 |
| 定期点検 | 1358 | 1580 | 1529 | 1888 | 1854 | 1751 | 1883 | 1858 | 1741 | 1788 | 1729 | 1869 | 20828 | 1737 |
| メーカー修理・点検 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 3 | 3 | 5 | 1 | 3 | 22 | 1.8 |
| CICU・PICU・ICUラウンド | 0 | 0 | 0 | 78 | 80 | 77 | 81 | 81 | 77 | 76 | 79 | 82 | 711 | 59.2 |
| 病棟ラウンド | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 8 | 9 | 0.7 |
| アンビューバルブ点検 | 135 | 151 | 119 | 91 | 136 | 118 | 141 | 140 | 127 | 129 | 123 | 103 | 1513 | 126 |
| その他 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 | 1 | 3 | 14 | 1.1 |

臨床業務

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 平均 |
|----------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|------|
| 体外循環 | 22 | 19 | 20 | 19 | 18 | 14 | 18 | 16 | 12 | 19 | 15 | 17 | 209 | 17.4 |
| ECMO | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 3 | 12 | 1 |
| 人工心臓・ECMOスタンバイ | 1 | 7 | 0 | 1 | 4 | 4 | 1 | 5 | 4 | 4 | 1 | 1 | 33 | 2.7 |
| 血液浄化療法 | 2 | 3 | 0 | 8 | 3 | 7 | 9 | 3 | 0 | 2 | 1 | 3 | 41 | 3.4 |
| 自己血回収 | 23 | 20 | 20 | 19 | 19 | 14 | 18 | 16 | 13 | 19 | 16 | 18 | 215 | 17.9 |
| MEP | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 7 | 0.5 |
| SPECTRA | 1 | 2 | 1 | 0 | 4 | 0 | 5 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 17 | 1.4 |

各種委員会活動

仕様策定委員会

リスクマネジメント委員会

手術室運営委員会

呼吸療法委員会 (RST)

呼吸ケア部会

36. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全部長を室長、管理局長、看護部長を副室長、副院長、診療部長、薬剤部長、医療安全対策担当課長、実働メンバーとして8名の総括リスクマネジャーと総務部長、総務部次長で構成され、院内の安全管理を担っている。

主な活動内容

1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策の検討

- 1) 総括リスクマネジャー会議を毎週木曜日に開催し、送られてきたヒヤリハット報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。
 - 2) 月1回のリスクマネジメント部会では、各部門が前月分のヒヤリハット内容と評価・対策を報告し、院内で起こったヒヤリハットについて集約し検討を行った。改善策を手順化し共有した。
 - 3) リスクマネジメント部会での報告・検討結果を医療事故防止委員会に報告した。
2. Morbidity & Mortality カンファレンスにおいては、1回開催した。
3. コード99症例は、医療安全管理室よりメール配信し情報の共有化を行った。
4. 院内ラウンドは、多部門での定期的開催はできなかったが、ヒヤリハットに応じてラウンドを行った。
5. ヒヤリハット報告

2017年のヒヤリハット報告件数は、2514件で前年度より7件増加した。レベル別報告数の割合はレベル0が658件（前年度より61件3%減）、レベル1は1749件（前年度より49件2%増）、レベル2は78件と前年度と報告件数、割合の変化はなく、レベル3aは6件（前年度と同件数、0.9%増）であった。レベル3bの医療事故報告が5件あり、チューブ管理3件、転落1件、熱傷1件であった。

部門別にみると看護部からの報告件数が2052件、全体の報告件数の82%であり、診療部は136件5%（前年度より29件1%増）に増加した。薬剤部の報告件数は18件2%（前年度より36件減1%減）に減少した。その他の部門は前年度と同様であった。

ヒヤリハットレベルにおいては、レベル0が26%、レベル1が70%、レベル2が78%、レベル3aが1%であり、レベル0の報告件数の減少によりリスクレベルがやや高くなっている。

各部門のリスクマネジャーを中心にヒヤリハットを共有し、対策を周知すると共にリスク感性の向上に向けKYT等を実施する。チーム医療を推進し安全な医療の提供を目指す。レベル0のヒヤリハット報告を推奨しポジティブな視点でヒヤリハット事例を検討することも重要である。

1) レベル別報告件数

| レベル0 | レベル1 | レベル2 | レベル3a | レベル3b |
|------------|-------------|----------|----------|-----------|
| 658件 (26%) | 1749件 (70%) | 78件 (3%) | 28件 (1%) | 6件 (0.2%) |

2) 部門別ヒヤリハット報告件数

| 診療部 | 看護部 | 検査部 | 放射線部 | 薬剤部 | リハビリ | 栄養指導課 | 医事課 |
|----------|------------|---------|----------|---------|---------|---------|--------|
| 136 (5%) | 2052 (82%) | 18 (1%) | 185 (7%) | 18 (2%) | 38 (1%) | 43 (2%) | 0 (0%) |

6. 主な改善に向けた取り組み

- 1) 経鼻経管位置確認のフローチャートを作成し、電子カルテの医療安全マニュアルに掲載し周知した。
- 2) バルーンカテーテル挿入による尿道損傷事例より、尿道カテーテル挿入の手順を研修会で説明し、医療安全マニュアルに掲載した。
- 3) 薬剤アレルギーに登録されていた薬剤の誤投与事例より、アレルギー情報の入力方法の周知と電子カルテのツールチップの表記と危険度に応じた色に修正、変更した。
- 4) 心臓カテーテル室での熱傷事例より保温器機を、温風式の器機に変更し手順化した。
- 5) 薬剤関連のヒヤリハット事例について医局会メールや会議を通じて情報を発信した。
- 6) 検査及び外科的処置時の鎮静同意書を作成し、次年度より運用を開始する。

7. 医療安全研修会、勉強会の開催

| テーマ | 開催日 | 参加者 |
|--|----------------|---|
| 各部門の安全への取り組み、“医療事故調査制度導入から1年” 看護部医療安全研修会「安全な看護を考える」 | 3月14日 5月30日 | 241名 460名 (DVD視聴を含む) 685名 (DVD視聴会を含む) |
| 第1回医療安全研修会「小児医療の安全管理」 DVD視聴会5回開催 | 9月15日 | |
| Morbidity&Mortalityカンファレンス 重症腹部外傷1事例 | 12月21日 | 77名 |
| 新採用看護師安全教育 | 4月2日 | 40名 |
| 新採用医師安全教育 | 4月2日 | 35名 |
| 新採用補助者・ボランティア安全教育 | 採用時 | 15名 |

7. 医療安全情報の提供

- 1) 日本機能評価機構からの医療安全情報の提供を月1回行った。
- 2) 院内、院外での重要なヒヤリハット事例を、医療安全ニュースとして発行し情報提供を行った。

37. 感染対策室

感染対策委員会は委員長を診療部長、副委員長を感染症科科長、看護部次長とし、委員を院長、総務部長、検査技師長、薬剤部長、栄養管理課長、看護部長、医療安全対策担当課長、感染管理認定看護師2名の他、診療部6名、看護部4名、検査部3名、薬剤部2名、放射線部1名、臨床工学技士1名、リハビリ部門1名、医事企画課1名で構成され、院内の感染管理を担っている。感染対策チーム（ICT）として、看護部2名、診療部4名（委員会外から2名）、検査部1名、薬剤部1名で活動している。抗菌薬適正使用チーム（AST）として、薬剤部全員、診療部8名（委員会外から3名）、検査部1名、看護部1名で活動している。

ICT年間目標

I. 脱皮「内から外へ」

1. 標準予防策、感染経路別予防策について、全職員に正しい知識が浸透し、確実に実践できる
2. 職員ワクチンプログラムを職員の健康管理として管理する
3. 活動の経過および成果を発表する
4. 他施設と連携し、感染対策の質が向上する

II. データに基づく感染対策の実践

1. 感染症の発生率を把握し、アウトブレイクの早期発見、早期対処をする
2. 医療器具、処置関連感染症サーベイランスの実践により、感染率が低減する

主な活動内容

1. 定期的な会議、ラウンドの実施

1) 院内感染対策委員会（毎月第2金曜日）

病原微生物の分離状況、抗緑膿菌薬の使用状況、ICTおよびAST活動などを報告、検討

2) ICT会議（毎週木曜日）

病原微生物の分離状況、感染経路別予防策を実施している患者の状況、ICTラウンド結果、その他事項について検討

3) ICTラウンド（週1回）

チェックリストに沿っての環境ラウンドを実施、下半期は手指衛生直接観察ラウンドを追加（月2回）

4) ASTカンファレンス（ショートミーティング：月・水・金、定期ミーティング：月2回）

特定抗菌薬使用患者（抗緑膿菌活性薬）、抗菌薬長期使用患者、血液培養陽性患者の抗菌薬適正使用について検討、その他抗菌薬適正使用のための取り組み

5) デバイスサーベイランスカンファレンス（毎週水曜日）

サーベイランスに必要なデバイス関連感染症の判定の他、感染対策の評価、改善策の検討と実施をCICUおよびPICUスタッフとともに実施

6) 細菌検査室ミーティング（毎日）

グラム染色結果、培養結果、無菌検体（主に血液培養）陽性患者、ウイルス迅速検査結果、感染症科フォロー患者、感染対策が必要な患者について情報共有

2. 職員教育

| 研修会 | 開催日 | 参加人数 |
|--|--------------|------|
| 保育士対象感染対策勉強会 「保育場面における感染対策」 | 1月18日 | 5名 |
| 看護補助者オリエンテーション 「感染対策の基本」 | 計3回 | 3名 |
| 新規採用医師感染対策オリエンテーション 「小児専門病院の感染対策」 | 4月3日 | 40名 |
| 看護師新人フォロー研修 「感染対策の基本～標準予防策・小児専門病院としての感染対策～」、感染予防技術演習 | 4月5日 | 40名 |
| 平成29年度第1回全職員対象感染対策研修会 「カテーテル関連血流感染症の実際-beyond the guidelines-」 | 5月24日 | 287名 |
| 看護師新人フォロー研修 「感染対策フォローアップ、静脈注射に関する感染対策、針刺し時の対応」 | 9月15日 | 40名 |
| 看護補助者研修② 「病院の感染対策」 | 9月15日、10月17日 | 23名 |
| 平成29年度第2回全職員対象感染対策研修会 「当院における感染管理の現状と問題点」 | 11月30日 | 323名 |
| 平成29年度第2回全職員対象感染対策研修会 「当院における感染管理の現状と問題点」 | 12月(計13回) | 343名 |

3. 手指衛生遵守率向上のための取り組み

手指衛生川柳を募集し、表彰した(11月)。「手指衛生遵守率60%以上」を目標とし、12月からICTラウンドによる月2回の手指衛生直接観察と結果の広報、病棟カンファレンスでの教育を行った(12月の結果は49%)。

4. 各種サーベイランスの実施

CICU・PICUにおけるデバイスサーベイランス

感染症発生率

| 病棟 | 中心静脈カテーテル関連 血流感染症 (/1000 デバイス日) | 尿道留置カテーテル関連 尿路感染症 (/1000 デバイス日) | 人工呼吸器関連肺炎 (/1000 デバイス日) |
|------|------------------------------------|------------------------------------|----------------------------|
| CICU | 0.0 | 5.9 | 3.6 |
| PICU | 0.0 | 1.1 | 5.9 |

フィードバックは半年ごとに実施した。現場スタッフとともにCA-UTI予防バンドル、VAP予防バンドルを作成して運用し、PICUのVAPの感染率が低減した(2016年度13.4)。

その他：一般外科消化器手術SSIサーベイランス、AURサーベイランス

5. 各種ガイドライン、マニュアルなどの作成

予定入院患者の水痘ワクチン接種に関する家族用文書の改訂および職員用文書の作成(1月)、インフルエンザの就業制限改正(2月)、防護具の適正使用の見直し(5月)、産科のきょうだいの病棟外面会に関するルール検討(8月)、感染経路別予防策ガイドラインの再周知(12月)、

アウトブレイク対応マニュアルの作成、感染性胃腸炎患者の対応についてルール作成(12月)

6. 感染症発生時の対応

・アウトブレイクが6回発生した。

4月：救急病棟のロタウイルス胃腸炎、8月：6W病棟のRSウイルス感染症、9月：6W病棟のノロウイルス胃腸炎、10月：救急病棟のRSウイルス感染症、12月：5W病棟のノロウイルス胃腸炎

・感染経路別予防策が必要な患者の発生時、適宜対応した。

ノロウイルス胃腸炎19例、ロタウイルス胃腸炎13例、インフルエンザ21例、RSウイルス感染症83例、CRE1例、帯状疱疹6例、播種性帯状疱疹1例、ムンプス(疑い含む)6例、百日咳2例、手足口病5例、結核疑い3例

職員のインフルエンザ発症は 60 例（アウトブレイクや患者への伝播なし）。

7. 感染対策に関する各種相談への対応

予定入院患者の水痘ワクチン関連 76 件、患者・家族の感染症 24 件、職員の感染症 21 件、患者ケア 6 件、害虫 4 件、その他 28 件

抗菌薬啓発週間（11 月）、2016 年度よりマスク着用令は中止

8. 各種啓発活動

ICT NEWS の発行（毎月。10 月～）、流行性感染症流行期の啓発ポスター掲示、抗菌薬啓発月間の広報（11 月）

9. ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言と感染対策の強化

各種業務（清掃、リネン、滅菌）の定例会への出席

10. 職業感染防止の活動

1) 流行性ウイルス感染症ワクチンプログラムとして、委託業務職員を含む全新規採用職員の抗体検査とワクチン接種を実施

【2017 年に接種した流行性ウイルス感染症ワクチン】

| | 新規医師 | 新規看護師 | 新規その他 | 委託業務職員 |
|------|------|-------|-------|--------|
| 抗体採血 | 19 名 | 23 名 | 32 名 | 48 名 |
| 麻疹 | 0 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 |
| 水痘 | 1 名 | 2 名 | 1 名 | 2 名 |
| 風疹 | 2 名 | 3 名 | 7 名 | 2 名 |
| ムンプス | 6 名 | 9 名 | 6 名 | 25 名 |
| M R | 11 名 | 14 名 | 17 名 | 23 名 |

2) 職員対象のインフルエンザワクチンの接種（10 月末）

1087 名 病院職員：858 名（内訳 正規 684 名、非正規 174 名）、委託職員：229 名

3) 職員対象の B 型肝炎ワクチンの接種

1 ツール（3 回）接種：75 名、ブースター（1 回）接種：22 名

4) 血液媒介ウイルス感染防止を目的とした、針刺し・切創、血液・体液曝露についての啓発活動、事象発生時の迅速対応

【2017 年に発生した針刺し・切創、血液・体液曝露】

| 総件数：31 件 | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|---------|-------------|
| 内 容 | 針刺し 13 件 | 切創 3 件 | 咬創 8 件 | 擦過傷 3 件 | 血液・体液曝露 4 件 |
| 発生部署 | 手術室 5 件 | 病棟 15 件 | 採血室 4 件 | その他 3 件 | |
| 受 傷 者 | 医師 8 名 | 看護師 15 名 | 検査技師 1 名 | 患者 1 名 | その他 2 名 |
| 原因器材 | 注射針 8 件 | メス 3 件 | 縫合針 1 件 | 翼状針 1 件 | 血液・体液 4 件 |

11. 院外活動

1) 感染防止対策加算関連

加算 1：2016 年度より、①神戸大学医学部付属病院、②済生会兵庫県病院と連携

相互ラウンド実施（10 月に①から受審）

加算 2：みどり病院と連携。施設間カンファレンス（11 月・12 月）

2) 小児総合医療施設協議会（JACHRI）関連

小児感染管理ネットワーク多職種会議に出席（2 月）

相互ラウンド実施（あいち小児総合保健医療センターを 9 月に訪問、福岡市立こども病院が 12 月に来院）

3) 県立病院感染対策会議出席（11 月）

4) 神戸市新型インフルエンザ等対策病院連絡会参加

38. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として小児外科医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、医事課職員により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

主な活動内容

1. 褥瘡対策状況

褥瘡対各委員会を月に1回開催し、褥瘡対策に関する報告、情報の共有を行い、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

1) 褥瘡発生率

2.5% (過去15年で最も低い値 過去の発生率は2.6%～4.0%)

褥瘡発生率 = 褥瘡発生数 ÷ 総新規入院数

2) 褥瘡推定発生率

1.6% (過去11年で2番低い値 過去の発生率は1.4～2.7%)

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率 = (調査日に褥瘡を保有する患者数 - 院外発生患者数) ÷ 調査日の入院患者数

3) 褥瘡リスクアセスメント実施数 6384件 (月平均532件)

4) 褥瘡ハイリスク患者特定数 997件 (月平均83件)

5) 褥瘡対策実施件数 2219件 (月平均185件)

6) 褥瘡ハイリスク患者ケア実施件数 1482件 (月平均124件)

7) 褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数 159件

褥瘡発生個数 174個 (体圧による褥瘡は55個、医療機器関連圧迫創は119個)

褥瘡発生件数の多い部署

CICU (45)、PICU (32)、ICU(13)、手術室 (11)、6西(9)、6東(9)、5西(9)

2. 褥瘡回診・カンファレンス状況

週1回木曜日午後14時に形成外科医師と皮膚・排泄ケア認定看護師 (月1回は褥瘡対策委員会のメンバーも加わり拡大褥瘡回診としている) により、褥瘡発生者を中心に『褥瘡回診』と『カンファレンス』をおこなっている。回診、カンファレンスでは褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価・検討している。

褥瘡回診・カンファレンス実施回数 46回 患者数 248名 (のべ)

3. 新人看護師対象の褥瘡講義の実施

4. 領域別看護ケア向上委員会における事例検討と勉強会の実施

5. 各部署カンファレンスや病棟会における褥瘡勉強会の実施

39. がん相談支援室

がん相談支援室は、小児がんセンター長のもと、血液腫瘍科医師、小児看護専門看護師、医療福祉相談員が小児がんに関する相談に応じている。

スタッフ

医師 石田敏章（血液腫瘍内科医師）

看護師 中谷扶美（小児看護専門看護師）

医療福祉相談員（MSW） 河野（1月～3月） 奈良（2月～7月） 小坂（5月～11月） 進藤（9月～）
松尾（11月～）

医師クラーク 塩野典子

平成 29 年 主な活動内容

1. 院内外の小児がんと診断された子どもと家族に対する対面相談、電話相談
 - ・小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供
 - ・地域の医療機関及び医療従事者に関する事例の情報の収集、提供
 - ・小児がん患者の発育、教育及び療養上の相談
 - ・地域における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
 - ・その他の相談支援
2. 小児がんの子どもと家族の療養環境の改善
 - ・がんサロン（名称：nanaくつろぎサロン）の開催（6回）
 - ・高校生の学習支援体制の検討、復学支援カンファレンスの調整
3. 院内外の医療従事者への小児がんに関する情報提供
 - ・小児がん看護研修会の企画、運営（小児がん看護推進ワーキング、緩和ケアチームとの共同開催）
 - ・近畿ブロック小児がん拠点病院相談員研修の開催（近畿ブロック5病院共催）
 - ・問い合わせに対する相談対応
4. 小児がんを対象とする患者会との調整窓口
5. 相談支援室会議
 - ・月1回開催、小児がんに関する情報の共有、相談支援室の活動の評価・検討
6. 小児がん中央機関、その他の小児がん拠点病院との連携体制強化
 - ・国立成育医療研究センター主催「小児がん相談員継続研修」の修了
 - ・小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会への出席、メーリングリストへの参加
 - ・中国四国ブロック小児がん相談支援部会（TV会議）への参加

平成 29 年 がん相談支援室相談対応件数

| | 会議資料 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|----------------|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| がん相談件数 (院内) | 相談総件数 | 35 | 33 | 38 | 27 | 45 | 44 | 24 | 24 | 18 | 33 | 28 | 29 | 378 |
| | 1) 対面相談 | 31 | 30 | 37 | 26 | 44 | 43 | 24 | 24 | 15 | 33 | 27 | 29 | 363 |
| | 2) 電話相談 | 4 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 15 |
| 院外電話相談 | | 0 | 3 | 0 | 2 | 1 | 1 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 16 |
| 計 | | 35 | 36 | 38 | 29 | 46 | 45 | 30 | 24 | 18 | 33 | 28 | 32 | 394 |

40. 院内学級（神戸市立友生支援学校 病弱部門 みなと分教室・わらび訪問学級）

1. 体制

従前まで長期入院のため登校できない小中学生に、友生支援学校の訪問指導（わらび訪問学級）を行っていたが、2016年度のポートアイランドへの病院移転に伴い、友生支援学校の病弱部門の教員が「院内学級（みなと分教室）」として常駐するようになった。入院中の小中学生は院内学級に在籍し、教員より教室で授業を受けられるようになった。とは言うものの、児童生徒の病状からほとんどがベッドサイドでの訪問指導を受けている状況であった。

2017年度の2学期より、血液腫瘍内科の児童生徒も血液検査で一定以上の抵抗力がある状態になれば、主治医の判断により登校できるようになり、教室での授業もかなり多くなった。

保護者への入級説明、小中学校との連絡調整などについては病棟の紹介を経て当部署が行っている。

なお、院内学級の職員は、こども病院外で入院治療中の児童生徒に対しても、従前通り訪問指導（わらび訪問学級）を継続している。

2. 在籍状況

2017年度 院内学級（みなと分教室） 在籍状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年間実在籍者数 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|---------|
| 小学部 | 17 | 15 | 19 | 16 | 15 | 11 | 13 | 14 | 18 | 16 | 16 | 15 | 43 |
| 中学部 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | 5 | 7 | 5 | 1 | 3 | 9 |
| 合計 | 20 | 18 | 22 | 20 | 19 | 15 | 16 | 19 | 25 | 21 | 17 | 18 | 52 |

※その月に1日でも在籍していれば1人と数える。また、「わらび訪問学級」の児童生徒は含んでいない。

3. 次年度の課題

児童生徒が、病室（生活スペース）から離れ、教室で気分をかえて学習に励むことができれば、学力向上はもちろんのこと、当該児童生徒の治療に向かう意欲を高めることにもつながる。病室を離れることが可能な児童生徒が、少しでも教室で授業を受けられるようにするためには、看護師に応援を依頼するなど、避けて通ることができない必要な条件がいくつか考えられる。医療現場の現状に合わせた上で、少しでも早くその条件が整うよう、これまで以上に、病院スタッフ等と話し合いながら、連携を強めていきたい。

41. 医師事務作業補助者（医師クラーク）

医師の業務負担軽減を図り、診療に専念できる環境をつくることを目的に、2008年の診療報酬の改定に伴い医師事務作業補助体制加算が定義された。施設基準を満たした場合、医師事務作業補助者を採用することにより診療報酬の対象となる。

兵庫県立こども病院では2012年に本格的に導入され8名でスタートしたが、その後段階的に人員が補充され2017年現在21名が在籍。

医局に隣接した医師クラーク室で、診療部長の指導の下、診療科からの依頼を受け業務を行っている。2016年5月に病院が移転し電子カルテが導入されて以降、外来診療補助に携わる業務が増し、他部署とのコミュニケーションを図りながら業務に取り組んでいる。

（業務内容）

- ・ 外来診療補助
電子カルテへの入力補助、病名登録、診察・検査予約
患者様へのご説明、ご案内等
診察・手術・検査に関する電話 等
- ・ 文書作成補助
診断書、主治医意見書、生命保険会社の手続き書類、紹介状等の作成補助 等
- ・ 診療に関するデータ整理、管理に関する事務
新規患者、手術などの台帳管理及び入力、統計 等
- ・ 治験資料、学会等からの各種調査資料等の作成、管理に関する事務
- ・ 院内がん登録、手術症例登録等の統計、調査に関する事務
- ・ 研修やカンファレンスのための資料作成等の準備事務
- ・ その他所属長が必要と認める事務
症例検討会、講演会、抄読会等の準備
文献・画像等の取り込み、及び管理
医師宛の外線電話への対応 等

IV 学会・研究・教育活動

1) 書籍

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 単著、共著の別 | 編者名 | 書籍名 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|--------------------------------|---------|-------------------|---------|---------------|-------------------------------------|------|------|-------------|----------|
| 造血細胞移植後の感染管理, 第4版 | 血液・腫瘍内科 | 造血細胞移植学会ガイドライン委員会 | 共著 | 宮本敏弘、長谷川大一郎、他 | 造血細胞移植ガイドライン、造血細胞移植後の感染管理 第4版 | | | 医薬ジャーナル社 | 2017年9月 |
| 真菌感染症の予防と治療 | 血液・腫瘍内科 | 造血細胞移植学会ガイドライン委員会 | 共著 | 宮本敏弘、長谷川大一郎、他 | 造血細胞移植ガイドライン、真菌感染症の予防と治療 | | | 医薬ジャーナル社 | 2017年9月 |
| SOS/TA-TMA | 血液・腫瘍内科 | 造血細胞移植学会ガイドライン委員会 | 共著 | 宮本敏弘、長谷川大一郎、他 | 造血細胞移植ガイドライン、SOS/TA-TMA | | | 医薬ジャーナル社 | 2017年9月 |
| 不機嫌 | 感染症科 | 笠井正志 | 共著 | 井上信明・安藤恵美子 | Medical Note presents こどもの「症状」から考える | | | 中外医学社 | 2017年4月 |
| 急性気道感染症 | 感染症科 | 笠井正志 | 共著 | 大曲貴夫 | 抗微生物薬の手引き | 7 | 20 | 厚生労働省結核感染症課 | 2017年6月 |
| 急性下痢症 | 感染症科 | 笠井正志 | 共著 | 大曲貴夫 | 抗微生物薬の手引き | 21 | 29 | 厚生労働省結核感染症課 | 2017年6月 |
| RSウイルス感染症の全身管理 | 感染症科 | 笠井正志 | 共著 | 戸莉創 | GEM 2017 | 9 | 10 | リノメディカル株式会社 | 2017年12月 |
| 抗菌薬その常識は正しいか 脳症 | 感染症科 | 伊藤雄介 | 共著 | 志馬伸朗 | 救急・集中治療 | 627 | 631 | 総合医学社 | |
| 抗菌薬その常識は正しいか VAP予防 | 感染症科 | 伊藤雄介 | 共著 | 志馬伸朗 | 救急・集中治療 | 546 | 551 | 総合医学社 | |
| 耐性菌のメカニズムと基礎 | 感染症科 | 伊藤雄介 | 共著 | 笠井正志 | INFECTION CONTROL | 1039 | 1046 | メディカ出版 | 2017年10月 |
| 小児感染症の基本 | 感染症科 | 伊藤雄介 | 共著 | 笠井正志 | INFECTION CONTROL | 1184 | 1187 | メディカ出版 | 2017年11月 |
| 敗血症 | 感染症科 | 伊藤雄介 笠井正志 | 共著 | 小児内科編集委員会 | 小児臨床検査のポイント | | | 東京医学社 | 2017年 |
| 第9章気道・肺・胸壁：先天性気道疾患 | 小児外科 | 前田貢作 | 共著 | 高松英夫・福澤正洋 | 基準小児外科学(第7版) | 110 | 117 | 医学書院 | 2017年2月 |
| 気管狭窄 | 小児外科 | 前田貢作 | 共著 | 日本小児耳鼻咽喉科学会 | 小児耳鼻咽喉科(第2版) | 323 | 328 | 金原出版株式会社 | 2017年6月 |
| 10消化管・腹膜の疾患：10-3食道疾患：1)先天性食道疾患 | 小児外科 | 前田貢作 | 共著 | 八崎義雄 | 内科学(第11版) | 894 | 896 | 浅倉書店 | 2017年3月 |
| 急性腹症 | 小児外科 | 前田貢作 | 共著 | 遠藤文夫 | 小児科 診断・治療指針(改訂第2版) | 253 | 255 | 中山書店 | 2017年4月 |
| 縦隔臓器へのアプローチ | 小児外科 | 前田貢作 | 共著 | 田口智章・黒田達夫 | スタンダード小児がん手術 | 75 | 78 | メジカルビュー社 | 2017年8月 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 単著、共著の別 | 編者名 | 書籍名 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|--------------------------------------|---------|----------------|---------|--------------|--|------|------|---------|----------|
| 内反足 | 整形外科 | 薩摩眞一 | 共著 | 猿田享男、北村惣一郎 | JMED 治療法便覧2017-18 ～私の治療 | 1128 | 1129 | 日本医事新報社 | 2017年4月 |
| 四肢外傷 骨折 | 整形外科 | 小林大介 | 共著 | 遠藤文雄 | 小児科 診断、治療指針 改訂第2版 | 286 | 290 | 中山書店 | 2017年12月 |
| 肢位の異常 | 整形外科 | 坂田亮介 | 共著 | 周産期医学編集委員会 | 母と子の診断羅針盤 | 437 | 443 | 東京医学社 | 2017年7月 |
| 構音障害の検査 | 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀 | 共著 | 小川郁、丹生健一、鴻信義 | 臨床力UP!耳鼻咽喉科検査マ ニュアル(耳鼻咽喉科・頭頸部外 科増刊号) | 395 | 403 | 医学書院 | 2017年4月 |
| 小児の鎮静 | 麻酔科 | 三浦由紀子、 香川哲郎 | 共著 | 磯野史朗 | 麻酔科医として必ず知っておき たい周術期の呼吸管理 | 253 | 258 | 羊土社 | 2017年 |
| 術後喘鳴 | 麻酔科 | 藤原孝志、 香川哲郎 | 共著 | 蔵谷紀文 | ポイントで学ぶ 小児症例50症例 | 76 | 79 | 克誠堂 | 2017年11月 |
| 壊死性腸炎 | 麻酔科 | 横田有理、 香川哲郎 | 共著 | 蔵谷紀文 | ポイントで学ぶ 小児症例50症例 | 194 | 199 | 克誠堂 | 2017年11月 |
| 日帰り手術 | 麻酔科 | 末田彩、 香川哲郎 | 共著 | 蔵谷紀文 | ポイントで学ぶ 小児症例50症例 | 236 | 239 | 克誠堂 | 2017年11月 |
| 成人と小児の神経ブロッ クの違いを教えてください | 麻酔科 | 香川哲郎 | 共著 | 大嶽浩司、上嶋浩順 | 末梢神経ブロックの疑問Q&A70 | 43 | 44 | 中外医学社 | 2017年11月 |
| 消化管 | 放射線診断科 | 赤坂好宣 | 共著 | 荒木力、原裕子、野坂俊介 | すぐわかる小児の画像診断 | 346 | 393 | 秀潤社 | 2017年4月 |
| 小児のMETコール基準 | 小児集中治療科 | 増井美苗、 黒澤寛史 | 共著 | 志馬伸朗 | ER・ICU 100のスタンダード | 49 | 51 | 中外医学社 | 2017年10月 |
| 麻酔申し送り(小児病 院での例) | 小児集中治療科 | 青木一憲、 黒澤寛史 | 共著 | 志馬伸朗 | ER・ICU 100のスタンダード | 55 | 58 | 中外医学社 | 2017年10月 |
| 小児気管挿管患者の 鎮痛・鎮静アルゴリズム | 小児集中治療科 | 祖父江俊樹、黒 澤寛史 | 共著 | 志馬伸朗 | ER・ICU 100のスタンダード | 160 | 162 | 中外医学社 | 2017年10月 |
| 小児の麻薬とベンゾジ アゼピンのウィーニング | 小児集中治療科 | 神納幸治、 黒澤寛史 | 共著 | 志馬伸朗 | ER・ICU 100のスタンダード | 172 | 175 | 中外医学社 | 2017年10月 |
| 循環作動薬・鎮痛鎮静 薬希釈方法(小児) | 小児集中治療科 | 青木一憲、 黒澤寛史 | 共著 | 志馬伸朗 | ER・ICU 100のスタンダード | 282 | 284 | 中外医学社 | 2017年10月 |
| JRC 蘇生ガイドライ ン2015: 小児の蘇生 (PLS) | 小児集中治療科 | 黒澤寛史 | 共著 | 阿南英明 | 救急・ICUですぐに役立つ超ガイ ドラインこれだけBOOK | 23 | 30 | メディカ出版 | 2017年1月 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 単著、共著の別 | 編者名 | 書籍名 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|-----------|--------------|---------|-----------|--------------------|-----|-----|-----------------------|----------|
| 小児の敗血症性ショックでガイドラインは今も有効か ～急速輸液について：conの立場から～ | 小児集中治療科 | 青木一憲 | 共著 | 日本集中治療研究会 | ショック | 87 | 92 | メディカル・サイエンス・インターナショナル | 2017年11月 |
| 呼吸器の手術 術前・術後の看護 | CICU PICU | 伊丹照美 石本敦子 | 共著 | 田口智章 | ナースのための小児・新生児の外科疾患 | 236 | 240 | メディカ出版 | 2017年1月 |

2) 雑誌発表

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|-------|--|--|-----|-----|------|------|---------------------|-----------|
| Validation of classification criteria of macrophage activation syndrome in Japanese patients with systemic juvenile idiopathic arthritis. | リウマチ科 | Shimizu M, Mizuta M, Yasumi T, Iwata N, Okura Y, Kinjo N, Umebayashi H, Kubota T, Nakagishi Y, Nishimura K, Yashiro M, Yasumura J, Yamazaki K, Wakiguchi H, Okamoto N, Mori M. | Arthritis Care & Research (Hoboken) | | | | | Epub ahead of print | 2017.12.1 |
| Characteristic elevation of soluble TNF receptor II : I ratio in macrophage activation syndrome with systemic juvenile idiopathic arthritis. | リウマチ科 | Shimizu M, Inoue N, Mizuta M, Nakagishi Y, Yachie A. | Clinical & Experimental Immunology. | | | | | Epub ahead of print | 2017.8.16 |
| Bicipital synovial cyst associated with systemic juvenile idiopathic arthritis: new insights obtained from unique pathological findings. | リウマチ科 | Mizuta M, Shimizu M, Nakagishi Y, Kasai K, Yachie A. | International Journal of Rheumatic Diseases. | 20 | 12 | 2242 | 2244 | Wiley | 2017.12 |
| Leucine-rich α 2-glycoprotein as the acute-phase reactant to detect systemic juvenile idiopathic arthritis disease activity during anti-interleukin-6 blockade therapy: A case series. | リウマチ科 | Shimizu M, Nakagishi Y, Inoue N, Mizuta M, Yachie A. | Modern Rheumatology | 27 | 5 | 833 | 837 | Taylor & Francis | 2017.9 |
| Interleukin-33 as a marker of disease activity in rheumatoid factor positive polyarticular juvenile idiopathic arthritis. | リウマチ科 | Ishikawa S, Shimizu M, Inoue N, Mizuta M, Nakagishi Y, Yachie A. | Modern Rheumatology | 27 | 4 | 609 | 613 | Taylor & Francis | 2017.7 |
| 小児神経集中治療における非けいれん性発作 | 神経内科 | 丸山あずさ、永瀬裕朗 | 小児の脳神経 | 42 | 1 | 21 | 27 | | 2017 |
| 集中管理後に神経学的所見を残す小児の発熱に伴う難治性けいれん重積状態の初療時の臨床的特徴 | 神経内科 | 佐々木香織、丸山あずさ、永瀬裕朗 | 脳と発達 | 49 | 5 | 327 | 331 | | 2017 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|--|------|---|------------|-----|-----|-----|-----|-----------------------------------|------|
| Bilateral blepharoptosis in a juvenile | 神経内科 | Yamaguchi H, Tanaka T, Toyoshima D, Maruyama A, Ichinose A, Nagase H. | Brain Dev. | 39 | 5 | 452 | 454 | | 2017 |
| Clinical features in very early-onset demyelinating disease with anti-MOG antibody. | 神経内科 | Nishiyama M, Nagase H, Matsumoto M, Tomioka K, Awano H, Tanaka T, Toyoshima D, Fujita K, Maruyama A, Oyazato Y, Saeki K, Shiraishi K, Takada S, Kaneko K, Takahashi T, Nakashima I, Iijima K. | Brain Dev. | 39 | 9 | 756 | 762 | | 2017 |
| Clinical prediction rule for neurological sequelae due to acute encephalopathy: a medical community-based validation study in Harima, Japan. | 神経内科 | Sasaki K, Nagase H, Maruyama A, Fujita K, Nishiyama M, Tanaka T, Nukina S, Takumi T, Takenaka K, Oyazato Y, Nishiyama A, Kawata T, Saeki K, Takami Y, Satake-Inoue E, Iijima K, Morioka I, Uetani Y | BMJ Open. | | | | | doi: 10.1136/bmj.open-2017-016675 | 2017 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|--|---------|--|-----------------------------------|-----------------------------------|-----|-----|-----|-----|---------|
| Clinically mild encephalitis/encephalopathy with a reversible splenic lesion accompanied by Epstein-Barr virus Hemophagocytic Lymphohistiocytosis: A case report and review of literature. | 神経内科 | Yamaguchi H, Ishida T, Yokoi T, Tanaka T, Maruyama A, Nagase H, Hasegawa D, Imadome K, Takeda H, Kosaka Y, Uetani Y. | J Pediatr Hematol Oncol. | 39 | 2 | 92 | 96 | | 2017 |
| Harlequin Syndrome. | 神経内科 | Yamaguchi H, Yokoi A, Kamimura K, Ishida Y, Toyoshima D, Maruyama A. | The Indian Journal of Pediatrics. | doi.org/10.1007/s12098-017-2557-0 | | | | | 2017 |
| Predictive factor for intraoperative tumor rupture of Wilms tumor. | 血液・腫瘍内科 | Fukuzawa H, Shiima Y, Mishima Y, Sekine S, Miura S, Yabe K, Yamaki S, Morita K, Okata Y, Hisamatsu C, Nakao M, Yokoi A, Maeda K, Kosaka Y. | Pediatric Surgery International | 33 | 1 | 91 | 95 | | 2017.01 |
| Prevention of chemotherapy-induced vomiting in children receiving multiple-day cisplatin chemotherapy: A hospital-based, retrospective cohort study. | 血液・腫瘍内科 | Kishimoto K, Kawasaki K, Saito A, Kozaki A, Ishida T, Hasegawa D, Kosaka Y. | Pediatr Blood Cancer | 64 | 9 | | | | 2017.02 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|---------|---|--|-----|-----|-----|-----|-----|---------|
| Vinorelbine+cyclophosphamideによる低侵襲外来治療にて長期無増悪生存を維持している中枢神経系原始神経外胚葉性腫瘍の1例 | 血液・腫瘍内科 | 植村優, 宮田憲二, 矢内友子, 齋藤敦郎, 横井健人, 二野菜々子, 高藤哲, 神前愛子, 石田敏章, 長谷川大一郎, 川崎圭一郎, 河村淳史, 長嶋達也, 副島俊典, 赤坂好宣, 吉田牧子, 小川淳, 小阪嘉之 | 日本小児血液・がん学会雑誌 | 53 | 5 | 481 | 486 | | 2017.03 |
| Clinically Mild Encephalitis/Encephalopathy With a Reversible Splenial Lesion Accompanied by Epstein-Barr Virus Hemophagocytic Lymphohistiocytosis: A Case Report and Review of the Literature. | 血液・腫瘍内科 | Yamaguchi H, Ishida T, Yokoi T, Tanaka T, Maruyama A, Nagase H, Hasegawa D, Imadome K, Takeda H, Kosaka Y, Uetani Y. | Journal of pediatric hematology/oncology | 39 | 2 | 92 | 96 | | 2017.03 |
| Refractory double-hit lymphoma/leukemia in childhood mimicking B-precursor acute lymphoblastic leukemia at initial presentation. | 血液・腫瘍内科 | Uemura S, Hasegawa D, Yokoi T, Nino N, Tahara T, Tamura A, Saito A, Kozaki A, Kishimoto K, Ishida T, Kawasaki K, Yamamoto N, Mori T, Nishimura N, Kosaka Y. | Rinsho Ketsueki | 58 | 2 | 143 | 149 | | 2017.03 |
| 小児凝固・線溶異常症の新たな治療戦略 小児血液疾患における遺伝子組換えトロンボモジュリン製剤(rTM)の役割 | 血液・腫瘍内科 | 小阪嘉之 | 日本小児血液・がん学会雑誌 | 53 | 5 | 376 | 383 | | 2017.03 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|---------|--|--|-----|-----|-----|-----|-----|---------|
| IDRF陽性、化学療法不応性の低リスク神経芽腫の一例 | 血液・腫瘍内科 | 横井暁子、 長谷川大一郎、 玉城昭彦、齋藤敦郎、 二野菜々子、 赤坂好宣、吉田牧子、 前田貢作、小阪嘉之 | 日本小児血液・がん学会雑誌 | 54 | 1 | 44 | 49 | | 2017.04 |
| Long-term outcomes of 95 children with moderate aplastic anemia treated with horse antithymocyte globulin and cyclosporine. | 血液・腫瘍内科 | Nishikawa E, Yagasaki H, Hama A, Yabe H, Ohara A, Kosaka Y, Kudo K, Kobayashi R, Ohga S, Morimoto A, Watanabe KI, Yoshida N, Muramatsu H, Takahashi Y, Kojima S. | Pediatr Blood Cancer. | 64 | 5 | | | | 2017.05 |
| Successful treatment of transplantation-associated atypical hemolytic uremic syndrome with eculizumab. | 血液・腫瘍内科 | Hasegawa D, Saito A, Nino N, Uemura S, Takafuji S, Yokoi T, Kozaki A, Ishida T, Kawasaki K, Yasumi T, Sakata N, Ohtsuka Y, Hirase S, Mori T, Nishimura N, Kusumoto M, Ogawa Y, Tominaga K, Nakagawa T, Kanda K, Tanaka R, Kosaka Y. | Journal of pediatric hematology/oncology | 40 | 1 | | | | 2017.05 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|---------|---|--|-----|-----|-----|-----|-----|---------|
| A prospective randomized trial comparing piperacillin/tazobactam with meropenem as empirical antibiotic treatment of febrile neutropenic children and adolescents with hematologic and malignant disorders. | 血液・腫瘍内科 | Sano H, Kobayashi R, Suzuki D, Hori D, Kishimoto K, Kobayashi K. | Pediatr Blood Cancer | 64 | 6 | | | | 2017.06 |
| Meropenem versus piperacillin/tazobactam with or without immunoglobulin as second-line therapy for febrile neutropenia in pediatric patients. | 血液・腫瘍内科 | Kobayashi R, Hori D, Sano H, Suzuki D, Kishimoto K, Kobayashi K. | Journal of Microbiology, Immunology and Infection | | | | | | 2017.06 |
| Fludarabine, cytarabine, G-CSF and idarubicin for children with relapsed AML. | 血液・腫瘍内科 | Nakayama H, Tomizawa D, Tanaka S, Iwamoto S, Shimada A, Saito AM, Yamashita Y, Moritake H, Terui K, Taga T, Matsuo H, Kosaka Y, Koh K, Hosoi H, Kurosawa H, Isoyama K, Horibe K, Mizutani S, Adachi S. | Pediatrics International | 59 | 10 | | | | 2017.08 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|---------|--|--|-----|-----|------|------|-----|---------|
| Analysis of Hypokalemia as a Side Effect of Liposomal Amphotericin in Pediatric Patients. | 血液・腫瘍内科 | Kobayashi R, Keino D, Hori D, Sano H, Suzuki D, Kishimoto K, Kobayashi K. | The Pediatric Infectious Disease Journal | | | | | | 2017.09 |
| C/EBP β is required for survival of Ly6C ⁺ monocytes. | 血液・腫瘍内科 | Tamura A, Hirai H, Yokota A, Kamio N, Sato A, Shoji T, Kashiwagi T, Torikoshi Y, Miura Y, Tenen DG, Maekawa T. | Blood. | 130 | 16 | 1809 | 1818 | | 2017.10 |
| Febuxostat as a Prophylaxis for Tumor Lysis Syndrome in Children with Hematological Malignancies. | 血液・腫瘍内科 | Kishimoto K, Kobayashi R, Hori D, Sano H, Suzuki D, Kobayashi K. | Anticancer research | 37 | 10 | 5845 | 5849 | | 2017.10 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|---------|---|-------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|---------|
| Prognostic value of genetic mutations in adolescent and young adults with acute myeloid leukemia. | 血液・腫瘍内科 | Kuwatsuka Y, Tomizawa D, Kihara R, Nagata Y, Shiba N, Iijima-Yamashita Y, Shimada A, Deguchi T, Miyachi H, Tawa A, Taga T, Kinoshita A, Nakayama H, Kiyokawa N, Saito AM, Koh K, Goto H, Kosaka Y, Asou N, Ohtake S, Miyawaki S, Miyazaki Y, Sakura T, Ozawa Y, Usui N, Kanamori H, Ito Y, Imai K, Suehiro Y, Kobayashi S, Kitamura K, Sakaida E, Ogawa S, Naoe T, Hayashi Y, Horibe K, Manabe A, Mizutani S, Adachi S, Kiyoi H. | International Journal of Hematology | 107 | 2 | 201 | 210 | | 2017.10 |
| Clinical significance of SH2B3 (LNK) expression in paediatric B-cell precursor acute lymphoblastic leukaemia. | 血液・腫瘍内科 | Yano M, Imamura T, Asai D, Deguchi T, Hashii Y, Endo M, Sato A, Kawasaki H, Kosaka Y, Kato K, Hori H, Yumura-Yagi K, Hara J, Oda M, Horibe K. | British Journal of Haematology | | | | | | 2017.10 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|--|---------|--|-------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|---------|
| Phase I study of perifosine monotherapy in patients with recurrent or refractory neuroblastoma. | 血液・腫瘍内科 | Matsumoto K, Shichino H, Kawamoto H, Kosaka Y, Chin M, Kato K, Mugishima H. | Pediatr Blood Cancer | 64 | 11 | | | | 2017.11 |
| Congenital pure erythroid leukemia diagnosed based on E-cadherin expression. | 血液・腫瘍内科 | Tamura A, Uemura S, Saito A, Okubo S, Nino N, Tahara T, Yokoi T, Kishimoto K, Ishida T, Hasegawa D, Kawasaki K, Yoshimoto S, Nakao H, Yoshida M, Kosaka Y. | International Journal of Hematology | 106 | 5 | 711 | 717 | | 2017.11 |
| ETV6-ABL1 fusion combined with monosomy 7 in childhood B-precursor acute lymphoblastic leukemia. | 血液・腫瘍内科 | Uemura S, Nishimura N, Hasegawa D, Shono A, Sakaguchi K, Matsumoto H, Nakamachi Y, Saegusa J, Yokoi T, Tahara T, Tamura A, Yamamoto N, Saito A, Kozaki A, Kishimoto K, Ishida T, Nino N, Takafuji S, Mori T, Iijima K, Kosaka Y. | International Journal of Hematology | | | | | | 2017.11 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|---------|--|-------------------------------------|-----|-----|------|------|-----|----------|
| Reemergence of translocation t(11;19) (q23;p13.1) in the absence of clinically overt leukemia. | 血液・腫瘍内科 | Uemura S, Tamura A, Saito A, Hasegawa D, Nino N, Yokoi T, Tahara T, Kozaki A, Kishimoto K, Ishida T, Kawasaki K, Mori T, Nishimura N, Ishimae M, Eguchi M, Kosaka Y. | International Journal of Hematology | 106 | 6 | 847 | 851 | | 2017.12 |
| 【プライマリ・ケア医が知っておくべき小児悪性疾患】 オンコロジック・エマージェンシー 乏尿・無尿 (解説/特集) | 血液・腫瘍内科 | 山本暢之、 長谷川大一郎 | 小児内科 | 49 | 12 | 1761 | 1764 | | 2017.12 |
| Low Incidence of osteonecrosis in childhood acute lymphoblastic leukemia treated with ALL-97 and ALL-02 study of Japan Association of Childhood Leukemia Study Group. | 血液・腫瘍内科 | Sakamoto K, Imamura T, Kihira K, Suzuki K, Ishida H, Morita H, Kanno M, Mori T, Hiramatsu H, Matsubara K, Terui K, Takahashi Y, Suenobu SI, Hasegawa D, Kosaka Y, Kato K, Moriya-Saito A, Sato A, Kawasaki H, Yumura-Yagi K, Hara J, Hori H, Horibe K. | Journal of Clinical Oncology | | | | | | in press |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|--|---------|--|-------------------------|-----|-----|-----|-----|----------------------------|----------|
| Risk-stratified therapy for children with FLT3-ITD-positive acute myeloid leukemia: results from the JPLSG AML-05 study. | 血液・腫瘍内科 | Shimada A, Iijima-Yamashita Y, Tawa A, Tomizawa D, Yamada M, Norio S, Watanabe T, Taga T, Iwamoto S, Terui K, Moritake H, Kinoshita A, Takahashi H, Nakayama H, Koh K, Goto H, Kosaka Y, Saito AM, Kiyokawa N, Horibe K, Hara Y, Okí K, Hayashi Y, Tanaka S, Adachi S. | Int J Hematol. | | | | | | in press |
| 肺動静脈瘻を契機に発見され、脳脊髄動静脈瘻の破裂により死亡した遺伝性出血性末梢血管拡張症の小児2例 | 循環器内科 | 三木康暢、田中敏克、 亀井直哉、佐藤有美、 小川禎治、富永健太、 藤田秀樹、 城戸佐知子 | 日本小児循環器学会雑誌 | 33 | 1 | 76 | 82 | 日本小児循環器学会 | 2017.1 |
| Functional near-tricuspid atresia in a patient with absent pulmonary valve and an intact ventricular septum | 循環器内科 | Yasunobu Miki, Toshikatsu Tanaka, Yoshihiro Oshima | Cardiology in the young | 27 | 2 | 391 | 393 | Cambridge University Press | 2017.3 |
| Difficult renal pathological classification in a case of pediatric nephrotic syndrome. | 腎臓内科 | Yamaguchi H, Shiratori A, Nakagawa T, Kanda K, Hara S, Yoshikawa N, Tanaka R. | Case Rep Nephrol Dial | 7 | 3 | 161 | 166 | Karger | 2017 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|------|---|-----------------|-----|------|------|------|--------------|--------|
| Long-term outcome of childhood-onset complicated nephrotic syndrome after a multicenter, double-blind, randomized, placebo-controlled trial of rituximab. | 腎臓内科 | Kamei K, Ishikura K, Sako M, Aya K, Tanaka R, Nozu K, Kaito H, Nakanishi K, Ohtomo Y, Miura K, Takahashi S, Morimoto T, Kubota W, Ito S, Nakamura H, Iijima K on behalf of the Rituximab for Childhood-Onset Refractory Nephrotic Syndrome (RCRNS) Study Group. | Pediatr Nephrol | 32 | 11 | 2071 | 2078 | Springer | 2017 |
| IgA nephropathy with presentation of nephrotic syndrome at onset in children. | 腎臓内科 | Shima Y, Nakanishi K, Sato M, Hama T, Mukaiyama H, Togawa H, Tanaka R, Nozu K, Sako M, Iijima K, Suzuki H, Yoshikawa N. | Pediatr Nephrol | 32 | 3 | 457 | 465 | Springer | 2017 |
| より強力なRAS阻害剤に変更することにより効果的な降圧作用が得られた腹膜透析患者の1例 | 腎臓内科 | 稲熊洋祐、白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、田中亮二郎 | 日本小児PD・HD研究会雑誌 | 29 | 1 | 41 | 43 | 日本小児PD・HD研究会 | 2017 |
| 薬剤耐性菌の拡大を防ぐには？ | 感染症科 | 笠井正志、高橋揚子 | 中学保健ニュース | | 1682 | 8 | 9 | 少年写真新聞社 | 2017.3 |
| インフルエンザ菌非莢膜株による眼窩蜂窩織炎の1か月例 | 感染症科 | 山本啓央、伊藤雄介、笠井正志、他、鶴田悟 | 日本小児科学会雑誌 | 121 | 11 | 1857 | 1861 | 日本小児科学会 | 2017.6 |
| 血液培養採取指針の作成による菌血症検出率変化の検討 | 感染症科 | 千葉浩介、他、笠井正志 | 日本小児救急医学会雑誌 | 16 | 3 | 431 | 434 | 日本小児救急医学会 | 2017.6 |
| 小児集中治療室における抗菌薬使用状況の横断的調査 | 感染症科 | 嶋田和浩、笠井正志、志馬伸朗 | 日本小児救急医学会雑誌 | 16 | 3 | 414 | 419 | 日本小児救急医学会 | 2017.6 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|------|--|-------------------------|-----|-----|------|------|---------------------|---------|
| 隔離の考え方と具体的手順 | 感染症科 | 藤田直久、他、 笠井正志、他、 波多江新平 | 診療と新薬 | 54 | 8 | 811 | 821 | 医事出版社 | 2017.8 |
| 病棟における薬剤の適切な管理法 | 感染症科 | 新井裕子、他、 笠井正志、他、 波多江新平 | 診療と新薬 | 54 | 8 | 795 | 810 | 医事出版社 | 2017.8 |
| 健康小児の市中重複血流感染 | 感染症科 | 笠井正志、大野茜子 | CR | 4 | | | | 日本ベクトン・ディ ッキンソン社 | 2017.12 |
| 感染症に罹らないための対策 | 感染症科 | 山之上弘樹、 新井裕子、笠井正志、 他、波多江新平 | Close to you | 18 | | | | 株式会社社長谷川綿行 | 2017 |
| Group B streptococcal disease in infants in the first year of life: a nationwide surveillance study in Japan, 2011-2015 | 感染症科 | Matsubara K, Ito Y et al | Infection | 45 | 4 | 449 | 458 | | 2017.8 |
| 造血幹細胞移植後に発症したカルバペネム耐性大腸菌による敗血症に対してコリスチンを使用した若年性骨髄単球性白血病の小児例 | 感染症科 | 谷口理恵子、 伊藤雄介他 | 感染症誌 | 91 | | 962 | 967 | 日本感染症学会 | 2017 |
| 基礎疾患のある子どもの肺炎の治療方針 | 感染症科 | 伊藤雄介 | 日本小児呼吸器学会雑誌 | 28 | | 103 | 198 | 日本小児呼吸器学会 | 2017 |
| Polymicrobial bloodstream infection in an immunocompetent child. | 感染症科 | Ono A, Yamaguchi H, Ito Y, Kasai M | Pediatr Int | 59 | 10 | 1102 | 1103 | 日本小児科学会 | 2017.10 |
| Extra-gastrointestinal anisakidosis caused by Pseudoterranova azarasi manifesting as strangulated inguinal hernia. | 感染症科 | Mitsuboshi A, Yamaguchi H, Ito Y, Mizuno T, Tokoro M, Kasai M. | Parasitol Int. | 66 | 6 | 810 | 812 | | 2017.12 |
| 査読 | 感染症科 | | Pediatric international | | | | | | |
| 査読 | 感染症科 | | Intensive care | | | | | | |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|--|-------|--|-----------------------|-----|-----|-----|-----|-------------------|---------|
| Novel BICD2 mutation in a Japanese family with autosomal dominant lower extremity-predominant spinal muscular atrophy-2. | 臨床遺伝科 | Yoshioka M, Morisada N, Toyoshima D, Yoshimura H, Nishio H, Iijima K, Takeshima Y, Uehara T, Kosaki K. | Brain and Development | | | | | Elsevier | 2017.12 |
| Two patients with PNKP mutations presenting with microcephaly, seizure, and oculomotor apraxia. | 臨床遺伝科 | Taniguchi-Ikeda M, Morisada N, Inagaki H, Ouchi Y, Takami Y, Tachikawa M, Satake W, Kobayashi K, Tsuneishi S, Takada S, Yamaguchi H, Nagase H, Nozu K, Okamoto N, Nishio H, Toda T, Morioka I, Wada H, Kurahashi H, Iijima K. | Clinical Genetics | | | | | Blackwell Science | 2017.12 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|-------|--|------------------------------|-----|-----|-------|-----|-------------------------|---------|
| Natural History and Genotype-Phenotype Correlation in Female X-Linked Alport Syndrome. | 臨床遺伝科 | Yamamura T, Nozu K, Fu XJ, Nozu Y, Ye MJ, Shono A, Yamanouchi S, Minamikawa S, Morisada N, Nakanishi K, Shima Y, Yoshikawa N, Ninchoji T, Morioka I, Kaito H, Iijima K. | Kidney International Reports | 2 | 5 | 850 | 855 | Elsevier | 2017.5 |
| The smallest de novo 20q11.2 microdeletion causing intellectual disability and dysmorphic features. | 臨床遺伝科 | Hanafusa H, Morisada N, Ishida Y, Sakata R, Morita K, Miura S, Ye MJ, Yamamoto T, Okamoto N, Nozu K, Iijima K. | Human Genome Variation | 4 | | 17050 | | Nature Publishing Group | 2017.11 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|--|-------|---|---------------------------------------|-----|-----|-----|-----|----------|---------|
| Detection of a Splice Site Variant in a Patient with Glomerulopathy and Fibronectin Deposits. | 臨床遺伝科 | Tsuji Y, Nozu K, Sofue T, Hara S, Nakanishi K, Yamamura T, Minamikawa S, Nozu Y, Kaito H, Fujimura J, Horinouchi T, Morisada N, Morioka I, Taniguchi-Ikeda M, Matsuo M, Iijima K. | Nephron | | | | | Karger | 2017.11 |
| A comparison of splicing assays to detect an intronic variant of the OCRL gene in Lowe syndrome. | 臨床遺伝科 | Nakanishi K, Nozu K, Hiramoto R, Minamikawa S, Yamamura T, Fujimura J, Horinouchi T, Ninchoji T, Kaito H, Morisada N, Ishimori S, Nakanishi K, Morioka I, Awano H, Matsuo M, Iijima K. | European Journal of Medical Genetics. | 60 | 12 | 631 | 634 | Elsevier | 2017.12 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|-------|---|------------------------|-----|-----|-----|-----|-------------------|---------|
| Spinal muscular atrophy carriers with two SMN1 copies. | 臨床遺伝科 | Ar Rochmah M, Awano H, Awaya T, Harahap NIF, Morisada N, Bouike Y, Saito T, Kubo Y, Saito K, Lai PS, Morioka I, Iijima K, Nishio H, Shinohara M. | Brain and Development | 39 | 10 | 851 | 860 | Elsevier | 2017.11 |
| Diversity of renal phenotypes in patients with WDR19 mutations: Two case reports. | 臨床遺伝科 | Yoshikawa T, Kamei K, Nagata H, Saida K, Sato M, Ogura M, Ito S, Miyazaki O, Urushihara M, Kondo S, Sugawara N, Ishizuka K, Hamasaki Y, Shishido S, Morisada N, Iijima K, Nagata M, Yoshioka T, Ogata K, Ishikura K. | Nephrology (Carlton) . | 22 | 7 | 566 | 571 | Blackwell Science | 2017.7 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|-------|--|----------------------------|------|-----|------|------|-------------------------|--------|
| Characterization of contiguous gene deletions in COL4A6 and COL4A5 in Alport syndrome-diffuse leiomyomatosis. | 臨床遺伝科 | Nozu K, Minamikawa S, Yamada S, Oka M, Yanagita M, Morisada N, Fujinaga S, Nagano C, Gotoh Y, Takahashi E, Morishita T, Yamamura T, Ninchoji T, Kaito H, Morioka I, Nakanishi K, Vorechovsky I, Iijima K. | Journal of Human Genetics. | 62 | 7 | 733 | 735 | Nature Publishing Group | 2017.7 |
| 顔面神経検査 顎顔面形態異常の遺伝子検査 | 臨床遺伝科 | 森貞直哉、飯島一誠 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 89 | 5 | 191 | 196 | 医学書院 | 2017.4 |
| 胎児・新生児と腎泌尿器疾患 遺伝性腎疾患とgenetic approach | 臨床遺伝科 | 森貞直哉、飯島一誠 | 腎臓内科・泌尿器科 | 5 | 4 | 367 | 371 | 科学評論社 | 2017.4 |
| 【腎臓医が知っておきたい分子遺伝学の進歩】疾患編 CAKUT | 臨床遺伝科 | 森貞直哉、飯島一誠 | 腎と透析 | 82 | 3 | 402 | 406 | 東京医学社 | 2017.3 |
| 【腎泌尿器科領域におけるゲノム医療】CAKUT | 臨床遺伝科 | 森貞直哉、飯島一誠 | 腎臓内科・泌尿器科 | 5 | 1 | 22 | 27 | 科学評論社 | 2017.1 |
| うつ気分、うつ状態、うつ病ー子どもにもある「うつ」の処方 | 精神精神科 | 玉岡文子、田中究 | 児童心理 | 1049 | | 112 | 117 | 金子書房 | 2017 |
| Management of congenital tracheal stenosis in the neonatal period. | 小児外科 | Morita K, Maeda K, Yabe K, Oshima Y. | Pediatr Surg Int. | 33 | 10 | 1059 | 1063 | Springer | 2017 |
| A case of biliary atresia with pancreaticobiliary maljunction. | 小児外科 | Endo K, Yokoi A, Mishima Y, Tamaki A, Morita K, Okata Y, Hisamatsu C, Fukuzawa H, Yoshida M, Akasaka Y, Maeda K. | Surg Case Rep. | 3 | 1 | 100 | 100 | Springer | 2017 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|--|------|--|-------------------|-----|-----|------|------|------------------------|------|
| 3-Dimensional computed tomography imaging of the ring-sling complex with non-operative survival case in a 10-year-old female. | 小児外科 | Fukuda H, Imataka G, Drago F, Maeda K, Yoshihara S. | Exp Ther Med | 14 | 3 | 2600 | 2602 | Spandidos Publications | 2017 |
| The role of adjunctive procedures in reducing postoperative tracheobronchial obstruction in single lung patients with congenital tracheal stenosis undergoing slide tracheoplasty. | 小児外科 | Yokoi a, Oshima, Y, Nishijima E | J Pediatr Surg | 52 | 5 | 677 | 679 | Elsevier | 2017 |
| Pediatric airway surgery. | 小児外科 | Maeda K. | Pediatr Surg Int. | 33 | 4 | 435 | 443 | Springer | 2017 |
| Surgical Management of Duplication of the Pituitary Gland-Plus Syndrome With Epignathus, Cleft Palate, Duplication of Mandible, and Lobulated Tongue. | 小児外科 | Noguchi T, Sugiyama T, Sasaguri KI, Ono S, Maeda K, Nishino H, Jinbu Y, Mori Y. | J Craniofac Surg. | 28 | 2 | e141 | e144 | Wolters Kluwer | 2017 |
| Predictive factor for intraoperative tumor rupture of Wilms tumor. | 小児外科 | Fukuzawa H, Shiima Y, Mishima Y, Sekine S, Miura S, Yabe K, Yamaki S, Morita K, Okata Y, Hisamatsu C, Nakao M, Yokoi A, Maeda K, Kosaka Y. | Pediatr Surg Int. | 33 | 1 | 91 | 95 | Springer | 2017 |
| 小児喉頭・声門下・気管狭窄の診断と治療 喉頭・声門下・気管狭窄症の外科治療 | 小児外科 | 前田貢作 | 小児耳鼻咽喉科 | 38 | 3 | 297 | 301 | 日本小児耳鼻咽喉科学会 | 2017 |
| IDRF陽性、化学療法不応性の低リスク神経芽腫の一例 | 小児外科 | 横井暁子、長谷川大一郎、玉城昭彦、齋藤敦郎、二野菜々子、赤坂好宣、吉田牧子、前田貢作、小阪嘉之 | 日本小児血液・がん学会雑誌 | 54 | 1 | 44 | 49 | 日本小児血がん学会 | 2017 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|--------|---|--------------------|-----|-----|------|------|------------------|--------|
| 嘔吐後のチアノーゼを契機に診断に至った喉頭気管食道裂の新生児例 | 小児外科 | 田中裕香、大橋敦、青野知紘、藤代定志、外山有加、平林雅人、峰研治、辻章志、森田圭一、前田眞作、金子一成 | 小児科診療 | 80 | 9 | 1135 | 1138 | 診断と治療社 | 2017 |
| 腫瘍出血で発見されたホルモン産生性副腎皮質腫瘍の1女児例 | 小児外科 | 矢部清晃、福澤宏明、久松千恵子、山本聡史、前田眞作 | 日本小児外科学会雑誌 | 53 | 2 | 305 | 309 | 日本小児外科学会 | 2017 |
| 胆道閉鎖症の術前腹部超音波検査における胆嚢収縮の意義 病型及び膵・胆管合流異常との関連について | 小児外科 | 遠藤耕介、福澤宏明、三島泰彦、玉城昭彦、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、横井暁子、前田眞作 | 日本小児外科学会雑誌 | 53 | 2 | 247 | 251 | 日本小児外科学会 | 2017 |
| 外傷性膵損傷 主膵管損傷に対する治療ストラテジー | 小児外科 | 小野滋、河原仁守、前田眞作 | 小児外科 | 49 | 3 | 276 | 282 | 東京医学社 | 2017 |
| 【インフォームド・コンセントのあり方】 緊急気管切開 | 小児外科 | 横井暁子 | 小児外科 | 49 | 4 | 413 | 416 | 東京医学社 | 2017 |
| 【重症心身障がい児（者）の外科】 重症心身症児（者）における気管切開術 | 小児外科 | 磯野香織、横井暁子 | 小児外科 | 49 | 11 | 1081 | 1083 | 東京医学社 | 2017 |
| 神経芽腫群腫瘍のリスク分類と組織分類の検討 (Neuroblastoma risk group stratification and international neuroblastoma pathology classification) (英語) | 小児外科 | 吉田牧子、長谷川大一郎、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之、横井暁子、福澤宏明、前田眞作、赤坂好宣 | 日本病理学会会誌 | 106 | 1 | 470 | 471 | 日本病理学会 | 2017 |
| Hepatocellular adenomaの1例 | 小児外科 | 吉田牧子、山本聡史、福澤宏明、前田眞作、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之、杉岡勇典、赤坂好宣 | 大阪府立母子保健総合医療センター雑誌 | 32 | 1,2 | 46 | 47 | 大阪府立母子保健総合医療センター | 2017 |
| 山本論文に対する Editorial Comment | 心臓血管外科 | 松久弘典 | 心臓 | 49 | 4 | 396 | 397 | 日本心臓財団・日本循環器学会 | 2017.4 |
| 胸腹部の異常 殿部 | 脳神経外科 | 河村淳史 | 周産期医学 | 47 | 9 | 1157 | 1158 | 東京医学社 | 2017.9 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|--|-------|---|--------------------------|-----|-----|------|------|------------|-----------|
| 小児頭部外傷後の一過性硬膜下液貯留の検討 | 脳神経外科 | 阿久津宣行、山口陽二、小山淳二、河村淳史、長嶋達也、甲村英二 | 神経外傷 | 40 | 1 | 28 | 31 | 日本脳神経外傷学会 | 2017 |
| 腰仙部の皮膚異常を伴わない脊髄脂肪腫 | 脳神経外科 | 大塚邦紀、長嶋達也、阿久津宣行、河村淳史、山元一樹 | 小児の脳神経 | 42巻 | 3号 | 271 | 277 | 日本小児神経外科学会 | 2017 |
| 先天性股関節脱臼と発育性股関節形成不全 | 整形外科 | 薩摩眞一 | 臨床整形外科 | 52 | 7 | 664 | 669 | 医学書院 | 2017.7 |
| 先天性内反足に対するPonseti法の治療体系 | 整形外科 | 薩摩眞一 | 関節外科 | 36 | 6 | 43 | 49 | メディカルビュー社 | 2017.6 |
| 手・足の異常 下肢の関節 | 整形外科 | 薩摩眞一 | 周産期医学 | 47 | 9 | 1191 | 1193 | 東京医学社 | 2017.9 |
| 乳児健診で見つけない発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼) | 整形外科 | 薩摩眞一 | 外来小児科 | 20 | 3 | 319 | 324 | 日本外来小児科学会 | 2017.11 |
| The epidemiology of developmental dysplasia of the hip in Japan: Findings from a nationwide multi-center survey. | 整形外科 | Hattori T, Inaba Y, Ichinohe S, Kitano T, Kobayashi D, Saisu T, Ozaki | J Orthopedic Science | 22 | 1 | 121 | 126 | JPOA | 2017.1 |
| 先天性股関節脱臼治療の現況 小児整形外科の過去 現在 未来 | 整形外科 | 小林大介 | Bone Joint Nerve | 27 | 7 | 587 | 593 | アークメディア | 2017.1 |
| 小児悪性骨髄疾患の診断 整形外科外来で注意すべき小児の臨床所見 | 整形外科 | 小林大介 | Monthly book Orthopadics | 30 | 13 | 57 | 62 | 全日本出版 | 2017.12 |
| 肩腱板断裂に対するステロイド関節内注射の効果の検討 | 整形外科 | 坂田亮介 | 臨床整形外科 | 52 | 5 | 491 | 495 | 医学書院 | 2017.5 |
| 手術相談室 小児の眼窩底骨折 | 眼科 | 野村耕治 | 眼科手術 | 30 | 3 | 479 | 483 | メディカル葵出版 | 2017.7.30 |
| 乳児内斜視にみられる運動系発達 の検討-視運動性眼振の非対称性と その特徴- | 眼科 | 福永とも子、野村耕治、中野由美子、柳澤翠芳 | 眼科臨床紀要 | 10 | 3 | 210 | 214 | 眼科臨床紀要会 | 2017.3.1 |
| 当科における心因性視力障害の臨床経過と心因の検討 | 眼科 | 柳澤翠芳、野村耕治、中野由美子、福永とも子 | 眼科臨床紀要 | 10 | 5 | 426 | 430 | 眼科臨床紀要会 | 2017.5.1 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|--------|--------------------------------------|----------------------------|-----|-----|------|------|---------------------|-----------|
| 乳児内斜視における交代性上斜位の手術治療成績 | 眼科 | 中野由美子、野村耕治、福永とも子、柳澤翠芳 | 臨床眼科 | 71 | 9 | 1415 | 1421 | 医学書院 | 2017.9.1 |
| Cellular recognition and patterning in sensory systems. | 耳鼻咽喉科 | H Togashi and S Katsunuma | Experimental Cell Research | 358 | 1 | 52 | 57 | Elsevier | 2017 |
| 停留精巣・陰嚢水腫 | 泌尿器科 | 杉多良文、春名晶子、賀來泰大 | 泌尿器外科 | 30 | 特別号 | 337 | 348 | 医学図書出版 | 2017.4 |
| 泌尿器科からみた性分化疾患 | 泌尿器科 | 杉多良文 | 思春期学 | 35 | 3 | 284 | 287 | 日本思春期学会 | 2017.9 |
| 精巣捻転 | 泌尿器科 | 杉多良文、大饗政嗣、武中良大、春名晶子 | 小児外科 | 49 | 10 | 1045 | 1048 | 東京医学社 | 2017.10 |
| 外来でよく診る乳幼児の泌尿器科疾患 | 泌尿器科 | 杉多良文 | 外来小児科 | 20 | 3 | 313 | 318 | 日本外来小児学会 | 2017.11 |
| 通常の喉頭鏡では気道確保できなかった無舌症の一症例 | 麻酔科 | 上北郁夫、鈴木毅、香川哲郎 | 麻酔 | 66 | 1 | 52 | 54 | 克誠堂 | 2017.1 |
| 小児気道管理法の現状 | 麻酔科 | 上北郁夫、香川哲郎 | 臨床麻酔 | 41 | 2 | 173 | 178 | 真興交易 | 2017.2 |
| 小児用気管チューブのあれこれ | 麻酔科 | 藤原孝志 | Anet | 21 | 2 | 7 | 10 | 丸石製薬 | 2017 |
| 小児急性リンパ性白血病の麻酔頻回に麻酔を受ける疾患特性を考えて | 麻酔科 | 黒田光朗、香川哲郎 | LiSA | 24 | 7 | 638 | 642 | メディカルサイエンスインターナショナル | 2017.7 |
| 食道閉鎖症／気管食道瘻の麻酔 | 麻酔科 | 香川哲郎 | 日本臨床麻酔学会雑誌 | 37 | 4 | 498 | 504 | 日本臨床麻酔学会 | 2017.7 |
| 一絨毛二羊膜双胎における一児子宮内死亡15例の背景と転機 | 産科 | 鷺尾佳一、河崎あさひ、森下紀、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹 | 周産期医学 | 47 | 5 | 691 | 694 | (株)東京医学社 | 2017.5 |
| 基礎からきちんと学ぼう、胎児・新生児の画像診断：消化器・泌尿生殖器 | 放射線診断科 | 赤坂好宣 | 画像診断 | 37 | 3 | 319 | 327 | 秀潤社 | 2017.2.25 |
| 小児・若年者にみられる骨盤内腫瘍の鑑別 | 放射線診断科 | 赤坂好宣、杉岡勇典 | 婦人科疾患の鑑別診断のポイント | 37 | 11 | 138 | 143 | 秀潤社 | 2017.9.10 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|--|--|---|--------------------------|--------|------|------|------|-------------------------|---------|
| The effectiveness of remote facilitation in simulation-based pediatric resuscitation training for medical students | 小児集中治療科 | Ohta K, Kurosawa H, Shiima Y, Ikeyama T, Scott J, Hayes S, Gould M, Buchanan N, Nadkarni V, Nishisaki A | Pediatr Emerg Care | 33 | 8 | 564 | 569 | | 2017. 8 |
| 臍胸の治療 保存的治療 | 小児集中治療科 | 楠本耕平 | 小児外科 | 49 | 2 | 201 | 205 | 東京医学社 | 2017.2 |
| 小児救急のGO&STOPルール20 | 小児集中治療科 | 増井美苗 | Emergency Care | 30 | 3 | 38 | 39 | メディカ出版 | 2017.3 |
| Trends and outcomes in neonatal cardiac surgery for congenital heart disease in Japan from 1996 to 2010. | 小児集中治療科、 心臓血管外科 | Tomomi Hasegawa, Munetaka Masuda, Meinoshin Okumura, Hirokuni Arai, Junjiro Kobayashi, Yoshikatsu Saiki, Kazuo Tanemoto, Hiroshi Nishida, Noboru Motomura | Eur J Cardiothorac Surg. | 51 | 2 | 301 | 307 | Oxford University Press | 2017.2 |
| 植え込み型除細動器移植小児患者に対する集学的支援の重要性 | 神戸市立医療 センター中央市 民病院小児科 | 潮見祐樹 | 日本小児科学会雑誌 | 121 | 12 | 1964 | 1968 | 日本小児科学会 | 2017.12 |
| 胎児水腫と新生児期の胆汁鬱滞性肝機能障害を認め、6歳でパロニン酸キナーゼ血症と診断できた女児例 | 小児集中治療科 | 山下由理子 | 日本臨床免疫学会誌 | 40 | 2 | 131 | 137 | 日本臨床免疫学会 | 2017.6 |
| E-17) 縦隔腫瘍の1例 | 1)兵庫県立こども病院病理診断科 2)同脳神経外科 3)同小児外科 4)同血液腫瘍科 5)同放射線科 | 吉田牧子 1), 河村淳史 2), 長嶋達也 2), 横井暁子 3), 前田貢作 3), 二野菜々子 4), 斉藤敦郎 4), 長谷川大一郎 4), 川崎圭一郎 4), 小阪嘉之 4), 杉岡勇典 5), 赤坂好宣 5) | 日本小児血液・がん学会雑誌 | vol.54 | No.1 | 90 | 90 | 日本小児血液・がん学会 | 2017.5 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|-------------------------------------|------|------|-------------------|-----|-----|-----|-----|------------|----------|
| 小児における気管切開カニューレとカニューレ固定具によるMDROUのケア | 看護部 | 鎌田直子 | 在宅診療0-100 | 2 | 10 | 924 | 928 | へるす出版 | 2017.10 |
| 「場所」「モノ」「人」でみるラウンド事件簿7 特集⑤NICU | 看護部 | 鳴滝由佳 | INFECTION CONTROL | 26 | 9 | 931 | 936 | メディカ出版 | 2017.9 |
| 兵庫県立病院における診断参考レベルの活用と最適化の試み | 放射線部 | 山崎敏弘 | 全国自治体病院協議会雑誌 | 56 | 9 | 71 | 73 | 全国自治体病院協議会 | 2017.9.1 |

3) 学会発表

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|---------|---|-------|----------------------|-------|--------------|
| 急性左中足骨髄炎の8歳男児 | 救急総合診療科 | 山内悠輔、倉橋幸也、永尾宏之、西村明紘、張慶哲、藤田杏子、津田雅世、上村克徳、田中亮二郎 | 第272回 | 日本小児科学会 兵庫県地方会 | 姫路 | 2017.9.30 |
| 体重減少と細菌尿を契機に発見された続発性偽性低アルドステロン症の一例 | 救急総合診療科 | 西村明紘、永尾宏之、張慶哲、倉橋幸也、藤田杏子、津田雅世、上村克徳、田中亮二郎 | 第272回 | 日本小児科学会 兵庫県地方会 | 姫路 | 2017.9.30 |
| 小児専門病院PICUのない北陸において小児重症患者の診療体制をどのように充実させていくべきか | 救急総合診療科 | 津田雅世 | 第23回 | 北陸小児救急・集中治療研究会 | 金沢 | 2017.5.13 |
| 小児急性胃腸炎診療ガイドライン2017と経口補水療法 | 救急総合診療科 | 上村克徳 | 第31回 | 日本小児救急医学会 学術集会 | 東京 | 2017.6.23-25 |
| 時に熱く、時に冷静に、救急医に必要なもの～ある小児薬物中毒症例を通して～ | 救急総合診療科 | 林卓郎、上谷良行、竹田洋樹、山口善道、梶原伸介、楠元真由美、松井鋭 | 第20回 | 日本臨床救急医学会 総会・学術集会 | 東京 | 2017.5.27 |
| 腸重積症の非観血的整復に対する鎮静剤の有用性 | 救急総合診療科 | 永尾宏之、松井鋭、山口善道、竹田洋樹、林卓郎 | 第31回 | 日本小児救急医学会 | 東京 | 2017.6.24 |
| ミスセンス変異 His44Tyr が病因と考えられた優性遺伝性 GH1 遺伝子異常症 | 代謝内分泌科 | 日外祐理、尾崎佳代、郷司克己 | 第90回 | 日本内分泌学会学術総会 | 京都 | 2017.4.20-22 |
| 遺伝子診断にて治療方針を決定した MODY2 の2家系 | 代謝内分泌科 | 奥野美佐子、尾崎佳代、郷司克己 | 第51回 | 日本小児内分泌学会 学術集会 | 大阪 | 2017.9.28-30 |
| 全身型若年性特発性関節炎無治療初発例における血清 IL-18 値による病型評価 | リウマチ科 | 井上なつみ、水田麻雄、高倉麻衣子、中岸保夫、清水正樹 | 第61回 | 日本リウマチ学会 総会・学術集会 | 福岡 | 2017.4.22 |
| 若年性特発性関節炎の子どもの生活のしづらさへの支援 親子の認識の違いに注目して | リウマチ科 | 辻田利香、中岸保夫、菱谷好洋、笠井和子 | 第61回 | 日本リウマチ学会 総会・学術集会 | 福岡 | 2017.4.22 |
| 小児の膠原病および若年性特発性関節炎 全身型若年性特発性関節炎に合併したマクロファージ活性化症候群 ACR.EULAR 診断基準2016の日本人症例における検証 | リウマチ科 | 清水正樹、水田麻雄、岩田直美、大倉有加、金城紀子、八角高裕、梅林宏明、久保田知洋、中岸保夫、西村謙一、八代将登、安村純子、山崎和子、脇口宏之、岡本奈美、森雅亮 | 第61回 | 日本リウマチ学会 総会・学術集会 | 福岡 | 2017.4.22 |
| 小児の膠原病および若年性特発性関節炎 本邦の小児リウマチ専門施設における若年性特発性関節炎関連ぶどう膜炎の実態調査 疫学 | リウマチ科 | 安村純子、八代将登、大倉有加、梅林宏明、西村謙一、原良紀、山崎和子、岩田直美、清水正樹、水田麻雄、謝花幸祐、中岸保夫、脇口宏之、久保田知洋、金城紀子、岡本奈美、森雅亮 | 第61回 | 日本リウマチ学会 総会・学術集会 | 福岡 | 2017.4.22 |
| 小児の膠原病および若年性特発性関節炎 本邦の小児リウマチ専門施設における若年性特発性関節炎関連ぶどう膜炎の実態調査 治療 | リウマチ科 | 八代将登、安村純子、岡本奈美、大倉有加、梅林宏明、原良紀、西村謙一、岩田直美、清水正樹、水田麻雄、謝花幸祐、中岸保夫、脇口宏之、久保田知洋、金城紀子、山崎和子、森雅亮 | 第61回 | 日本リウマチ学会 総会・学術集会 | 福岡 | 2017.4.22 |
| シンポジウム:発症年齢の違いによる膠原病の特徴 小児期 SLE の特徴と治療 | リウマチ科 | 中岸保夫 | 第27回 | 日本リウマチ学会 近畿支部学術集会 | 大阪 | 2017.9.2 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|--------|--|-------|------------------------------|-----------|------------|
| 全身型若年性特発性関節炎に合併するマクロファージ活性化症候群における soluble TNFR II.I 比の臨床的有用性 | リウマチ科 | 清水正樹、井上なつみ、水田麻雄、中岸保夫、谷内江昭宏 | 第45回 | 日本臨床免疫学会総会 | 東京 | 2017.9.28 |
| 鼻出血を契機に診断された全身性エリテマトーデスの1例 | リウマチ科 | 近藤亜耶、中岸保夫、笠井和子 | 第27回 | 日本小児リウマチ学会総会・学術集会 | 京都 | 2017.10.7 |
| 全身型若年性特発性関節炎における活動性指標としての血清可溶性CD163値の臨床的有用性 | リウマチ科 | 作村直人、清水正樹、水田麻雄、伊良部仁、井上なつみ、中岸保夫、谷内江昭宏 | 第27回 | 日本小児リウマチ学会総会・学術集会 | 京都 | 2017.10.7 |
| 全身型若年性特発性関節炎に合併するマクロファージ活性化症候群における soluble TNFR II.I 比の臨床的有用性 | リウマチ科 | 井上なつみ、清水正樹、水田麻雄、谷内江昭宏、中岸保夫 | 第27回 | 日本小児リウマチ学会総会・学術集会 | 京都 | 2017.10.7 |
| 全身型若年性特発性関節炎に合併したマクロファージ活性化症候群における病態理解と病勢評価指標確立を目指した網羅的サイトカイン解析 | リウマチ科 | 水田麻雄、清水正樹、井上なつみ、中岸保夫、笠井和子、高倉麻衣子、作村直人、伊良部仁、谷内江昭宏 | 第27回 | 日本小児リウマチ学会総会・学術集会 | 京都 | 2017.10.7 |
| 全身型若年性特発性関節炎における急性炎症反応評価のための血清 Leucine-rich α 2-glycoprotein 値の臨床的有用性 | リウマチ科 | 清水正樹、作村直人、伊良部仁、高倉麻衣子、井上なつみ、水田麻雄、田橋優子、中岸保夫、金田尚、太田和秀、谷内江昭宏 | 第27回 | 日本小児リウマチ学会総会・学術集会 | 京都 | 2017.10.7 |
| JIA 研修会 総論 | リウマチ科 | 中岸保夫 | 第27回 | 日本小児リウマチ学会総会・学術集会 | 京都 | 2017.10.8 |
| Validation of 2016 ACR-EULAR Classification Criteria of Macrophage Activation Syndrome Complicating Systemic Juvenile Idiopathic Arthritis in Japanese Patients | リウマチ科 | Masaki Shimizu, Mao Mizuta, Takahiro Yasumi, Naomi Iwata, Yuka Okura, Noriko Kinjo, Hiroaki Umebayashi, Tomohiro Kubota, Yasuo Nakagishi, Kenichi Nishimura, Masato Yashiro, Junko Yasumura, Kazuko Yamazaki, Hiroyuki Wakiguchi, Nami Okamoto, Masaaki Mori | | 2017 ACR-ARHP Annual Meeting | San Diego | 2017.11.5 |
| Extensive Serum Cytokine Analysis in Patients with Macrophage Activation Syndrome Complicating Systemic Juvenile Idiopathic Arthritis | リウマチ科 | Mao Mizuta, Masaki Shimizu, Natsumi Inoue, Kazuko Kasai, Yasuo Nakagishi, Akihiro Yachie | | 2017 ACR-ARHP Annual Meeting | San Diego | 2017.11.5 |
| スギ花粉飛散時期に加熟トマトでアナフィラキシーを起こした花粉-食物アレルギー症候群の12歳男児例 | アレルギー科 | 笠井和子 中岸保夫 | 第270回 | 日本小児科学会兵庫県地方会 | 神戸 | 2017.2.18 |
| アレルギー性鼻炎以外のアレルギー疾患を合併する小児へのダニ・スギ免疫療法導入の実例 | アレルギー科 | 笠井和子 中岸保夫 | 第48回 | 兵庫県臨床アレルギー研究会 | 神戸 | 2017.5.13 |
| 粘膜障害と組織障害が高度であったステーブンス・ジョンソン症候群(SJS)の1例 | アレルギー科 | 山田優里子、笠井和子、富永健太、中岸保夫 | 第271回 | 日本小児科学会兵庫県地方会 | 神戸 | 2017.5.20 |
| 当院のアレルギー診療におけるコメディカルの役割の重要性と育成 | アレルギー科 | 笠井和子 中岸保夫 | 第15回 | 県立病院学会 | 神戸 | 2017.9.9 |
| 災害時における食物アレルギー児の対応について | アレルギー科 | 笠井和子 | | 明石給食施設協議会研修会 | 明石 | 2017.10.27 |
| 一過性意識消失発作を主訴に小児神経外来を受診した45例の検討 | 神経内科 | 豊嶋大作、山口宏、石田悠介、田中司、小川禎治、田中敏克、丸山あずさ、永瀬裕朗 | 第271回 | 日本小児科学会兵庫県地方会 | 神戸 | 2017.5.20 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|---------|---|------|-----------------|-------|--------------|
| 小児難治てんかん重積状態に対するチアミラールを用いた全身麻酔療法 | 神経内科 | 石田悠介、富岡和美、田中司、西山将広、藤田杏子、豊嶋大作、丸山あずさ、永瀬裕朗、黒澤寛史、竹田洋樹、上谷良行、飯島一誠 | 第59回 | 日本小児神経学会学術集会 | 大阪 | 2017.6.15-17 |
| 一過性意識消失発作を主訴に小児神経外来を受診した45例の検討 | 神経内科 | 豊嶋大作、山口宏、石田悠介、田中司、小川禎治、田中敏克、丸山あずさ、永瀬裕朗 | 第59回 | 日本小児神経学会学術集会 | 大阪 | 2017.6.15-17 |
| Targeted temperature managementを導入した急性脳症疑い症例における早期予後不良因子の検討 | 神経内科 | 田中司、石田悠介、富岡和美、西山将広、豊嶋大作、丸山あずさ、永瀬裕朗、黒澤寛史、竹田洋樹、上谷良行、飯島一誠 | 第59回 | 日本小児神経学会学術集会 | 大阪 | 2017.6.15-17 |
| 発症6時間以内に得られる急性脳症死亡予測因子の検討 | 神経内科 | 富岡和美、永瀬裕朗、石田悠介、田中司、西山将広、藤田杏子、豊嶋大作、丸山あずさ、黒澤寛史、竹田洋樹、上谷良行、高田哲、飯島一誠 | 第59回 | 日本小児神経学会学術集会 | 大阪 | 2017.6.15-17 |
| 有熱性けいれん重積症例におけるAESDおよび急性脳症鑑別のためのAESD prediction scoreの有用性の検証 | 神経内科 | 西山将広、永瀬裕朗、富岡和美、石田悠介、田中司、藤田杏子、豊嶋大作、丸山あずさ、黒澤寛史、竹田洋樹、上谷良行、高田哲、飯島一誠 | 第59回 | 日本小児神経学会学術集会 | 大阪 | 2017.6.15-17 |
| 脳炎脳症の治療戦略 三次救急医療施設における脳炎脳症の治療戦略 治療内容と治療開始時期の選択 | 神経内科 | 西山将広、永瀬裕朗、丸山あずさ | 第59回 | 日本小児神経学会学術集会 | 大阪 | 2017.6.15-17 |
| 食道閉鎖術後に発症したHarlequin症候群 | 神経内科 | 山口宏、横井暁子、上村克徳、石田悠介、豊嶋大作、丸山あずさ | 第62回 | 日本小児神経学会近畿地方会 | 大阪 | 2017.10.21 |
| 小児のてんかん診療の実態～薬物療法を中心に～ | 神経内科 | 丸山あずさ | | 武庫川女子大学薬学講座 | 西宮 | 2017.11.18 |
| 神戸市医療圏のてんかんの診療連携を考える「小児てんかん診療の実情と連携の課題」 | 神経内科 | 丸山あずさ | 第5回 | 神戸てんかん治療連携の会 | 神戸 | 2017.12.14 |
| 炎症を伴った腹腔内腫瘍の小児例 | 血液・腫瘍内科 | 太原鉄平、齋藤敦郎、二野菜々子、植村優、横井健人、田村彰広、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之 | 第10回 | 兵庫県 tumor board | 神戸市 | 2017.1.13 |
| 移植学会WG研究成果報告 骨髄異形成症候群(小児)-WG: WG7 | 血液・腫瘍内科 | 長谷川大一郎 | 第39回 | 日本造血細胞移植学会 | 松江市 | 2017.3.2-4 |
| 小児同種移植における移植ドナーが無移植片対宿主病無再発生存に及ぼす影響 Impact of donors and stem cell sources on graft-versus-host disease-free, relapse-free survival after allogeneic hematopoietic cell transplantation in children | 血液・腫瘍内科 | 横井健人、岸本健治、植村優、二野菜々子、太原鉄平、田村彰広、神前愛子、齋藤敦郎、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之 | 第39回 | 日本造血細胞移植学会 | 松江市 | 2017.3.2-4 |
| 同種骨髄移植後に補体関連血栓性微小血管症を合併した家族性血球貪食性リンパ組織症3型の剖検例 Complement-mediated thrombotic microangiopathy in familial hemophagocytic lymphohistiocytosis type 3 after bone marrow transplantation. | 血液・腫瘍内科 | 二野菜々子、齋藤敦郎、長谷川大一郎、植村優、横井健人、太原鉄平、田村彰広、神前愛子、岸本健治、石田敏章、川崎圭一郎、吉田牧子、小阪嘉之 | 第39回 | 日本造血細胞移植学会 | 松江市 | 2017.3.2-4 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|---------|---|-------|--|-----------|--------------|
| 骨髄非破壊的前処置にて造血幹細胞移植を施行した原発性免疫不全症11症例の検討 Clinical Characteristics and outcomes in children with primary immunodeficiency disorders receiving reduced-intensity conditioning regimen for allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. | 血液・腫瘍内科 | 太原鉄平、長谷川大一郎、植村優、二野菜々子、横井健人、田村彰広、神前愛子、齋藤敦郎、岸本健治、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之 | 第39回 | 日本造血細胞移植学会 | 松江市 | 2017.3.2-4 |
| 小児造血細胞移植後早期における血漿ADAMTS13活性の推移 Early posttransplant changes in plasma ADAMTS13 activity in children receiving stem cell transplantation. | 血液・腫瘍内科 | 岸本健治、長谷川大一郎、齋藤敦郎、植村優、二野菜々子、横井健人、太原鉄平、田村彰広、神前愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之 | 第39回 | 日本造血細胞移植学会 | 松江市 | 2017.3.2-4 |
| Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Juvenile Myelomonocytic Leukemia: A Nationwide Retrospective Study. | 血液・腫瘍内科 | Nao Yoshida, Motohiro Kato, Miharu Yabe, Daiichiro Hasegawa, Jiro Inagaki, Kiminori Terui, Yoshiyuki Takahashi, Yuko Cho, Masami Inoue, Yoshiko Hashii, Atsushi Sato, Koji Kato, Yoshiko Atsuta, Atsushi Manabe, Kenichi Koike, Seiji Kojima, Kenichiro Wtanabe | 43nd | 43nd Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation | Marseille | 2017.3.26-29 |
| JACLS ALL02研究におけるETV6-RUNX1症例の治療成績 Excellent outcome of ETV6-RUNX1 positive ALL treated with JACLS ALL02 protocol | 血液・腫瘍内科 | 宇佐美郁哉、今村俊彦、高橋良博、末延聡一、長谷川大一郎、齋藤明子、堀浩樹、原純一、堀部敏三、佐藤篤 | 第120回 | 日本小児科学会 | 東京都 | 2017.4.14-16 |
| 急性リンパ性白血病に対する強化療法中にcytomegalovirus網膜炎を来した一乳児例 CMV retinitis during consolidation for infantile acute lymphoblastic leukemia | 血液・腫瘍内科 | 岸本健治、長谷川大一郎、齋藤敦郎、植村優、二野菜々子、横井健人、太原鉄平、田村彰広、神前愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之 | 第120回 | 日本小児科学会 | 東京都 | 2017.4.14-16 |
| 早期の一次定期補充療法導入後に頭蓋内出血を発症した重症血友病A乳児例 | 血液・腫瘍内科 | 太原鉄平、石田敏章、植村優、二野菜々子、横井健人、田村彰広、神前愛子、齋藤敦郎、岸本健治、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之 | 第1回 | バクスアルタ研究会 | 兵庫県加古川市 | 2017.5.18 |
| 小児がん患者に対する粒子線治療の試み | 血液・腫瘍内科 | 齋藤敦郎、中村さやか、藤原隆弘、太原鉄平、田村彰広、山本暢之、神前愛子、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、河村淳史、鈴木毅、副島俊典、出水祐介、沖本智昭、小阪嘉之 | | 小児科学会兵庫県地方会 | 兵庫県神戸市 | 2017.5.20 |
| 当科における混合性白血病の治療経験 | 血液・腫瘍内科 | 中村さやか、岸本健治、太原鉄平、藤原隆弘、山本暢之、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之 | | 兵庫県立こども病院—神戸中央市民病院血液内科合同カンファレンス | 兵庫県神戸市 | 2017.5.25 |
| 拠点病院としてのこども病院の役割と陽子線治療への期待について | 血液・腫瘍内科 | 長谷川大一郎 | | がんの子供を守る会講演会 | 兵庫県神戸市 | 2017.5.27 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|---------|--|------|--|----------|--------------|
| Risk-adjusted therapy of acute lymphoblastic leukemia can improve survival: Results of Japan Association Childhood Leukemia Study Group (JACLS) Protocol ALL-02 | 血液・腫瘍内科 | Daiichiro Hasegawa, Toshihiko Imamura, Keiko Yumura-Yagi, Yoshihiro Takahashi, Ikuya Usami, Soichi Suenobu, Shinichiro Nishimura, Nobuhiro Suzuki, Yoshiko Hashii, Takao Deguchi, Akiko Saito, Koji Kato, Yoshiyuki Kosaka, Yoshihiro Komada, Akihiro Iguchi, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Atsushi Sato, Junichi Hara, and Keizo Horibe | | 日本小児白血病研究会 (JACLS)総会 | 大阪府 | 2017.5.27 |
| 小児リンパ系腫瘍に対するTHP-ADR(pinorubin)の役割～JACLS ALL-97研究を中心に～ | 血液・腫瘍内科 | 石田敏章 | | 兵庫県小児血液腫瘍疾患症例検討会 | 神戸市 | 2017.6.2 |
| 当科における網膜芽腫の治療経験 | 血液・腫瘍内科 | 齋藤敦郎 | | 兵庫県小児血液腫瘍疾患症例検討会 | 神戸市 | 2017.6.2 |
| Immature teratoma with Dicer1 mutations: A case report | 血液・腫瘍内科 | Yoshiko Nakano, Daiichiro Hasegawa, Suguru Uemura, Akihiro Tamura, Atsuro Saito, Atsufumi Kawamura, Junko Hirato, Yoshiyuki Kosaka, Koichi Ichimura | | 4th Pediatric Neuro-Oncology Basic and Translational Research Conference | New York | 2017.6.15-16 |
| EBV感染前に骨髄移植を行い良好な経過を得たX連鎖性リンパ増殖症1型(XLP1)の1例 | 血液・腫瘍内科 | 田村彰広、中村さやか、藤原隆弘、太原鉄平、山本暢之、齋藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之、金兼弘和 | | 第7回 関西免疫不全研究会 | 大阪 | 2017.7.15 |
| Expression of CD134 (OX40) on T cells is a trigger of human herpesvirus 6B reactivation and replication after hematopoietic cell transplantation. | 血液・腫瘍内科 | Satoshi Nagamata, Miwako Nagasaka, Akiko Kawabata, Kenji Kishimoto, Daiichiro Hasegawa, Ken Mori, Noriyuki Nishimura, Hideto Yamada, Hiroshi Matuoka, Yasuko Mori | | The 10th International Conference on HHV-6 & 7 | Berlin | 2017.7.24-26 |
| 血友病B Leyden変異を認めた兄弟例 | 血液・腫瘍内科 | 田村彰広、藤原隆弘、中村さやか、太原鉄平、山本暢之、齋藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、篠澤(野坂)圭子、天野景裕、福武勝幸、小阪嘉之 | | 西日本血友病B研究会 | 福岡 | 2017.8.19 |
| 化学療法抵抗性上縦隔原発神経芽腫の治療戦略 | 血液・腫瘍内科 | 山本暢之 | | 小児がんカンファレンス | 神戸 | 2017.8.5 |
| 当科における深在性真菌症発症予測の試み | 血液・腫瘍内科 | 山本暢之、長谷川大一郎 | 第10回 | 近畿若手小児血液クラブ | 大阪 | 2017.9.1 |
| 転移性Ewing肉腫の2例 | 血液・腫瘍内科 | 藤原隆弘、中村さやか、太原鉄平、山本暢之、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之 | 第10回 | 近畿若手小児血液クラブ | 大阪 | 2017.9.1 |
| 小児がん患者における妊孕性温存のための卵巣組織凍結保存の試み | 血液・腫瘍内科 | 中村さやか、岸本健治、藤原隆弘、太原鉄平、山本暢之、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、脇本裕、柴原浩章、小阪嘉之 | | 兵庫県立病院学会 | 神戸 | 2017.9.9 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|---------|--|------|---|-------|---------------|
| Involvement of DENND2A and Rab9b in the progression of neuroblastoma | 血液・腫瘍内科 | Nobuyuki YAMAMOTO and Noriyuki NISHIMIRA | 第3回 | The 3rd Asia-Pacific International Symposium of Neuroblastoma | 東京 | 2017.10.6 |
| 小児骨髄異形成症候群に対する臍帯血移植の成績 Outcomes after Cord Blood Transplantation for Myelodysplastic Syndromes in children. | 血液・腫瘍内科 | Nao Yoshida, Kenichiro Watanabe, Asahito Hama, Shohei Yamamoto, Hiromasa Yabe, Jiro Inagaki, Masami Inoue, Yoshiyuki Takahashi, Koji Kato, Yoshiko Hashii, Atsushi Sato, Yoshiko Atsuta, Daiichiro Hasegawa | 第79回 | 日本血液学会総会 | 東京 | 2017.10.20-22 |
| JACLS ALL02研究における急性分類不能型白血病の遺伝子異常 Genetic Alterations in Acute Unclassified Leukemia – Result of JACLS-ALL02 study | 血液・腫瘍内科 | Akira Shimada, Daiichiro Hasegawa, Toshihiko Imamura, Makoto Kaneda, Keiko Yagi, Yoshihiro Takahashi, Ikuya Usami, So-ichi Suenobu, Nishimura Shinichiro, Nobuhiro Suzuki, Yoshiko Hashii, Takao Deguchi, Akiko M. Saito, Koji Kato, Yoshiyuki Kosaka, Masahiro Hirayam, Akihiro Iguchi, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Atsushi Sato, Tooru Kudo, Tatsutoshi Nakahata, Megumi Oda, Hiroo Ueno, Masashi Sanada, Junichi Hara, Keizo Horibe | 第79回 | 日本血液学会総会 | 東京 | 2017.10.20-22 |
| 血友病B Leyden 変異と診断された日本人兄弟例 Hemophilia B Leyden that was diagnosed in Japanese brothers patients | 血液・腫瘍内科 | Akihiro Tamura, Takahiro Fujiwara, Sayaka Nakamura, Teppei Tahara, Nobuyuki Yamamoto, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Kenji Kishimoto, Toshiaki Ishida, Daiichiro Hasegawa, Keiko Shinozawa, Kagehiro Amano, Katsuyuki Fukutake, Yoshiyuki Kosaka | 第79回 | 日本血液学会総会 | 東京 | 2017.10.20-22 |
| Pediatric acute lymphoblastic leukemia with ETV6-ABL1 showing sensitivity to tyrosine kinase inhibitors in vitro | 血液・腫瘍内科 | Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Akihiro Tamura, Atsuro Saito, Nanako Nino, Takehito Yokoi, Teppei Tahara, Aiko Kozaki, Kenji Kishimoto, Toshiaki Ishida, Keiichiro Kawasaki, Kimiyoshi Sakaguchi, Takeshi Mori, Noriyuki Nishimura, Yoshiyuki Kosaka. | 第79回 | 日本血液学会総会 | 東京 | 2017.10.20-22 |
| Tacrolimus concentration early posttransplant in children received unrelated BMT | 血液・腫瘍内科 | Kenji Kishimoto, Daiichiro Hasegawa, Takehito Yokoi, Suguru Uemura, Nanako Nino, Teppei Tahara, Akihiro Tamura, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Toshiaki Ishida, Keiichiro Kawasaki, Yoshiyuki Kosaka | 第79回 | 日本血液学会総会 | 東京 | 2017.10.20-22 |
| 当院における血友病診療—超早期定期補充療法に向けて | 血液・腫瘍内科 | 田村彰広 | | ヘモフィリア小児診療ネットワーク | 神戸 | 2017.11.4 |
| 移植後 TMA (transplant-associated thrombotic microangiopathy) の病態と治療 | 血液・腫瘍内科 | 齋藤敦郎 | 第59回 | 小児血液・がん学会学術集会 | 松山 | 2017.11.9-11 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|---------|---|------|--|-----------|--------------|
| 小児急性リンパ性白血病におけるWT1の臨床性能試験 | 血液・腫瘍内科 | 石田敏章、小阪嘉之 | 第59回 | 小児血液・がん学会学術集会 | 松山 | 2017.11.9-11 |
| 小児がん患者の保護者が持つ口腔衛生管理の関心度と口腔有害事象発症の関連性について The relationship between parents' interest level in oral health management and oral adverse events of pediatric cancer patients. | 血液・腫瘍内科 | Miki Iwase, Miwa Matsuyama, Yumiko Sone, Hitomi Kimura, Daiichiro Hasegawa, and Yoshiyuki Kosaka | 第59回 | 小児血液・がん学会学術集会 | 松山 | 2017.11.9-11 |
| Pathological fracture in children with nonosteogenic malignant tumor | 血液・腫瘍内科 | Sayaka Nakamura, Kenji Kishimoto, Takahiro Fujiwara, Teppei Tahara Nobuyuki Yamamoto, Akihiro Tamura, Aiko Kozaki, Atsuro Saito Toshiaki Ishida, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka | 第59回 | 小児血液・がん学会学術集会 | 松山 | 2017.11.9-11 |
| 本邦における小児がん患者に対する口腔ケアの現状—JCCG施設調査より— Current situation of oral health care for children with cancer in Japan: report based on the survey of JCCG | 血液・腫瘍内科 | 山本暢之 | 第59回 | 小児血液・がん学会学術集会 | 松山 | 2017.11.9-11 |
| 当院における網膜芽腫の治療成績と予後因子 Treatment results and prognostic factors of retinoblastoma: a single institution experience | 血液・腫瘍内科 | 藤原隆弘、齋藤敦郎、中村さやか、太原鉄平、山本暢之、田村彰広、神前愛子、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之 | 第59回 | 小児血液・がん学会学術集会 | 松山 | 2017.11.9-11 |
| 当院で治療した重症血友病A患者における第VIII因子製剤に対するインヒビターの出現状況 Epidemiology of factor VIII inhibitor development in patients with severe hemophilia A treated in our institution | 血液・腫瘍内科 | Teppei Tahara, Toshiaki Ishida, Sayaka Nakamura, Takahiro Fujiwara, Akihiro Tamura, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Kenji Kishimoto, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka | 第59回 | 小児血液・がん学会学術集会 | 松山 | 2017.11.9-11 |
| 再発 Ph-like ALL に対する HLA 半合致父より行った同種末梢血幹細胞移植の一例 | 血液・腫瘍内科 | 山本暢之、田村彰広、小阪嘉之 | 第4回 | 兵庫県小児がん治療講演会 | 神戸 | 2017.11.24 |
| 「小児患者における深在性真菌感染症」 —思春期・若年成人(AYA世代)の特徴を含めて— | 血液・腫瘍内科 | 岸本健治 | 第4回 | 造血管腫瘍と感染セミナー | 神戸 | 2017.12.1 |
| The relationship between parents' attainment level after comprehensive educational program of oral health management and oral adverse events of pediatric cancer patients. | 血液・腫瘍内科 | Miki Iwase, Miwa Matsuyama, Yumiko Sone, Hitomi Kimura, Daiichiro Hasegawa, and Yoshiyuki Kosaka | 第4回 | The 4th ASEAN plus and TOKUSHIMA Joint International Conference on Challenging Innovation in Oral Science. | Indonesia | 2017.12.1-3 |
| Low Incidence of osteonecrosis in childhood acute lymphoblastic leukemia treated with ALL-97 and ALL-02 study of Japan Association of Childhood Leukemia Study Group | 血液・腫瘍内科 | Kenichi Sakamoto, Toshihiko Imamura, Kentaro Kihira, Kouji Suzuki, Hisashi Ishida, Hiromi Morita, Miyako Kanno, Takeshi Mori, Hidefumi Hiramatsu, Kousaku Matsubara, Kiminori Terui, Yoshihiro Takahashi, So-ichi Suenobu, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka, Koji Kato, Akiko Moriya-Saito, Atsushi Sato, Hirohide Kawasaki, Keiko-Yumura-Yagi, Junichi Hara, Hiroki Hori, Keizo Horibe | 第57回 | The 57th Annual Meeting of Maerican Society of Hematology | Atlanta | 2017.12.9-12 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|---------|---|------|---|---------|--------------|
| The outcome of childhood B-cell precursor ALL with BTV6-RUNX1 treated with the Japan Association of Childhood Leukemia Study (JACLS) ALL-02 trial. | 血液・腫瘍内科 | Ikuya Usami, Toshihiko Imamura, Yoshihiro Takahashi, So-ichi Suenobu, Daiichiro Hasegawa, Yoshiko Hashii, Takao Deguchi, Tsukasa Hori, Akira Shimada, Koji Kato, Etsuro Ito, Akiko Moriya-Saito, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Keiko Yumura-Yagi, Junichi Hara, Atsushi Sato, Keizo Horibe | 第57回 | The 57th Annual Meeting of Maerican Society of Hematology | Atlanta | 2017.12.9-12 |
| Acute unclassified leukemia in childhood: molecular and clinical characterization – Result of JACLS-ALL02 study | 血液・腫瘍内科 | Akira Shimada, Daiichiro Hasegawa, Toshihiko Imamura, Makoto Kaneda, Keiko Yagi, Yoshihiro Takahashi, Ikuya Usami, So-ichi Suenobu, Nishimura Shinichiro, Nobuhiro Suzuki, Yoshiko Hashii, Takao Deguchi, Akiko M. Saito, Koji Kato, Yoshiyuki Kosaka, Masahiro Hirayama, Akihiro Iguchi, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Atsushi Sato, Tooru Kudo, Tatsutoshi Nakahata, Megumi Oda, Hiroo Ueno, Masashi Sanada, Junichi Hara, Seishi Ogawa, Keizo Horibe | 第57回 | The 57th Annual Meeting of Maerican Society of Hematology | Atlanta | 2017.12.9-12 |
| Effectiveness of Supportive Care Measurements to Reduce Infections During Induction for Children with Acute Myeloid Leukemia: A Report From the Japanese Pediatric Leukemia.Lymphoma Study Group (JPLSG) | 血液・腫瘍内科 | Daiichiro Hasegawa, Takako Miyamura, Kozo Nagai, Kazuko Kudo, Akio Tawa, Hirozumi Sano, Keitaro Fukushima, Shotaro Iwamoto, Akitoshi Kinoshita, Hiroyuki Takahashi, Kiminori Terui, Hideki Nakayama, Yuki Arakawa, Kentaro Nakashima, Shohei Yamamoto, Akiko Saito, Keizo Horibe, Daisuke Tomizawa, Takashi Taga, and Souichi Adachi | 第57回 | The 57th Annual Meeting of Maerican Society of Hematology | Atlanta | 2017.12.9-12 |
| Clinical Significance of Natural Killer Cell-Mediated Alloreactivity in Unrelated Cord Blood Transplantation for Children with Acute Leukemia: A Japanese National Registry Study | 血液・腫瘍内科 | Hirotohi Sakaguchi, Nobuyoshi Arima, Atsushi Narita, Sae Ishimaru, Daisuke Tomizawa, Daiichiro Hasegawa, Motohiro Kato, Hiroyuki Ishida, Junya Kanda, Masami Inoue, Nao Yoshida, Katsuyoshi Koh, Jiro Inagaki, Atsushi Ogawa, Tsukasa Hori, Yoshiko Hashii, Koji Kato, and Yoshiko Atsuta | 第57回 | The 57th Annual Meeting of Maerican Society of Hematology | Atlanta | 2017.12.9-12 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|---------|--|------|---|---------|--------------|
| Clinical Effect of Genetic Alterations in Pediatric Patients with B-Progenitor Acute Lymphoblastic Leukemia | 血液・腫瘍内科 | Hiroo Ueno, Kenichi Yoshida, Yasuhiro Nannya, Yuka Iijima-Yamashita, Yusuke Shiozawa, Yuichi Shiraishi, Tomomi Ishida, Keisuke Kataoka, Tetsuichi Yoshizato, Hideki Makishima, Nobuyuki Kakiuchi, Masafumi Seki, Hiroko Tanaka, Kenichi Chiba, Takao Deguchi, Atsushi Sato, Yoshiko Hashii, Sadao Tokimasa, Junichi Hara, Yoshiyuki Kosaka, Koji Kato, Toshihiko Imamura, Satoru Miyano, Keizo Horibe, Seishi Ogawa, and Masashi Sanada. | 第57回 | The 57th Annual Meeting of American Society of Hematology | Atlanta | 2017.12.9-12 |
| RV-PA 導管狭窄に対するバルーン拡張中に緊急でステント留置を行ったHLHSの1例 | 循環器内科 | 亀井直哉、田中敏克、平海良美、上村和也、瓦野昌大、谷口由記、松岡道生、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第28回 | JPIC学会学術集会 | 東京 | 2017.1.26-28 |
| 当院における左心低形成症候群の肺動脈狭窄に対するバルーン血管形成術 | 循環器内科 | 谷口由記、田中敏克、平海良美、上村和也、瓦野昌大、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第28回 | JPIC学会学術集会 | 東京 | 2017.1.26-28 |
| Early stageにおける体肺側副動脈に対するコイル塞栓術は有用か？ | 循環器内科 | 松岡道生、田中敏克、谷口由記、平海良美、上村和也、瓦野昌大、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第28回 | JPIC学会学術集会 | 東京 | 2017.1.26-28 |
| 繰り返す肺静脈狭窄に対するdrug-coated balloonを用いたPTA | 循環器内科 | 田中敏克、谷口由記、平海良美、上村和也、瓦野昌大、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第28回 | JPIC学会学術集会 | 東京 | 2017.1.26-28 |
| 手術で離断した起始異常を伴う鎖骨下動脈からの体肺側副動脈に対し、上腕動脈アプローチでコイル塞栓術を施行したFontan candidateの2症例 | 循環器内科 | 瓦野昌大、田中敏克、上村和也、谷口由記、平海良美、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第31回 | 小児循環器学会・近畿中四国地方会 | 大阪 | 2017.3.5 |
| ホルター心電図のQTcの活用への試み；安静時・運動後・ホルター心電図のQTcの比較 | 循環器内科 | 小川禎治、上村和也、瓦野昌大、谷口由記、平海良美、松岡道生、亀井直哉、富永健太、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子 | 第53回 | 日本小児循環器学会学術集会 | 静岡 | 2017.7.7-9 |
| フォンタン術後遠隔期において、肺動脈の径は予後に影響するのか？ | 循環器内科 | 田中敏克、小川禎治、上村和也、瓦野昌大、谷口由記、平海良美、松岡道生、亀井直哉、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第53回 | 日本小児循環器学会学術集会 | 静岡 | 2017.7.7-9 |
| Scoring Balloonを用いた肺動脈狭窄に対するバルーン拡張術の一例 | 循環器内科 | 松岡道生、田中敏克、上村和也、瓦野昌大、谷口由記、平海良美、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第53回 | 日本小児循環器学会 | 静岡 | 2017.7.7-9 |
| 先天性心疾患術後にペースメーカー植え込みを要した症例の臨床像 | 循環器内科 | 谷口由記、田中敏克、上村和也、瓦野昌大、平海良美、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第53回 | 日本小児循環器学会 | 静岡 | 2017.7.7-9 |
| 遺伝子検査でTPM1遺伝子異常が指摘された胎児心筋症の兄弟例 | 循環器内科 | 平海良美、亀井直哉、谷口由記、上村和也、瓦野昌大、松岡道生、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子 | 第53回 | 日本小児循環器学会 | 静岡 | 2017.7.7-9 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|-------|---|-------|--|---------------|---------------|
| フォンタン型手術後の肺動脈径はフォンタン型手術後急性期の転帰に影響を与えるか | 循環器内科 | 上村和也、田中敏克、平海良美、亀井直哉、谷口由記、瓦野昌大、松岡道生、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第53回 | 日本小児循環器学会 | 静岡 | 2017.7.7-9 |
| 肺静脈還流異常を伴わないCHD症例に生じた肺静脈狭窄の検討 | 循環器内科 | 瓦野昌大、上村和也、田中敏克、平海良美、亀井直哉、谷口由記、松岡道生、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第53回 | 日本小児循環器学会 | 静岡 | 2017.7.7-9 |
| 咯血を来たしカテーテル治療を施行した症例の検討 | 循環器内科 | 富永健太、瓦野昌大、上村和也、平海良美、亀井直哉、谷口由記、松岡道生、小川禎治、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子 | 第53回 | 日本小児循環器学会 | 静岡 | 2017.7.7-9 |
| 成人施設への移行の現状と改めて問われる小児病院の役割 | 循環器内科 | 城戸佐知子、瓦野昌大、上村和也、平海良美、亀井直哉、谷口由記、松岡道生、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、田中敏克 | 第53回 | 日本小児循環器学会 | 静岡 | 2017.7.7-9 |
| The Group Program for Patients of Transitional Age | 循環器内科 | Sachiko Kido | 第7回 | The 7th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery | スペイン バルセロナ | 2017.7.19 |
| Drug-Coated Balloon Angioplasty for Pulmonary Vein Stenosis in Patients with Recurrent Pulmonary Vein Stenosis After Surgery: Initial Experience With a New Treatment Technique | 循環器内科 | Toshikatsu Tanaka | 第7回 | The 7th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery | スペイン バルセロナ | 2017.7.19 |
| Distribution of Maximum QTc of Holter Electrocardiogram in a Pediatric Population | 循環器内科 | 小川禎治、田中敏克、城戸佐知子 | 第64回 | 日本不整脈心電学会 | 横浜 | 2017.9.14-17 |
| 移行医療のための思春期教室 | 循環器内科 | 城戸佐知子 | 第65回 | 日本心臓病学会学術集会 | 大阪府 大阪市 | 2017.9.29 |
| 血漿交換により速やかに心収縮の改善を得た川崎病合併の重症心筋炎 | 循環器内科 | 三木康暢、瓦野昌大、亀井直哉、田中敏克、城戸佐知子、黒澤寛史、津田雅世 | 第37回 | 日本川崎病学会 | 東京 | 2017.10.27 |
| フォンタン型手術後患者の妊娠・出産・産後経過 | 循環器内科 | 城戸佐知子 | 第25回 | 小児集中治療ワークショップ | 東京都 | 2017.11.19 |
| QT延長症候群症例における、投薬によるQTcの短縮 | 循環器内科 | 小川禎治、上村和也、瓦野昌大、谷口由記、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、富永健太、田中敏克、城戸佐知子 | 第22回 | 日本小児心電学会 | 徳島 | 2017.11.24-25 |
| 先天性心疾患に対するカテーテルインターベンション | 循環器内科 | 田中敏克 | 第124回 | 日本循環器学会近畿地方会 小児・成人先天性心疾患セミナー | 大阪 | 2017.11.25 |
| おとなになっていく子どもたちへ「自立のためにお父さん・お母さんにできること」 | 循環器内科 | 城戸佐知子 | | 埼玉県心臓病の子どもを守る会・講演会 | 埼玉県 さいたま市 | 2017.11.25 |
| カテーテル治療の最新情報 | 循環器内科 | 田中敏克 | 第68回 | 神戸市難病連医療相談会 | 神戸 | 2017.12.17 |
| 腎移植後EBV関連平滑筋腫に対しエベロリムスを導入した1例 | 腎臓内科 | 神田杏子、白鳥孝俊、中川拓、吉田牧子、今留謙一、田中亮二郎 | 第50回 | 日本臨床腎移植学会 | 神戸 | 2017.2.15-17 |
| 腎移植後EBV関連平滑筋腫に対してエベロリムスを導入した1例 | 腎臓内科 | 田中亮二郎、白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、吉田牧子、今留謙一 | 第54回 | 近畿小児腎臓病研究会 | 神戸 | 2017.3.25 |
| 小児・青年に対するフェブキシostatの使用経験 | 腎臓内科 | 白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、田中亮二郎 | 第120回 | 日本小児科学会学術集会 | 東京 | 2017.4.14-16 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|------------|---|-------|-------------------|-------|--------------|
| 蜂刺傷後に慢性腎不全の急性増悪、腹膜透析導入に至った一例 | 腎臓内科 | 稲熊洋祐、白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、田中亮二郎 | 第271回 | 日本小児科学会 兵庫県地方会 | 神戸 | 2017.5.20 |
| 先天性腎尿路異常(CAKUT)早期発見のための尿中バイオマーカーの検討 | 腎臓内科 | 中川拓、稲熊洋祐、白鳥孝俊、神田杏子、田中亮二郎 | 第60回 | 日本腎臓学会学術総会 | 仙台 | 2017.5.26-28 |
| 小児IgA腎症における糸球体毛細管係蹄(cap)IgA沈着の臨床病理学的検討 | 腎臓内科 | 島友子、中西浩一、佐藤匡、浜武継、向山弘展、戸川寛子、貝藤裕史、野津寛大、田中亮二郎、飯島一誠、吉川徳茂 | 第60回 | 日本腎臓学会学術総会 | 仙台 | 2017.5.26-28 |
| 医師主導治験でリツキシマブの投与を行った小児期発症難治性ネフローゼ症候群患者の長期予後 | 腎臓内科 | 亀井宏一、石倉健司、佐古まゆみ、綾邦彦、田中亮二郎、野津寛大、貝藤裕史、中西浩一、大友義之、三浦健一郎、高橋昌里、森本哲司、久保田亘、伊藤秀一、飯島一誠 | 第60回 | 日本腎臓学会学術総会 | 仙台 | 2017.5.26-28 |
| 女性Dent病における遺伝子学的背景 | 腎臓内科 | 南川将吾、野津寛大、中西啓太、藤村順也、堀之内智子、山村智彦、忍頂寺毅史、島友子、中西浩一、服部益治、神田杏子、田中亮二郎、飯島一誠 | 第60回 | 日本腎臓学会学術総会 | 仙台 | 2017.5.26-28 |
| NGSターゲット遺伝子シーケンスパネルによるCAKUTおよびNPHの包括的原因遺伝子解析 | 腎臓内科 | 森貞直哉、庄野朱美、野津寛大、忍頂寺毅史、田中亮二郎、飯島一誠 | 第60回 | 日本腎臓学会学術総会 | 仙台 | 2017.5.26-28 |
| シクロスポリン中止後の再発に対するミゾリピンの効果についての検討 | 腎臓内科 | 神田杏子、稲熊洋祐、白鳥孝俊、中川拓、田中亮二郎 | 第60回 | 日本腎臓学会学術総会 | 仙台 | 2017.5.26-28 |
| 先天性腎尿路異常発症にはエピジェネティクスが関与する | 腎臓内科 | 田中亮二郎、稲熊洋祐、白鳥孝俊、中川拓、神田杏子 | 第52回 | 日本小児腎臓病学会学術集会 | 東京 | 2017.6.1-3 |
| 造血幹細胞移植後の急性腎傷害の発症率、そのリスク因子、および長期的な腎予後の検討 | 腎臓内科 | 稲熊洋祐、白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、齋藤敦郎、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之、田中亮二郎 | 第52回 | 日本小児腎臓病学会学術集会 | 東京 | 2017.6.1-3 |
| Lowe症候群およびDent子生物学的検討 | 腎臓内科 | 南川将吾、野津寛大、中西啓太、藤村順也、山村智彦、貝藤裕史、前川謙平、依藤亨、原田真理、五十嵐徹、平本龍吾、田中亮二郎、松山健、長谷幸治、沖榮真、飯島一誠 | 第52回 | 日本小児腎臓病学会学術集会 | 東京 | 2017.6.1-3 |
| シクロスポリン中止後の再発に対するミゾリピンの効果についての検討 | 腎臓内科 | 神田杏子、稲熊洋祐、白鳥孝俊、中川拓、田中亮二郎 | 第52回 | 日本小児腎臓病学会学術集会 | 東京 | 2017.6.1-3 |
| NGSターゲット遺伝子シーケンスパネルによるCAKUTおよびNPHの包括的原因遺伝子解析 | 腎臓内科 | 森貞直哉、庄野朱美、野津寛大、忍頂寺毅史、叶明娟、井藤奈央子、神田祥一郎、亀井宏一、石倉健司、伊藤秀一、山本勝輔、塚口裕康、里村憲一、田中亮二郎、飯島一誠 | 第52回 | 日本小児腎臓病学会学術集会 | 東京 | 2017.6.1-3 |
| 3歳時に蛋白尿を契機に発見された multicentric carpotarsal osteolysis syndrome の1例 | 腎臓内科 | 白鳥孝俊、稲熊洋祐、中川拓、神田杏子、森貞直哉、飯島一誠、田中亮二郎 | 第52回 | 日本小児腎臓病学会学術集会 | 東京 | 2017.6.1-3 |
| Non-adherenceにより早期に末期腎不全に至った non-neurogenic neurogenic bladder と IgA腎症合併女児の一例 | 腎臓内科 | 稲熊洋祐、中川拓、神田杏子、田中亮二郎 | 第31回 | 日本小児PD・HD研究会 | 札幌 | 2017.11.2,3 |
| 開胸術後16年を経て発症した胸骨骨髓炎の1例(ポスター) | 感染症科 | 水野伸介、伊藤雄介、笠井正志 | 第120回 | 小児科学会 | 東京都 | 2017.4.16 |
| コクサッキーウイルスB5による敗血症性ショックで救命しえなかった一例(ポスター) | 感染症科、集中治療科 | 永尾宏之、他、笠井正志、他、黒澤寛史 | 第120回 | 小児科学会 | 東京都 | 2017.4.16 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|-------------------|--|------|---|-------------|-----------------|
| ケースディスカッション「自分の名前が言えなくなった8歳児」(教育講演) | 感染症科 | 笠井正志 | 第24回 | 臨床微生物学会教育セミナー | 神戸市 | 2017.8.20 |
| 感染の全てにproactiveに対応するチーム(KPICチーム)で医療の質を上げる(口演) | 感染症科、KPIC | 笠井正志 | 第15回 | 県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.9 |
| こどもの胃腸炎のみかた(教育講演) | 感染症科 | 笠井正志 | 第21回 | 腸管出血性大腸菌研究会 | 鹿児島市 | 2017.11.17 |
| 集中治療室における抗菌薬適正使用(シンポジウム) | 感染症科 | 伊藤雄介 | 第91回 | 感染症学会 | 東京都 | 2017.4.8 |
| 発熱嘔吐発疹を主訴に来院した4歳 | 西神戸医療センター 感染症科 | 川崎悠、伊藤雄介 | 第49回 | IDATEN ケースカンファレンス | 東京都 | 2017.6.3 |
| 集中治療室における抗菌薬適正使用 | 感染症科 | 伊藤雄介 | 第1回 | 集中治療医学会関西支部 | 神戸市 | 2017.7.8 |
| 小児VAEサーベイランス VOYAGE study 中間報告 | 感染症科 | 伊藤雄介 | 第39回 | 呼吸療法医学会 | 東京都 | 2017.7.15 |
| 小児VAEサーベイランス VOYAGE study | 感染症科 | 伊藤雄介 | 第45回 | 集中治療医学会 | 千葉県 | 2018.2.21 |
| 集中治療室における感染対策と抗菌薬適正使用(パネルディスカッション) | 感染症科 | 伊藤雄介 | 第45回 | 集中治療医学会 | 千葉県 | 2018.2.21 |
| Comprehensive analysis using target sequencing panel for congenital anomalies of the kidney and urinary tract and nephronophthisis in Japan | 臨床遺伝科 | Naoya Morisada, Akemi Shono, Kandai Nozu, Ryojiro Tanaka, Kazumoto Iijima | | American society of Human Genetics 2017 | Orland | 2017.10.17-21 |
| Two patients with PNKP mutations presenting microcephaly, seizure, and oculomotor apraxia. | 臨床遺伝科 | Mariko Taniguchi-Ikeda, Naoya Morisada, Hideto Inagaki, Nobuhiko Okamoto, Tatsushi Toda, Ichiro Morioka, Hiroki Kurahashi, Kazumoto Iijima | | American society of Human Genetics 2017 | Orland | 2017.10.17-21 |
| Clinical Diagnosis of Senior Loken Syndrome in a Patient with SDCCAG8 Mutation Genetically Diagnosed as Having Bardet-Biedle Syndrome | 臨床遺伝科 | Yuko Fujii, Hiroshi Tamai, Akira Ashida, Hideki Matsumura, Akihiko Shirasu, Satoshi Yamazaki, Hyogo Nakakura, Naoya Morisada, Kazumoto Iijima, Motoshi Hattori | | Kidney Week (American Society of Nephrology) 2017 | New Orleans | 2017.10.31-11.5 |
| NPH・MCKDの遺伝子診断と病型 | 臨床遺伝科 | 森貞直哉、野津寛大、飯島一誠 | 第60回 | 日本腎臓学会学術総会 | 仙台 | 2017.5.26-28 |
| NGSターゲット遺伝子シーケンスパネルによるCAKUTおよびNPHの包括的原因遺伝子解析 | 臨床遺伝科 | 森貞直哉、庄野朱美、野津寛大、忍頂寺毅史、田中亮二郎、飯島一誠 | 第60回 | 日本腎臓学会学術総会 | 仙台 | 2017.5.26-28 |
| EYA1遺伝子欠損による鰓弓耳腎症候群の1例 | 臨床遺伝科 | 岩重洋平、伊東悠貴、嘉藤光歩、大棟浩平、杉谷盛太、前沢浩司、東義人、森貞直哉、野津寛大、飯島一誠 | 第47回 | 日本腎臓学会西部学術大会 | 岡山 | 2017.10.13-14 |
| 腎病理所見にて髓質嚢胞腎(MCKD)の特徴を認めた2例 | 臨床遺伝科 | 岡田絵里、川口武彦、森維久郎、山田亜純、上原正樹、岡島真里、山川貴史、首村守俊、北村博司、森貞直哉、野津寛大、今澤俊之 | 第47回 | 日本腎臓学会東部学術大会 | 横浜 | 2017.11.28-29 |
| アレイ CGH 解析により20番染色体長腕に微細欠失を認めた知的障害のある1女児例 | 臨床遺伝科 | 花房宏昭、森貞直哉、石田悠介、坂田亮介、森田圭一、山本俊至、岡本伸彦、飯島一誠 | 第30回 | 近畿小児科学会 | 大阪 | 2017.3.12 |
| 3歳時に蛋白尿を契機に発見された multicentric carpotarsal osteolysis syndrome の1例 | 臨床遺伝科 | 白鳥孝俊、稲熊洋祐、中川 拓、神田杏子、森貞直哉、飯島一誠、田中亮二郎 | 第52回 | 日本小児腎臓病学会学術集会 | 東京 | 2017.6.1-3 |
| OFD1ヘミ接合性ミスセンス変異を認めたネフロン癆関連シリオパチーの1男児例 | 臨床遺伝科 | 清水順也、森貞直哉、飯島一誠、神農陽子、城 謙輔、竹村 司、久保俊英、塚原宏一 | 第52回 | 日本小児腎臓病学会学術集会 | 東京 | 2017.6.1-3 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|-------|---|-------|-------------------|-------|---------------|
| 海綿状血管腫を合併した鰓弓耳腎(Branchio-oto-renal)症候群の1例 | 臨床遺伝科 | 岩城拓磨、近藤健夫、小西行彦、福家典子、郡司朗子、岡田仁、日下隆、若林蒼幸、森貞直哉、飯島一誠 | 第52回 | 日本小児腎臓病学会学術集会 | 東京 | 2017.6.1-3 |
| NGSターゲット遺伝子シーケンスパネルによるCAKUTおよびNPHの包括的原因遺伝子解析 | 臨床遺伝科 | 森貞直哉、庄野朱美、野津寛大、忍頂寺毅史、叶明娟、井藤奈央子、神田祥一郎、亀井宏一、石倉健司、伊藤秀一、山本勝輔、塚口裕康、里村憲一、田中亮二郎、飯島一誠 | 第52回 | 日本小児腎臓病学会学術集会 | 東京 | 2017.6.1-3 |
| 家族内検索が有用であった腎コロボーマ症候群の一家系 | 臨床遺伝科 | 溝端理恵、大塚泰史、陣内久美子、大串榮彦、岡政史、佐藤忠司、青木茂久、森貞直哉、叶明娟、飯島一誠、松尾宗明 | 第52回 | 日本小児腎臓病学会学術集会 | 東京 | 2017.6.1-3 |
| 出生前に常染色体劣性多発性嚢胞腎と画像診断され遺伝子診断を行った2症例 | 臨床遺伝科 | 金井麻子、武藤はる香、林周作、金川武司、岡本陽子、石井桂介、光田信明、岡本伸彦、森貞直哉、飯島一誠 | 第41回 | 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 | 東大阪 | 2017.6.23-25 |
| 未診断疾患における網羅的ゲノム解析時代の遺伝カウンセリング 小児CKD(慢性腎臓病)の原因遺伝子解析と遺伝カウンセリング | 臨床遺伝科 | 森貞直哉、野津寛大、飯島一誠 | 第41回 | 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 | 東大阪 | 2017.6.23-25 |
| 原因遺伝子が同定された稀少ネフロン癆関連シリオパチー症例の検討 | 臨床遺伝科 | 森貞直哉、叶明娟、庄野朱美、野津寛大、飯島一誠 | 第62回 | 日本人類遺伝学会 | 神戸 | 2017.11.15-18 |
| 小頭症に関連するPNKP遺伝子における多彩な臨床所見 | 臨床遺伝科 | 池田真理子、森貞直哉、稲垣秀人、佐竹涉、小林千浩、岡本伸彦、戸田達史、森岡一朗、倉橋浩樹、飯島一誠 | 第62回 | 日本人類遺伝学会 | 神戸 | 2017.11.15-18 |
| 13q部分欠失症候群の臨床症状と欠失部位についての検討 | 臨床遺伝科 | 前山花織、森貞直哉、永井正志、榊原菜々、高木康子、西村範行、吉岡三恵子、飯島一誠 | 第62回 | 日本人類遺伝学会 | 神戸 | 2017.11.15-18 |
| アレイ CGH が診断に有用であった希少な染色体微細欠失症候群の3例 | 臨床遺伝科 | 花房宏昭、森貞直哉、石田悠介、城戸佐知子、田中亮二郎5、小寺澤敏子、池田真理子、飯島一誠 | 第62回 | 日本人類遺伝学会 | 神戸 | 2017.11.15-18 |
| 兵庫県立こども病院における臨床遺伝科の役割～ゲノム医療を臨床に役立てるために～ | 臨床遺伝科 | 森貞直哉、池田真理子、野津寛大、飯島一誠 | 第15回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸 | 2017.9.9 |
| OFD1ヘミ接合性変異を認めたネフロン癆関連シリオパチーの1男児例 | 臨床遺伝科 | 森貞直哉、清水順也、庄野朱美、野津寛大、飯島一誠 | 第271回 | 日本小児科学会兵庫県地方会 | 神戸 | 2017.5.20 |
| 声門下腔狭窄症に対するTチューブを用いた喉頭気管形成術後の誤嚥 | 小児外科 | 森田圭一、前田貢作、山木聡史 | 第32回 | 日本静脈経腸栄養学会 | 岡山市 | 2017.2.23 |
| Gastrojejunostomy tubeが原因となった上部消化管出血の2例 | 小児外科 | 山木聡史、森田圭一、鳥井隆志、前田貢作 | 第32回 | 日本静脈経腸栄養学会 | 岡山市 | 2017.2.24 |
| 胆道閉鎖症術後長期フォロー例における門脈圧亢進症、脾動脈瘤に対してコイル塞栓術を施行した1例 | 小児外科 | 山木聡史、横井暁子、中尾真、福澤宏明、大片祐一、久松千恵子、森田圭一、三浦紫津、三島泰彦、矢部清晃、関根沙知、杉ノ下与志樹、前田貢作 | 第30回 | 日本小児脾臓研究会 | 枚方市 | 2017.3.11 |
| 十二指腸が2ヶ所で閉鎖、どう手術する？ | 小児外科 | 三浦紫津、横井暁子、矢部清晃、関根沙知、三島泰彦、山木聡史、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、福澤宏明、中尾真、前田貢作 | 第77回 | 小児外科わからん会 | 大阪市 | 2017.3.18 |
| 小児気道狭窄症の手術 | 小児外科 | 前田貢作 | 第34回 | 日本呼吸器外科学会総会 | 福岡市 | 2017.5.19 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|------|---|------|-------------------|-------|------------|
| 小児喉頭・声門下・気管狭窄の診断と治療 小児喉頭・声門下・気管狭窄症の診断と管理(小児外科から) | 小児外科 | 前田貢作 | 第12回 | 小児耳鼻咽喉科学会 | 宇都宮市 | 2017.6.3 |
| 上気道閉塞をきたす救急疾患に対する治療 上気道閉塞をきたす咽喉頭の腫瘍性病変に対する治療戦略 | 小児外科 | 矢部清晃、前田貢作、福澤宏明、久松千恵子、關根沙知 | 第31回 | 日本小児救急医学会 | 東京都 | 2017.6.24 |
| 手術不要であった ring-sling complex の10歳女児例 | 小児外科 | 福田啓伸、吉原重美、宮本学、安藤裕輔、加藤正也、中山元子、山崎弦、坪井龍生、前田貢作、有阪治 | 第50回 | 日本小児科学会 栃木県地方会 | 栃木県 | 2017.7.1 |
| 当科における気管切開術後の気管肉芽に対する管理 | 小児外科 | 磯野香織、梶原啓資、矢部清晃、河原仁守、鮫島由友、三浦紫津、森田圭一、大片祐一、福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第44回 | 日本小児内視鏡研究会 | 東京都 | 2017.7.9 |
| 一部に粘液成分を有する漿液性卵巣嚢腫の2例 | 小児外科 | 梶原啓資、横井暁子、矢部清晃、鮫島由友、河原仁守、磯野香織、三浦紫津、森田圭一、福澤宏明、中尾真、前田貢作 | 第53回 | 日本小児外科学会 近畿地方会 | 京都市 | 2017.8.26 |
| 気管支炎を契機に発見された後縦隔 foregut cyst の1例 | 小児外科 | 矢部清晃、前田貢作、横井暁子、中尾真、福澤宏明、森田圭一、三浦紫津、磯野香織、河原仁守、鮫島由友、梶原啓資、西島栄治 | 第53回 | 日本小児外科学会 近畿地方会 | 京都市 | 2017.8.26 |
| 上行結腸に発生した血管周囲類上皮細胞腫瘍 perivascular epithelioid cell tumor(PEComa)の1例 | 小児外科 | 鮫島由友、森田圭一、梶原啓資、矢部清晃、河原仁守、磯野香織、三浦紫津、福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田貢作、赤坂好宣、吉田牧子 | 第53回 | 日本小児外科学会 近畿地方会 | 京都市 | 2017.8.26 |
| 先天性胆道拡張症術後の長期合併症の検討 トランジションをふまえて | 小児外科 | 梶原啓資、福澤宏明、矢部清晃、鮫島由友、河原仁守、磯野香織、三浦紫津、森田圭一、中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第40回 | 日本脾・胆管合流異常研究会 | 福岡市 | 2017.9.9 |
| 左肺上葉の透過性亢進領域、先天性は後天性か? 切除か温存か? | 小児外科 | 三浦紫津、横井暁子、梶原啓資、矢部清晃、鮫島由友、河原仁守、磯野香織、森田圭一、福澤宏明、中尾真、前田貢作 | 第78回 | 小児外科わからん会 | 大阪市 | 2017.9.16 |
| 卒後教育セミナー:呼吸器系先天性疾患 | 小児外科 | 前田貢作 | 第70回 | 日本胸部外科学会 | 札幌市 | 2017.9.26 |
| Surgical Management of Bronchopulmonary airway Malformation in Children | 小児外科 | 前田貢作 | 第70回 | 日本胸部外科学会 | 札幌市 | 2017.9.28 |
| アラジール症候群の康予後予測の検討 | 小児外科 | 矢部清晃、梶原啓資、河原仁守、磯野香織、鮫島由友、三浦紫津、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第44回 | 日本胆道閉鎖症研究会 | 福岡市 | 2017.10.22 |
| 頸部から胸腔にかけて存在する縦隔腫瘍に対するアプローチ法 -Trap-door開胸- | 小児外科 | 梶原啓資、福澤宏明、矢部清晃、鮫島由友、河原仁守、磯野香織、三浦紫津、森田圭一、中尾真、横井暁子、前田貢作、松久弘典 | 第37回 | 日本小児内視鏡外科・手術手技研究会 | 川崎市 | 2017.10.26 |
| C型食道閉鎖症を合併した気管無形成の1例 | 小児外科 | 三浦紫津、前田貢作、梶原啓資、矢部清晃、鮫島由友、河原仁守、磯野香織、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井暁子、向井亘、今治玲助、秋山卓士 | 第28回 | 日本小児呼吸器外科研究会 | 川崎市 | 2017.10.27 |
| 心奇形・肺奇形をともなう先天性気管狭窄に対する治療戦略 | 小児外科 | 前田貢作、梶原啓資、矢部清晃、鮫島由友、河原仁守、磯野香織、三浦紫津、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井暁子 | 第28回 | 日本小児呼吸器外科研究会 | 川崎市 | 2017.10.27 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|------|---|------|-----------------------|-------|---------------|
| 気管支炎を契機に発見された後縦隔 foregut cyst の1例 | 小児外科 | 矢部清晃、梶原啓資、河原仁守、磯野香織、 鮫島由友、三浦紫津、森田圭一、福澤宏明、 中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第28回 | 日本小児呼吸器外科 研究会 | 川崎市 | 2017.10.27 |
| 胃 GIST 術後 9 年目に肺軟骨腫切除を施行した不完全 型 Carney's triad の1例 | 小児外科 | 鮫島由友、福澤宏明、梶原啓資、河原仁守、 磯野香織、三浦紫津、矢部清晃、森田圭一、 中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第28回 | 日本小児呼吸器外科 研究会 | 川崎市 | 2017.10.27 |
| 先天性嚢胞性肺疾患における疾患名とその概念: Overview | 小児外科 | 前田貢作 | 第28回 | 日本小児呼吸器外科 研究会 | 川崎市 | 2017.10.27 |
| 緊急で観血的整復を行った大腸重積症の1例 | 小児外科 | 磯野香織、梶原啓資、矢部清晃、河原仁守、 鮫島由友、三浦紫津、森田圭一、大片祐一、 福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第37回 | 日本小児内視鏡外科・ 手術手技研究会 | 川崎市 | 2017.10.27 |
| 短腸症候群の患者の長期予後 当院で入院管理を行っ た短腸症候群患者の現況 | 小児外科 | 中尾真、梶原啓資、矢部清晃、鮫島由友、 河原仁守、磯野香織、三浦紫津、森田圭一、 福澤宏明、横井暁子、前田貢作 | 第33回 | 日本小児外科学会秋季 シンポジウム | 川崎市 | 2017.10.28 |
| 当科で在宅 TPN 管理を行っている短腸症候群患者の 現況 | 小児外科 | 中尾真、矢部清晃、鮫島由友、河原仁守、 磯野香織、三浦紫津、森田圭一、福澤宏明、 横井暁子、前田貢作 | 第28回 | 日本小児外科 QOL 研究会 | 静岡市 | 2017.11.4 |
| 学童期にスライド気管形成術を行った先天性気管狭 窄症の1例 QOL 向上を目指した手術適応拡大の可 能性 | 小児外科 | 森田圭一、前田貢作、矢部清晃、横井暁子、 中尾真、福澤宏明、三浦紫津 | 第28回 | 日本小児外科 QOL 研究会 | 静岡市 | 2017.11.4 |
| 不完全型 Carney's triad の1例(胃 GIST・肺軟骨腫) | 小児外科 | 福澤宏明、梶原啓資、河原仁守、磯野香織、 鮫島由友、三浦紫津、矢部清晃、森田圭一、 中尾真、横井暁子、前田貢作、齋藤敦郎、 長谷川大一郎、小阪嘉之、吉田牧子 | 第59回 | 日本小児血液・ がん学会学術集会 | 松山市 | 2017.11.10 |
| 上行結腸原発 Perivascular epithelioid cell tumor(PEComa) の一例 | 小児外科 | 鮫島由友、森田圭一、河原仁守、福澤宏明、 磯野香織、三浦紫津、横井暁子、前田貢作、 太原鉄平、石田敏章、小阪嘉之、吉田牧子 | 第59回 | 日本小児血液・ がん学会学術集会 | 松山市 | 2017.11.10 |
| 合併症ゼロを目指した手術(小児) 当院の腹腔鏡下噴 門形成の変遷と合併症 | 小児外科 | 福澤宏明、梶原啓資、河原仁守、磯野香織、 鮫島由友、三浦紫津、矢部清晃、森田圭一、 中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第79回 | 日本臨床外科学会總會 | 東京都 | 2017.11.24 |
| 腹腔鏡下胆道拡張症手術 私の手術の工夫 | 小児外科 | 福澤宏明、梶原啓資、河原仁守、磯野香織、 鮫島由友、三浦紫津、矢部清晃、森田圭一、 中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第30回 | 日本内視鏡外科学会總會 | 京都市 | 2017.12.7 |
| 当院における鼠径ヘルニア術後の停留精巣症例の検 討 | 小児外科 | 三浦紫津、横井暁子、矢部清晃、關根沙知、 三島泰彦、山本聡史、森田圭一、大片祐一、 久松千恵子、福澤宏明、中尾真、賀來泰大、 春名晶子、杉多良文、前田貢作 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡手術の意義 | 小児外科 | 福澤宏明、關根沙知、三浦紫津、矢部清晃、 山本聡史、三島泰彦、森田圭一、大片祐一、 久松千恵子、中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|------|---|------|------------------|-------|---------------|
| 肝脱出を伴う巨大臍帯ヘルニアに対する Suture-less silo を用いた一期的腹壁閉鎖法の試み | 小児外科 | 関根沙知、前田貢作、矢部清晃、三島泰彦、山木聡史、三浦紫津、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、福澤宏明、中尾真、横井暁子 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 学童期にみられた隆起性皮膚線維肉腫の1例 | 小児外科 | 山木聡史、前田貢作、横井暁子、中尾真、福澤宏明、大片祐一、久松千恵子、森田圭一、三浦紫津、三島泰彦、矢部清晃、関根沙知、小野田素大、吉田牧子 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 新生児期に診断された先天性気管狭窄症の管理 | 小児外科 | 森田圭一、前田貢作、横井暁子、中尾真、福澤宏明、久松千恵子、大片祐一、三浦紫津、山木聡史、三島泰彦、矢部清晃、関根沙知、大嶋義博 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 小児気管軟化症に対する大動脈胸骨固定術 (Aortopexy) の効果 | 小児外科 | 大片祐一、長谷川智巳、尾藤祐子、関根沙知、矢部清晃、三島泰彦、山木聡史、三浦紫津、森田圭一、久松千恵子、福澤宏明、中尾真、横井暁子、大嶋義弘、前田貢作 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 肺動脈スリング合併先天性気管狭窄症における肺動脈スリング解除術の意義 | 小児外科 | 横井暁子、関根沙知、矢部清晃、三島泰彦、三浦紫津、山木聡史、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、福澤宏明、中尾真、前田貢作 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 急性膿胸・胸膜炎に対してウロキナーゼ胸腔内投与を行った3例 | 小児外科 | 久松千恵子、遠藤耕介、大片祐一、関根沙知、矢部清晃、三島泰彦、三浦紫津、山木聡史、森田圭一、福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 臍・胆管合流異常において胆汁が胆管を逆流する機序 胆嚢が胆汁の逆流に関与している可能性 | 小児外科 | 福澤宏明、山木聡史、関根沙知、三浦紫津、矢部清晃、三島泰彦、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 当院で胎児期に CPAM が疑われた症例の出生後診断と病理学的診断についての検討 | 小児外科 | 関根沙知、前田貢作、矢部清晃、三島泰彦、山木聡史、三浦紫津、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、福澤宏明、中尾真、横井暁子 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| NaCl 経口投与による小腸リハビリテーションの有効性 | 小児外科 | 久松千恵子、安福正男、関根沙知、矢部清晃、三島泰彦、三浦紫津、山木聡史、森田圭一、大片祐一、福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 当院で肝生検・胆道造影を施行したアラジール症候群の肝予後の検討 | 小児外科 | 矢部清晃、福澤宏明、関根沙知、三島泰彦、山木聡史、三浦紫津、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 当科で治療を行った全結腸型および小腸型ヒルシュスブルング病患者の検討 | 小児外科 | 中尾真、矢部清晃、関根沙知、三島泰彦、山木聡史、三浦紫津、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、福澤宏明、横井暁子、前田貢作 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 先天性 H 型気管食道瘻に対する胸腔鏡下根治術 新生児例 | 小児外科 | 三島泰彦、福澤宏明、矢部清晃、関根沙知、山木聡史、三浦紫津、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 鼠径ヘルニア手術における従来法の利点 | 小児外科 | 横井暁子 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|------|---|--------|---|--------------------------|---------------|
| 先天性気管狭窄症の手術 スライド気管形成術(Slide tracheoplasty) | 小児外科 | 前田貢作 | 第53回 | 日本小児外科学会 学術集会 | 仙台市 | 2017.05.11-13 |
| 非待機的に根治術を行った先天性横隔膜ヘルニア2例の検討 | 小児外科 | 山内貴未、秋田大輔、生田寿彦、武岡恵美子、太久保沙紀、玉置祥子、松井紗智子、李進剛、三村仁美、横井暁子、芳本誠司、前田貢作、中尾秀人 | 第53回 | 日本周産期・ 新生児医学会 | 東京都 | 2017.7.16-18 |
| 先天性横隔膜ヘルニアにおける胎児MRI肺・肝信号比の有用性 | 小児外科 | 横井暁子、芳本誠司、前田貢作、船越徹、中尾秀人、中尾真、福澤宏明、久松千恵子、大片祐一、森田圭一、三島泰彦 | 第53回 | 日本周産期・ 新生児医学会 | 東京都 | 2017.7.16-18 |
| 手術や処置を要した慢性肺疾患(CLD)症例の検討 | 小児外科 | 久松千恵子、三島泰彦、森田圭一、大片祐一、福澤宏明、中尾真、横井暁子、芳本誠司、中尾秀人、前田貢作 | 第53回 | 日本周産期・ 新生児医学会 | 東京都 | 2017.7.16-18 |
| Congenital tracheal stenosis with pulmonary artery sling: A review of 65 cases | 小児外科 | Akiko Yokoi, Yasuhiko Mishima, Kosaku Maeda, Hironori Matsuhisa, Yoshihiro Oshima, Eiji Nishijima | 第50回 | 太平洋小児外科学会 | シアトル, 米国 | 2017.5.28-6.1 |
| The Prognosis of liver diseases in Patients with Alagille Syndrome Assessed by Liver Biopsy and Cholangiography. | 小児外科 | Kiyooki Yabe, Akiko Yokoi, Kousaku Maeda | 第50回 | 太平洋小児外科学会 | シアトル, 米国 | 2017.5.28-6.1 |
| Management and outcome of anastomotic failure after slide tracheoplasty for congenital tracheal stenosis in children | 小児外科 | Yuichi Okata, Akiko Yokoi, Yuko Bitoh, Chieko Hisamatsu, Keiichi Morita, Hiroaki Fukuzawa, Makoto Nakao, Eiji Nishijima, Kosaku Maeda | 第50回 | 太平洋小児外科学会 | シアトル, 米国 | 2017.5.28-6.1 |
| 心奇形を合併した呼吸器外科疾患の治療 | 小児外科 | 前田貢作 | 第19回 | 東京小児呼吸ケアHOT シンポジウム | 東京都 | 2017.2.25 |
| 兵庫県における新生児外科医療の現況 | 小児外科 | 前田貢作 | 平成28年度 | 周産期医療事例検討会 | 神戸市 | 2017.3.11 |
| 出生前診断された先天性間葉芽腎腫の1例 | 小児外科 | 三浦紫津 | 第40回 | 近畿小児血液・ がん研究会 | 吹田市 | 2017.2.17 |
| 肛門側ストーマ脱出を繰り返す Caudal regression syndrome/鎖肛の1例 | 小児外科 | 前田貢作 | 第31回 | 日本小児ストーマ・ 創傷・排泄研究会 | 東京都 | 2017.6.17 |
| 縦隔悪性腫瘍の手術 | 小児外科 | 梶原啓資 | 第7回 | KSH 合同カンファレンス | 神戸市 | 2017.10.1 |
| Maldevelopment of pediatric airway | 小児外科 | 前田貢作 | 第1回 | 兵庫県立こども病院 - 神戸市立医療センター 中央市民病院 - 理化学 研究所ジョイントシン ポジウム | 神戸市 | 2017.1.21 |
| Pediatric Airway Surgery | 小児外科 | Kosaku Maeda | 2017 | ISCADB (International Symposium on congenital anomaly and developmental biology) | Yogyakarta, Indonesia | 2017.8.28 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|--------------|---|------|---------------------------|-----------------------|--------------|
| 10 secrets of how to write a scientific manuscript | 小児外科 | Kosaku Maeda | 2017 | ISCADB: Work shop | Yogyakarta, Indonesia | 2017.8.29 |
| Surgical postgraduate training in Japan | 小児外科 | Kosaku Maeda | | Gadjah Mada 大学 外科特別講義 | Yogyakarta, Indonesia | 2017.8.30 |
| The importance of basic research for clinical application | 小児外科 | Kosaku Maeda | | Gadjah Mada 大学 大学院特別講義 | Yogyakarta, Indonesia | 2017.8.31 |
| How to develop a research lab | 小児外科 | Kosaku Maeda | | UGM Hospital 特別講義 | Yogyakarta, Indonesia | 2017.8.26 |
| 先天性心疾患術後気管・気管支狭窄の形態分類と治療方法の検討 | 心臓血管外科 | 日隈智憲、村上優、松島峻介、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博 | 第47回 | 日本心臓血管外科学会学術総会 | 東京 | 2017.2.27 |
| 小児大動脈弁置換術の遠隔成 | 心臓血管外科・循環器科 | 松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、松島峻介、村上優、田中敏克、城戸佐知子 | 第31回 | 日本小児循環器学会 近畿中四国地方会 | 高槻 | 2017.3.5 |
| 胎児母体間輸血症候群の重症心不全に対するECMO supportの1治験例 | 心臓血管外科 | 日隈智憲、村上優、松島峻介、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博 | 第31回 | 日本小児循環器学会 近畿中四国地方会 | 高槻 | 2017.3.5 |
| Prolonged Pediatric Extracorporeal Membrane Oxygenation in Children | 心臓血管外科・臨床工学室 | 松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、松島峻介、村上優、横山 真司 | 第81回 | 日本循環器学会学術集会 | 金沢 | 2017.3.19 |
| 乳児僧帽弁逆流症に対する後尖延長を用いた僧帽弁形成の2例 | 心臓血管外科 | 岩城隆馬、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、村上優 | 第37回 | 近畿心臓外科研究会 | 尼崎 | 2017.6.9 |
| 側開胸を併施した正中一期的uniforcalizationの1例 | 心臓血管外科 | 岩城隆馬、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、村上優 | 第69回 | 兵庫県心臓外科懇話会 | 神戸 | 2017.6.16 |
| フォンタン手術:10年間の進歩とこれから | 心臓血管外科 | 松久 弘典 | 第60回 | 関西胸部外科学会 学術集会 | 大阪 | 2017.6.22 |
| 乳児期における僧帽弁腱索断裂による急性僧帽弁逆流5例の検討 | 心臓血管外科 | 日隈智憲、村上優、松島峻介、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博 | 第60回 | 関西胸部外科学会 学術集会 | 大阪 | 2017.6.23 |
| 純型肺動脈閉鎖症の成人期右心不全例に対する 三尖弁再置換術+両方向性グレン手術 | 心臓血管外科 | 岩城隆馬、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、松島峻介、村上優 | 第60回 | 関西胸部外科学会 学術集会 | 大阪 | 2017.6.22-23 |
| TAPVCに対するsutureless repair術後PVS症例の検討 | 心臓血管外科・循環器科 | 松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、村上優、田中敏克、城戸佐知子 | 第53回 | 日本小児循環器学会 総会・学術集会 | 浜松 | 2017.7.8 |
| 先天性心疾患に合併した気管・気管支軟化症への治療戦略 | 心臓血管外科 | 日隈智憲、村上優、松島峻介、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博 | 第53回 | 日本小児循環器学会 総会・学術集会 | 浜松 | 2017.7.7 |
| 純型肺動脈閉鎖に伴う三尖弁病変に対する外科的介入の検討 | 心臓血管外科 | 岩城隆馬、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、村上優 | 第53回 | 日本小児循環器学会・ 学術集会 | 浜松 | 2017.7.7-9 |
| Norwood術後のneo-ARに対する弁形成術 | 心臓血管外科 | 松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、村上優 | 第17回 | 小児手術手技研究会 | 浜松 | 2017.7.7 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|---|--|-----|--------------------------------|-----------------|---------------------|
| <p>The Effect of Long-term Administration of Plostaglandin E1 on Morphological Changes in Ductus Arteriosus</p> | <p>1.Dept of Cardiovascular Surgery, Kobe Children's Hosp, Kobe, Japan, 2.Japan Synchrotron Radiation Res Inst (SPring-8), Sayo, Japan, 3.Dept of Cell Physiology, The Jikei Univ Sch of Med, Tokyo, Japan, 4.Dept of Cardiovascular Surgery, The Jikei Univ Sch of Med, Tokyo, Japan 5.Div of Cardiovascular Surgery, Natl Medical Ctr for Children and Mothers, Tokyo, Japan 6.Div of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Niigata Univ Graduate Sch of Medical and Dental Sciences, Nigata, Japan, 7.Div of Cardiovascular Surgery, Japanese Red Cross Kobe Hosp, Kobe, Japan 8.Div of Cardiovascular Surgery, Graduate Sch of Med, Kobe Univ, Kobe, Japan</p> | <p>Ryuma Iwak1, Hironori Matsuhisa1, Yoshihiro Oshima1, Masato Hoshino2, Naoto Yagi2, Susumu Minamisawa3, Toru Akaike3, Kiyozo Morita4, Gen Shinohara4, Yukihiko Kaneko5, Hiroyuki Morishita5, Masashi Takahashi6, Takuro Tsukube7 and Yutaka Okita8</p> | | <p>BCVS scientific session</p> | <p>Portland</p> | <p>2017.7.10-17</p> |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|--|---|-------|--|-------|----------------|
| 乳児期早期に手術介入を要した症例 ～生直後に見逃しやすい重症先天性心疾患～ | 心臓血管外科 | 岩城 隆馬 | 第242回 | こども病院症例検討会 | 院内 | 2017.8.24 |
| The Role of Left Ventricular Pacing in the Prevention and Therapy of Right Ventricular Pacing-Induced Ventricular Dysfunction | 心臓血管外科 | 松久 弘典 | 第10回 | Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session | 横浜 | 2017.9.15 |
| 冠状静脈洞還流型TAPVCに対する手術の工夫 | 心臓血管外科 | 松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、村上優 | 第21回 | 心臓外科研究懇話会 | 焼津 | 2017.9.17 |
| Norwood手術における気道圧迫、肺動脈狭窄回避への戦略 | 心臓血管外科 | 日隈智憲、村上優、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博 | 第70回 | 日本胸部外科学会定期学術集会 | 札幌 | 2017.9.29 |
| Surgical treatment of congenital mitral valve disease ~mid and long-term results~ | Division of cardiovascular surgery, Kobe children's hospital | Ryuma Iwaki, Yoshihiro Oshima, Hironori Matsuhisa, Tomonori Higuma, Yu Murakami | 第70回 | 日本胸部外科学会定期学術集会 | 札幌 | 2017.9.26-9.29 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|---|---|----------------|--------------------------------------|-----------|--------------------|
| <p>The Effect of Long-term Administration of Plostaglandin E1 on Morphological Changes in Ductus Arteriosus</p> | <p>1.Dept of Cardiovascular Surgery, Kobe Children's Hosp, Kobe, Japan, 2.Japan Synchrotron Radiation Res Inst (SPring-8), Sayo, Japan, 3.Dept of Cell Physiology, The Jikei Univ Sch of Med, Tokyo, Japan, 4.Dept of Cardiovascular Surgery, The Jikei Univ Sch of Med, Tokyo, Japan 5.Div of Cardiovascular Surgery, Natl Medical Ctr for Children and Mothers, Tokyo, Japan 6.Div of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Niigata Univ Graduate Sch of Medical and Dental Sciences, Nigata, Japan, 7.Div of Cardiovascular Surgery, Japanese Red Cross Kobe Hosp, Kobe, Japan 8.Div of Cardiovascular Surgery, Graduate Sch of Med, Kobe Univ, Kobe, Japan</p> | <p>Ryuma Iwaki¹, Hironori Matsuhisa¹, Yoshihiro Oshima¹, Masato Hoshino², Naoto Yagi², Susumu Minamisawa³, Toru Akaike³, Kiyozo Morita⁴, Gen Shinohara⁴, Yukihiro Kaneko⁵, Hiroyuki Morishita⁵, Masashi Takahashi⁶, Takuro Tsukube⁷ and Yutaka Okita⁸</p> | <p>The 8th</p> | <p>Takao international symposium</p> | <p>松江</p> | <p>2017.10.6-8</p> |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|--|--|------|------------------------|---------|---------------|
| 二心室修復術後遠隔期に三尖弁に対し再々弁形成を要した純型肺動脈閉鎖症の1例 | 心臓血管外科 | 日隈智憲、村上優、岩城隆馬、松久弘典、大嶋義博 | 第64回 | 神戸心臓外科研究会 | 神戸 | 2017.10.25 |
| The Effect of Long-term Administration of Prostaglandin E1 on Morphological Changes in Ductus Arteriosus | 1.Dept of Cardiovascular Surgery, Kobe Children's Hosp, Kobe, Japan, 2.Japan Synchrotron Radiation Res Inst (SPring-8), Sayo, Japan, 3.Dept of Cell Physiology, The Jikei Univ Sch of Med, Tokyo, Japan, 4.Dept of Cardiovascular Surgery, The Jikei Univ Sch of Med, Tokyo, Japan 5.Div of Cardiovascular Surgery, Natl Medical Ctr for Children and Mothers, Tokyo, Japan 6.Div of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Niigata Univ Graduate Sch of Medical and Dental Sciences, Niigata, Japan, 7.Div of Cardiovascular Surgery, Japanese Red Cross Kobe Hosp, Kobe, Japan 8.Div of Cardiovascular Surgery, Graduate Sch of Med, Kobe Univ, Kobe, Japan | Ryuma Iwaki ¹ , Hironori Matsuhisa ¹ , Yoshihiro Oshima ¹ , Masato Hoshino ² , Naoto Yagi ² , Susumu Minamisawa ³ , Toru Akaike ³ , Kiyozo Morita ⁴ , Gen Shinohara ⁴ , Yukihiko Kaneko ⁵ , Hiroyuki Morishita ⁵ , Masashi Takahashi ⁶ , Takuro Tsukube ⁷ and Yutaka Okita ⁸ | | AHA scientific session | Anaheim | 2017.11.11-15 |
| 合併する水頭症に対してETVが奏効した大理石骨病の1例 | 脳神経外科 | 阿久津宣行 | 第21回 | 関西ニューロエンドスコープ研究会 | 大阪 | 2017.2.4 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|-------|---|--------|-----------------------------------|-------|---------------|
| 眼科的検査所見を契機に脳神経外科的治療介入を行った症例 | 脳神経外科 | 小山淳二 | 第28回 | 北六甲脳神経外科 カンファレンス | 神戸 | 2017.2.4 |
| 小児頭蓋骨陥没骨折の検討 | 脳神経外科 | 阿久津宣行、山下俊輔、小山淳二、河村淳史、 長嶋達也、甲村英二 | 第40回 | 日本脳神経外傷学会 学術集会 | 東京 | 2017.3.10 |
| 小児頭蓋頸椎移行部病変に対する頭蓋頸椎後方固定術 | 脳神経外科 | 小山淳二、河村淳史、阿久津宣行、山下俊輔、 長嶋達也 | 第45回 | 日本小児神経外科学会 学術集会 | 神戸 | 2017.6.2 |
| 小児もやもや病に対する間接的血管再建術 | 脳神経外科 | 阿久津宣行、山下俊輔、小山淳二、河村淳史、 長嶋達也 | 第45回 | 日本小児神経外科学会 学術集会 | 神戸 | 2017.6.3 |
| 小児脳脊髄腫瘍集学的治療における陽子線治療 | 脳神経外科 | 河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、出水祐介、 沖本智昭、副島俊典、長嶋達也 | 第45回 | 日本小児神経外科学会 学術集会 | 神戸 | 2017.6.2-3 |
| DIPG(Diffuse intrinsic pontine glioma) に対する緩和 治療～脳神経外科医の立場より～ | 脳神経外科 | 河村淳史 | 第16回 | 小児脳腫瘍治療研究会 | 大阪 | 2017.6.24 |
| 脊髄髄膜瘤修復術後脊髄再係留:病態把握と治療適応 決定の難しさ | 脳神経外科 | 小山淳二、河村淳史、阿久津宣行、安積麻衣、 原田知明 | 第34回 | 日本二分脊椎研究会 | 名古屋 | 2017.7.8 |
| 当施設における小児脳脊髄腫瘍に対する陽子線治療 の展望 | 脳神経外科 | 河村淳史、岩橋洋文、小山淳二、阿久津宣行、 安積麻衣、副島俊典、出水祐介 | 第74回 | 兵庫県脳神経外科 医懇話会 | 神戸 | 2017.7.22 |
| シャントバルブの破損を認めた小児水頭症 4 例 | 脳神経外科 | 岩橋洋文 | 第74回 | 日本脳神経外科学会 近畿支部学術集会 | 大阪 | 2017.9.2 |
| 当院における小児脳脊髄腫瘍に対する陽子線治療 の展望 | 脳神経外科 | 河村淳史、岩橋洋文、小山淳二、阿久津宣行、 安積麻衣、副島俊典、出水祐介 | 第76回 | 日本脳神経外科学会 学術総会 | 名古屋 | 2017.10.12-14 |
| 小児もやもや病に対する間接的血管再建術 | 脳神経外科 | 阿久津宣行、小山淳二、河村淳史、長嶋達也 | 第76回 | 日本脳神経外科学会 学術総会 | 名古屋 | 2017.10.13 |
| 頭蓋縫合早期癒合症に伴った小児キアリ奇形1型の治療 | 脳神経外科 | 小山淳二、河村淳史、阿久津宣行、安積麻衣、 岩橋洋文 | 第76回 | 日本脳神経外科学会 学術総会 | 名古屋 | 2017.10.13 |
| 小児神経外科初診外来の日常:腰仙部皮膚病変について | 脳神経外科 | 小山淳二 | 第246回 | こども病院症例検討会 | 神戸 | 2017.10.26 |
| シャントバルブの破損を認めた小児水頭症の6例 | 脳神経外科 | 阿久津宣行、岩橋洋文、安積麻依、小山淳二、 河村淳史 | 第35回 | 日本こども病院神経外 科医会研修会 | 横浜 | 2017.11.4 |
| 当施設における小児固形腫瘍に対する粒子線治療 | 脳神経外科 | 河村淳史、長谷川大一郎、小阪嘉之、 出水祐介、副島俊典 | 第59回 | 日本小児血液・ がん学会学術集会 | 松山 | 2017.11.9-11 |
| 小児片側性水頭症の2例 | 脳神経外科 | 阿久津宣行、岩橋洋文、安積麻依、小山淳二、 河村淳史 | 第24回 | 日本神経内視鏡学会 学術集会 | 横浜 | 2017.11.10 |
| 当施設における脳脊髄腫瘍に対する陽子線治療の展望 | 脳神経外科 | 河村淳史、岩橋洋文、小山淳二、阿久津宣行、 安積麻衣、副島俊典、出水祐介 | 第35回 | 日本脳腫瘍学会学術集会 | 高松 | 2017.11.26-28 |
| 術前補助化学療法が無効であった RELA 融合遺伝子 陽性チント上上皮腫 | 脳神経外科 | 小山淳二、河村淳史、阿久津宣行、安積麻衣、 岡田真幸 | 2017年度 | 神戸大学医学部脳神経外 科教室同門会学術講演 | 神戸 | 2017.12.3 |
| 脊髄髄膜瘤の病態と治療 | 脳神経外科 | 阿久津宣行 | 第2回 | 兵庫県立こども病院- CDB ジョイントシン ポジウム | 神戸 | 2017.12.16 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|------|--|-------|---|-------|--------------|
| 広範囲先天性頭皮欠損の治療経験 | 形成外科 | 若林侑加、小野田素大、池村光之介 | 第116回 | 関西形成外科学会 学術集会 | 大阪 | 2017.7.9 |
| 末節部骨癒合を伴う完全合指症の治療経験 | 形成外科 | 山内菜都美、小野田素大、若林侑加 | 第117回 | 関西形成外科学会 学術集会 | 和歌山 | 2017.11.26 |
| Relationship between dysplasia of tarsal bone at neonate and relapse in congenital clubfoot | 整形外科 | Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi, Ryosuke Sakata, Maki kinugasa, Ayana Yamanaka, Tetsuya Yamamoto | | 2017 Combined EPOS. POSNA (EPOSNA) annual meeting | バルセロナ | 2017.5.3-6 |
| Risk factors for surgical intervention in patients with idiopathic clubfoot treated by Ponseti method | 整形外科 | Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi, Ryosuke Sakata, Maki kinugasa, Ayana Yamanaka, Tetsuya Yamamoto | | 2017 Combined EPOS. POSNA (EPOSNA) annual meeting | バルセロナ | 2017.5.3-6 |
| 阪神・淡路大震災と小児医療施設の経験—兵庫県での経験 | 整形外科 | 薩摩眞一 | 第90回 | 日本整形外科学会 | 仙台 | 2017.5.18-21 |
| 見逃さない乳児股関節脱臼・遺残性亜脱臼 | 整形外科 | 薩摩眞一 | 第14回 | 九州山口地区小児整形外科学術研究会 | 福岡 | 2017.1.22 |
| DDHのトータルマネージメント—脱臼整復から遺残性亜脱臼への対応まで— | 整形外科 | 薩摩眞一 | 第15回 | 宮城小児整形外科学術研究会 | 仙台 | 2017.4.8 |
| 先天性内反足と垂直距骨—治療の変遷とPonseti法— | 整形外科 | 薩摩眞一 | 第90回 | 日本整形外科学会 | 仙台 | 2017.5.18-21 |
| 発育性股関節形成不全(DDH)治療における次の一手 | 整形外科 | 薩摩眞一 | 第5回 | 琉球整形外科フォーラム | 那覇 | 2017.5.27 |
| Effect of surgeon performance in Salter Innominate Osteotomy on long-term outcome.. | 整形外科 | Daisuke Kobayashi, Shinichi Satsuma, Ryosuke Sakata, Maki kinugasa, Ayana Yamanaka, Tetsuya Yamamoto | | 2017 Combined EPOS. POSNA (EPOSNA) annual meeting | バルセロナ | 2017.5.3-6 |
| Does pseudarthrosis of the fibula after lower limb lengthening predispose patients to ankle valgus? | 整形外科 | Daisuke Kobayashi, Shinichi Satsuma, Ryosuke Sakata, Maki kinugasa, Ayana Yamanaka, Tetsuya Yamamoto | | 2017 Combined EPOS. POSNA (EPOSNA) annual meeting | バルセロナ | 2017.5.3-6 |
| 知らないではすまされない小児整形外科疾患 — 診断と治療 — | 整形外科 | 小林大介 | | 三木、小野整形外科懇話会 | 小野 | 2017.2.23 |
| 『大腿骨頭すべり症』—不安定型の治療 :gentle reduction & pinning— | 整形外科 | 小林大介 | 第24回 | 日本小児整形外科学会 教育研修会 | 東京 | 2017.8.27 |
| Salter 骨盤骨切り術の手術手技と最終成績との関連 | 整形外科 | 小林大介、薩摩眞一、坂田亮介、衣笠真紀、向原伸太郎 | 第28回 | 日本小児整形外科学会 | 東京 | 2017.12.7-8 |
| 不安定型大腿骨頭すべり症の治療 —早期愛護的整復とピンニング— | 整形外科 | 小林大介、薩摩眞一、坂田亮介、衣笠真紀、向原伸太郎 | 第28回 | 日本小児整形外科学会 | 東京 | 2017.12.7-8 |
| 発育性股関節形成不全(DDH)の臼蓋形成不全に対する治療 | 整形外科 | 小林大介、薩摩眞一、坂田亮介、衣笠真紀、向原伸太郎 | 第56回 | 日本小児股関節研究会 | 大阪 | 2017.6.23-24 |
| 当科におけるDDH(脱臼)に対する牽引治療成績 | 整形外科 | 坂田亮介、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀、向原伸太郎 | 第56回 | 日本小児股関節研究会 | 大阪 | 2017.6 |
| 変形矯正に難渋した骨形成不全の長期成績 | 整形外科 | 坂田亮介、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀、山中理菜、山本哲也 | 第59回 | 近畿小児整形外科懇話会 | 大阪 | 2017.1 |
| 先天性下腿偽関節症による下腿変形をきたした一例 | 整形外科 | 坂田亮介、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀、向原伸太郎 | 第17回 | 近畿小児整形外科症例検討会 | 大阪 | 2017.6 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|------------|---|------|----------------------|-------|--------------|
| 腓骨列形成不全の一例 | 整形外科 | 坂田亮介、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀、向原伸太郎 | 第18回 | 近畿小児整形外科症例検討会 | 大阪 | 2017.12 |
| 先天性下腿偽関節症の治療経験 | 整形外科 | 坂田亮介、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀、向原伸太郎 | 第28回 | 日本小児整形外科学会 | 東京 | 2017.12 |
| 創外固定を用い大腿骨の延長を施行した症例の検討 | 整形外科 | 山本哲也、小林大介、山中理菜、衣笠真紀、坂田亮介、薩摩眞一 | 第30回 | 創外固定学会 | 久留米 | 2017.3.4 |
| 下腿内捻変形に対して脛骨遠位部回旋骨切り術を施行した1例 | 整形外科 | 山中理菜、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、山本哲也 | 第59回 | 近畿小児整形外科懇話会 | 大阪 | 2017.1.28 |
| 不安定型大腿骨頭すべり症の治療成績 | 整形外科 | 衣笠真紀、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、向原伸太郎 | 第56回 | 日本小児股関節研究会 | 大阪 | 2017.6.23-24 |
| 9歳で初診となり手術加療を行ったDDHの1例 | 整形外科 | 衣笠真紀、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、向原伸太郎 | 第60回 | 近畿小児整形外科懇話会 | 大阪 | 2017.7.22 |
| WasselⅦの術式検討 | 整形外科 | 衣笠真紀、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、向原伸太郎 | 第17回 | 近畿小児整形外科症例検討会 | 大阪 | 2017.6.3 |
| 大腿骨頸部骨端線離開の治療方針 | 整形外科 | 衣笠真紀、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、向原伸太郎 | 第18回 | 近畿小児整形外科症例検討会 | 大阪 | 2017.12.2 |
| 多発性骨端異形成症に合併した片側性ペルテス病の経験 | 整形外科 | 向原伸太郎、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀 | 第56回 | 小児股関節研究会 | 大阪 | 2017.6.23-24 |
| 先天性下腿偽関節症治療後再骨折の1例 | 整形外科 | 向原伸太郎、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀 | 第17回 | 小児整形外科症例検討会 | 大阪 | 2017.6.3 |
| Complex Idiopathic Clubfoot の治療経験 | 整形外科 | 向原伸太郎、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀 | 第60回 | 近畿小児整形外科懇話会 | 大阪 | 2017.7.22 |
| 多発性溶骨性病変の1例 | 整形外科 | 向原伸太郎、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀 | 第17回 | 小児整形外科症例検討会 | 大阪 | 2017.12.2 |
| 脚長差に対するEight-Plate®の効果 -術後2年以上経過している症例の検討- | 整形外科 | 向原伸太郎、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀 | 第28回 | 日本小児整形外科学会 | 東京 | 2017.12.7 |
| 多発性骨端異形成症に合併した片側性ペルテス病の経験 | 整形外科 | 向原伸太郎、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀 | 第29回 | 日本整形外科学会 骨系統疾患研究会 | 東京 | 2017.12.9 |
| 当院リハビリテーション科における外来フォローアップ体制の紹介 ～新設理学・作業療法中心に～ | リハビリテーション科 | 細川泰徳、中田潔樹、金澤美佳 | 第15回 | 県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.2 |
| 気管切開術後の患児に対するコミュニケーション支援の一例 | リハビリテーション科 | 都倉明乃、住友亜佐子、小松岳、北瀬幸子、花房理佐、勝沼紗矢香、小山淳二、小林大介、大津雅秀 | 第15回 | 県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.2 |
| 言語聴覚士の外来リハビリテーション業務の拡充～退院後の患児のフォロー～ | リハビリテーション科 | 小松岳、住友亜佐子、都倉明乃、北瀬幸子、細川泰徳、小林大介 | 第15回 | 県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.2 |
| こども病院における、がん患者に対するリハビリテーションの課題と取り組み | リハビリテーション科 | 金澤美佳、細川泰徳、中田潔樹、住友亜佐子、小松岳、都倉明乃、北瀬幸子、小山淳二、長谷川大一郎、小林大介 | 第15回 | 県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.2 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|------------|----------------------------------|-------|---|-------|--------------|
| NICU、GCUのリハビリテーション ～新生児自発運動(GMs)評価への取り組みを中心～ | リハビリテーション科 | 中田潔樹、細川泰徳、金澤美佳、小松岳、 横田知之、小林大介 | 第15回 | 県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.2 |
| DVDの臨床と最新情報 | 眼科 | 野村耕治 | 第16回 | 近畿弱視斜視セミナー | 大阪 | 2017.2.25 |
| 弱視の診断と管理 | 眼科 | 野村耕治 | 第11回 | 加古川高砂眼科医会 勉強会 | 加古川 | 2017.3.18 |
| 視神経部分低形成に視野障害の進行を合併した一例 | 眼科 | 柳沢翠芳、中村賢和、安武博樹、野村耕治 | 第42回 | 日本小児眼科学会 | 金沢 | 2017.6.16 |
| 当院における上下斜視の手術成績 原因疾患と手術方法の比較 | 眼科 | 中村賢和、安武博樹、福永とも子、柳沢翠芳、 野村耕治 | 第73回 | 日本弱視斜視学会 | 金沢 | 2017.6.16 |
| 遠視に起因する弱視 | 眼科 | 野村耕治 | 第10回 | さぬき臨床眼科交流会 | 高松 | 2017.9.9 |
| 先天性眼筋麻痺+上下斜視・心因性視力障害・小児緑 内障・網膜芽細胞腫診療の現状 | 眼科 | 野村耕治 | 第31回 | 灘区眼科医会秋季講演会 | 神戸 | 2017.10.25 |
| 小児眼科の話題4題、他 | 眼科 | 野村耕治 | 第25回 | 広島小児眼科懇話会 | 広島 | 2017.10.29 |
| 当科における心因性視力障害の臨床経過と心因の検討 | 眼科 | 柳沢翠芳 | 第6回 | 小児多職種研究会 | 沖縄 | 2017.11.4 |
| シンポジウム15「気道臓器の再生医療」嗅上皮の細胞 の並び方を形成するネクチンとカドヘリンの協調的 な働き | 耳鼻咽喉科 | 勝沼紗矢香 | 第16回 | 日本再生医学会総会 | 仙台市 | 2017.3.7-9 |
| 就学以降に難聴を疑い 聴力精査目的で初診した児童 生徒の検討 | 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀、勝沼紗矢香、阪本浩一 | 第118回 | 日本耳鼻咽喉科学会総会 | 広島市 | 2017.5.18-20 |
| 当院における口蓋裂児の滲出性中耳炎の検討 | 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀、勝沼紗矢香、阪本浩一 | 第12回 | 日本小児耳鼻咽喉科学 会総会・学術講演会 | 宇都宮市 | 2017.6.2-3 |
| 他覚的聴力検査閾値と行動観察による聴力検査閾値 に乖離を示した先天性大脳白質形成不全症の1例 | 耳鼻咽喉科 | 勝沼紗矢香、阪本浩一、大津雅秀、 上原奈津美、丹生健一 | 第12回 | 日本小児耳鼻咽喉科学 会総会・学術講演会 | 宇都宮市 | 2017.6.2-3 |
| 当院における口蓋裂児の滲出性中耳炎の長期経過 | 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀、勝沼紗矢香、阪本浩一 | 第186回 | 日本耳鼻咽喉科学会兵庫 県地方部会学術講演会 | 神戸市 | 2017.7.22 |
| 中耳炎の病診連携と新生児聴覚スクリーニングの現況 | 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀 | | 伊丹市医師会学術講演会 | 伊丹市 | 2017.11.2 |
| 中等度難聴児の補聴器適合と新生児聴覚スクリー ニングの現況 | 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀 | | 神戸地区耳鼻咽喉科医 会学術講演会 | 神戸市 | 2017.11.18 |
| フィッティングのための調整手段 | 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀 | | 日本耳鼻咽喉科学会兵庫 県地方部会 補聴器 相談医委嘱のための講 習会 | 神戸市 | 2017.11.19 |
| Cystic lymphangioma in the groin and scrotum | 泌尿器科 | 春名晶子・賀來泰大・杉多良文 | 第15回 | Korean and Japanese Society of Pediatric Urologists | ソウル | 2017.1.14 |
| Deflux注入療法後の追加治療に関する検討 | 泌尿器科 | 春名晶子・賀來泰大・大饗政嗣・杉多良文 | 第25回 | 日本逆流性腎症フォーラム | 名古屋 | 2017.1.28 |
| 当科における腹腔鏡下腎盂形成術の初期治療成績 | 泌尿器科 | 杉多良文・春名晶子・賀來泰大 | 第105回 | 日本泌尿器科学会総会 | 鹿児島 | 2017.4.22 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|------|---|---------|--|-----------|--------------|
| 小児泌尿器科疾患に対する手術のタイミングと術式選択 | 泌尿器科 | 杉多良文 | 第105回 | 日本泌尿器科学会総会 | 鹿児島 | 2017.4.23 |
| 後部尿道弁の臨床的検討 | 泌尿器科 | 春名晶子・賀來泰大・杉多良文 | 第105回 | 日本泌尿器科学会総会 | 鹿児島 | 2017.4.23 |
| 膀胱拡大術、腹壁導尿管造設を施行したHinman-Allen症候群の2例 | 泌尿器科 | 春名晶子・武中良大・大饗政嗣・杉多良文 | 第31回 | 日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会 | 東京 | 2017.6.17 |
| 尿道下裂術後の尿道皮膚瘻に関する検討 | 泌尿器科 | 大饗政嗣・武中良大・春名晶子・杉多良文 | 第26回 | 日本小児泌尿器科学会 | 名古屋 | 2017.7.6 |
| 当科における腹腔鏡下腎盂形成術の初期治療成績 | 泌尿器科 | 杉多良文・春名晶子・武中良大・大饗政嗣 | 第26回 | 日本小児泌尿器科学会 | 名古屋 | 2017.7.6 |
| 尿管から陰嚢に認めたリンパ管腫の1例 | 泌尿器科 | 武中良大・春名晶子・大饗政嗣・杉多良文 | 第26回 | 日本小児泌尿器科学会 | 名古屋 | 2017.7.6 |
| Deflux注入療法後の追加治療に関する検討 | 泌尿器科 | 春名晶子・武中良大・大饗政嗣・杉多良文 | 第26回 | 日本小児泌尿器科学会 | 名古屋 | 2017.7.6 |
| 膀胱拡大術、腹壁導尿管造設を施行したHinman-Allen症候群の2例 | 泌尿器科 | 春名晶子・武中良大・大饗政嗣・杉多良文 | 第26回 | 日本小児泌尿器科学会 | 名古屋 | 2017.7.7 |
| Dorsal inlay graft for distal hypospadias | 泌尿器科 | 杉多良文 | 第19回 | ASIA PACIFIC ASSOCIATION OF PEDIATRIC UROLOGISTS | ジョグジャカルタ | 2017.11.8 |
| Time of diagnosis of urethrocutaneous fistula after hypospadias repair | 泌尿器科 | 大饗政嗣・武中良大・春名晶子・杉多良文 | 第19回 | ASIA PACIFIC ASSOCIATION OF PEDIATRIC UROLOGISTS | ジョグジャカルタ | 2017.11.8 |
| Proximal hypospadias : One-stage VS Two-stage | 泌尿器科 | 杉多良文 | 第19回 | ASIA PACIFIC ASSOCIATION OF PEDIATRIC UROLOGISTS | ジョグジャカルタ | 2017.11.9 |
| 小児尿道閉塞性病変に対する内視鏡手術 | 泌尿器科 | 杉多良文 | 第31回 | 日本泌尿器科内視鏡学会 | 徳島 | 2017.11.17 |
| 経膀胱的腹腔鏡下逆流防止術の初期経験 | 泌尿器科 | 大饗政嗣・武中良大・春名晶子・杉多良文 | 第31回 | 日本泌尿器科内視鏡学会 | 徳島 | 2017.11.17 |
| Deflux注入療法後の追加治療に関する検討 | 泌尿器科 | 武中良大・春名晶子・大饗政嗣・杉多良文 | 第31回 | 日本泌尿器科内視鏡学会 | 徳島 | 2017.11.17 |
| 膀胱拡大術、腹壁導尿管造設を施行したHinman-Allen症候群の2例 | 泌尿器科 | 武中良大・春名晶子・大饗政嗣・杉多良文 | 第67回 | 日本泌尿器科学会中部総会 | 大阪 | 2017.11.25 |
| 尿道下裂術後の尿道皮膚瘻に関する検討 | 泌尿器科 | 大饗政嗣・武中良大・春名晶子・杉多良文 | 第67回 | 日本泌尿器科学会中部総会 | 大阪 | 2017.11.25 |
| 小児頭頸部がん治療後にランパン・トカリエスが発生した3例 | 小児歯科 | 岩瀬美紀 | 第14回 | 日本口腔ケア学会学術大会 | 那覇市 | 2017.4.22-23 |
| The relationship between parent's interest level in oral health management and oral adverse events of pediatric cancer patients. | 小児歯科 | Iwase M, Matsuyama M, Sone Y, Kimura H, Hasegawa D, Kosaka Y. | 第59回 | 日本小児血液・がん学会学術大会 | 松山市 | 2017.11.9-11 |
| The relationship between parent's attainment level after comprehensive educational program of oral health management and oral adverse events of pediatric cancer patients. | 小児歯科 | Iwase M, Matsuyama M, Sone Y, Hasegawa D, Kosaka Y. | The 4th | The 4th plus ASEAN and Tokushima Joint international Conference. | Indonesia | 2017.12.1-3 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|------|---|-------|---------------------------------------|--------|--------------|
| The relationship between parent's attainment level after comprehensive educational program of oral health management and oral adverse events of pediatric cancer patients. | 小児歯科 | 岩瀬美紀、松山美和、曾根由美子、長谷川大一郎、小阪嘉之 | 第52回 | 四国歯学会例会 | 徳島市 | 2017.3.22 |
| 小児の気道管理 基礎と大切なこと | 麻酔科 | 香川哲郎 | | 呼吸セミナー in Kobe | 神戸市 | 2017.2.25 |
| 人工呼吸と肺障害 基礎と大切なこと | 麻酔科 | 白川尚隆 | | 呼吸セミナー in Kobe | 神戸市 | 2017.2.25 |
| 小児の開胸心房中隔欠損閉鎖術の術後疼痛管理:術野留置カテーテルによる持続傍脊椎ブロックの有用性 | 麻酔科 | 黒田光朗、白川尚隆、横田有理、飯塚雄介、田中康智、香川哲郎 | 第64回 | 日本麻酔科学会 | 神戸市 | 2017.6.9 |
| 開心術における小児用高容量低圧カフ付きチューブ Microcuff pediatric endotracheal tube の使用経験 | 麻酔科 | 北笠学、藤原孝志、松本祥、森悠、香川哲郎 | 第23回 | 日本小児麻酔学会 | 福岡市 | 2017.10.7 |
| SCN5A 遺伝子変異による先天性QT 延長症候群 type3 を有する児に対する2 回の麻酔経験 | 麻酔科 | 藤原孝志、小川純、神頭彩、飯塚雄介、池島典之、大西広泰 | 第23回 | 日本小児麻酔学会 | 福岡市 | 2017.10.8 |
| 先天性気管狭窄症と心疾患の合併に対し二期的手術を行った症例 | 麻酔科 | 横田有理、池田真悠美、田中康智、末田彩、鹿原史寿子、鈴木毅 | 第23回 | 日本小児麻酔学会 | 福岡市 | 2017.10.7 |
| エプスタイン奇形に対する1.5 心室修復術後の小児に対する側弯症手術の麻酔経験 | 麻酔科 | 山村愛、藤原孝志、桑田繁宗、長谷川達也、白川尚隆、高辻小枝子 | 第23回 | 日本小児麻酔学会 | 福岡市 | 2017.10.8 |
| 安全快適な小児麻酔を求めて ～TIVA やってますか、胸壁聴診器使ってますか～ | 麻酔科 | 香川哲郎 | 第23回 | 日本小児麻酔学会 | 福岡市 | 2017.10.8 |
| 小児緊急手術への第一歩 | 麻酔科 | 長谷川達也 | 第37回 | 日本臨床麻酔学会 | 東京 | 2017.11.4 |
| Effect of perioperative peripheral nerve block for Isaacs syndrome. | 麻酔科 | 長谷川達也 | | American Society of Anesthesiologists | Boston | 2017.10.22 |
| 末梢神経ブロックとアセトアミノフェン静注液を用いたマルチモーダル鎮痛 | 麻酔科 | 香川哲郎 | 第28回 | 日本小児整形外科学会 | 東京 | 2017.12.7 |
| 生後早期にNICU内の手術室で修復術を行った先天性横隔膜ヘルニアの1例 | 新生児科 | 山内貴未、秋田大輔、生田寿彦、武岡恵美子、大久保沙紀、玉置祥子、松井紗智子、李、進剛、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人 | 第270回 | 日本小児科学会 兵庫県地方会 | 尼崎 | 2017.2.18 |
| 総合周産期母子医療センターにおける新生児ドクターカーによる一次搬送入院状況の変化 | 新生児科 | 芳本誠司、山内貴未、生田寿彦、李進剛、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、大久保沙紀、三村仁美、中尾秀人 | 第120回 | 日本小児科学会総会 | 東京 | 2017.4.14-16 |
| 先天性心疾患を合併した極低出生体重児の管理 | 新生児科 | 松井紗智子、山内貴未、李進剛、武岡恵美子、大久保沙紀、玉置祥子、秋田大輔、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人 | 第120回 | 日本小児科学会総会 | 東京 | 2017.4.14-16 |
| 陽圧換気終了後に間質性肺気腫が急速に増悪した早産児例 | 新生児科 | 生田寿彦、玉置祥子、武岡恵美子、大久保沙紀、秋田大輔、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人、菅原勝美、山川勝 | 第120回 | 日本小児科学会総会 | 東京 | 2017.4.14-16 |
| 超早産児の満期時頭部MRIの大脳白質ADC値と3歳時精神運動発達 | 新生児科 | 李進剛、浅野貴大、山内貴未、生田寿彦、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、大久保沙紀、秋田大輔、芳本誠司、中尾秀人 | 第53回 | 日本周産期新生児医学会 | 横浜 | 2017.7.16-18 |
| 超早産児のメトヘモグロビン血症と溶血性貧血の関連についての検討 | 新生児科 | 玉置祥子、武岡恵美子、大久保沙紀、松井紗智子、秋田大輔、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人 | 第53回 | 日本周産期新生児医学会 | 横浜 | 2017.7.16-18 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|------|--|--------|---------------------------|-------|---------------|
| 臍帯血と出生時の新生児血において interleukin-6 値の乖離を認める症例の検討 | 新生児科 | 秋田大輔、山内貴未、生田寿彦、李進剛、武岡恵美子、大久保沙紀、玉置祥子、松井紗智子、三村仁美、芳本誠司 | 第53回 | 日本周産期新生児医学会 | 横浜 | 2017.7.16-18 |
| 超早産児における生後早期の血漿 Na 濃度と水分及び Na 投与量との関係性について | 新生児科 | 生田寿彦、山内貴未、武岡恵美子、大久保沙紀、玉置祥子、松井紗智子、秋田大輔、李進剛、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人 | 第53回 | 日本周産期新生児医学会 | 横浜 | 2017.7.16-18 |
| 重症慢性肺疾患罹患者の呼吸管理の違い(酸素投与とNCPAP)による心負荷への影響 | 新生児科 | 芳本誠司、山内貴未、生田俊彦、李進剛、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、大久保沙紀、秋田大輔、三村仁美、中尾秀人 | 第53回 | 日本周産期新生児医学会 | 横浜 | 2017.7.16-18 |
| 双胎妊娠の至適分娩時期 Late preterm infant は減らせるのか 早期新生児予後からみた双胎妊娠の至適分娩時期についての検討 | 新生児科 | 三村仁美 | 第53回 | 日本周産期新生児医学会 | 横浜 | 2017.7.16-18 |
| 絨毛膜羊膜炎を認めた母体への出生前ステロイドと早産児の予後 | 新生児科 | 横田知之、片岡大、山内貴未、李進剛、松井紗智子、玉置祥子、秋田大輔、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人 | 第62回 | 日本新生児育成医学会 | 埼玉 | 2017.10.12-14 |
| 急性期に NO 吸入療法を施行した超早産児の特徴 | 新生児科 | 芳本誠司、片岡大、山内貴未、李進剛、武岡恵美子、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、中尾秀人 | 第62回 | 日本新生児育成医学会 | 埼玉 | 2017.10.12-14 |
| 超低出生体重児の3歳の身体発育と新生児慢性肺疾患との関連性 | 新生児科 | 玉置祥子、松井紗智子、片岡大、山内貴未、李進剛、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人 | 第62回 | 日本新生児育成医学会 | 埼玉 | 2017.10.12-14 |
| 総合周産期母子医療センターにおける NO 吸入療法の位置づけ—早産児への使用を中心に— | 新生児科 | 芳本誠司 | | さいたま NO 吸入療法研究会 | 埼玉 | 2017.4.21 |
| 兵庫県における2007-2014年の緊急母体搬送の検討 | 産科 | 船越徹 | 平成28年度 | 近畿産婦人科学会日産婦医会委員会母子保健部会 | 大阪市 | 2017.2.4 |
| 平成27年兵庫県周産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書集計結果について | 産科 | 船越徹 | 平成28年度 | 家族計画・母体保護法指導者講習会に伴う伝達講習会 | 神戸市 | 2017.2.26 |
| 平成27年兵庫県周産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書集計結果について | 産科 | 船越徹 | 平成28年度 | 家族計画・母体保護法指導者講習会に伴う伝達講習会 | 西宮市 | 2017.3.2 |
| 平成27年兵庫県周産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書集計結果について | 産科 | 船越徹 | 平成28年度 | 兵庫県周産期母子医療センター・協力病院等連絡懇談会 | 神戸市 | 2017.3.11 |
| 兵庫県における過去8年間の緊急母体搬送の状況 | 産科 | 船越徹 | 平成28年度 | 兵庫県周産期母子医療センター・協力病院等連絡懇談会 | 神戸市 | 2017.3.11 |
| 出生体重格差が30%以上あった二絨毛膜二羊膜性双胎の背景と転機 | 産科 | 船越徹 | 第69回 | 日本産科婦人科学会学術集会 | 広島市 | 2017.4.13-16 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|---------|--------------------------------------|--------|-------------------------------------|-------|--------------|
| 一絨毛膜二羊膜性双胎における1児子宮内死亡15例の背景と転機 | 産科 | 鷺尾佳一、河崎あさひ、森下紀、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹 | 第69回 | 日本産科婦人科学会 学術集会 | 広島市 | 2017.4.13-16 |
| 当院における胎児貧血症例の検討 | 産科 | 河崎あさひ、鷺尾佳一、森下紀、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹 | 第69回 | 日本産科婦人科学会 学術集会 | 広島市 | 2017.4.13-16 |
| 出生体重較差が30%以上あった二絨毛膜二羊膜性双胎児の予後は比較的不良である | 産科 | 船越徹 | 第90回 | 兵庫県産科婦人科学会 学術集会 | 神戸市 | 2017.7.2 |
| 胎児横隔膜ヘルニア47例の背景と転機 | 産科 | 船越徹 | 第53回 | 日本周産期新生児医学会 学術集会 | 横浜市 | 2017.7.16-18 |
| 出生児にBeckwith-Wiedemann症候群を認めた間葉性異形成胎盤の一例 | 産科 | 森下紀、鷺尾佳一、河崎あさひ、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹 | 第53回 | 日本周産期新生児医学会 学術集会 | 横浜市 | 2017.7.16-18 |
| 胎児頭蓋内出血が疑われた症例の臨床像について | 産科 | 牧志綾、鷺尾佳一、河崎あさひ、森下紀、高松祐幸、佐本崇、船越徹 | 第53回 | 日本周産期新生児医学会 学術集会 | 横浜市 | 2017.7.16-18 |
| 一絨毛膜性双胎に関わる病態 | 産科 | 船越徹 | 平成29年度 | 位育会臨床セミナー | 神戸市 | 2017.8.20 |
| 胎児モニタリングと分娩管理 | 産科 | 船越徹 | 平成29年度 | 院内助産所等開設支援 事業 周産期に携わる 方のための研修 | 神戸市 | 2017.8.29 |
| 出生体重較差が30%以上あった二絨毛膜二羊膜性双胎児の予後は比較的不良である | 産科 | 船越徹 | 第58回 | 日本母性衛生学会 学術集会 | 神戸市 | 2017.10.6-7 |
| single shot前後での胎児MRIの変化 | 放射線診断科 | 赤坂好宣 | 第3回 | 胎児MRI研究会学術集会 | 東京 | 2017.2.12 |
| 胎児期・小児期の卵巣腫瘍 | 放射線診断科 | 赤坂好宣 | 第53回 | 日本小児放射線学会学術 集会 | 横浜 | 2017.6.9 |
| 各領域研究の進歩:小児 | 放射線診断科 | 赤坂好宣 | 第2回 | Advanced medical imaging 研究会 | 大阪 | 2017.7.23 |
| 先天性横隔膜ヘルニア症例の胎児MRI肺-肝信号比の検討 | 放射線診断科 | 杉岡勇典 | 第53回 | 日本小児放射線学会 学術集会 | 横浜 | 2017.6.9 |
| 異所性低形成腎の画像的検出 | 放射線診断科 | 杉岡勇典 | 第53回 | 日本医学放射線学会 秋季臨床大会 | 松山 | 2017.9.8 |
| 白血病患児の治療経過中に発症した急性脳症の2例 | 放射線診断科 | 松永卓明 | 第315回 | 日本医学放射線学会 関西地方 | 大阪 | 2017.2.25 |
| 小児耳下腺腫瘍の一例 | 放射線診断科 | 松永卓明 | 第50回 | 兵庫県磁気共鳴医学 研究会 | 神戸 | 2017.7.16 |
| シンポジウム座長 小児集中治療(PICU)診療の品質評価と品質改善の方略 | 小児集中治療科 | 黒澤寛史 | 第44回 | 日本集中治療医学会 | 札幌 | 2017.3.9-11 |
| 一般演題 本邦小児集中治療室における予測死亡率Paediatric Index of Mortality 3の妥当性 | 小児集中治療科 | 黒澤寛史、椎間優子、制野勇介、青木一憲 | 第44回 | 日本集中治療医学会 | 札幌 | 2017.3.9-11 |
| ドクターヘリによる滋賀県・兵庫県間の緊急搬送訓練が効を奏した僧帽弁腱索断裂の乳児症例 | 小児集中治療科 | 青木一憲、制野勇介、椎間優子、長谷川智巳、野澤正寛、黒澤寛史 | 第44回 | 日本集中治療医学会 | 札幌 | 2017.3.9-11 |
| 新病院移転に伴う多数の重症患者搬送における集中治療医の役割 | 小児集中治療科 | 染谷真紀、黒澤寛史、椎間優子 | 第44回 | 日本集中治療医学会 | 札幌 | 2017.3.9-11 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|-------------------------|--|-------|--|--------|---------------|
| 宮城県における過去12年間の小児細菌性髄膜炎の診療実態 | 小児集中治療科 | 楠本耕平 | 第120回 | 日本小児科学会 | 東京 | 2017.4.14-16 |
| 気管狭窄に対する周術期管理 | 小児集中治療科 | 青木一憲 | 第2回 | Critical Kinki Kids | 高槻 | 2017.5.13 |
| 心拍動によるAutotriggering | 小児集中治療科 | 増井美苗、青木一憲、黒澤寛史 | 第2回 | Critical Kinki Kids | 高槻 | 2017.5.13 |
| 当院のヘリ搬送受け入れの現状 | 小児集中治療科 | 黒澤寛史、椎間優子、松井鋭、上谷良行 | 第271回 | 小児科学会兵庫県地方会 | 神戸市 | 2017.5.20 |
| Two center collaboration on debriefer training for nurses | 小児集中治療科 | Ikeyama T, Shiima Y, Kurosawa H | 第9回 | International Pediatric Simulation Symposia and Workshop | Boston | 2017.6.1-3 |
| 心臓外科術後管理におけるiNOの使用～当院の現状と今後の課題～ | 小児集中治療科 | 増井美苗、制野勇介、長谷川智巳、青木一憲、椎間優子、黒澤寛史、村上優、岩城竜馬、日隈知憲、松久弘典、大嶋義博 | | iNO Experts Meeting | 神戸市 | 2017.6.15 |
| 神戸市消防局による小児救急搬送症例の疫学調査 | 小児集中治療科 | 増井美苗、椎間優子、染谷真紀、黒澤寛史 | 第31回 | 日本小児救急医学会 | 東京 | 2017.6.23-25 |
| 先天性気管狭窄の周術期管理と小児集中治療医の役割 | 小児集中治療科 | 青木一憲、制野勇介、椎間優子、長谷川智巳、大片祐一、前田眞作、大嶋義博、黒澤寛史 | 第39回 | 日本呼吸療法医学会 学術集会 | 東京 | 2017.7.15-16 |
| 最新の知見とガイドライン2020に向けての課題 小児の蘇生 | 小児集中治療科 | 黒澤寛史 | 第10回 | 日本蘇生科学シンポジウム | 横浜 | 2017.7.17 |
| 小児集中治療室における医療器具関連感染症サーベイランスと感染対策 | 小児集中治療科 | 楠本耕平 | 第15回 | 県立病院学会 | 三宮 | 2017.9.9 |
| フォロー四徴症術後遠隔期にみられた肺ヘモジデロシスの一例 | 小児集中治療科 | 高寺侑、黒澤寛史、長谷川智巳、椎間優子、青木一憲、制野勇介、田中敏克、三木康暢、津田雅世 | 第1回 | 日本集中治療医学会 関西支部学術集会 | 滋賀 | 2017.11.18 |
| 若手医師向けハンズオン～気管挿管～ | 小児集中治療科 | 青木一憲 | 第25回 | 小児集中治療 ワークショップ | 東京 | 2017.11.18-19 |
| 呼吸管理に難渋した気管無形成症の一例 | 小児集中治療科 | 山下由理子、制野勇介、青木一憲、椎間優子、黒澤寛史 | 第25回 | 小児集中治療 ワークショップ | 東京 | 2017.11.18-19 |
| 先天性気管狭窄症例搬送中のトラブルシューティング | 小児集中治療科、 小児外科 | 染谷真紀、青木一憲、椎間優子、黒澤寛史、横井暁子、前田眞作 | 第25回 | 小児集中治療 ワークショップ | 東京 | 2017.11.18-19 |
| 小児気管・気管支軟化症の重症度に関連するリスク因子の検討 | 小児集中治療科、 小児外科 | 長谷川智巳、大方祐一、制野勇介、青木一憲、椎間優子、黒澤寛史 | 第44回 | 日本集中治療医学会 学術集会 | 札幌 | 2017.3.9 |
| 18トリソミー児に対する肺動脈絞扼術の検討～21トリソミーと比較して～ | 小児集中治療科、 循環器科、心臓血管外科 | 長谷川智巳、佐藤有美、田中敏克、大嶋義博 | 第120回 | 日本小児科学会学術集会 | 東京 | 2017.4.16 |
| 先天性心疾患の周術期に合併する気管・気管支軟化症(パネルディスカッション) | 小児集中治療科 | 長谷川智巳 | 第53回 | 日本小児循環器学会 学術集会 | 浜松 | 2017.7.7 |
| 先天性気管狭窄症に対する気管形成術の予後因子に関する検討 | 小児集中治療科、 小児外科、心臓血管外科 | 長谷川智巳、横井暁子、大嶋義博 | 第53回 | 日本小児循環器学会 学術集会 | 浜松 | 2017.7.7 |
| 心臓血管外科・集中治療医から見たこれからの集中治療体制のあり方(シンポジウム) | 小児集中治療科 | 長谷川智巳 | 第53回 | 日本小児循環器学会 学術集会 | 浜松 | 2017.7.8 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--------------------------------------|--|---|--------|---------------------------|--------|--------------|
| びまん性肺胞出血を繰り返したファロー四徴症の一例 | 小児集中治療科、循環器科、総合診療科 | 長谷川智巳、高寺侑、津田雅世、制野勇介、青木一憲、椎間優子、三木康暢、田中敏克、黒澤寛史 | 第3回 | 日本小児循環器集中治療研究会 | 長野 | 2017.9.9 |
| 神経芽腫群腫瘍のリスク分類と組織分類の検討 | 兵庫県立こども病院 1)病理診断科、 2)血液腫瘍、 3)小児外科、 4)放射線科 | 吉田牧子1)、長谷川大一郎2)、石田敏章2)、横井暁子3)、福澤宏明3)、前田貢作3)、赤坂好宣4)、川崎圭一郎2)、小阪嘉之2) | 第106回 | 日本病理学会総会 | 東京都新宿区 | 2017.4.27-29 |
| 小児脊索腫の3例 | 兵庫県立こども病院 1)病理診断科、 2)検査部 | 吉田牧子1)、山岸真代2) | 第58回 | 日本臨床細胞学会総会(春期大会) | 大阪市 | 2017.5.26-28 |
| リンパ腫の1例 | 兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 血液腫瘍科2)、 放射線科3)、 市立福知山市民病院 病理診断科4) | 吉田牧子1)、石田敏章2)、太原鉄平2)、長谷川大一郎2)、小阪嘉之2)、杉岡勇典3)、赤坂好宣3)、永田昭博4) | 第77回 | 関西小児病理研究会 | 大阪市 | 2017.6.10 |
| 左扁桃腫瘍の1例 | 兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 血液腫瘍科2)、 放射線科3)、 市立福知山市民病院 病理診断科4) | 吉田牧子1)、石田敏章2)、太原鉄平2)、長谷川大一郎2)、小阪嘉之2)、杉岡勇典3)、赤坂好宣3)、永田昭博4) | 平成29年度 | 日本病理学会小児腫瘍組織分類委員会症例検討会 | 福島市 | 2017.9.15 |
| 上行結腸腫瘍の1例 | 兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 小児外科2)、 血液腫瘍科3)、 放射線科4) | 吉田牧子1)、鮫島由友2)、森田圭一2)、前田貢作2)、石田敏章3)、小阪嘉之3)、赤坂好宣4) | 第37回 | 日本小児病理研究会学術集会 | 福島市 | 2017.9.16 |
| 胸腺腫瘍の1例 | 兵庫県立こども病院 病理診断科1)、 放射線科4)、 小児外科5)、 神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科2)、 霧島市立医師会 医療センター 小児外科3) | 吉田牧子1)、今井幸弘2)、連利博3)、赤坂好宣4)、横井暁子5)、前田貢作5) | 第78回 | 日本病理学会近畿支部学術集会 | 神戸市 | 2017.9.9 |
| 在宅支援病棟の取り組み ～病棟開設後1年間の取り組みと今後の課題～ | 5E病棟 | 深江登志子 | 第15回 | 県立病院学会 | 兵庫県 | 2017.9.9 |
| 低出生体重児のスキンケア | 看護部 | 鎌田直子 | 平成28年度 | 愛育会周産期医療研修5看護CコースNICU・大阪編 | 大阪市 | 2017.2.28 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|--------------|----------------|------|-----------------------------|-------|---------------|
| ストーマケア | 看護部 | 鎌田直子 | | 本山第一小学校 ストーマケア研修 | 神戸市 | 2017.4.4 |
| 便失禁の対応失禁用品と洗腸・洗腸方法の実際 | 看護部 | 鎌田直子 | 第22回 | 日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー | 横浜市 | 2017.6.16 |
| 二分脊椎の排泄管理 | 看護部 | 鎌田直子 | | 日本二分脊椎症協会島根支部総会講演会 | 浜田市 | 2017.6.25 |
| ストーマケア | 看護部 | 鎌田直子 | | 三木市立志染保育所 ストーマケア研修 | 三木市 | 2016.7.1 |
| ストーマケア | 看護部 | 鎌田直子 | | たんぼの会夏の レクレーション勉強会 | 神戸市 | 2017.7.8 |
| 当院における二分脊椎の排便管理 | 看護部 | 鎌田直子 | 第76回 | 神経因性膀胱研究会 (第2回高野山排泄セミナー) | 和歌山県 | 2017.8.5 |
| 先天性気管狭窄症の周術期の後頭部褥瘡予防 | 看護部 | 鎌田直子 | 第19回 | 日本褥瘡学会 | 盛岡市 | 2017.9.14 |
| 小児ストーマケア | 看護部 | 鎌田直子 | 第39回 | 関西ストーマケア講習会 | 尼崎市 | 2017.11.3 |
| 低出生体重児のストーマケア | 看護部 | 鎌田直子 | 第8回 | 近畿小児WOCケア勉強会 | 大阪市 | 2017.11.25 |
| ストーマを持つ子どもの集団生活参加への支援 ～保育所、小学校でのストーマケア研修を経験して | 看護部 | 鎌田直子 | 第28回 | 近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会 | 大阪市 | 2017.11.25 |
| 小児関連病棟の医療関連機器圧迫創傷の実態とケア | 看護部 | 鎌田直子 | 第47回 | 創傷治療学会 | 京都市 | 2017.11.28 |
| 若年性特発性関節炎の子どもの生活のしづらさへの支援～親子の認識の違いに着目して～ | 看護部 リウマチ科 | 辻田利香、中岸保夫、笠井和子 | 第61回 | 日本リウマチ学会総会・ 学術集会 | 福岡 | 2017.4.20-22 |
| 継承血友病の子どもと家族への治療選択に関する支援 | 看護部 | 小澤一美 | | 血友病看護フォーラム | 東京 | 2017.7.2 |
| 小児期に1型糖尿病を発症した青年期女性への移行期支援 | 看護部 | 泊菊子 | 第48回 | 日本看護学会 学術集会慢性期看護 | 神戸市 | 2017.8.31-9.1 |
| 小児がん拠点病院が主催する小児がん研修の効果 | 看護部 | 中谷扶美 | 第39回 | 近畿小児血液・がん研究会 | 奈良 | 2017.2.15 |
| 恐怖心の強い外来化学療法を受ける子どもと家族への支援 | 看護部 | 小澤一美 | 第45回 | 小児神経外科学会 | 神戸市 | 2017.6.2 |
| 小児がん拠点病院におけるがんサロンの取り組み | 看護部 | 中谷扶美 | 第14回 | 県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.6 |
| シンポジウム「子どもを笑顔にする技」 シンポジスト「外来で小児がん治療を受ける子どもと家族を笑顔にするために」 | 看護部 | 中谷扶美 | 第27回 | 小児看護学術集会 | 京都 | 2017.8.20 |
| 看護フォーラム「看護ネットワーク」 シンポジスト「近畿ブロックの取り組みと近隣ブロックとの連携」 | 看護部 | 中谷扶美 | 第15回 | 小児がん看護学会 | 愛媛 | 2017.11.11 |
| 当院における抗菌薬の適正使用に対して、チームとして活動し達成できたこと | 薬剤部 | 三輪祐太郎 | 第32回 | 日本環境感染学会 | 神戸市 | 2017.2.24-25 |
| 薬剤師の介入により小児がん治療でのアザシチジン末梢投与による投与部位痛の除去に成功した一例 | 薬剤部 | 永井浩章 | 第38回 | 日本病院薬剤師会 近畿学術大会 | 大阪 | 2017.2.25-26 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|-------|---|------|-----------------------|-------|---------------|
| 散剤調剤ロボットの導入における作業効率化とリスク軽減について | 薬剤部 | 中西有璃 | 第38回 | 日本病院薬剤師会 近畿学術大会 | 大阪 | 2017.2.25-26 |
| 対策立案シートを活用したより実効性のあるヒヤリ・ハット防止対策への取り組み | 薬剤部 | 上田里恵 | 第15回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.9 |
| こども病院におけるASP推進への取り組み | 薬剤部 | 廣瀬晃子 | 第15回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.9 |
| 小児専門病院における病棟薬剤業務について | 薬剤部 | 野田有貴子 | 第15回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.9 |
| 骨髄移植後の急性GVHDに対し介入を行った症例 | 薬剤部 | 研真梨子 | 第15回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.9 |
| 当院作成「小児に対するGM-TDMレジメン」の有用性 | 薬剤部 | 三輪祐太郎 | 第49回 | 日本小児感染症学会 総会・学術集会 | 金沢 | 2017.10.21-22 |
| 小児在宅静脈栄養における薬剤師の取り組み | 薬剤部 | 愛甲佳未 | 第14回 | 日本在宅静脈経腸 栄養研究会学術集会 | 大阪 | 2017.11.4 |
| 小児がん化学療法化学療法レジメン管理の電子カルテシステムの導入について | 薬剤部 | 坂本有里恵 | 第27回 | 日本医療薬学会年会 | 千葉 | 2017.11.3-5 |
| 小児在宅静脈栄養における薬剤師の取り組み | 薬剤部 | 愛甲佳未 | 第14回 | 日本在宅静脈経腸 栄養研究会学術集会 | 大阪 | 2017.11.4 |
| 血液像好中球系細胞の分類 ～自施設内での目合わせの試み～ | 検査部 | 幸福淳子 | 第3回 | 兵庫技西播地区研修会 | 姫路 | 2017.5.7 |
| ノンダウンのM7の一例 | 検査部 | 瀧本良実 | 第4回 | 兵庫技血液検査研修会 | 神戸市 | 2017.7.11 |
| 生理検査室における急変時の対応 ～看護部とのシミュレーションを実施して～ | 検査部 | 橋本恵美、大島佳那子、笹川のせ子、山本正子、 山崎美保、藤本恵子、山岸真代、幸福淳子 | 第15回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.9 |
| 小児血液培養ボトルの接種量と陽性率の関係 | 検査部 | 亀山和明、河村規子、大上朋子、笠井正志、 伊藤雄介 | 第15回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.9 |
| こども病院における最小限の採血量で測定するための工夫 | 検査部 | 芳井佳奈、大下伸子、佐野恵子、筑紫和江、 瀧本良実、野口啓子、山内由里子、幸福淳子 | 第15回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.9 |
| 施設紹介 | 放射線部 | 佐藤衣莉 | 第48回 | 兵庫県立病院画像部会 | 神戸市 | 2017.1.21 |
| DEX法における体動時スキャンモードの検討 | 放射線部 | 佐藤衣莉 | 第47回 | 兵庫県立病院放射線技 師研修会 | 神戸市 | 2017.7.15 |
| 仰臥位低血圧症候群予防体位の定量評価 ～MRを用いて～ | 放射線部 | 田高将行 | 第15回 | 県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.9 |
| こどもと親の心に寄り添った一般撮影 | 放射線部 | 田中千弘 | | デジタル一般撮影 ミーティング | 神戸市 | 2017.9.9 |
| 小児の放射線検査について | 放射線部 | 山崎敏弘 | | 医工連携人材育成セミナー | 神戸市 | 2017.10.7 |
| 当院におけるT2強調呼吸同期撮像の初期検討 | 放射線部 | 沼田憲作 | 第29回 | 全国自治体病院学会 | 千葉 | 2017.10.20 |
| こども病院におけるカテーテル検査・治療の現状 | 放射線部 | 原誠 | 第50回 | 兵庫県立病院血管造 影部会 | 神戸市 | 2017.12.2 |
| 小児のメタボリックシンドロームの栄養管理 | 栄養管理課 | 鳥井隆志 | 第20回 | 日本病態栄養学会 学術総会 | 京都 | 2017.1.15 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|--------------|---|--------|--|-------|------------|
| 小児医療におけるチーム医療の推進 NSTにおけるチーム医療 | 栄養管理課 | 鳥井隆志 | 第120回 | 日本小児科学会学術集会 | 東京 | 2017.4.15 |
| 管理栄養士の立場から動脈硬化診療に関わる | 栄養管理課 | 鳥井隆志 | 第49回 | 日本動脈硬化学会学術集会診断技術向上セミナー ナーメディカルスタッフセッション | 広島 | 2017.7.6 |
| 重症者の摂食・栄養 ～管理栄養士の観点から～ | 栄養管理課 | 鳥井隆志 | 第4回 | 小児在宅医療技術講習会 | 神戸市 | 2017.11.14 |
| 看護部長会地域連携委員会における地域包括ケア推進への取り組み ～看護実践力の向上と専門性の発揮を目指して～ | 家族支援・地域医療連携部 | 藤本美生、大谷サエ子、福田和美、谷口光子、和田雅代、細川員巳、上西美奈子、井口綾子、橋本ひとみ、村井美加、長谷川智晴、三木真由美、皮居敬子、江角美紀恵、藤久保真季 | 平成29年度 | 県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.9 |
| 医療福祉相談員のステップアップに関する取り組み ～代表者会議によるステップアップ表と評価表の作成～ | 家族支援・地域医療連携部 | 古家英敬、柿坪利江、畑裕美、池田祥子、肥塚真由美、小橋諒子、佐々木枝里、安永環子、橋本ひとみ、上西美奈子、大谷サエ子、福田和美 | 平成29年度 | 県立病院学会 | 神戸市 | 2017.9.9 |

4) 報道

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 報道媒体 | 報道年月日 |
|---------------------------------------|---------|-------|---|------------|
| 成人後支える専門外来・神戸大学に開設、 こども病院と連携 | 循環器内科 | 城戸佐知子 | 神戸新聞 (朝刊24面「からだ」) | 2017.4.15 |
| 重い心臓病の子、悩み共有を・県立こども 病院で患者教室 | 循環器内科 | 城戸佐知子 | 神戸新聞 (朝刊15面「からだ」) | 2017.9.7 |
| 薬剤耐性菌 | 感染症科 | 笠井正志 | ちちんぷいぷい、 Today's VOICE | 2017.4.3 |
| 感染性胃腸炎 | 感染症科 | 笠井正志 | 神戸新聞 新ひょうごの医療 | 2017.11.11 |
| 鯉耳腎 (BOR) 症候群とは？ 難聴、腎臓病を 引き起こす希少疾患 | 臨床遺伝科 | 森貞直哉 | メディカルノート (https://medicalnote.jp/contents/170831-004-RW) | 2017.8.31 |
| 小さな命の最後の砦 子供たちを救え 小児 集中治療 | 小児集中治療科 | 黒澤寛史 | テレビ大阪 | 2017.7.7 |

5) 実習生・研修生受け入れ状況

①実習生

診療部

| 学校名 | 実習名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|-----------------------|-----------|------|------------------|-----------------------------------|
| 熊本大学 | 小児外科 BSL | 3 | 1週間 | 小児外科 |
| 神戸大学 | 6年生学外実習 | 1 | 2週間 | 小児外科 |
| 神戸大学医学部 | BSL 実習 | 110 | 2017年4月 -2018年2月 | 整形外科外来および手術室 |
| 神戸総合医療専門学校 | 言語聴覚士学生実習 | 1 | 2.6-2.14 | リハビリテーション科および耳鼻咽喉科 外来・病棟・手術室見学 |
| 神戸総合医療専門学校 | 言語聴覚士学生実習 | 1 | 8.21-9.22 | リハビリテーション科および耳鼻咽喉科 外来・病棟・手術室見学 |
| 神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科 | 歯科衛生士学生実習 | 2 | 4.31-5.19 | 歯科外来・他 |
| 神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科 | 歯科衛生士学生実習 | 2 | 5.30-6.23 | 歯科外来・他 |
| 神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科 | 歯科衛生士学生実習 | 2 | 7.4-7.28 | 歯科外来・他 |

看護部

| 学校名 | 実習名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|---------------|--------------|------|------------------|--------------------------|
| 兵庫県立大学看護学部 | 総合看護（小児 ab） | 8 | 5.22-6.15(16日間) | 病棟（7E、6W、5W） |
| | 生涯広域看護 | 25 | 7.10-7.20(8日間) | 病棟（7W、6W、5E、HCU）産科病棟、GCU |
| | 生涯広域看護 | 17 | 10.2-10.12(8日間) | 病棟（7E、6W、5W、HCU） |
| | 生涯広域看護 | 25 | 10.16-10.26(8日間) | 病棟（7W、6W、5W、HCU）産科病棟、GCU |
| | 生涯広域看護 | 25 | 10.30-11.9(8日間) | 病棟（7W、7E、5E、HCU）産科病棟、GCU |
| | 生涯広域看護 | 24 | 11.13-11.23(8日間) | 病棟（7E、6W、5W、5E）産科病棟、GCU |
| | 生涯広域看護 | 24 | 11.27-12.7(8日間) | 病棟（7W、5W、5E、HCU）産科病棟、GCU |
| | 総合看護（母性 ab） | 5 | 5.22-6.15(16日間) | 産科病棟 |
| | 生涯広域看護（母性） | 8 | 6.26-7.6(8日間) | 産科病棟、新生児 |
| | 生涯・広域健康看護講座Ⅱ | | 3 | 8.21-9.8(5日間) |
| | | 2 | 8.14-9.6(13日間) | 産科病棟 |
| 兵庫県立大学院看護学研究科 | 小児看護学専攻 | 1 | 8.2-2.28(39日間) | 産科病棟、病棟（5W、5E） |
| | 母性看護学専攻 | 1 | 4.14- 7.28(23日間) | 産科病棟 |

| 学 校 名 | 実 習 名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|-----------------|----------------|------------|--|-----------------|
| 兵庫県立総合衛生学院 | 小児看護学（看護学科全日制） | 6 | 9.5-9.15(8日間) | 病棟（5W、5E） |
| | 小児看護学（看護学科全日制） | 6 | 9.19-9.29(8日間) | 病棟（5W、5E） |
| | 小児看護学（看護学科定時制） | 6 | 8.29-9.8(8日間) | 病棟（6W、6E） |
| | 小児看護学（看護学科定時制） | 6 | 9.12-9.22(8日間) | 病棟（6W、6E） |
| | 小児看護学（看護学科定時制） | 6 | 10.17-10.27(8日間) | 病棟（5W、5E） |
| | 助産学科 | 4 | 10.3-10.5 | GCU |
| | 助産学科 | 2 | 1.10-1.12 | GCU |
| | 助産学科 | 3 | 1.17-1.19 | GCU |
| | 看護学科定時制（母性） | 5 | 8.21-8.23 | 産科病棟 |
| | 看護学科定時制（母性） | 6 | 11.6-11.8 | 産科病棟 |
| 神戸常磐大学 | 総合実習 | 8 | 6.12-6.23 | 病棟（7W、6E） |
| 神戸常磐短期大学部 | 短期大学通信制課程 | 8 | 8.17-8.18 | 病棟（7W、7E、6E、5W） |
| 近大姫路大学 | 統合実習 | 3 | 6.19-6.30 | 病棟（7E） |
| | こども看護 | 6 | 10.30-11.2 | 病棟（6E） |
| | こども看護 | 6 | 11.13-11.17 | 病棟（6E） |
| | こども看護 | 6 | 11.27-12.1 | 病棟（6E） |
| | こども看護 | 6 | 12.11-12.15 | 病棟（6E） |
| | こども看護 | 6 | 1.29-2.2 | 病棟（6E） |
| 関西国際大学 | 統合看護実習（母性看護学） | 3 | 8.28-9.13(10日間) | 産科病棟、GCU |
| 神戸市看護大学 | ウィメンズヘルス看護 | 3×7 2×1 | 9.25・26、27・28、10.10・11、12・13、 16・17、18・19、23・24、25・26 | GCU |
| 神戸市看護大学大学院看護研究科 | 小児看護学専攻分野 | 1 | 6.12-12.5(22日間) | GCU |
| | | 1 | 7.18-8.9(8日間) | GCU |
| | | 1 | 7.10-8.31(7日間) | GCU |
| 神戸女子大学 | 成育看護実習Ⅱ（小児） | 12 | 7.24-8.3(8日間) | 病棟（6E、5E） |
| | 成育看護実習Ⅱ（小児） | 11 | 10.2-10.12(7日間) | 病棟（6E、6E） |
| 川崎医療短大 | 保育学科 | 3 | 8.21-9.1(10日間) | 病棟（7E、6W、6E） |
| | 保育学科 | 3 | 9.4-9.15(10日間) | 病棟（6W、6E、5E） |
| 姫路獨協大学 | こども保健学科 | 1 | 2.5-2.19(10日間) | 病棟（6W） |

| 学 校 名 | 実 習 名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|------------|---------|------|------|------|
| 松江総合医療専門学校 | 看護学科 見学 | 75 | 8.25 | |
| 平成淡路看護専門学校 | 看護学科 見学 | 39 | 1.23 | |
| 阪奈中央看護学校 | 看護学科 見学 | 38 | 2.23 | |
| 大同大学校 | 看護学科 見学 | 41 | 7.24 | |

薬剤部

| 学 校 名 | 実 習 名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|---------|---------|------|------------|----------|
| 神戸薬科大学 | 薬学生実務実習 | 2 | 1.10-3.27 | 薬剤部と主な部署 |
| 神戸学院 | 薬学生実務実習 | 1 | 1.10-3.27 | 薬剤部と主な部署 |
| 神戸薬科大学 | 薬学生実務実習 | 1 | 4.12-7.2 | 薬剤部と主な部署 |
| 神戸学院 | 薬学生実務実習 | 1 | 4.12-7.2 | 薬剤部と主な部署 |
| 武庫川女子大学 | 薬学生実務実習 | 1 | 4.12-7.2 | 薬剤部と主な部署 |
| 神戸薬科大学 | 薬学生実務実習 | 1 | 7.3-9.24 | 薬剤部と主な部署 |
| 神戸学院 | 薬学生実務実習 | 1 | 7.3-9.24 | 薬剤部と主な部署 |
| 武庫川女子大学 | 薬学生実務実習 | 1 | 7.3-9.24 | 薬剤部と主な部署 |
| 神戸薬科大学 | 薬学生実務実習 | 2 | 9.25-12.10 | 薬剤部と主な部署 |
| 神戸学院 | 薬学生実務実習 | 2 | 9.25-12.10 | 薬剤部と主な部署 |

検査・放射線部（検査）

| 学 校 名 | 実 習 名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|-------------------|-----------|------|-------------|------|
| 神戸学院大学栄養学部栄養学科 | 臨床検査 臨地実習 | 2 | 1.6-1.27 | 検査部 |
| 神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 | 臨床検査 臨地実習 | 2 | 1.11-3.7 | 検査部 |
| 神戸学院大学栄養学部栄養学科 | 臨床検査 臨地実習 | 1 | 8.1-8.15 | 検査部 |
| 神戸大学医学部保健学科 | 臨床検査 臨地実習 | 2 | 10.31-11.17 | 検査部 |
| 神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 | 臨床検査 見学 | 12 | 6.13 | 検査部 |
| 山陽女子短期大学臨床検査学科 | 臨床検査 見学 | 1 | 8.17 | 検査部 |

栄養管理課

| 学校名 | 実習名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|----------|-----------|------|-----------|-------|
| 神戸松蔭女子大学 | 臨床栄養学臨地実習 | 2 | 5.15-5.26 | 栄養管理課 |
| 武庫川女子大学 | 臨床栄養学実習 | 2 | 5.29-6.9 | 栄養管理課 |
| 神戸学院大学 | 管理栄養士臨地実習 | 2 | 6.19-6.30 | 栄養管理課 |
| 神戸女子大学 | 臨床栄養学臨地実習 | 3 | 8.21-9.1 | 栄養管理課 |
| 甲子園大学 | 臨床栄養学臨地実習 | 2 | 9.25-10.6 | 栄養管理課 |

②研修生

診療部

| 依頼元 | 研修科 | 研修生数 | 研修期間 | 研修場所 |
|---------------|-----------------------|------|--------------------------------|-------------|
| 六甲アイランド病院 | 感染症科研修 | 1 | 2017年1月-12月の不定期 | 感染症科、微生物検査室 |
| 公立豊岡病院 | 感染症科研修 | 1 | 2017年1月-12月の不定期 | 感染症科、微生物検査室 |
| 姫路赤十字病院 | 感染症科研修 | 1 | 2017年1月-12月の不定期 | 感染症科、微生物検査室 |
| 県立がんセンター | 小児外科研修 | 2 | 1週間 | 小児外科 |
| 県立西宮病院 | 小児外科研修 | 1 | 1週間 | 小児外科 |
| フィリピン総合病院 | 小児外科研修 | 1 | 8週間 | 小児外科 |
| 神戸赤十字病院 | 平成29年度1年目初期研修医ローテーション | 6 | 2017年6・10・11・12・2018年1・2月に1名ずつ | 産科 |
| 尼崎総合医療センター小児科 | 小児放射線診断研修 | 2 | 3か月、4か月 | 超音波室、読影室 |
| 淡路医療センター放射線科 | 小児放射線診断研修 | 3 | 3か月（週1回） | 超音波室、読影室 |

検査・放射線部（検査）

| 依頼元 | 研修名 | 研修生数 | 研修期間 | 研修場所 |
|------------------|----------|------|------|------------|
| 県立尼崎総合医療センター | 小児の聴力検査 | 2 | 4.21 | 検査部（生理検査室） |
| 神戸市立医療センター中央市民病院 | 輸血業務 | 3 | 7.13 | 検査部（輸血検査室） |
| 県立加古川医療センター | 細菌検査システム | 2 | 9.25 | 検査部（細菌検査室） |

③長期院外研修

診療部

| 学校名 | 実習名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|----------|-----------------------|------|-------------------|------|
| シアトル小児病院 | シアトル小児病院長期研修（血液・腫瘍内科） | 田村彰広 | 2017.5.8-2017.6.2 | |
| シアトル小児病院 | シアトル小児病院長期研修（麻酔科） | 末田彩 | 2017.5.8-2017.6.2 | |

6) 研修 (2017年)

1) 公開研修会

| 名称 | 主催 | 開催日 | 時間 | 場所 | 院内 参加数 | 院外 参加数 | 合計 | テーマ | 発表者/担当 | 所属科名 |
|---------------------|---------|--------|-------------|------|-----------|-----------|----|--|--------------|----------------|
| 第230回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 1月12日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 22 | 7 | 29 | 救急における整形外科疾患 | 山本哲也 | 整形外科 |
| 第231回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 1月26日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 22 | 11 | 33 | 「心因性〇〇」って？こどもの心因性の身体症状の 診方 | 玉岡文子 | 精神神経科 |
| 第232回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 2月9日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 23 | 5 | 28 | 重症RS感染症に対する治療戦略 | 青木一憲 | 小児集中治療科 |
| 第233回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 2月23日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 17 | 1 | 18 | 当院における自発運動 (general movements) 評価 の紹介 | 細川泰徳 | リハビリテーシ ョン科 |
| 第234回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 3月9日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 18 | 6 | 24 | 小児脳腫瘍例における長期フォローアップについて | 河村淳史 | 脳神経外科 |
| 第235回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 3月23日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 17 | 0 | 17 | 当院の在宅推進病棟の役割 | 藤田杏子 | 救急総合診療科 |
| 第236回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 4月27日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 41 | 5 | 46 | インフルエンザ感染を契機に診断した上縦隔原発神 経芽腫 | 田村彰広 | 血液・腫瘍内科 |
| 第237回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 5月25日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 19 | 2 | 21 | 上気道狭窄症状で転院になった1例 | 松井鋭 | 救急総合診療科 |
| 第238回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 6月8日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 18 | 2 | 20 | インフルエンザ罹患後に発症した出血性十二指腸潰 瘍の1幼児例 | 矢部清晃 | 小児外科 |
| 第239回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 7月13日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 33 | 2 | 35 | 耐性菌が怖いから、カルバペネムがいいんじゃない ？ | 伊藤雄介 | 感染症科 |
| 第240回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 7月28日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 35 | 2 | 37 | 知っておくと得をする小児頭部画像診断 | 杉岡勇典 | 放射線科 |
| 第241回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 8月10日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 21 | 0 | 21 | 新生児嘔吐症の1例 | 山内貴未 | 新生児科 |
| 第242回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 8月24日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 23 | 1 | 24 | 乳児期早期に手術介入を要した症例 ～生直後に見逃しやすい重症先天性心疾患～ | 岩城隆馬 | 心臓血管外科 |
| 第243回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 9月14日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 20 | 1 | 21 | 【鼻出血を繰り返す9歳女児】 【学童・思春期の慢性疾患を持つ患者の看護】 | 近藤聖耶 栗林佑季 | リウマチ科 |
| 第244回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 9月28日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 17 | 3 | 20 | 小児科医が遭遇する整形外科疾患 | 向原伸太郎 | 整形外科 |
| 第245回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 10月12日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 31 | 3 | 34 | 血漿交換により速やかに心収縮の改善を得た川崎病 合併の重症心筋炎 | 三木康暢 | 循環器内科 |
| 第246回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 10月26日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 25 | 3 | 28 | 小児神経外科初診外来の日常：腰部皮膚病変につ いて | 小山淳二 | 脳神経外科 |

| | | | | | | | | | | |
|---------------------------|---|--------|-------------|------------------------|----|-----|-----|---|------------------------------|---|
| 第247回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 11月9日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 15 | 1 | 16 | ノンアドヒアランスにより早期に末期腎不全に至った非神経因性神経因性膀胱とIgA腎症合併女児の一例 | 稲熊洋祐 | 腎臓内科 |
| 第248回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 12月14日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 15 | 0 | 15 | 心因性視力障害の臨床経過と内的要因の検討 | 柳澤翠芳 | 眼科 |
| 第249回 こども病院症例検討会 | 研修教育委員会 | 12月28日 | 17:45～18:30 | 2階講堂 | 25 | 4 | 29 | 糖尿病診療の変革 食事・薬そして血糖測定まで | 奥野美佐子 | 代謝内分泌科 |
| 兵庫こども AMRセミナー | 抗菌薬適正使用 チーム | 3月5日 | 18:00～20:00 | 2階講堂 | 36 | 9 | 45 | こどもの抗菌薬適正使用の今を知る | 三輪 | 薬剤部 |
| 兵庫周産期医療 研修会 | こども病院 | 12月9日 | 14:00～17:30 | 兵庫県 医師会館 | 20 | 75 | 95 | 哺乳障害のある児への言語聴覚士の関わり方 | 小松岳 | リハビリテーション科 |
| 訪問看護師研修 (リハビリ関連) | こども病院 看護部 | 1月20日 | 10:00～12:30 | 訪問看護 ステーション りはりは | 1 | 12 | 13 | 小児リハビリテーション～姿勢保持・移乗～ | 中田潔樹 | リハビリテーション科 |
| 訪問看護師研修 (リハビリ関連) | こども病院 看護部 | 10月17日 | 10:00～11:00 | 2階講堂 | 1 | 16 | 17 | 小児リハビリテーション～姿勢保持・移乗～ | 中田潔樹 | リハビリテーション科 |
| 平成29年度兵庫県 周産期医療研修会 | 産科・ 新生児内科 | 12月9日 | 14:00～17:30 | 兵庫県 医師会館 | 20 | 75 | 95 | 1) 新生児哺乳障害 2) 哺乳障害のある児への言語聴覚士の関わり方 3) 特別講演「最近の妊娠高血圧症候群の話題 —PIHからHDPへ—」 | 1) 横田知之 2) 小松岳 3) 山崎峰夫 | 1) 新生児内科 2) リハビリテーション科言語 聴覚士 3) パルモア病 院院長 |
| 小児敗血症セミナ ー | 小児感染症学会 | 7月17日 | 13:00～17:00 | 2階講堂 | 20 | 100 | 120 | 小児敗血症 | 笠井 / 伊藤 | 感染症科 |
| NCPR A コース | 新生児科 | 5月28日 | 12:30～17:45 | 2階講堂 | 14 | 4 | 18 | NCPR A コース | 井谷 / 梁 | 新生児科 |
| 予防接種基礎講座 | 予防接種センター | 2月3～4日 | 9:00～17:00 | 2階講堂 | 5 | 35 | 40 | 予防接種の基礎 | 笠井 / 倉橋 | 感染症科、 総合診療科 |
| 小児外科セミナー in KOBE | 小児外科セミナー in KOBE 実 行委員会 / テル モ株式会社 | 10月6日 | 17:30～ | 2階講堂 | 80 | 1 | 81 | 先天性気管狭窄症に対する周術期管理～小児集中治療医の役割～ | 青木一憲 | 小児集中治療科 |
| 栄養管理勉強会 | 栄養管理課 | 6月1日 | 17:30～18:30 | 2階講堂 | 22 | 14 | 36 | 乳幼児の摂食機能の発達と障害 | 小松岳 | リハビリテーション科 |
| 平成29年度第1回在宅 医療関係者研修会 | 看護部 地域連携委員会 | 9月30日 | 13:30～16:00 | 2階講堂 | 20 | 14 | 34 | ①事例検討 ②GW | 看護部地域 連携委員会 研修G | |
| 2017年度小児がん 看護研修 基礎編 | 看護部 がん相談支援室 緩和ケアチーム | 7月22日 | 10:00～16:30 | 2階講堂 | 14 | 60 | 74 | 小児がんの特徴と最新の動向 小児がんの代表的疾患と治療概論 小児がん看護概論 小児がんをもつ子どもの症状マネジメント | 小阪嘉之 石田敏章 中谷扶美 塚田友紀 | 血液腫瘍内科 看護部 |

| | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|---------------------------|--------|-------------|-----------------|----|----|----|---|----------------------|---|
| 2017年度小児がん 看護研修 実践編① | 看護部 がん相談支援室 緩和ケアチーム | 9月16日 | 13:00～16:45 | 2階講堂 | 17 | 24 | 41 | 小児がんの放射線療法 粒子線治療概論 粒子線治療をうける患者の看護 | 副島俊典 出水祐介 藤本美生 | 県立がんセンター 放射線治療科 県立粒子線医療 センター放射線科 県立粒子線医療 センター看護部 |
| 2017年度小児がん 看護研修 実践編② | 看護部 がん相談支援室 緩和ケアチーム | 10月7日 | 13:00～16:45 | 2階講堂 | 14 | 38 | 52 | 終末期にある子どもと家族の看護 | 松岡真里 | 高知大学准教授 |
| 2017年度小児がん 看護研修 実践編③ | 看護部 がん相談支援室 緩和ケアチーム | 11月18日 | 13:00～16:15 | 2階講堂 | 13 | 29 | 42 | 小児がんをもつ子どもの補完代替療法 | 三宅一代 | 社会福祉法人芳友 にこにこハウス 医療福祉センター 施設教育担当課 長兼在宅支援部 |
| 兵庫小児感染症セ ミナー | 感染症科 | 6月11日 | 9:00～16:00 | 神戸中央 市民病院 | 10 | 55 | 65 | 小児感染症の基礎を学ぶ | 笠井 / 伊藤 | 感染症科 |
| 兵庫小児感染症セ ミナー SHIPs | KPIC | 2月26日 | 9:00～12:20 | 2階講堂 | — | — | — | 臨床と検査室をつなぐ症例検討会 | 楠本耕平 | 小児集中治療科 |
| 虐待防止勉強会 | 虐待防止委員会 | 10月11日 | 17:30～ | 3階講堂 | — | — | — | こども虐待を見逃さないために | 上村克徳 | 救急総合診療科 |
| 地域における虐待 ケースへの支援の あり方 | 清水丘学園 | 7月26日 | 13:00～17:00 | 明石市生涯学 習センター | — | — | — | 医療機関での虐待疑い対応 | 宅見晃子 | 家庭支援・地域 医療連携部 |
| 中央区地域医療連 携協議会セミナー | 神戸市中央区医 師会 | 9月15日 | 13:00～17:00 | 神戸市医師会 館 | — | — | — | こども病院の紹介 | 宅見晃子 | 家庭支援・地域 医療連携部 |
| 大阪ショートステ イ協議会講演会 | 大阪ショールス テイ協議会 | 11月10日 | 13:00～17:00 | 大阪市 | — | — | — | 三次病院の退院支援 | 宅見晃子 | 家庭支援・地域 医療連携部 |

2) 院内全体研修

| 名称 | 主催 | 開催日 | 時間 | 場所 | 参加数 | テーマ | 講師/発表者 | 所属 |
|-------------------------|-------------|----------------|------------------|------------|---------------------------|--|-------------------------------------|---------------------------|
| 平成28年度第2回医療安全研修会 | 医療安全対策室 | 3月14日 | 17:30~19:00 | 2階講堂 | 241 | 各部門の安全への取り組み 医療事故調査制度導入から1年 | 各部門リスクマネージャー 田中亮二郎 | 医療安全部長 |
| 平成29年度第1回医療安全研修会 | 医療安全対策室 | 9月15日 | 17:30~19:00 | 2階講堂 | 685 (DVD 視聴を 含む) | 小児の安全管理 | 戸澤啓一 | 名古屋市立大学 病院医療安全 分野教授 |
| M&Mカンファレンス | 医療安全対策室 | 12月21日 | 17:30~18:30 | 2階講堂 | 77 | 重症腹部外傷の1事例 | 梶原啓一 鴻池善彦 | 小児外科 小児集中治療科 |
| 新規採用医師 感染対策オリエンテーション | 感染対策 委員会 | 4月3日 | 10:10~10:30 | 2階講堂 | 40 | 小児専門病院の感染対策 | 笠井正志 | 感染対策チーム |
| 第1回全職員対象感染対策研修会 | 感染対策 委員会 | 5月24日 | 17:30~18:30 | 2階講堂 | 287 | カテーテル関連血流感染症の実際 -beyond the guidelines- | 倉井華子 | 静岡がんセンター |
| 第2回全職員対象感染対策研修会 | 感染対策 委員会 | 11月30日 | 17:30~18:30 | 2階講堂 | 323 | 当院における感染管理の現状と問題点 | 笠井正志 鳴滝由佳 新谷茜 リンクナース 3名 | 感染対策チーム 看護部感染対策 委員会 |
| 第2回全職員対象感染対策研修 視聴会 | 感染対策 委員会 | 12月11日 ~21日 | 17:30~18:30 外 | 看護部 会議室 | 343 | 当院における感染管理の現状と問題点 | 鳴滝由佳 | 感染対策チーム 看護部感染対策 委員会 |
| クリニカルパス大会 | クリニカルパス委員会 | 9月21日 | 17:30~19:00 | 2階講堂 | 82 | クリニカルパス、中央市民病院小児科での始まりと現在の運用 | 田中裕也 岸本健治 | 中央市民病院 |
| METWG勉強会 | 呼吸療法委員会 | 9月19日 | 17:00~18:00 | 2階講堂 | | 院内救急対応システム導入について | 制野勇介 | 小児集中治療科 |
| 院内講演会 | 手術室運営委員会 | 6月2日 | 17:30~19:00 | 2階講堂 | 50 | 術後リカバリー (Post Anesthesia Care Unit:PACU) | 仙頭佳起 | 名古屋市立大学 麻酔科助教 |
| NCPR Sコース | NICU | 8月6日 | 13:00~16:00 | 2階講堂 | 12 | NCPR Sコース | 井谷/梁 | NICU |
| NCPR Aコース | NICU | 11月26日 | 12:30~17:45 | 2階講堂 | 18 | NCPR Aコース | 井谷/梁 和久/松田 | NICU |

3) 複数科合同カンファレンス

| 名 称 | 対象科 | 開催日 | 時 間 | 場 所 | 参加数 | テーマ | 発表者/担当 |
|--------------------|---|--------|-------------|---------------|-----|--------------------------|---------|
| 第1回総合診療科M&Mカンファレンス | 集中治療科、 リウマチ科、 専攻医 | 5月26日 | 17:30 | カンファレン ス室3 | 20 | 川崎病治療の標準化 | 救急総合診療科 |
| 第2回総合診療科M&Mカンファレンス | HCU看護師、専攻医 | 6月20日 | 17:30 | カンファレン ス室3 | 30 | 虐待疑い事例の振り返り | 救急総合診療科 |
| 第3回総合診療科M&Mカンファレンス | 集中治療科、 専攻医、 家族支援室 | 10月16日 | 17:30 | カンファレン ス室3 | 30 | 家庭内での重大な事故の入院例をどのように扱うか | 救急総合診療科 |
| 第4回総合診療科M&Mカンファレンス | 集中治療科、専攻医、 HCU看護師 | 10月31日 | 17:30 | カンファレン ス室3 | 30 | バイタルサイン変化の早期認識と医療者間の情報共有 | 救急総合診療科 |
| 第5回総合診療科M&Mカンファレンス | 専攻医、HCU看護師 | 12月27日 | 17:30 | スキルラボ | 20 | 気管カニューレ予定外抜管、CPA事例 | 救急総合診療科 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、眼科、 脳神経外科、小児外科 | 1月6日 | 17:30-19:00 | 研修室C | 32 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、形成外科、 脳神経外科、小児外科 | 1月13日 | 17:30-19:00 | 研修室C | 30 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科 | 1月20日 | 17:30-18:30 | 研修室C | 28 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、整形外科、 脳神経外科、小児外科 | 1月26日 | 17:30-18:45 | 研修室C | 32 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 救急集中治療科 | 2月3日 | 17:30-18:00 | 研修室C | 30 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、形成外科、 脳神経外科、小児外科、 眼科 | 2月10日 | 17:30-19:00 | 研修室C | 34 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 眼科 | 2月17日 | 18:00-19:00 | 研修室C | 30 | 治療方針の確認 | 各担当医 |

| | | | | | | | |
|-----------|---|-------|-------------|------|----|---------|------|
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 脳神経外科 | 2月23日 | 17:30-18:30 | 研修室C | 30 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 眼科、耳鼻咽喉科、 泌尿器科、脳神経外科、 眼科、産婦人科 | 3月2日 | 17:30-19:30 | 研修室C | 46 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、脳神経外科 | 3月9日 | 18:00-18:30 | 研修室C | 20 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 耳鼻咽喉科、泌尿器科、 眼科 | 3月16日 | 18:00-19:00 | 研修室C | 35 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 耳鼻咽喉科、泌尿器科、 脳神経外科、整形外科 | 3月22日 | 19:00-20:00 | 研修室C | 35 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 耳鼻咽喉科、泌尿器科、 眼科 | 3月30日 | 17:30-18:30 | 研修室C | 31 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、脳神経外科 | 4月6日 | 19:00-19:30 | 研修室C | 20 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科、 新生児科、泌尿器科 | 4月13日 | 18:00-19:30 | 研修室C | 36 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 代謝・内分泌科、 脳神経外科 | 4月20日 | 17:30-18:30 | 研修室C | 37 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、眼科 | 4月26日 | 17:30-18:30 | 研修室C | 33 | 治療方針の確認 | 各担当医 |

| | | | | | | | |
|-----------|---|-------|-------------|----|----|---------|------|
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科、 眼科 | 5月11日 | 18:00-19:00 | 講堂 | 33 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科 | 5月18日 | 18:00-19:30 | 講堂 | 30 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、脳神経外 科、小児外科、眼科、 整形外科 | 5月24日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 36 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科、 眼科 | 6月1日 | 17:30-19:00 | 講堂 | 33 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科、 眼科、整形外科、 耳鼻咽喉科 | 6月8日 | 18:30-20:00 | 講堂 | 39 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科 | 6月15日 | 17:30-18:00 | 講堂 | 26 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科、 眼科、整形外科、 総合診療科 | 6月29日 | 18:30-20:00 | 講堂 | 39 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科、 眼科、整形外科 | 7月6日 | 17:30-19:00 | 講堂 | 36 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科 | 7月13日 | 17:30-19:00 | 講堂 | 30 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、眼科 | 7月20日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 33 | 治療方針の確認 | 各担当医 |

| | | | | | | | |
|-----------|---|-------|-------------|----------------|----|---------|------|
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 新生児科 | 7月26日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 30 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科 | 8月3日 | 17:30-19:00 | 講堂 | 30 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 眼科 | 8月10日 | 17:30-19:30 | 講堂 | 29 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科 | 8月17日 | 17:30-18:00 | 講堂 | 30 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、脳神経外科 | 8月24日 | 17:30-18:00 | 講堂 | 20 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科 | 8月31日 | 17:45-18:30 | 講堂 | 26 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 放射線治療科、 病理診断科、小児外科 | 9月2日 | 13:30-14:00 | 放射線読影室 | 12 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 小児外科、形成外科、 泌尿器科、脳神経外科 | 9月7日 | 17:30-19:00 | 講堂 | 33 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 眼科 | 9月14日 | 17:30-18:45 | 講堂 | 32 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 眼科、脳神経外科 | 9月21日 | 17:30-18:00 | 講堂 | 36 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科 | 9月27日 | 17:30-18:00 | 7階カンファ レンス室 | 30 | 治療方針の確認 | 各担当医 |

| | | | | | | | |
|-----------|---|--------|-------------|----|----|---------|------|
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科、 眼科 | 10月5日 | 17:30-19:00 | 講堂 | 33 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、眼科 | 10月12日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 23 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科 | 10月19日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 26 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、脳神経外科 | 10月25日 | 17:30-18:00 | 講堂 | 20 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、小児外科 | 11月2日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 30 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、 脳神経外科、眼科、 整形外科、小児外科 | 11月9日 | 17:30-19:00 | 講堂 | 40 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 眼科、脳神経外科 | 11月16日 | 17:30-19:00 | 講堂 | 37 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 整形外科、形成外科 | 11月22日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 35 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 整形外科 | 11月29日 | 18:00-19:00 | 講堂 | 29 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、脳神経外科 | 12月7日 | 17:30-18:00 | 講堂 | 30 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、整形外科 | 12月14日 | 18:00-18:30 | 講堂 | 20 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 整形外科、脳神経外科、 眼科 | 12月21日 | 17:45-20:00 | 講堂 | 37 | 治療方針の確認 | 各担当医 |

| | | | | | | | |
|----------------------------------|--|-----------------------|-------------|-------------------------|-------|---------------------------------------|--------------|
| 腫瘍カンファレンス | 血液・腫瘍内科、 放射線診断科、 病理診断科、小児外科、 整形外科、脳神経外科 | 12月28日 | 17:30-18:15 | 講堂 | 34 | 治療方針の確認 | 各担当医 |
| 熱病カンファレンス | 総合診療科/感染症科 | 毎週木曜日 | 13:00-13:30 | 4Fカンファ レンス室 | | 感染症/総合診療に関するもの | |
| 第1回SSI勉強会 | 心臓血管外科、麻酔科、 看護部、感染症科等 | 12月26日 | 15:30-16:30 | CICU カンファ 室 | | 当院の開胸術に伴う感染症 | 笠井 |
| 第2回SSI勉強会 | 心臓血管外科、麻酔科、 看護部、感染症科等 | 3月1日 | 17:30-18:30 | CICU カンファ 室 | | 当院の開胸術に伴う感染症 | 笠井 |
| 発達行動勉強会 | 総合診療科、神経内科、 精神科 | 6月9日 | 16:30-18:00 | 精神科外来 | 11 | ADHDのあるこどもへの介入(WEB講演会) | 関口典子 |
| 発達行動勉強会 | 総合診療科、神経内科、 精神科 | 7月7日 | 16:30-18:00 | 精神科外来 | 11 | メチルフェニデート | 関口典子 |
| 発達行動勉強会 | 総合診療科、神経内科、 精神科 | 9月29日 | 16:30-18:00 | 精神科外来 | 11 | ADHDの包括的治療戦略(WEB講演会) | 関口典子 |
| 発達行動勉強会 | 総合診療科、神経内科、 精神科 | 12月15日 | 16:30-18:00 | 精神科外来 | 10 | グアンファシン | 関口典子 |
| 術後カンファレンス | 小児外科、放射線科、 病理診断科 | 火曜日 | 8:00-9:00 | 5階カンファ レンス室 | 17 | 小児外科術後症例の検討 | 小児外科 |
| 術前カンファレンス | 小児外科、放射線科 | 水曜日 | 8:00-9:00 | 5階カンファ レンス室 | 15 | 小児外科術後症例の検討 | 小児外科 |
| 麻酔科・心臓外科・循環器科・集中治療科 合同カンファレンス | 麻酔科、心臓外科、 循環器内科、 集中治療科、看護師、 臨床工学技士 | 通年、毎日 | 7:55-8:10 | CICU | 15 | 当日の心臓外科症例についてのカンファレンス | 手術・麻酔 担当医 |
| モーニングカンファレンス | 産科、看護師、薬剤部 | 毎日 | 8:30-8:50 | 産科病棟 詰所 | 11 | 当直報告と産科入院症例の状態報告、連絡事項 | |
| 周産期カンファレンス | 産科、新生児内科、 小児外科、病理診断科、 看護師、検査技師、 薬剤部 | 毎月 (月が休日の 場合は火) | 16:30-16:55 | 新生児科 カンファ レンス室1 | 18~21 | 未分娩妊婦の症例提示と新生児の経過報告 | |
| ウィークエンドカンファレンス | 産科、看護師、薬剤部 | 毎金 (金が休日の 場合は木) | 16:00-16:20 | 産科病棟 詰所 | 8~10 | 産科入院症例の状態報告 | |
| MRIカンファレンス | 産科、新生児内科、 放射線科 | 2~3回/年 | 17:00-18:00 | 産科カンファ レンスルーム | 14~16 | 胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、そ の後の経過 | |
| こども病院・中央市民病院 合同カンファレンス | 産科、新生児内科 | 2~3回/年 | 17:30-18:30 | 2階講堂 (交互開催) | 24~26 | 当院と中央市民病院産科、新生児科の紹介症例 のその後の転機を検討する | |
| 急性期リハビリテーションカンファレンス | 小児集中治療科、 リハビリテーション科 | 12月11日 | 17:00-18:30 | 循環器 カンファ レンス 室 | 8 | 集中治療病棟におけるリハビリテーション推進 に向けて | 鴻池・青木 |

| | | | | | | | |
|---------------|--|--------|-------------|---------------------|----|--|-------|
| M&Mカンファレンス | 小児集中治療科、 心臓血管外科、循環器科 | 8月9日 | 17:00-18:30 | 循環器 カンファレン ス室 | 25 | PA/VSD術後に発症したARDSに対するECMO管 理 | 宮下 |
| M&Mカンファレンス | 小児集中治療科、 心臓血管外科、循環器科 | 12月15日 | 17:00-18:30 | 循環器 カンファレ ンス室 | 25 | CICUで生じたCPAに対するE-CPR | 鴻池・青木 |
| 二分脊椎外来カンファレンス | 脳神経外科 整形外科 泌尿器科 作業療法士 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 4月28日 | 14:30-15:00 | 整形外科 ギブス室 | 13 | 二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察 患者の情報共有 対象患者5名 | |
| 二分脊椎外来カンファレンス | 脳神経外科 整形外科 泌尿器科 作業療法士 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 11月24日 | 15:35-16:05 | 整形外科 ギブス室 | 11 | 二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察 患者の情報共有 対象患者5名 | |

4) 部署別勉強会・カンファレンス

| 名 称 | 主 催 | 開催日 | 時 間 | 場 所 | 参加数 | テーマ | 発表者/担当 |
|-------------------|-----------------|--------|-------------|--------------|-----|-------------------------------|-------------|
| 造血細胞移植 カンファレンス | 血液・腫瘍内科/ 看護部 | 1月16日 | 17:45-18:45 | 講堂 | 30 | 移植予定患者に関する討議/小児AML治療 | 田村 |
| 造血細胞移植 カンファレンス | 血液・腫瘍内科/ 看護部 | 2月20日 | 17:45-18:45 | 講堂 | 30 | 移植予定患者に関する討議/小児神経芽腫治療 | 石田 |
| 造血細胞移植 カンファレンス | 血液・腫瘍内科/ 看護部 | 4月17日 | 17:45-18:45 | 7Fカンファレンスルーム | 30 | 移植予定患者に関する討議/日本の移植医療の現状 | 岸本 |
| 造血細胞移植 カンファレンス | 血液・腫瘍内科/ 看護部 | 5月15日 | 17:45-18:45 | 7Fカンファレンスルーム | 30 | 移植予定患者に関する討議/敗血症のサイン | 岸本 |
| 造血細胞移植 カンファレンス | 血液・腫瘍内科/ 看護部 | 6月19日 | 17:45-18:45 | 7Fカンファレンスルーム | 30 | 移植予定患者に関する討議/敗血症(2) | 岸本 |
| 造血細胞移植 カンファレンス | 血液・腫瘍内科/ 看護部 | 7月24日 | 17:45-18:45 | 7Fカンファレンスルーム | 30 | 移植予定患者に関する討議/PCAポンプを用いた疼痛緩和 | 池島 (麻酔科) |
| 造血細胞移植 カンファレンス | 血液・腫瘍内科/ 看護部 | 8月21日 | 17:45-18:45 | 7Fカンファレンスルーム | 30 | 移植予定患者に関する討議/移植における感染予防 | 岸本 |
| 造血細胞移植 カンファレンス | 血液・腫瘍内科/ 看護部 | 9月11日 | 17:45-18:45 | 7Fカンファレンスルーム | 30 | 移植予定患者に関する討議 | 岸本 |
| 造血細胞移植 カンファレンス | 血液・腫瘍内科/ 看護部 | 10月16日 | 17:45-18:45 | 7Fカンファレンスルーム | 30 | 移植予定患者に関する討議/移植患者に対する歯科治療 | 岩瀬(歯科) |
| 造血細胞移植 カンファレンス | 血液・腫瘍内科/ 看護部 | 11月20日 | 17:45-18:45 | 7Fカンファレンスルーム | 30 | 移植予定患者に関する討議/免疫抑制剤について | 岸本 |
| 造血細胞移植 カンファレンス | 血液・腫瘍内科/ 看護部 | 12月18日 | 17:45-18:45 | 7Fカンファレンスルーム | 30 | 移植予定患者に関する討議/栄養管理 | 鳥井 (栄養課) |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 4月25日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | ダウン症候群に合併した急性リンパ性白血病 | 太原 |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 5月16日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | 急性巨核芽球性白血病 | 幸伏 |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 5月30日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | | 石田 |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 6月6日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | HDC with TMZ for brain tumors | 齋藤 |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 6月13日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | | 山本 |
| 研修報告会 | 血液・腫瘍内科 | 7月4日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | シアトル小児病院研修報告 | 田村 |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 7月18日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | | 花房 |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 8月22日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | 血小板産生 | 岸本 |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 9月12日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | | 藤原 |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 9月19日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | | 山内 |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 10月10日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | 単球造血制御分子メカニズム | 田村 |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 11月21日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | | 穴戸 |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 12月12日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | 放射線照射 | 中村 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|---------|------------------|-------------|--------------|-----|--|------------------------|
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 12月26日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | 造血細胞移植後Azacitidine維持療法 | 田村 |
| 抄読会 | 血液・腫瘍内科 | 1月16日 | 17:30-18:30 | 7Fカンファレンスルーム | 10人 | 髄腔内穿刺 | 菊池 |
| 小児外科抄読会 | 小児外科 | 金曜日 | 7:45-8:00 | 5階カンファレンス室 | 12 | 小児外科に関する論文の発表 | 小児外科 |
| 補聴器外来 カンファレンス | 耳鼻咽喉科 | 1月11日 | 15:00-16:00 | 耳鼻科診察室 | 4名 | 補聴器装用児に対する補聴器装用計画について | |
| 補聴器外来 カンファレンス | 耳鼻咽喉科 | 2月3日 | 15:00-16:00 | 耳鼻科診察室 | 4名 | 補聴器装用児に対する補聴器装用計画について | |
| 補聴器外来 カンファレンス | 耳鼻咽喉科 | 3月1日 | 15:00-16:00 | 耳鼻科診察室 | 4名 | 補聴器装用児に対する補聴器装用計画について | |
| 補聴器外来 カンファレンス | 耳鼻咽喉科 | 4月5日 | 15:00-16:00 | 耳鼻科診察室 | 4名 | 補聴器装用児に対する補聴器装用計画について | |
| 補聴器外来 カンファレンス | 耳鼻咽喉科 | 5月10日 | 15:00-16:00 | 耳鼻科診察室 | 4名 | 補聴器装用児に対する補聴器装用計画について | |
| 補聴器外来 カンファレンス | 耳鼻咽喉科 | 6月7日 | 15:00-16:00 | 耳鼻科診察室 | 4名 | 補聴器装用児に対する補聴器装用計画について | |
| 姫路聴覚特別支援学校 カンファレンス | 耳鼻咽喉科 | 8月4日 | 17:00-17:40 | 2階リハビリ言語室 | 8名 | 補聴器装用児に対する補聴器装用計画について | |
| 神戸聴覚特別支援学校 カンファレンス | 耳鼻咽喉科 | 9月6日 | 16:30-19:00 | 2階リハビリ言語室 | 8名 | 補聴器装用児に対する補聴器装用計画について | |
| 麻酔科カンファレンス | 麻酔科 | 毎日 | 8:30-9:00 | 麻酔科医局 | 20 | 毎日の麻酔症例についての検討 | 麻酔科統括 |
| 麻酔科重症症例 カンファレンス | 麻酔科 | 毎週金曜日 | 16:30-17:30 | 麻酔科医局 | 16 | 次週の重症症例についての検討 | 麻酔科統括 |
| 麻酔科 抄読会 | 麻酔科 | 隔週月曜日 | 8:20-8:40 | 麻酔科医局 | 20 | 重要論文を挙げて紹介する | 麻酔科 担当医師 |
| 麻酔科 講演会 | 麻酔科 | 2月23日 | 18:00-19:00 | 麻酔科医局 | 15 | 小児のPONVおよび硬膜外麻酔について | 水野圭一郎 (福岡こども 病院) |
| 麻酔科 講演会 | 麻酔科 | 10月20日 | 17:00-18:00 | 麻酔科医局 | 15 | 気道管理について PBLD形式で | 土居ゆみ (高槻病院) |
| 麻酔科 新人研修1 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | 基本的な麻酔科内連絡事項の通達 | 香川 |
| 麻酔科 新人研修2 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | メーリングリストおよびホームページへの登録およびそれらの見方・使い方の講習 | 藤原 |
| 麻酔科 新人研修3 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | 電子カルテでの指示の出し方等 | 廣瀬 |
| 麻酔科 新人研修4 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | 超勤表・件数表のファイルを渡す・使い方説明・情報系ネットワークへの接続法など | 藤原 |
| 麻酔科 新人研修5 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | 麻酔準備・薬剤準備・麻酔器チェックリストの付け方 | 専攻医 |
| 麻酔科 新人研修6 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | サインイン・麻酔チャート・術後指示 | 専攻医 |
| 麻酔科 新人研修7 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | 産科案内(指示だし、同意書、準備など)・NICU案内(入り方) | 専攻医 |

| | | | | | | | |
|----------------------|---------|------------------|-------------|--------------------|-------|--------------------------------|------|
| 麻酔科 新人研修8 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | 術後鎮痛・術後回診の方法 | 専攻医 |
| 麻酔科 新人研修9 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | 毒薬金庫・薬剤庫の鍵を渡す、運用説明 | 池島 |
| 麻酔科 新人研修10 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | 医療ガス・会計 | 高辻 |
| 麻酔科 新人研修11 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | 感染対策・インシデントレポートについて | 大西 |
| 麻酔科 新人研修12 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | CV穿刺の方法・麻酔カートや物品について | 池島 |
| 麻酔科 新人研修13 | 麻酔科 | 4月第1週、 および年数回 | 1時間 | 麻酔科医局 | 10名 | 鎮痛・気道・ブロックなどの講義 | 香川 |
| 新生児科クリニカル カンファレンス | 新生児内科 | 毎火木金 | 8:00-9:00 | NICU カンファレンスルーム | 8-12 | 入院症例の検討 | |
| 新生児科抄読会 | 新生児内科 | 毎水 | 8:00-9:00 | NICU カンファレンスルーム | 8-12 | 英文医学雑誌から新生児関連論文の紹介 | |
| 産科抄読会 | 産科 | 毎金 | 8:20-8:40 | 産科 カンファレンスルーム | 8 | 英文医学雑誌から産科関連論文の紹介 | |
| 産科勉強会 | 産科 | 年に数回 | 17:30-18:30 | 産科 カンファレンスルーム | 15-20 | 医師による看護師に対する講義 | |
| 科内勉強会 | 小児集中治療科 | 1月17日 | 8:30-9:00 | CICUカンファレンス室 | 10 | 高Na血症をシンプルに考える | 楠本耕平 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 9月19日 | 19:00-21:00 | 三宮 | 20 | AKI | 楠本耕平 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 1月5日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 研究デザイン5 介入研究・コホート研究 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 1月11日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 論文を読む 背景 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 1月19日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 論文を読む 方法1 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 2月2日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 論文を読む 方法2 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 2月6日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 論文を読む 方法3 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 2月13日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 論文を読む 方法4 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 2月28日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 論文を読む 統計1 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 3月16日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 論文を読む 統計2 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 3月22日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 論文を読む 統計3 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 3月24日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 論文を読む 統計4 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 3月30日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 論文を読む 統計5 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 4月6日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | point prevalence study | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 4月10日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | RCT | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 5月30日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Cohort study | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 5月31日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Case control study | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 6月13日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | RCT、 sample size | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 6月15日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | JAMA User's guide introduction | 椎間 |

| | | | | | | | |
|-------------|---------|--------|-------------|-------------|----|---------------------------------|----|
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 6月16日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Sample size 1 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 6月26日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Smample size 2 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 6月27日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Nested case control study | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 7月5日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Ecological study | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 7月11日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Designing a study 1 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 8月14日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Designing a study 2 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 8月24日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Designing a study 3 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 9月11日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | How to write an abstract | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 9月15日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Designing a study 4 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 9月28日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Designing a study 5 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 9月29日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Designing a study 6 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 10月3日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Predictive model 1 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 10月5日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Predictive model 2 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 10月12日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Predictive model 3 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 10月18日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Predictive model 4 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 11月8日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Protocol 1 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 11月20日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Protocol 2 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 11月25日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Protocol 3 | 椎間 |
| 臨床研究レクチャー | 小児集中治療科 | 11月29日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | Protocol 4 | 椎間 |
| 生物統計ワークショップ | 小児集中治療科 | 4月27日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | workshop1 basic1 | 椎間 |
| 生物統計ワークショップ | 小児集中治療科 | 2月28日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | workshop1 basic1 | 椎間 |
| 生物統計ワークショップ | 小児集中治療科 | 5月30日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | workshop2 basic2 | 椎間 |
| 生物統計ワークショップ | 小児集中治療科 | 5月31日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | workshop2 basic2 | 椎間 |
| 生物統計ワークショップ | 小児集中治療科 | 6月26日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | workshop3 multivariate analysis | 椎間 |
| 生物統計ワークショップ | 小児集中治療科 | 6月27日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | workshop3 multivariate analysis | 椎間 |
| 生物統計ワークショップ | 小児集中治療科 | 9月29日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | workshop4 RCT | 椎間 |
| 生物統計ワークショップ | 小児集中治療科 | 11月8日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | workshop4 RCT | 椎間 |
| 生物統計ワークショップ | 小児集中治療科 | 1月11日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | workshop_data cleaning | 椎間 |
| 生物統計ワークショップ | 小児集中治療科 | 1月17日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | workshop4 RCT | 椎間 |
| 生物統計ワークショップ | 小児集中治療科 | 1月24日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | workshop5 sample size | 椎間 |
| 生物統計ワークショップ | 小児集中治療科 | 1月31日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | workshop5 sample size | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 1月10日 | 17:00-18:30 | 集中治療科控え室 | 6 | 救急バイタルサイン | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 1月10日 | 17:00-18:30 | 集中治療科控え室 | 6 | 呼吸機能検査スタディ | 椎間 |

| | | | | | | | |
|--------------|---------|--------|-------------|-------------|----|--|----|
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 2月14日 | 18:00-19:00 | 集中治療科控え室 | 6 | 救急バイタルサイン (染谷) | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 2月15日 | 10:00-12:00 | 集中治療科控え室 | 6 | 救急バイタルサイン (増井・高寺) | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 2月21日 | 10:00-11:00 | 集中治療科控え室 | 6 | 呼吸機能検査スタディ | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 2月28日 | 10:00-11:30 | 集中治療科控え室 | 6 | 救急バイタルサイン (染谷) | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 3月2日 | 17:00-19:00 | 集中治療科控え室 | 6 | 小児救急搬送 | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 3月24日 | 10:00-11:00 | 集中治療科控え室 | 6 | 救急バイタルサイン | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 3月30日 | 10:00-12:00 | 集中治療科控え室 | 6 | 小児のせん妄評価 | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 9月5日 | 17:00-18:30 | 集中治療科控え室 | 6 | 総論 | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 9月28日 | 17:30-19:00 | 集中治療科控え室 | 6 | 青木胸骨圧迫リサーチ | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 10月3日 | 17:00-18:30 | 集中治療科控え室 | 6 | 染谷換気モニタ | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 10月12日 | 17:00-18:30 | 集中治療科控え室 | 6 | 楠本換気モニタ | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 10月18日 | 16:00-18:00 | 集中治療科控え室 | 6 | 青木胸骨圧迫リサーチ事前打ち合わせ | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 10月23日 | 17:30-19:00 | 集中治療科控え室 | 6 | 染谷・増井救急バイタルサイン | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 11月8日 | 18:00-19:00 | 集中治療科控え室 | 6 | 青木胸骨圧迫リサーチアップデート | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 11月14日 | 8:30-9:30 | 集中治療科控え室 | 6 | 制野FABPスタディアアップデート | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 11月20日 | 17:30-18:30 | 集中治療科控え室 | 6 | 長谷川、増井エコー声帯評価 | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 1月5日 | 17:30-19:00 | 集中治療科控え室 | 6 | 青木医療従事者胸骨圧迫スタディ&換気モニタリング | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 1月10日 | 18:00-19:00 | 集中治療科控え室 | 6 | 染谷・増井バイタルサインスタディ | 椎間 |
| リサーチカンファレンス | 小児集中治療科 | 1月15日 | 17:00-18:30 | 集中治療科控え室 | 6 | 椎間集中治療室退室遅延とその背景因子 | 椎間 |
| 看護師向け勉強会 | 小児集中治療科 | 7月20日 | 14:00-14:30 | CICU | 10 | 小児におけるせん妄 | 平田 |
| 看護師向け勉強会 | 小児集中治療科 | 8月4日 | 14:00-14:30 | CICU | 10 | 小児におけるせん妄 | 平田 |
| 看護師向け勉強会 | 小児集中治療科 | 8月8日 | 14:00-14:30 | CICU | 10 | 小児におけるせん妄 | 平田 |
| 看護師向け勉強会 | 小児集中治療科 | 8月10日 | 14:00-14:30 | CICU | 10 | 小児におけるせん妄 | 平田 |
| 看護師向け勉強会 | 小児集中治療科 | 8月11日 | 14:00-14:30 | CICU | 10 | 小児におけるせん妄 | 平田 |
| 小児集中治療科症例検討会 | 小児集中治療科 | 10月18日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | distributive shock | 鴻池 |
| 小児集中治療科症例検討会 | 小児集中治療科 | 10月25日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | ICUAW | 山下 |
| 小児集中治療科症例検討会 | 小児集中治療科 | 11月13日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | V-A ECMO | 鴻池 |
| 小児集中治療科症例検討会 | 小児集中治療科 | 12月5日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | RSV感染症と気管挿管の適応 | 神納 |
| 小児集中治療科症例検討会 | 小児集中治療科 | 12月7日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 術後の輸液管理 | 増井 |
| 小児集中治療科症例検討会 | 小児集中治療科 | 12月20日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 偶発性低体温症 | 山下 |
| 小児集中治療科症例検討会 | 小児集中治療科 | 12月27日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 先天性心疾患と心血管作動薬 | 潮見 |
| 小児集中治療科勉強会 | 小児集中治療科 | 11月9日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 第3回Critical Kinki Kids | 増井 |
| 小児集中治療科勉強会 | 小児集中治療科 | 12月5日 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | 肺エコー | 増井 |
| 小児集中治療科勉強会 | 小児集中治療科 | 毎週火曜 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | extreme reading [WEST 呼吸生理学入門 正常肺編] | 鴻池 |

| | | | | | | | |
|---------------------|---------|--------|-------------|-------------|-----|--|-------------|
| 小児集中治療科勉強会 | 小児集中治療科 | 毎週木曜 | 8:40-9:00 | 循環器カンファレンス室 | 10 | extreme reading 「臨床にダイレクトにつながる循環生理」 | 鴻池 |
| グリーンカンファレンス | PICU病棟 | 9月13日 | 18:00-19:00 | カンファレンス室3 | 20 | 終末期医療の考え方 | 制野勇介 |
| 家族ケアサポート グループ勉強会 | 看護部 | 12月13日 | 18:00-19:00 | カンファレンス室2 | 15 | 終末期医療の考え方 | 制野勇介 |
| タッチケアセミナー | GCU | 8月28日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 30 | GCUディベロップグループ | |
| 7東 復学カンファレンス | 7階東病棟 | 5月2日 | 16:00-16:30 | 7階面談室 | 10 | A様 復学カンファレンス | 受け持ちNS |
| 7東 復学カンファレンス | 7階東病棟 | 11月17日 | 14:00-15:00 | 7階カンファレンス室 | 10 | K様 復学カンファレンス | 受け持ちNS |
| 7東 復学カンファレンス | 7階東病棟 | 1月4日 | 15:00-16:00 | 7階カンファレンス室 | 13 | K様 復学カンファレンス | 受け持ちNS |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 1月18日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 12名 | 症例検討会 | 岸本 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 2月15日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 13名 | 症例検討会 | 由良 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 2月22日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 13名 | 吸入勉強会 | 感染症内科 笠井 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 2月22日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 11名 | 症例検討会 | 野田 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 3月15日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 12名 | 症例検討会 | 初井 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 3月16日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 11名 | 学会報告会(近畿学術大会) | 永井・中西 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 3月22日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 12名 | 症例検討会 | 研 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 4月12日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 13名 | 製品勉強会 ニューカラ | |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 4月18日 | 18:00-19:00 | 薬剤部 | 5名 | 医療安全講習 | 上田 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 4月19日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 14名 | 症例検討会 | 中西 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 4月19日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 5名 | 医療安全講習 | 上田 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 4月21日 | 18:00-18:30 | 薬剤部 | 14名 | 新規治験説明会 | CRC 木戸 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 5月10日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 12名 | 小児栄養療法勉強会 | 栄養指導課 鳥居 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 5月15日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 13名 | 症例検討会 | 研・中西 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 5月25日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 6名 | 医療安全講習 | 上田 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 5月31日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 13名 | 症例検討会 | 由良・三輪 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 6月8日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 13名 | グラム染色勉強会 | 検査室 河村 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 6月12日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 14名 | 製品勉強会 ギャバロン | |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 6月13日 | 18:00-18:30 | 薬剤部 | 13名 | 製品勉強会 バクリタキセル | |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 6月15日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 13名 | 製品勉強会 インチュニブ | |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 6月19日 | 18:00-19:00 | 薬剤部 | 13名 | 症例検討会 | 野田・乗松 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 6月20日 | 18:00-18:30 | 薬剤部 | 13名 | 製品勉強会 サプリル | |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 6月26日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 12名 | 症例検討会 | 中西・岸本 |

| | | | | | | | |
|--------|-----|--------|-------------|--------|-----|--------------------------------|------------------|
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 6月27日 | 18:00-18:30 | 薬剤部 | 13名 | 製品勉強会 ベムソムラ | |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 7月5日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 14名 | 製品勉強会 レクサプロ | |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 7月6日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 13名 | 製品勉強会 モゾビル | |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 7月11日 | 18:00-18:30 | 薬剤部 | 13名 | 製品勉強会 レミケード(川崎病) | |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 7月12日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 13名 | 症例検討会 | 廣瀬・三輪 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 7月25日 | 18:00-19:00 | 薬剤部 | 12名 | 症例検討会 | 野田・研 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 8月1日 | 18:00-18:30 | 薬剤部 | 11名 | 製品勉強会 アイクルシグ | |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 8月2日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 11名 | 学会報告会(臨床腫瘍薬学会) | 岸本 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 8月16日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 11名 | 症例検討会 | 坂本・岸本 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 8月18日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 12名 | 学会報告会(周産期新生児医学会) | 初井 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 8月30日 | 18:00-19:00 | 薬剤部 | 13名 | 症例検討会 | 愛甲乗松 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 8月30日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 14名 | 学会報告会(腎臓病y療養指導士講習会) | 愛甲 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 9月12日 | 18:00-18:30 | 薬剤部 | 12名 | 新規臨床試験説明会 | 大前 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 9月13日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 14名 | 症例検討会 | 由良・愛甲 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 10月4日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 12名 | 症例検討会 | 渡邊・中西 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 10月10日 | 18:00-19:00 | 薬剤部 | 11名 | 症例検討会 | 初井・研 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 10月18日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 14名 | 製品勉強会 テムセル | |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 10月30日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 12名 | 症例検討会 | 石田・廣瀬 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 11月13日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 13名 | 医療安全講習 | 上田 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 11月16日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 12名 | 症例検討会 | 中西・乗松 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 11月21日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 8名 | 医療安全講習 | 上田 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 11月29日 | 17:30-18:30 | 薬剤部 | 11名 | 症例検討会 | 大前・初井 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 11月29日 | 18:30-20:00 | 薬剤部 | 11名 | 学会報告会(日本在宅静脈経腸栄養研究会) | 愛甲 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 11月29日 | 18:30-20:00 | 薬剤部 | 11名 | 学会報告会(日本小児感染症学会) | 三輪 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 11月29日 | 18:30-20:00 | 薬剤部 | 11名 | 学会報告会(医療薬学会) | 坂本 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 11月29日 | 18:30-20:00 | 薬剤部 | 11名 | 学会報告会(小児血液がん学会) | 野田 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 12月13日 | 18:00-19:00 | 薬剤部 | 13名 | 症例検討会 | 野田・斎藤 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 12月13日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 13名 | 学会報告会(医療の質・安全学会) | 上田 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 12月20日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 10名 | フィードバック研修 (薬剤師専門研修・感染・救急領域) | 廣瀬・乗松 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 12月20日 | 17:30-18:00 | 薬剤部 | 10名 | フィードバック研修 (薬剤師専門研修・がん・緩和領域) | 研 |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 2月3日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 11 | 位相差X線CT法による動脈管関連先天性心疾患の組織学的検討 | 岩城医師 (心臓血管外科) |

| | | | | | | | |
|--------------------|---------|--------|-------------|----------|----|----------------------------|------------------------|
| 検査部勉強会 | 検査部 | 3月7日 | 16:45-17:30 | 検査部会議室 | 15 | 食品中の細菌と抗菌作用について | 神戸常盤大学 学生 |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 3月9日 | 16:30-17:00 | 検査部会議室 | 12 | 感染対策について | 河村 |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 5月23日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 13 | アルブミン製剤について | 日本血液製剤 機構 |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 6月23日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 14 | L-FABPについて①（心臓血管外科） | 松久医師 （心臓血管外科） |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 6月27日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 14 | バンコマイシンのあれこれ | 三輪薬剤師 （薬剤部） |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 7月3日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 8 | L-FABPについて② | シミックホー ルディング （株） |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 7月13日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 10 | 危険予知トレーニング① | 山岸 |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 7月25日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 10 | 夜間当直者のための血液凝固検査の基礎知識 | 積水メディカ ル（株） |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 8月15日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 13 | 食育について | 神戸学院大学 学生 |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 9月13日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 12 | 危険予知トレーニング② | 山岸 |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 9月20日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 11 | L-FABPについて③（救急科） | 制野医師 （救急科） |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 9月26日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 17 | 胎盤の病理（胎盤の構造、胎盤の代表的な肉眼的所見） | 吉田医師 （病理） |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 11月7日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 15 | 災害時の患者搬送 | 中田理学療 法士 （リハビリ） |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 11月28日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 11 | 血液ガスデータの見方 | 平田 |
| 検査部勉強会 | 検査部 | 12月26日 | 16:30-17:30 | 検査部会議室 | 14 | 輸血システムの落とし穴 | 瀧本 |
| マイクロ バイオロジーラウンド | 診療部・検査部 | 1月18日 | 17:30-19:00 | 細菌検査室 | 20 | GNRの見分け方 | 伊藤医師 （感染症科） |
| マイクロ バイオロジーラウンド | 診療部・検査部 | 2月15日 | 17:30-19:00 | 細菌検査室 | 20 | β ラクタマーゼESBL | 亀山 |
| 放射線部勉強会 | 放射線部 | 1月16日 | 16:30-17:30 | MRI室 | 12 | 神経刺激システム埋込み患者に対するMRI検査の注意点 | 日本メドトロ ニック |
| CT・MRI勉強会 | 放射線部 | 6月27日 | 16:30-17:30 | 講堂 | 24 | 造影剤の副作用について・MRI検査の安全性について | 沼田・コニカ |
| MRI勉強会 | 放射線部 | 9月27日 | 16:30-17:30 | MRI室 | 11 | MRI検査を安全に行うために | 沼田・コニカ |
| 放射線部勉強会 | 放射線部 | 11月21日 | 16:30-17:30 | MRI室 | 5 | 画像ワークステーションの操作解説と実演 | AZE |
| 栄養管理勉強会 | 栄養管理課 | 3月30日 | 17:45～19:00 | 講堂 | 17 | 胃ろうからのミキサー食注入について | 鳥井隆志 |
| 栄養管理勉強会 | 栄養管理課 | 6月1日 | 18:00～19:00 | 講堂 | 36 | 乳幼児の摂食機能の発達と障害 | 小松岳 （言語聴覚士） |
| 栄養管理勉強会 | 栄養管理課 | 9月6日 | 18:00～19:00 | 神戸中央市民病院 | - | 当課におけるカーボカウント法の実施 | 山田実緒子 |

看護部部署内勉強会（2017年度）

| 名称 | 主催 | 開催日 | 時間 | 場所 | 参加数 | テーマ | 発表者/担当 |
|------------|------|--------|-------------|----------|-----|--------------------------|--------|
| NICU1年目勉強会 | NICU | 5月26日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 9 | 疾患について（胎外生活、TTN、RDS、CLD） | 石井/尾上 |
| NICU1年目勉強会 | NICU | 6月27日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 12 | NICUにおけるプレ救急蘇生 | 和久/東 |
| NICU1年目勉強会 | NICU | 7月21日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 10 | 入院受け | 京谷/松本 |
| NICU1年目勉強会 | NICU | 8月18日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 7 | アセスメント | 石井/尾上 |
| NICU1年目勉強会 | NICU | 9月15日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 6 | 安全管理（KYT） | 山本や |
| NICU1年目勉強会 | NICU | 10月20日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 6 | 呼吸管理 | 樋爪/岩間 |
| NICU1年目勉強会 | NICU | 11月19日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 9 | 入院受け振り返り | 京谷/松本 |
| NICU1年目勉強会 | NICU | 1月18日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 8 | 看護ケアの振り返り | 東/尾上 |
| NICU1年目勉強会 | NICU | 2月27日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 10 | 呼吸管理の振り返り | 樋爪/岩間 |
| NICU2年目勉強会 | NICU | 6月26日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 11 | NEC、ASD/VSD | 伊尾木/熊谷 |
| NICU2年目勉強会 | NICU | 8月24日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 10 | MMC、水頭症 | 太田/新田 |
| NICU2年目勉強会 | NICU | 10月13日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 13 | Aライン、胸腔ドレーン | 賀本/熊谷 |
| NICU2年目勉強会 | NICU | 11月24日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 9 | 腸回転異常、18トリソミー | 板谷/足利 |

| | | | | | | | |
|------------|------|--------|-------------|----------|----|--------------------------------------|-----------------|
| NICU2年目勉強会 | NICU | 12月21日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 9 | MAS、TTTS | 新田 / 伊尾木 |
| NICU2年目勉強会 | NICU | 1月22日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 11 | PS/PA、TOF | 板谷 / 賀本 |
| NICU3年目勉強会 | NICU | 6月27日 | 17:30-19:00 | GCU面談室 | 12 | CLD | 中村 / 布施 |
| NICU3年目勉強会 | NICU | 7月27日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 12 | 挿管/呼吸器 | 中村/布施 |
| NICU3年目勉強会 | NICU | 10月26日 | 9:00-11:00 | カンファレンス室 | 6 | 倫理 | 中村/布施/ 吉田/柏原 |
| NICU3年目勉強会 | NICU | 1月24日 | 17:30-18:30 | NICU面談室 | 7 | PA/PS | 吉田/柏原 |
| NICU3年目勉強会 | NICU | 2月21日 | | | | TGA | 中村/布施/ 吉田/柏原 |
| NICU4年目勉強会 | NICU | 7月20日 | 17:30-18:30 | NICU面談室 | 8 | 事例検討会（26週台で出生した児の看護） | 松本/梅原 |
| NICU4年目勉強会 | NICU | 10月25日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 8 | 事例検討会（腹壁破裂の児の看護） | 尾上/西村 |
| NICU4年目勉強会 | NICU | 1月25日 | 17:30-18:30 | NICU面談室 | 8 | 事例検討会（新生児仮死の看護） | 岩間 |
| 異動者勉強会 | NICU | 10月6日 | 17:30-18:30 | NICU面談室 | 8 | 事例検討会 （低出生体重児の創傷ケア/18トリソミー児の退院指導） | 西里/萩原 |
| 異動者勉強会 | NICU | 3月2日 | 17:30 | | | 事例検討会 | 八塚/田計 |
| 救急蘇生勉強会 | NICU | 8月29日 | 17:30-19:00 | 講堂 | 30 | 救急蘇生の技術について | 和久 |
| 救急蘇生勉強会 | NICU | 12月18日 | 17:30-19:00 | 講堂 | 11 | 救急蘇生の技術について | 和久 |
| 救急蘇生勉強会 | NICU | 3月12日 | 17:30 | 講堂 | | 救急蘇生シミュレーション | 和久 |

| | | | | | | | |
|------------------|-----------------|--------|-------------|--------------------|----|--------------------|-------------|
| NICU勉強会 | NICU | 1月19日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 39 | ECMO勉強会 | 和久 |
| GCU2年目勉強会 | GCU | 5月29日 | 17:30-18:30 | 面談室 | 13 | 入院受け | 吉本 小谷 |
| GCU2年目勉強会 | GCU | 8月24日 | 17:30-18:30 | 面談室 | 12 | 重症仮死 | 竹原 大西 |
| GCU2年目勉強会 | GCU | 10月26日 | 17:30-18:30 | 面談室 | 16 | CLD | 木野 西原 |
| GCU2年目勉強会 | GCU | 12月27日 | 17:30-18:30 | 面談室 | 15 | ストーマケア | 中川 平井 |
| NICU GCU合同勉強会 | NICU・GCU. | 6月20日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 30 | 栄養について | 松井Dr |
| NICU GCU合同勉強会 | NICU・GCU. | 7月21日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 36 | FCCについて Part1 | 松田 |
| NICU GCU合同勉強会 | NICU・GCU. 産科 | 10月2日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 43 | おっぱい・哺乳について | 杉森 井谷 大亀 |
| NICU GCU合同勉強会 | NICU・GCU. | 12月25日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 35 | CLDについて 在宅酸素について | 玉置Dr |
| NICU GCU3年目合同勉強会 | NICU・GCU. | 6月27日 | 17:30-18:30 | 面談室 | 12 | CLDについて | N・G3年目 |
| GCU病棟勉強会 | GCU | 5月19日 | 17:30-18:30 | カンファ レンスル ーム | 18 | ベビーの発達の基本をつくる | 杉森 |
| GCU病棟勉強会 | GCU | 6月9日 | 17:30-18:30 | 看護部会 議室 | 21 | ベビーのおなかについて | 杉森 |
| GCU病棟勉強会 | GCU | 10月20日 | 17:30-18:30 | 看護部会 議室 | 20 | おっぱいについていい食事について | 西原 |
| GCU病棟勉強会 | GCU | 11月29日 | 17:30-18:30 | 面談室 | 10 | トリロジーについて（機器の取り扱い） | 山田 |
| GCU病棟勉強会 | GCU | 12月8日 | 17:30-18:30 | 看護部会 議室 | 15 | 母乳の分泌について | 木野 |

| | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|--------|-------------|--------------|----|------------------------|-----------------|
| GCU病棟勉強会 | GCU | 1月22日 | 17:30-18:30 | 沐浴室 | 10 | ベビーマッサージ | 浅田 中川 平井 |
| GCU病棟勉強会 | GCU | 1月23日 | 17:30-18:30 | スキルラボ | 11 | HFNC・トリロジー（家族への説明）について | 山田 |
| GCU1年目勉強会 | GCU | 5月23日 | 17:30-18:30 | 面談室 | 15 | 直母指導について | 松下な 高瀬 |
| GCU1年目勉強会 | GCU | 6月16日 | 17:30-18:30 | 沐浴室 | 14 | 沐浴 | 松下な 高瀬 |
| GCU1年目勉強会 | GCU | 7月14日 | 17:30-18:30 | 沐浴室 | 13 | 救急蘇生 | 松下な 高瀬 |
| GCU1年目勉強会 | GCU | 8月3日 | 17:30-18:30 | 沐浴室 | 10 | お話し会 | 松下な 高瀬 |
| GCU1年目勉強会 | GCU | 10月30日 | 17:30-18:30 | 沐浴室 | 11 | 救急蘇生 | 松下な 高瀬 |
| 超緊急帝王切開シミュレーション | 産科 手術室 新生児科 | 2月14日 | 15:00-16:00 | 産科処置室 手術室 | 20 | 超緊急帝王切開シミュレーション | 勉強会係 （手術室連携） |
| 母乳育児勉強会 | 産科 | 6月23日 | 17:30-18:00 | 産科外来 | 23 | 早産児の栄養管理 | 母乳グループ |
| 母乳育児勉強会 | 産科、NICU、 GCU | 10月2日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 35 | 母乳育児支援について | 母乳グループ |
| 母乳育児勉強会 | 産科、NICU、 GCU | 10月31日 | 17:30-18:30 | 教育研修室 | 39 | 早期母乳分泌促進に向けての援助 | 母乳グループ |
| 症例検討 | 産科 （勉強会係） | 10月20日 | 14:30-15:30 | 産科病棟 | 15 | 産後子癇発作を発症した患者の看護 | 勉強会係 |
| 症例検討 | 産科 （勉強会係） | 12月6日 | 15:00-15:30 | 産科病棟 | 15 | 母体救急処置時の看護 | 研修会参加者 |
| 事例検討会 | 救急・HCU病棟 | 8月12日 | 14:30-15:00 | 病棟 | 9 | ショック状態にある患者の対応① | 上田 |
| 事例検討会 | 救急・HCU病棟 | 8月30日 | 14:30-15:00 | 病棟 | 8 | ショック状態にある患者の対応② | 上田 |

| | | | | | | | |
|-----------------|----------|--------|-------------|---------------------|----|-----------------------------|-----------------------|
| 事例検討会 | 救急・HCU病棟 | 9月4日 | 14:30-15:00 | 病棟 | 9 | 呼吸窮迫状態にある患者の対応① | 上田 |
| 事例検討会 | 救急・HCU病棟 | 9月5日 | 14:30-15:00 | 病棟 | 7 | 呼吸窮迫状態にある患者の対応① | 上田 |
| Dr-Ns 合同カンファレンス | 救急・HCU病棟 | 10月31日 | 17:30-18:30 | 4F カンファ レンス室 | 25 | 医師とのコンセンサスについて | 上田 |
| 事例検討 | 救急・HCU病棟 | 12月3日 | 14:30-15:00 | 病棟 | 8 | 排痰困難患者の理学療法について | 上田 |
| Dr-Ns 合同カンファレンス | 救急・HCU病棟 | 12月27日 | 17:30-18:30 | 北館研修室 | 16 | 気切カニューレ予定外抜管によるコード99事例の振り返り | 上田 |
| 勉強会 | 救急・HCU病棟 | 6月27日 | 17:30-19:00 | カンファ レンスル ーム3 | 9 | 周手術期の看護 | 長谷川/川崎 |
| 勉強会 | 救急・HCU病棟 | 7月28日 | 17:30-19:30 | 病棟 | 11 | 挿管介助・骨髄針挿入・DCの取り扱いトレーニング | 山本/田頭/ 長谷川 |
| 勉強会 | 救急・HCU病棟 | 8月23日 | 17:35-19:20 | カンファ レンスル ーム3 | 11 | 呼吸・循環・神経をアセスメントしよう | 山田/野間/ 田中あ/ 長谷川 |
| 勉強会 | 救急・HCU病棟 | 11月28日 | 17:30-18:30 | スキルラボ | 6 | 摂食機能について | 芦田/長谷川 |
| 勉強会 | 救急・HCU病棟 | 12月26日 | 17:30-18:30 | 看護部会 議室 | 4 | 先天性心疾患の看護について | 安藤/田中ゆ/ 宮田/長谷川 |
| 勉強会 | 救急・HCU病棟 | 1月25日 | 17:30-19:00 | カンファ レンスル ーム3 | 19 | 救急トリアージについて | 藤原/長谷川 |
| 初療シミュレーション | 救急・HCU病棟 | 6月30日 | 17:30-18:30 | 初療室 | 19 | CPA | Aグループ |
| 初療シミュレーション | 救急・HCU病棟 | 7月20日 | 17:30-18:30 | 初療室 | 15 | CPA | Aグループ |
| 初療シミュレーション | 救急・HCU病棟 | 8月16日 | 17:30-18:30 | 初療室 | 18 | 痙攣 | Aグループ |
| 初療シミュレーション | 救急・HCU病棟 | 8月28日 | 17:30-18:30 | 初療室 | 13 | 痙攣 | Aグループ |

| | | | | | | | |
|------------|----------------|--------|-------------|--------------|----|--------------|--------------|
| 初療シミュレーション | 救急・HCU病棟 | 11月30日 | 17:30-18:30 | 初療室 | 17 | 外傷 | Aグループ |
| 初療シミュレーション | 救急・HCU病棟 | 12月20日 | 17:30-18:30 | 初療室 | 16 | C P A | Aグループ |
| 初療シミュレーション | 救急・HCU病棟 | 1月9日 | 17:30-18:30 | 初療室 | 21 | C P A | Aグループ |
| 初療シミュレーション | 救急・HCU病棟 | 1月29日 | 17:30-18:30 | 初療室 | 14 | アナフィラキシーショック | Aグループ |
| 勉強会 | 7東病棟勉強会係 | 5月31日 | 17:30-19:00 | カンファ レンス室 | 12 | 斜視・白内障勉強会 | 中野・出口 |
| 勉強会 | 7東勉強会係 | 6月29日 | 17:30-19:00 | カンファ レンス室 | 13 | 顎裂 | 東・岡本 |
| 勉強会 | 7東勉強会係 | 8月17日 | 17:30-19:00 | カンファ レンス室 | 11 | ALL | 山崎・赤塚・ 岩崎 |
| 勉強会 | 7東教育担当者 | 8月24日 | 17:30-19:00 | 7東 観察室 | 17 | 救急蘇生 | 谷口・古賀 |
| 勉強会 | 7東看護研究 グループ | 10月23日 | 17:30-18:30 | カンファ レンス室 | 6 | 口腔ケア | 中野・東 |
| 勉強会 | 7東看護研究 グループ | 10月26日 | 17:30-18:30 | カンファ レンス室 | 7 | 口腔ケア | 中野・東 |
| 勉強会 | 7階東病棟 | 11月13日 | 17:30-19:00 | カンファ レンス室 | 13 | ASD・VSD・PH | 山崎・田原 |
| 勉強会 | 7階東病棟 | 11月27日 | 17:30-19:00 | カンファ レンス室 | 11 | GVHD・移植後の看護 | 榎本・本田 |
| 勉強会 | 7階東病棟 | 12月18日 | 17:30-19:00 | カンファ レンス室 | 10 | 神経芽腫 | 東・田中 |
| 勉強会 | 7階東病棟 | 12月26日 | 17:30-19:00 | カンファ レンス室 | 8 | 循環器疾患・TcPc | 南部・四方 |
| 勉強会 | 7階東病棟 | 1月29日 | 17:30-19:00 | カンファ レンス室 | 10 | 網膜芽細胞腫 | 中野・福西 |

| | | | | | | | |
|--------|-------|--------|-------------|----------------------|----|-------------|--------|
| 2年目勉強会 | 7階西病棟 | 4月26日 | 17:30-18:30 | 北館研修室 | 19 | 成長発達 | 荻野/青木 |
| 2年目勉強会 | 7階西病棟 | 5月26日 | 17:30-18:30 | カンファ レンス室 | 15 | 化学療法概論 | 浦瀬/古屋野 |
| 2年目勉強会 | 7階西病棟 | 6月30日 | 17:30-18:30 | カンファ レンス室 | 16 | 白血病 | 清水/砂川 |
| 2年目勉強会 | 7階西病棟 | 7月27日 | 17:30-18:30 | カンファ レンス室 | 18 | NBL | 二田水/渡邊 |
| 2年目勉強会 | 7階西病棟 | 8月24日 | 17:30-18:30 | カンファ レンス室 | 17 | 発熱時の看護 | 青木/安藤 |
| 2年目勉強会 | 7階西病棟 | 9月28日 | 17:30-18:30 | カンファ レンス室 | 15 | 全身麻酔看護 | 古屋野/里内 |
| 2年目勉強会 | 7階西病棟 | 10月26日 | 17:30-18:30 | カンファ レンス室 | 16 | 疼痛緩和 | 里内/二田水 |
| 2年目勉強会 | 7階西病棟 | 10月15日 | 17:30-18:30 | カンファ レンス室 | 16 | 呼吸器管理 | 板原/辻 |
| 2年目勉強会 | 7階西病棟 | 11月13日 | 17:30-18:30 | カンファ レンス室 | 18 | 呼吸器管理の実際 | 板原/川畑 |
| 2年目勉強会 | 7階西病棟 | 12月20日 | 17:30-18:30 | 5Fカンフ ァレンス 室 | 17 | 脳腫瘍・悪性リンパ腫 | 砂川/二田水 |
| 2年目勉強会 | 7階西病棟 | 1月20日 | 17:30-18:30 | 7Fカンフ ァレンス 室 | 16 | 尿崩症看護 | 浦瀬/里内 |
| 2年目勉強会 | 7階西病棟 | 1月27日 | 17:30-18:30 | 7Fカンフ ァレンス 室 | 10 | 血液細胞移植室について | 安藤/清水 |
| 勉強会 | 6階東病棟 | 4月23日 | 18:00-18:30 | カンファ レンス室 | 20 | リフレクション | 栗林 |
| 勉強会 | 6階東病棟 | 6月19日 | 18:00-18:30 | カンファ レンス室 | 15 | 移行期支援 | 栗林 |
| 勉強会 | 6階東病棟 | 7月31日 | 17:30-18:30 | 4階カンフ ァレンス ルーム | 17 | 腎移植後の管理 | 田中医師 |

| | | | | | | | |
|------------|-------|--------|-------------|----------|----|----------------|----------------|
| 勉強会 | 6階東病棟 | 8月18日 | 17:30-18:20 | カンファレンス室 | 19 | ペルテス病・大腿骨頭すべり症 | 向原医師 |
| 勉強会 | 6階東病棟 | 9月22日 | 17:30-18:20 | がん相談室 | 10 | 1型糖尿病の指導 | 奥野医師 |
| 勉強会 | 6階東病棟 | 10月27日 | 17:30-18:20 | がん相談室 | 10 | 2型糖尿病の治療 | 奥野医師 |
| 事例検討 | 6階東病棟 | 1月12日 | 17:30-18:00 | カンファレンス室 | 17 | 褥瘡事例の振り返り | 鎌田 |
| 救急蘇生勉強会 | 6階西病棟 | 7月25日 | 17:30-18:30 | 6W器材庫 | 10 | 救急蘇生の基礎 | 福井・松本 |
| 救急蘇生勉強会 | 6階西病棟 | 12月20日 | 17:30-18:30 | 6W観察室 | 24 | 救急蘇生シミュレーション | 藤井 |
| 勉強会 | 5階東病棟 | 6月7日 | 17:30-18:40 | カンファレンス室 | 11 | プレパレーション | 轡 |
| 勉強会 | 5階東病棟 | 6月21日 | 17:45-18:20 | カンファレンス室 | 17 | 在宅支援（事例検討） | 三宅 |
| 勉強会 | 5階東病棟 | 8月9日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 12 | 呼吸器 | 業者 （フィリップス） |
| 勉強会 | 5階東病棟 | 9月28日 | 17:30-18:00 | カンファレンス室 | 12 | 看護を語る（大中） | 大中 |
| 勉強会 | 5階東病棟 | 11月19日 | 14:40-14:00 | カンファレンス室 | 5 | 空気感染対策 | 伊賀 |
| 勉強会 | 5階東病棟 | 12月25日 | 13:50-14:10 | カンファレンス室 | 4 | 在宅支援に必要な制度 | 教育係 |
| デモンストレーション | 5階東病棟 | 6月13日 | 13:50-14:10 | カンファレンス室 | 2 | 経管栄養 | 三宅・北畑 |
| デモンストレーション | 5階東病棟 | 6月19日 | 14:30-14:45 | カンファレンス室 | 7 | NG挿入 | 伊賀・関 |
| デモンストレーション | 5階東病棟 | 8月25日 | 14:30-14:45 | カンファレンス室 | 4 | 気管内吸引 | 大中・六條 |

| | | | | | | | |
|------------|-------|--------|-------------|----------|----|------------|-------------------------|
| デモンストレーション | 5階東病棟 | 9月19日 | 14:30-14:45 | カンファレンス室 | 5 | 気切ケア | 大中・三宅・関 |
| デモンストレーション | 5階東病棟 | 11月17日 | 14:30-14:46 | カンファレンス室 | 4 | カニューレ交換 | 関・六條 |
| デモンストレーション | 5階東病棟 | 12月25日 | 14:30-14:47 | カンファレンス室 | 10 | 車いす移乗 | 石橋・関 |
| 勉強会 | 5階西病棟 | 4月17日 | 16:30-17:00 | 面談室 | 3 | カテーテル管理 | 助永、丸岡、能見 |
| 勉強会 | 5階西病棟 | 4月26日 | 17:30-18:00 | カンファレンス室 | 13 | 尿道下裂 | 春名医師/ 阪本、竹村 |
| 勉強会 | 5階西病棟 | 5月16日 | 17:30-18:00 | 器材室 | 2 | チューブ管理（外科） | 阪本、篠原 |
| 勉強会 | 5階西病棟 | 6月28日 | 17:00-17:30 | 器材室 | 1 | 気管切開 | 能見、山川 |
| 勉強会 | 5階西病棟 | 7月19日 | 17:30-18:30 | 観察室 | 4 | 救急カート | 清水、坂本/ 阪本、竹村 |
| 勉強会 | 5階西病棟 | 7月21日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 17 | VUR、膀胱拡大 | 春名医師/ 阪本、竹村 |
| 勉強会 | 5階西病棟 | 8月18日 | 17:30-18:15 | カンファレンス室 | 11 | 水腎症 | 春名医師/ 阪本、竹村 |
| 勉強会 | 5階西病棟 | 8月25日 | 15:00-15:20 | NSステーション | 11 | 大腿骨頭すべり症 | 向原医師/ 阪本 |
| 勉強会 | 5階西病棟 | 12月14日 | 17:30-18:15 | 北館研修室 | 20 | 救急蘇生① | 藤原Ns、 野間Ns/ 阪本、竹村 |
| 勉強会 | 5階西病棟 | 1月18日 | 17:30-18:30 | 北館研修室 | 23 | 救急蘇生② | 辰巳、阪本、 竹村 |
| 勉強会 | 5階西病棟 | 11月14日 | 18:20-19:40 | カンファレンス室 | 16 | 気道系疾患 | 前田医師/ 阪本、竹村 |
| 勉強会 | 5階西病棟 | 1月25日 | 17:30-18:30 | カンファレンス室 | 1 | 人工呼吸器管理 | 山川、能見、 阪本 |

| | | | | | | | |
|--------------|------|--------|-------------|---------------|----|---------------------|--------------|
| 勉強会 | PICU | 5月25日 | 17:30-18:30 | カンファレンスルーム3 | 30 | NPPV・バック換気 | 青木Dr・坂本 |
| カンファレンス | PICU | 6月14日 | 17:30-18:30 | カンファレンスルーム3 | 20 | グリーンカンファレンス① | 家族G |
| スキルトレーニング | PICU | 6月20日 | 17:30-18:30 | PICU4番ベッド | 13 | 挿管・CV挿入介助トレーニング | Cグループ |
| 勉強会 | PICU | 6月22日 | 17:30-18:30 | カンファレンスルーム3 | 12 | せん妄 | 平田Dr・坂本 |
| 勉強会・カンファレンス | PICU | 7月26日 | 17:30-18:30 | 総務課会議室 | 18 | グリーンケア勉強会、グリーンカンファ② | 井上・家族G |
| 救急蘇生シミュレーション | PICU | 8月31日 | 17:30-18:30 | PICU4番ベッド | 13 | シミュレーション①（呼吸不全） | Cグループ |
| カンファレンス | PICU | 9月13日 | 17:30-18:30 | カンファレンスルーム3 | 25 | グリーンカンファレンス③ | 家族G |
| 勉強会 | PICU | 9月25日 | 17:30-17:50 | カンファレンスルーム3 | 15 | 早期リハビリテーション | 吉村 |
| カンファレンス | PICU | 10月10日 | 17:30-18:30 | 総務課会議室 | 9 | グリーンカンファレンス④ | 家族G |
| 勉強会 | PICU | 10月24日 | 17:30-18:30 | OP室カンファレンスルーム | 12 | CHD | ME秋山さん、Cグループ |
| 救急蘇生シミュレーション | PICU | 10月30日 | 17:30-18:30 | PICU4番ベッド | 12 | CPA蘇生シミュレーション① | Cグループ |
| 救急蘇生シミュレーション | PICU | 11月9日 | 17:30-18:30 | PICU4番ベッド | 12 | CPA蘇生シミュレーション② | Cグループ |
| カンファレンス | PICU | 12月6日 | 17:30-18:30 | 総務課会議室 | 8 | グリーンカンファレンス⑤ | 家族G |
| 勉強会 | PICU | 12月13日 | 17:30-18:30 | カンファレンスルーム3 | 15 | 家族ケア・意思決定支援 | 坂本・制野Dr、家族G |
| 勉強会 | ICU | 4月9日 | 14:00-15:00 | ICUスタッフステーション | 10 | ベッドサイド環境 | 安全G |

| | | | | | | | |
|-----|------|----------|-------------|---------------|----|-----------------------|--------|
| 勉強会 | ICU | 5月4日 | 14:00-15:00 | ICUスタッフステーション | 9 | | 安全G |
| 勉強会 | ICU | 6月12日 | 14:30-15:30 | ICUスタッフステーション | 8 | ED管理 | 安全G |
| 勉強会 | ICU | 6月26日 | 14:30-15:30 | ICUスタッフステーション | 8 | NG予定外抜去 事例検討 | 笠木 |
| 勉強会 | ICU | 6月27日 | 14:30-15:30 | ICUスタッフステーション | 8 | NG予定外抜去 事例検討 | 笠木 |
| 勉強会 | ICU | 6月12日 | 17:30-18:30 | カンファレンスルーム | 23 | ICUの教育体制 ～今じぶんに出来ること～ | 森行 |
| 勉強会 | ICU | 7月 (7回) | 14:00-14:30 | ICUスタッフステーション | 33 | スタンダードプリコーション | 感染G |
| 勉強会 | ICU | 9月22日 | | ICUスタッフステーション | 12 | 災害人連絡方法とICU設備について | 安全G・警備 |
| 勉強会 | ICU | 11月 (8回) | 30分/日 | ICUスタッフステーション | 33 | RSウイルス 百日咳 | 感染G |
| 勉強会 | ICU | 12月 (7回) | 30分/日 | ICUスタッフステーション | 33 | ノロウイルス・ロタウイルス | 感染G |
| 勉強会 | ICU | 2月9日 | 17:30-18:30 | 看護部会議室 | 20 | 看護を語る | 補佐・教育 |
| 勉強会 | CICU | 1月26日 | 17:30-18:30 | 病棟 | 21 | ECMOシミュレーション | 林拓人 |
| 勉強会 | CICU | 6月5日 | 17:30-18:30 | カンファレンスルーム | 16 | BLS 挿管介助 | 明石 保田 |
| 勉強会 | ME | 8月24日 | 17:30-18:30 | カンファレンスルーム | 14 | ECMO管理 | 横山 |
| 勉強会 | CICU | 10月26日 | 17:30-18:30 | 病棟 | 29 | 緊急時シミュレーション | 明石 |
| 勉強会 | 心臓外科 | 11月28日 | 17:30-18:30 | 講堂 | 41 | 抗不整脈薬について | 村上 |

| | | | | | | | |
|-------|------|--------|---------------------------|------------|----|------------|--------|
| 勉強会 | CICU | 12月18日 | 17:30-18:30 | カンファレンスルーム | 28 | ECMO装着中の看護 | 坂出宮中高井 |
| 新人勉強会 | CICU | 4月10日 | 9:00-12:00 | カンファレンスルーム | 5 | 循環管理 | 林拓人 |
| 新人勉強会 | CICU | 4月10日 | 13:00-17:00 | カンファレンスルーム | 5 | モニター管理 | 林拓人 |
| 新人勉強会 | CICU | 4月12日 | 9:00-12:00 | カンファレンスルーム | 5 | 情報管理 記録 | 寺田 |
| 新人勉強会 | CICU | 4月12日 | 13:00-17:00 | カンファレンスルーム | 5 | 感染管理 | 寺田 村川 |
| 新人勉強会 | CICU | 4月13日 | 9:00-12:00 | カンファレンスルーム | 5 | 日常生活援助 | 野田 坂出 |
| 新人勉強会 | CICU | 4月13日 | 13:00-17:00 | カンファレンスルーム | 5 | 輸液作成 | 野田 坂出 |
| 新人勉強会 | CICU | 5月20日 | 9:00-12:00 13:00-17:00 | カンファレンスルーム | 5 | 呼吸管理の知識と演習 | 寺田 |
| 新人勉強会 | CICU | 6月8日 | 14:00-14:30 | 病棟 | 5 | K吸着フィルター | 岡崎山田 |
| 新人勉強会 | CICU | 6月23日 | 14:15-14:45 | 病棟 | 5 | 緊急時対応 | 岡崎山田 |
| 勉強会 | CICU | 9月10月 | 14:15-14:45 | 病棟 | 24 | DCの取り扱い | 山田 |
| 勉強会 | CICU | 10月11月 | 14:15-14:45 | 病棟 | 17 | 12誘導心電図 | 松尾行廣 |
| 勉強会 | CICU | 11月12月 | 14:15-14:45 | 病棟 | 31 | 脳神経 神経系の観察 | 高津岡崎 |
| 勉強会 | CICU | 2月 | 14:15-14:45 | 病棟 | 30 | 摂食ケア | 明石 |
| 勉強会 | CICU | 2月 | 14:15-14:45 | 病棟 | 20 | 地域連携 | 宮本 |

| | | | | | | | |
|-----|------|--------|-------------|---------------|----|-------------------|--------|
| 勉強会 | CICU | 1月 | 14:15-14:45 | 病棟 | 30 | DCの取り扱い | 寺田 |
| 勉強会 | CICU | 1月 | 14:15-14:45 | 病棟 | 25 | 12誘導心電図 | 文野 |
| 勉強会 | 手術室 | 5月30日 | 14:30-15:30 | 手術室スタッフステーション | 15 | シーネ固定 | 村上 |
| 勉強会 | 手術室 | 8月31日 | 17:30-18:00 | 手術室 | 15 | 泌尿器科・外科腹腔鏡タワーについて | 村上 |
| 勉強会 | 手術室 | 8月31日 | 17:30-18:30 | アンギオ室 | 11 | 心臓カテーテル看護のポイント | 和田 |
| 勉強会 | 手術室 | 9月25日 | 16:00-16:30 | 手術室 | 9 | K Y Tとは | 藤澤 |
| 勉強会 | 手術室 | 10月6日 | 16:10-16:35 | 手術室 | 12 | チームステップってなに | 川崎 |
| 勉強会 | 手術室 | 10月13日 | 15:30-16:00 | 手術室 | 8 | R C A分析とは | 藤澤 |
| 勉強会 | 手術室 | 10月16日 | 16:30-17:00 | 手術室内 | 18 | 体位 (仰臥位) | 川口 |
| 勉強会 | 手術室 | 10月17日 | 17:15-17:45 | 手術室内 | 15 | 体位 (側臥位) | 池田瑛・増田 |
| 勉強会 | 手術室 | 10月18日 | 15:30-16:30 | 手術室内 | 15 | P A C U記録勉強会 | 池田圭 |
| 勉強会 | 手術室 | 10月19日 | 16:30-17:10 | 手術室内 | 17 | 体位 (腹臥位) | 竹野・岩見 |
| 勉強会 | 手術室 | 10月27日 | 16:30-17:00 | 手術室内 | 18 | P A C U勉強会 | 山田・神代 |
| 勉強会 | 手術室 | 10月30日 | 16:15-17:00 | 手術室⑥ | 10 | 体位 (砕石位) | 奥殿・呉羽 |
| 勉強会 | 手術室 | 11月2日 | 17:20-17:40 | 手術室③ | 17 | 脳外科器械 (マリス) | 村上・神代 |

| | | | | | | | |
|---------------|-----|--------|-------------|------|----|--|-------|
| 勉強会 | 手術室 | 11月9日 | 16:05-16:50 | 手術室⑤ | 19 | ME機器（キューサー） | 村上 |
| 勉強会 | 手術室 | 11月22日 | 17:00-17:30 | 手術室④ | 14 | 眼科ME機器（アキュラス・インフィニティ） | 村上・神代 |
| 勉強会 | 手術室 | 11月27日 | 17:00-17:40 | 手術室⑥ | 10 | 泌尿器科ME機器（レーザー） | 村上・神代 |
| 勉強会 | 手術室 | 12月22日 | 17:15-17:45 | 手術室⑤ | 11 | 脳外科ME機器（ナビゲーションシステム） | 村上・神代 |
| 勉強会 | 手術室 | 1月16日 | 16:10-16:45 | 手術室 | 13 | 輸血について | 呉羽・奥殿 |
| 勉強会 | 手術室 | 1月30日 | 16:30-17:00 | 手術室 | 19 | チームステップってなに | 川崎 |
| 勉強会 | 手術室 | 2月28日 | 16:30-17:00 | 手術室② | 15 | イメージ | 白川 |
| 外来移行期支援 事例検討会 | 外来 | 9月27日 | 16:40-17:17 | 計測室 | 23 | 脳挫傷後後遺症がある児へのこれからの移行期支援 | 山本加奈子 |
| 外来移行期支援 事例検討会 | 外来 | 10月10日 | 16:30-17:15 | 計測室 | 19 | 在宅中心静脈栄養をしている患者との関わり | 松下久子 |
| 外来移行期支援 事例検討会 | 外来 | 10月31日 | 16:15-16:50 | 計測室 | 20 | 腹膜透析中の学童後期の患児の関わり | 泊菊子 |
| 外来移行期支援 事例検討会 | 外来 | 11月8日 | 16:30-17:15 | 計測室 | 16 | 疾患教育を行なった血友病の患児について | 小澤一美 |
| 外来移行期支援 事例検討会 | 外来 | 12月19日 | 16:15-17:10 | 計測室 | 19 | 生物学的製剤導入後も痛みのコントロールが悪い若年性特発性関節炎の患者に対して、在宅自己注射導入に伴い以降を考える | 辻田利香 |
| 外来移行期支援 事例検討会 | 外来 | 12月20日 | 16:30-17:15 | 計測室 | 23 | 保育園入園前の関わり | 新宅佳子 |
| 外来移行期支援 事例検討会 | 外来 | 12月26日 | 16:30-17:15 | 計測室 | 19 | 二分脊椎の児への自己導尿開始への関わり | 細川里美 |
| 外来移行期支援 事例検討会 | 外来 | 1月16日 | 16:15-16:55 | 計測室 | 18 | 在宅中心静脈栄養をしている学童前期の女兒と家族への関わり | 平塚真子 |

| | | | | | | | |
|----------------|-----|--------|--------------------------|-------------|----|-------------------------------------|--------------|
| 外来移行期支援 事例検討会 | 外来 | 1月23日 | 16:20-16:50 | 計測室 | 16 | MMC修復術後の児を持つ母親への入園支援と今後のサポート | 横田理永 |
| 外来移行期支援 事例検討会 | 外来 | 2月13日 | 16:30-17:15 | 計測室 | 16 | 総排泄腔遺残で導尿・洗腸を行ないながら生活・自立するための支援を考える | 後藤恵美 |
| 外来移行期支援 事例検討会 | 外来 | 2月27日 | 16:30-17:15 | 計測室 | 16 | 服薬コンプライアンス不良の思春期の患児に対する教育について | 中田敬子 |
| 看護補助者オリエンテーション | 看護部 | 4月3日 | 9:00-9:30 | 看護部控室 | 1 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |
| 看護師新人フォロー研修 | 看護部 | 4月5日 | 10:40-12:00 | スキルラボ | 40 | 感染対策の基本 ～標準予防策・小児専門病院としての感染対策～ | 鳴滝由佳 教育委員 |
| 看護師新人フォロー研修 | 看護部 | 4月5日 | 13:00-14:00 | スキルラボ | 40 | 感染予防技術演習 | 鳴滝由佳 教育委員 |
| 看護補助者オリエンテーション | 看護部 | 6月16日 | 10:30-11:00 | 看護部控室 | 1 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |
| 看護補助者オリエンテーション | 看護部 | 9月1日 | 10:30-11:00 | 看護部控室 | 1 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |
| 看護師新人フォロー研修 | 看護部 | 9月15日 | 8:55-9:25 10:35-10:55 | 講堂 | 40 | 感染対策フォローアップ 静脈注射に関する感染対策、針刺し時の対応 | 新谷茜 |
| 看護補助者研修② 感染防止 | 看護部 | 10月3日 | 15:15-15:45 | スキルラボ | 23 | 病院の感染対策 | 鳴滝由佳 |
| 看護補助者研修② 感染防止 | 看護部 | 10月17日 | 15:15-15:45 | スキルラボ | 11 | 病院の感染対策 | 鳴滝由佳 |
| トライやるウィーク 講習 | 看護部 | 11月6日 | 10:30-11:30 | 総務部前 会議室 | 8 | 感染予防講習 | 鳴滝由佳 |

V ボランティア

ボランティア受け入れ状況（2017年）

ボランティアの状況

| ボランティア名 | 内容 | 活動人数 | 活動日 | 活動場所 |
|-------------------------------|---|------|-------|------------------|
| 神戸市生活指導研究会 こども病院ボランティアグループ | 看護用品、医療材料、保育材料の作成 | 6名 | 2回/月 | ボランティア室で数名が交代で活動 |
| こども病院ボランティアグループ | 子どもの遊び相手、本の読み聞かせ、 外来での患者・家族の受診介助(案内・移動の介助) | 6名 | 毎週月～金 | 病棟・外来 |

イベントボランティアの状況

| ボランティア名 | 内容 | 活動人数 | 活動日 | 活動場所 |
|-------------------------------|--|------|--------|----------|
| アロマセラピー | 妊娠褥婦のリラクサアロマセラピーマッサージ (代表：田中 美早) | 2名 | 3回 | 産科外来 |
| クリニクラウン | 笑いやユーモアを届けるコミュニケーション (NPO法人日本クリニクラウン協会) | 12名 | 12回/年 | 病棟・外来 |
| 株式会社オリエンタルランド | 東京ディズニーリゾート・アンバサダー、ミッキーマウス、ミニーマウスの病院訪問 | 3名 | 5月22日 | 講堂・病棟 |
| 公益財団法人 神戸市市民文化振興財団 人形劇団のはな | 人形劇・絵本パフォーマー | 2名 | 9回 | 病棟 |
| ドナルドマクドナルドハウス | クリスマス会 | 7名 | 12月15日 | 講堂・病棟 |
| ヴィッセル神戸 | モーヴィー病棟訪問 | 6名 | 8月1日 | 病棟 |
| 公益財団法人 神戸市市民文化振興財団 | コンサート | 12名 | 6回 | 講堂・病棟・外来 |
| NPO法人 スマイリングホスピタルジ ャパン | 「さとゆか」と一緒に音楽であそびましょう♪ | 2名 | 8回 | 病棟 |
| かえるおんがくたい | あきのコンサート | 7名 | 9月28日 | 病棟・外来 |
| 弦楽オーケストラ「COLORS」 | ストリングオーケストラロビーコンサート | 18名 | 8月23日 | 外来 |
| ガリレオクラブインターナショナル | 万華鏡教室 | 2名 | 8月10日 | 病棟 |
| OSAKA あかるクラブ | ティータイムプロジェクト | 15名 | 3回 | がん相談室 |
| 兵庫プロバスケットボールクラブ 西宮ストークス | 梁川禎浩選手・ストーキー 病棟訪問 | 6名 | 3回 | 病棟 |